

9 種子植物

植物相の調査では広島県で自生する全ての植物種を記録することが必要と考えられ、県内の植物関係者が協力し中国新聞社から 1997 年に広島県植物誌を出版した。また、2010 年に広島市植物公園の紀要に追加として「広島県植物誌補遺」が公表された。

現在では種子植物の分類体系は従来のエングレー体系から APG 体系に変化している。そのため、今回 RDB を作成する過程で、これまでに集まった資料も含め県内の生育種を新しい分類体系に変更した。その結果、確認種数（外来種も含む）は表 1 のようになっている。なお広島県全体の植物相を知るため、シダ植物も含めている。

植物の分野では県内の植物相を 3 回とりまとめ、選定作業の基礎資料とした。その結果を表 1 に示す。ただし、2020 年のリストには、調査者らが未確認あるいは検討を要する種がいくつか含まれている。

表 1 広島県の植物種数の報告年度と種数

出版年	タイトル	確認種数
1997 年	広島県植物誌	シダ植物 301 種類 種子植物 2206 種類
2010 年	広島県植物誌補遺	シダ植物 5(306)種類 種子植物 218(2424)種類
2020 年 (未公表)	新しい広島県植物目録 (APG 体系)	シダ植物 340 種類 種子植物 2760 種類

※ 種以下の分類群も 1 種として数えている。

「広島県の絶滅のおそれのある野生生物」初版から本版第 4 版までに関する過去 4 回の調査で選定された絶滅危惧種の種類数を表 2 に示す。

表 2 選定された絶滅危惧種の種類数

回数	年度	種類数	
初版	1991～1995 年度	シダ植物 27 種類	種子植物 151 種類
第 2 版	2000～2003 年度	シダ植物 50 種類	種子植物 304 種類
第 3 版	2008～2011 年度	シダ植物 52 種類	種子植物 406 種類
第 4 版	2014～2020 年度	シダ植物 56 種類	種子植物 401 種類

県内の重要な植物群落について、第 2 版では、「Ⅲ附属資料（植物群落）」という項目を設けて 162 の群落をリストアップした。植物群落の調査も継続して行われるべきであるが、第 2 版以降は実施されていない。

以下の種が今回新たに県内で生育が確認され、絶滅のおそれのある種としてリストアップされた。
種子植物：クゲヌマラン、セイタカスズムシソウ、フウラン、ハシナガヤマサギソウ、コギシギシ、キブネダイオウ、カガシラ、ヒキノカサ、カカツガユ、チョコザキミズ、センニンモ、セッコク、ザリコミ、フクオウソウ、オオミクリ、サンインヒエスゲ、ヒバキンポウゲ、コキンバイ、ミツパコンロンソウ、ムジナモ、シチメンソウ、マルバコウツギ、ツクシウツギ、キバナノカワラマツバ の 24 種類

分類学的な知見からヒメコウホネはサイコクヒメコウホネに変更された。また、オオバセンキュウをヒュウガセンキュウに、イワカラマツをカラマツソウの 1 種とした。

前回選定したオガタマノキなど 27 種は選定基準の変更もありランク外とした。なお、初版から選定されていたキシツツジとユキヤナギは、関係機関による保護対策の実施により絶滅の危険性が減少したと判断され、今回、選定しなかった。

森林は古来から、耕作地、牧草地や建築材、燃料など様々に利用され、島々の裸地化や各地に禿山が見られるほどであったが、里山の利用の変化に伴い、植林や土地の放棄が進み、樹林化した結果、草原性の植物が減少し、一方で樹木の生長とともに、林床に土壌が形成され富栄養化しつつある。タシロラン、ホンゴウソウ、ヒナノシャクジョウ、キヨスミウツボなどが増加しつつあるのはこのような土壌環境の変化によると考えられる。里山林の変化では、草原性の植物の減少がよく知られているが、このような腐生植物の増加についてはほとんど評価されていないようである。

県内では豪雨災害に対したため池の維持管理が課題となっている。絶滅のおそれのある種とため池の生態学的な意義を書いておく。本版を見る方は里山の生態系の中で、ため池のあるべき姿を考えて欲しい。

農耕の発達とともに、蛇行していた河川が整備され、自然堤防の後ろ側に見られた後背湿地や沼地は干拓された。そのため、そこに生育していた水生植物は人間によって作られたため池が避難地 (refugia) となっている。ため池や水路 (明渠) の保全はこのような観点から重要な課題といえる。

1980 年代から多くの大規模開発が計画され、環境アセスメント調査が行われたが、県内の絶滅危惧種の調査員はその内容を知らないことが多かったように思われる。今後も風力発電や太陽光発電など大規模開発が計画されており、調査内容は広く公開される必要がある。

近年では生物多様性の重要性が認識され、河川でも大規模な調査が行われるとともに、工事にも工夫が見られるようになった。ただ、近年の水害により住民の意識が変化し、河川の環境保全より流域住民の生命・財産の保全が優先されるべき方向になってきている。

一方で、園芸ブームによる野生植物の乱獲が目立つようになり、県は自然環境保全地域や緑地環境保全地域を設定しているが、保護管理は十分とは言えない状況にある。

また、中山間地域の過疎化により、放棄された宅地や耕作地が増え、野生動物が増えつつある。特にニホンジカの増加により、植林樹木の皮剥や林床植生や草地・湿地の食害、土壌の流亡などによる森林群落の単純化や植物相の減少などが見られる。第 2 版の RDB 作成後に対策を提案したが、農業被害がまだ少なかったため、当時は有効な対策はとられなかった。シカが西中国山地のブナ林域や帝釈峡などで個体数が増えると、多くの絶滅危惧種が食べられる可能性が高い。耕作地では柵や捕獲などによる保護対策が行われているが、地域の森林生態系においてはまだ対策が取られていない。早急に対策が必要である。

【付記】自然保護と環境問題

広島県の自然保護について特筆すべきは、西中国山地のブナ林の伐採問題である。この地域では旧戸河内町小坂から恐羅漢山の麓の横川集落への林道の開通とともに、昭和 30 年代から伐採が始まった。

広島大学理学部植物学教室の堀川芳雄博士を中心とした研究室は「ブナ林は伐採すべきでない」と強く反対したが、木材需要の高い当時の社会状況では、行政や市民、マスコミの賛同を得ることができなかった。それでも尾根筋の樹林帯の保護の必要性を訴え、幅 50m の範囲を残すことが決まった。しかし業者によって恐羅漢山の広島県側のブナ林は尾根筋まで皆伐された。細見谷源流部にある溪谷林と五里山系の尾根筋のブナ林の保全はその時の保護運動のたまものである。また、1970 年代には細見谷の溪谷部の斜面の伐採が計画され、林道も一部建設されたが、保護活動の結果、県と林野庁が 1974 年に自然休

養林として残すことになった。1990年代に「森と水と土を守る会」(原戸祥次郎代表)を中心にして、細見谷源流部に計画された大規模林道の建設反対運動は、西中国山地の自然保護運動の第二ラウンドといふべきものである。

堀川らの保護活動の過程で、ブナ林域の尾根筋の森林の重要性が認識されるようになった。今後、広島県では海拔 1,000m 以上の尾根筋に生育するブナ林やミズナラ林あるいは落葉広葉二次林など自然度の高い森林の伐採は禁止すべき時期に来ていると考えられる。

(吉野由紀夫)

種子植物(裸子植物)選定種

準絶滅危惧 (NT)

- 1 イブキ

種子植物(被子植物)選定種

絶滅 (EX)

- 1 ナヨテンマ
- 2 ハナナズナ
- 3 アキノクサタチバナ
- 4 コケセンボンギク

絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

- 1 オニバス
- 2 クロフネサイシン
- 3 マイヅルテンナンショウ
- 4 トウゴクヘラオモダカ
- 5 トリゲモ
- 6 シバナ
- 7 リュウノヒゲモ
- 8 イトクズモ
- 9 カワツルモ
- 10 シロシャクジョウ
- 11 ウエマツソウ
- 12 ヒメユリ
- 13 ホソバナアマナ
- 14 ヒナラン
- 15 キエビネ
- 16 クゲヌマラン
- 17 クマガイソウ
- 18 イチヨウラン
- 19 エゾスズラン
- 20 マツラン
- 21 モミラン
- 22 シロテンマ
- 23 ベニシュスラン
- 24 ツリシュスラン
- 25 ハクウンラン
- 26 ギボウシラン
- 27 フガクスズムシソウ
- 28 セイタカスズムシソウ

- 29 ササバラン
- 30 フウラン
- 31 ノビネチドリ
- 32 ツレサギソウ
- 33 ハシナガヤマサギソウ
- 34 ヒナチドリ
- 35 ステゴビル
- 36 ミドリヨウラク
- 37 ワニグチソウ
- 38 アオイカズラ
- 39 ゴマシオホシクサ
- 40 ミカワシンジュガヤ
- 41 タイシャクカモジ
- 42 ムカゴツヅリ
- 43 アズマレイジンソウ
- 44 サンインシロカネソウ
- 45 シロカネカラマツ
- 46 ベニバナヤマシャクヤク
- 47 ヤシャビシャク
- 48 ハマビシ
- 49 ヒナノキンチャク
- 50 イワキンバイ
- 51 シロヤマブキ
- 52 サクラスミレ
- 53 キスミレ
- 54 ホソバシロスミレ
- 55 アゼオトギリ
- 56 チュウゴクボダイジュ
- 57 オオマルバコンロンソウ
- 58 キバナハタザオ
- 59 コギシギシ
- 60 キブネダイオウ
- 61 タチハコベ
- 62 ワダソウ

- 63 オグラセンノウ
- 64 イワアカザ
- 65 ヒロハマツナ
- 66 モロコシソウ
- 67 ツルマンリョウ
- 68 サクラソウ
- 69 シラタマノキ
- 70 ハナムグラ
- 71 ルリミノキ
- 72 チトセカズラ
- 73 ムラサキ
- 74 ヤマホオズキ
- 75 アオホオズキ
- 76 ヒメトラノオ
- 77 ダイセンクワガタ
- 78 ゴマノハグサ
- 79 イブキジャコウソウ
- 80 ゴマクサ
- 81 ミカワシオガマ
- 82 ヤチシャジン
- 83 ヒゴタイ
- 84 フジバカマ
- 85 ウスユキソウ
- 86 ミコシギク
- 87 イヌドウナ
- 88 ネコヤマヒゴタイ
- 89 オオダイトウヒレン
- 90 セイタカトウヒレン
- 91 キクアザミ
- 92 ハンゴンソウ
- 93 コウリンカ
- 94 ホタルサイコ
- 95 ミシマサイコ
- 96 オオカサモチ

- 97 フキヤミツバ
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
- 1 ベニオグラコウホネ
 - 2 オグラコウホネ
 - 3 キビヒトリシズカ
 - 4 ヒメカンアオイ
 - 5 オオヤマレンゲ
 - 6 オモゴウテンナンショウ
 - 7 ヒメザゼンソウ
 - 8 イワショウブ
 - 9 マルバオモダカ
 - 10 セトヤナギスブタ
 - 11 マルミスブタ
 - 12 サガミトリゲモ (ヒロハトリゲモ)
 - 13 イトモ
 - 14 ホンゴウソウ
 - 15 ホソバナコバイモ
 - 16 セトウチホトトギス
 - 17 キンセイラン
 - 18 ナツエビネ
 - 19 サルメンエビネ
 - 20 ユウシュンラン
 - 21 キンラン
 - 22 ヒメノヤガラ
 - 23 トケンラン
 - 24 タシロラン
 - 25 ムカゴソウ
 - 26 ムヨウラン
 - 27 ホクリクムヨウラン
 - 28 ヒメフタバラン
 - 29 ヨウラクラン
 - 30 サギソウ
 - 31 ミズチドリ
 - 32 マイサギソウ
 - 33 トンボソウ
 - 34 トキソウ
 - 35 ヤマトキソウ
 - 36 ウチョウラン
 - 37 コキンバイザサ
 - 38 ヒオウギ
 - 39 ヒメシャガ
 - 40 カキツバタ
 - 41 エヒメアヤメ
 - 42 ヤマトミクリ
 - 43 ナガエミクリ
 - 44 ヒメミクリ
 - 45 ヤマトホシクサ
 - 46 クロホシクサ
 - 47 ヒロハノオオタマツリスゲ
 - 48 ミタケスゲ
 - 49 アズマスゲ
 - 50 ジングウスゲ
 - 51 カガシラ
 - 52 セトウチコスズ
 - 53 ハネガヤ
 - 54 ヤマキケマン
 - 55 サンカヨウ
 - 56 キクザキイチゲ
 - 57 トウゴクサバノオ
 - 58 オキナグサ
 - 59 ヒキノカサ
 - 60 カラマツソウ
 - 61 タイシャクカラマツ
 - 62 カラマツソウ属の1種
 - 63 ミヤマカラマツ
 - 64 ヤマビワ
 - 65 ヤマモガシ
 - 66 アオベンケイ
 - 67 タコノアシ
 - 68 ウドカズラ
 - 69 イヌハギ
 - 70 ヒナノカンザシ
 - 71 コテリハキンバイ
 - 72 バクチノキ
 - 73 ウラジロイワガサ (ミヤジマシモツケ)
 - 74 クロカンバ
 - 75 カカツガユ
 - 76 テングシデ
 - 77 ノウルシ
 - 78 エゾノアオイスミレ
 - 79 ゲンジスミレ
 - 80 タイシャクイタヤ
 - 81 マンシュウボダイジュ
 - 82 ツチトリモチ
 - 83 ミヤマツチトリモチ
 - 84 ホザキヤドリギ
 - 85 サイコクヌカボ
 - 86 ヤナギヌカボ
 - 87 マダイオウ
 - 88 イシモチソウ
 - 89 ワチガイソウ
 - 90 キレンゲショウマ
 - 91 ホンシャクナゲ
 - 92 シロバナイナモリソウ
 - 93 ムラサキセンブリ
 - 94 チョウジソウ
 - 95 マメダオシ
 - 96 ハシドイ
 - 97 キクガラクサ
 - 98 トウオオバコ
 - 99 ナンゴククガイソウ
 - 100 キセワタ
 - 101 ヤマジソ
 - 102 テリハナツノタムラソウ
 - 103 コナミキ
 - 104 キュウシュウコゴメグサ
 - 105 タチコゴメグサ
 - 106 ツクシコゴメグサ
 - 107 ホソバママコナ
 - 108 ヒメタヌキモ
 - 109 ムラサキミミカキグサ
 - 110 ツルツゲ
 - 111 バアソブ
 - 112 ミツガシワ
 - 113 ガガブタ
 - 114 カワラハハコ
 - 115 ヤハズハハコ
 - 116 コバナガンクビソウ
 - 117 ビッチュウアザミ
 - 118 ムラクモアザミ
 - 119 ウスバアザミ
 - 120 イワヤクシソウ
 - 121 ホソバニガナ
 - 122 タカサゴソウ
 - 123 アキノハハコグサ
 - 124 タイシャクトウヒレン
 - 125 ヒメヒゴタイ
 - 126 レンプクソウ
 - 127 チョウジガマズミ
 - 128 ヤマヒョウタンボク
 - 129 ダイセンヒョウタンボク
 - 130 オニヒョウタンボク
- 準絶滅危惧 (NT)
- 1 サイコクヒメコウホネ
 - 2 サイジョウコウホネ
 - 3 ハングショウ
 - 4 フウトウカズラ
 - 5 タカハシテンナンショウ
 - 6 ムサシアブミ
 - 7 アオテンナンショウ
 - 8 スブタ
 - 9 ミズオオバコ
 - 10 センニンモ
 - 11 ヒナノシャクジョウ
 - 12 ミヤマエンレイソウ
 - 13 マメヅタラン
 - 14 ムギラン
 - 15 エビネ
 - 16 ギンラン
 - 17 セッコク
 - 18 ミズトンボ
 - 19 オオヤマサギソウ
 - 20 コバノトンボソウ

- 21 クモラン
22 ヒメニラ
23 マイヅルソウ
24 ミクリ
25 ツクシクロイヌノヒゲ
26 アキイトスゲ
27 フサスゲ
28 サワヒメスゲ
29 シオクグ
30 チャボイ
31 ネビキグサ
32 ケシンジュガヤ
33 ツクシガヤ
34 イトスズメガヤ
35 イワタケソウ
36 トウササクサ
37 アイアシ
38 サイヨウザサ
39 アシカガコスズ (イナコスズ)
40 ヒロハノハネガヤ
41 シマキケマン
42 ホザキケマン
43 ヤマブキソウ
44 スズフリイカリソウ
45 サンヨウブシ
46 ミチノクフクジュソウ
47 アズマイチゲ
48 エンコウソウ
49 タカネハンショウヅル
50 カザグルマ
51 トリガタハンショウヅル
52 シロバナハンショウヅル
53 セツブンソウ
54 バイカモ
55 マンセンカラマツ
56 フッキソウ
57 ヤマシャクヤク
58 マルバノキ (ベニマンサク)
59 ザリコミ
60 ツルネコノメソウ
61 タカネマンネングサ
62 オグラノフサモ
63 タチモ
64 タヌキマメ
65 レンリソウ
66 ツルフジバカマ
67 エビラフジ
68 ヒメヘビイチゴ
69 カワラサイコ
70 シモツケ
71 キビノクロウメモドキ
- 72 カラハナソウ
73 ツルマオ
74 キミズ
75 ミヤコミズ
76 イワタイゲキ
77 ダイセンキスマレ
78 アソヒカゲスマレ
79 ダイセンオトギリ
80 イヨフウロ
81 ミズマツバ
82 テツカエデ
83 カラスシキミ
84 オニシバリ
85 ハマサジ
86 ヌカボタデ
87 マツナ
88 マルミノヤマゴボウ
89 シロバイ
90 カンザブロウノキ
91 ウラジロハナヒリノキ
92 ゲンカイツツジ
93 ナガバジュズネノキ
94 イヌセンブリ
95 ホウライカズラ
96 サカキカズラ
97 フナバラソウ
98 スズサイコ
99 ヤマトレンギョウ
100 サイゴクイボタ
101 マルバノサワトウガラシ
102 ツクバキンモンソウ
103 トサムラサキ
104 ジャコウソウ
105 マネキグサ
106 ミゾコウジュ
107 ナミキソウ
108 スズメハコベ
109 クチナシグサ
110 ハマウツボ
111 キヨスミウツボ
112 オオヒキヨモギ
113 ミカワタヌキモ (イトタヌキモ)
114 コタヌキモ
115 ヒメモチ
116 ミヤマウメモドキ
117 フクシマシャジン
118 シデシャジン
119 アサザ
120 ホソバノヤマハハコ
121 フクド
122 ヒトツバヨモギ
- 123 ヒロハヤマヨモギ
124 ウラギク
125 モリアザミ
126 テリハアザミ
127 フクオウソウ
128 アオヤギバナ
129 ウスバヒョウタンボク
130 キンキヒョウタンボク
131 イワツクバネウツギ
132 ハマウド
133 ヒュウガセンキュウ
134 セリモドキ
- 情報不足 (DD)
- 1 トチカガミ
 - 2 ハマオモト
 - 3 オオミクリ
 - 4 サンインヒエスゲ
 - 5 オオカワズスゲ
 - 6 クロタマガヤツリ
 - 7 ハタベカンガレイ
 - 8 ヒバキンポウゲ
 - 9 モメンヅル
 - 10 コキンバイ
 - 11 キンキマメザクラ
 - 12 ミヤマニガイチゴ
 - 13 タイシャククロウメモドキ
 - 14 チョクザキミズ
 - 15 イチイガシ
 - 16 ノヤナギ
 - 17 ヒメフウロ
 - 18 ヒメビシ
 - 19 トダイアカバナ
 - 20 ミツバコンロンソウ
 - 21 ハナハタザオ
 - 22 コイヌガラシ
 - 23 ヒメタデ
 - 24 ムジナモ
 - 25 ヤナギイノコヅチ
 - 26 シチメンソウ
 - 27 ツクシウツギ
 - 28 サワトラノオ
 - 29 ビンゴムグラ
 - 30 キバナカワラマツバ
 - 31 カワヂシャ
 - 32 ホソバヤマジン
 - 33 シオン
 - 34 イズハハコ
 - 35 オナモミ

イブキ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Juniperus chinensis L.

ヒノキ目 ヒノキ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】 鱗状葉をつける小高木。山口県、愛媛県では沿海域や島嶼部に自生している。昔からシシバクと称して、盆栽用にされてきたため減少した。</p> <p>【分布】 朝鮮半島、中国大陸、日本では主として沿海域まれに内陸部に生育する。広島県では沿岸部での自生は確認されていない。</p> <p>【形態】 雄雌異株の小高木。主幹はねじれることが多い。よく分枝し、十字対生した鈍頭の鱗状葉をつける。時に葉は針状になって対生または3輪生する。4月頃、小枝の先に1個の雄花または雌花をつけ、毬果は球形で翌年の秋に成熟する。</p> <p>【近似種との区別】 高山生のミヤマビャクシン（イブキの変種）は主幹が横に伏して屈曲するが、イブキにも横臥するものがあり、区別は必ずしも明瞭でない。園芸品種のカイズカイブキは枝がねじれて伸びる傾向がある。</p>
生息・生育状況	<p>県の東北部の山地に自生し、帝釈峡にはかなり多い。内陸域に見られるのは珍しい。自生地は国定公園内にある。石灰岩地や中・古生層地域の日当りのよい岩場に生える。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（石灰岩の採取） 園芸採取（個体の乱獲、盗掘（とくに幼個体））</p>
特記事項	<p>生育地、とくに岩場の保全。 周辺地域も含めて生育地の環境変化を伴う工事を制限し、採取を禁止する。</p>
産地情報	<p>福山市、庄原市（東城）、神石高原町（油木、神石）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編)2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(吉野由紀夫)

ナヨテンマ 絶滅(EX) EX-③

Gastrodia gracilis Blume

キジカクシ目 ラン科

環境省: EN

広島県 2011: EX

広島県 2003: EX

概要	<p>【摘要】 本州（千葉県以西）、四国、九州および台湾に分布するまれな菌従属栄養の地生ランで、おもに暖温帯の樹林下に生える。</p> <p>【形態】 根茎は棒状。茎は細く高さ10~60 cm、膜質の鞘を数個まばらにつけて、全体淡褐色。花期は6~7月、茎の先端部に、5~15個の淡褐色の花をつける。花柄は子房部分より長く、唇弁は基部が切形の三角形で縁は細裂しない。</p> <p>【近似種との区別】 オニノヤガラ、アオテンマ、シロテンマとは、花色や花柄が子房部分より長いことなどで区別する。</p>
生息・生育状況	<p>全国的にも希少な種である。1934年に安佐北区可部の南原峡で採集された標本の中に本種があることが見いだされた。県内の確認例はその一度だけである。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>採集された正確な場所は特定できないが、南原峡にはダムが建設されるなどさまざまな開発が進んでおり、生育環境が変化したため絶滅したと思われる。</p>
特記事項	<p>Blumeが1856年に新種記載したのち、永らく発見されなかった。津山 尚が、広島県南原峡で採集した牧野富太郎の標本の中に本種のあることを見出し、本種の再発見として1952年に発表した。標本は東京都立大学の牧野標本館に保管されている。</p>
産地情報	<p>広島市（安佐北区）</p>

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編)2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

ハナナズナ 絶滅(EX) EX-②, EX-③

Berteroella maximowiczii (Palib.) O.E.Schulz

アブラナ目 アブラナ科

環境省: CR

広島県 2011: EX

広島県 2003: EX

概要	<p>【摘要】平地に生える大陸系の1属1種の草本。 【分布】本州(岡山県・広島県), 長崎県(対馬), 朝鮮半島, 中国東北および北部に分布。 【形態】二年生草本。茎は高さ25~60 cm, 中部以上でよく枝を分かち。葉は互生, 倒披針形, 長さ1.5~3.5 cm。花は7~9月に開花し, 花弁は淡紅色, 4枚。果実は長さ8~9 mm, 星状毛を密生する。 【近似種との区別】ハナハタザオは葉に鋸歯があり, 果実は長さ4 cmと長く, ほとんど毛がない。</p>
生息・生育状況	<p>戦前には五日市町河内峠(現在は広島市佐伯区)などから記録され, 戦後は堀川(1955)や堀川ほか(1966)に記録があるが, 採集されていないようである。 現状はいずれも不明である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	不明
特記事項	山田 勝が1930年に三原市仏通寺で採集した標本が, 広島県緑化センターに保管されている。
産地情報	広島市(西区, 安佐南区, 佐伯区), 三原市, 東広島市(河内), 廿日市市(吉和), 安芸太田町(戸河内), 北広島町(芸北)

高木哲雄 1933. 広島県に於ける高等植物の分布に就て(予報). 崇徳, 10: 1-11.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

アキノクサタチバナ 絶滅(EX) EX-②, EX-③

Vincetoxicum multinerve Franch. et Sav. var. *kiyohikoanum* (Honda) Kitag.

リンドウ目 キョウチクトウ科

環境省: なし

広島県 2011: EX

広島県 2003: EX

概要	<p>【摘要】旧制広島高等学校の教授であった渡辺清彦が, 広島市温品の蝦蟇ヶ峠(がまがとうげ)で採集した標本に基づいて, 本田正次が, 同年, 新種として発表した。その後, 大井次郎は, 本種をホソバノロクオンソウの変種として扱っている。 【分布】広島県 【形態】多年草本で, 茎は直立し, 高さ約30 cm, 毛がある。葉は長楕円形で, 先端は尖り, 長さ9~12 cm, 幅2~3.5 cm, 両面に毛があり, 葉柄は5~7 mm。花は茎の頂端につき, 約8個, 花柄は約2 cm, 花は紫黒色, 直径1.5 cmくらい。 【近似種との区別】基本種のホソバノロクオンソウは本州に分布し, 花の色は帯白色である。フナバラソウの花は紫黒色であるが, 花は葉腋につく。クサタチバナは葉は広楕円形で花は白色, 広島県には産しない。</p>
生息・生育状況	<p>蝦蟇ヶ峠付近は, まだ, あまり開発されていないので, 再発見の可能性はある。花は5~6月頃と推定される。現状は不明である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	不明
特記事項	—
産地情報	広島市(東区)

Honda, M. 1932. Nuntia ad Floram Japoniae XIX. Bot. Mag. Tokyo, 46: 675-678.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

コケセンボンギク 絶滅(EX) EX-②, EX-③

Lagenophora lanata A.Cunn.

キク目 キク科

環境省: CR

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】海岸の砂地に生育する南方系の小型の多年生草本で、オーストラリアから東南アジア、台湾、琉球列島、九州を経て、宮島と岡山県の鹿久居島に隔離分布している。</p> <p>【形態】小型の多年生草本で、花茎は高さ3.5~12 cmで枝分かれはない。根茎葉はロゼット型で長さ12~30 mm、幅7~13 mmで、軟毛を密生する。花は10~11月頃、花茎の先端に単生し、総苞は長さ2.5 mmくらいで無毛、舌状花は3列で、長さ2.5 mmくらい、筒状花は少数で結実しない。瘦果は長さ2.5 mmくらいで、無毛、腺点があり、冠毛はない。</p> <p>【近似種との区別】ヒメガンクビソウが、花がないとよく似ている。コケセンボンギクは地下にダリアのような塊根があるので、区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>牧野(1940)が「本種最北ノ産地ハ安芸ノ厳島ナリ」と書いて有名になったが、1971年以降、宮島では生育が確認されていない。産地は国立公園内にあり、当地の生育環境として、海岸のクロマツ林下の砂地と山地の歩道傍の粘土質赤土地の2型があった。土井(1980)は広島県宇品を記録しているが、標本も見当たらず、他に宇品で見たという人はいない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>宮島で、1960年代に本種が絶滅に瀕したのは、海岸砂地で松枯れによる枯損木の集材処理を行ったことが大きい。さらに、海岸でのキャンプや海水浴の影響もある。シカによる食害の可能性もある。海岸砂地の保全が必要であった。栽培は可能で、水苔と砂で鉢植えにするとよく繁殖するが、地植えでは栽培が困難である。</p>
特記事項	<p>宮島と岡山県の鹿久居島が本種の北限で、きわめて貴重な存在である。しかし、両地とも過去20年間報告がない。鹿久居島では絶滅した。愛媛県宇和島市は現状不明。九州でも産地は限られていて、五島列島福江島と鹿児島県2か所の3地点である。</p>
産地情報	<p>広島市(南区)、廿日市市(宮島)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

関 太郎・中西弘樹・鈴木兵二・堀川芳雄 1975. 厳島(宮島)の維管束植物. 厳島の自然—総合学術研究報告—(天然記念物彌山原始林・特別名勝厳島緊急調査委員会, 編), p. 221-332. 宮島町.

(松井健一・吉野由紀夫)

オニバス 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Euryale ferox Salisb.

スイレン目 スイレン科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】やや富栄養化した湖沼、ため池などに生育する。一年生の大型水生植物。平地の植物であるため、全国的に生育環境の悪化が著しく、激減している。</p> <p>【分布】東洋の特産種であり、日本は本種の分布の北限域となる。</p> <p>【形態】水上葉は直径1 mくらいで、ときに2 mをこえる大きさになる。裏面は網目状に葉脈が隆起し、両面の脈上に刺がある。花は径4 cmほどで、花弁は紫色である。</p> <p>【近似種との区別】1属1種であり、日本には近似する種は存在しない。</p>
生息・生育状況	<p>千塚池では2011年の調査では生育が確認できなかった。2014年から15年に付近の3か所のため池で生育が確認されている。1か所は30×50 mの範囲一面に生育している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変(湿地開発, 湖沼整理, 土地造成など) 自然環境の変化(水質汚濁, 農薬汚染, 富栄養化, 自然遷移) 外来種(帰化種)との競合</p>
特記事項	<p>前回に比べ3か所ほど新たな生育地が確認された。また、新しい調整池に出現したこともあり、埋立地の地下に埋土種子が存在していると考えられる。</p>
産地情報	<p>福山市(神辺)</p>

橋本卓三 1988. 広島県, 芦田川下流域におけるオニバス自生地の消滅. 水草研究会会報, 33・34: 27-30.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(日朝直樹・吉野由紀夫)

クロフネサイシン 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Asarum dimidiatum F.Maek.

コショウ目 ウマノスズクサ科

環境省: NT

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】林床部に生育する襲速紀要素の植物で、植物地理学上きわめて重要である。</p> <p>【分布】紀伊半島中部、四国、九州中部に分布する多年草。広島県では 1997 年に初めて生育が確認された。</p> <p>【形態】山野の林下に生える多年草。葉は茎の先に 2 個つき、やや厚みがあり、心形で幅 3~6.5 cm。花期は 4~5 月で、黒紫色の花が横向きに開く。萼筒は径約 10 mm、長さ 7~8 mm でおしつぶしたような偏球形、内面には縦に隆起したひだが 18 個ほどできる。</p> <p>【近似種との区別】ウスバサイシンは花柱が 6 個あり、クロフネサイシンは 3 個である。また、クロフネサイシンの葉がやや厚い。</p>
生息・生育状況	溪流沿いの落葉樹林下に生育する。個体数は少ない。広島県内での産地はここだけである。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（森林伐採、河川開発、道路工事など） 園芸採取
特記事項	栽培は可能
産地情報	県北西部

藤野康春・神田博史・三上幸三・関 太郎 1997. クロフネサイシン広島県に見つかる. 宮島自然植物実験所ニュースレター, 4: 3.
広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

マイヅルテンナンショウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Arisaema heterophyllum Blume

オモダカ目 サトイモ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】山地の草原や林縁部に生育する多年草。</p> <p>【分布】本州(岩手県以西)、九州と朝鮮半島南部、台湾に分布する。</p> <p>【形態】高さ 60~120 cm。葉柄は 4~14 cm、葉は 1 枚で鳥足状に 13~19 枚の小葉からなる。小葉は楕円形で先はとがり、縁は大きく波打つ。頂小葉は両隣の側小葉より小さい。花柄は葉柄より長い。舷部は先が急に細くなってやや伸びる。花序の付属体は長さ 25~40 cm、S 字状に曲がり跳ね上がる。雄株から雌雄同株へと転換する。同株の場合、花軸の上に雄花、下に雌花がつく。</p> <p>【近縁種との区別】ウラシマソウは頂小葉が側小葉と同大かより大きく、テンナンショウ類は花序の付属体が短い。</p>
生息・生育状況	呉市灰ヶ峰においては、イノシシによる食害やマニアなどの盗掘により個体数が激減している。帝釈峡での生育は現状不明である。豊栄町でも減少傾向にある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事） 生育地の環境変化（自然遷移）
特記事項	2003 年に県内で初めて確認された。
産地情報	呉市、三原市、三次市(吉舎)、庄原市(東城)、東広島市(豊栄)

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

窪田雄一・窪田正彦 2004. 広島県植物誌資料(5). 比婆科学, 212: 1-8.+5 pls.

(久藤広志・松井健一)

トウゴクヘラオモダカ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-②

Alisma rariflorum Sam.

オモダカ目 オモダカ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州（東北，関東，中国地方）と九州に分布する抽水性から湿生の多年草。</p> <p>【形態】地下に短い茎があり，葉を束生する。葉には明瞭な柄があって，葉身部は長さ 5～10 cm，幅 1.5～3.5 cm の線状長楕円形から長楕円形，葉底部は円形から浅心形。花期は 7～9 月，花茎の高さは 20～50 cm，花弁は白色，長さ 6～7 mm とヘラオモダカより大きく，葯は淡茶褐色。花は午後から夜にかけて開き，各枝ごとに先端の 1 花ずつ開花する。</p> <p>【近似種との区別】ヘラオモダカに似るが県内で確認されたものはより小さい。また，葉柄が明瞭，花茎最下部の分枝が 2 本（まれに 3 本），葯が淡茶褐色である点などで区別される。</p>
生息・生育状況	山中の湿地の狭い範囲に生育している。今回の調査で新しい自生地が確認されたが，いずれの自生地でもニホンジカの食害，イノシシが掘り返すことによる環境の悪化や物理的な損壊，植生遷移による陸地化の懸念があり，生育環境はたいへん脆弱である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変，動物の進入や植生遷移による環境変化などが脅威となる。栽培，移植は可能。
特記事項	広島県の自生地は本州の中でも隔離されていて，貴重な存在である。
産地情報	三原市（久井），安芸高田市

角野康郎 2014. 日本の水草. 325 pp. 文一総合出版, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

トリゲモ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Najas minor All.

オモダカ目 トチカガミ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】ため池などにまれに生育する沈水性の一年草。</p> <p>【分布】本州，四国，九州，琉球，世界の温帯から熱帯に広く分布する。</p> <p>【形態】茎はよく分枝し，葉は長さ 1～2 cm，幅 0.5 mm，著しく反り返り，各側に 10 前後の棘がある。花期は 7～9 月，雌雄同株。果実は各節に 1 個。長さ 3 mm。</p> <p>【近似種との区別】イバラモは葉の幅が 1～3 mm と広い。またオオトリゲモは葉の長さが 3 cm，果実は長さ 3.5～4 mm とトリゲモより大きい。この仲間の同定には種子が必要である。</p>
生息・生育状況	ため池等に生育するが，きわめて少ない。広島県ではこの仲間の調査が不十分である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（河川開発，湖沼開発，土地造成など） 生育環境の変化（水質汚濁，農薬汚染，富栄養化）
特記事項	—
産地情報	広島市（南区），福山市，東広島市，世羅町

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(久藤広志・吉野由紀夫)

シバナ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Triglochin asiatica (Kitag.) A. et D.Löve

オモダカ目 シバナ科

環境省: NT

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概 要	<p>【摘要】河口や干潟など塩湿地に生える多年草。</p> <p>【分布】北海道から九州にかけて生育しているが、確実な産地はきわめて少ない。瀬戸内海の塩生植物の代表的な種である。</p> <p>【形態】地下茎は横にはい、株状で群生する。葉は根生し、線形、長さ10~20 cm、幅5~7 mm、花は9月頃に開花し、花茎は高さ15~20 cm、小さい花を密生する。花被片は6個、長さ2.5 mmくらい。果実は6心皮からなり、長さ3.5~4.5 mm。各心皮に1種子がある。</p> <p>【近似種との区別】塩生植物の中で、肉質で白緑色の葉を持ち、また葉鞘の先に白い三角膜状の葉舌があれば、本種であると容易に区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>呉市(安芸津)の生育地は防潮堤工事により消失したと思われる。現在、確実に生育しているのは、宮島だけである。</p>
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	<p>生育地の改変(海岸開発, 土地造成など)</p> <p>生育環境の変化(自然遷移)</p> <p>シカによる食害</p>
特記事項	<p>宮島では柵によってシカの食害をふせいでいる。</p>
産地情報	<p>呉市(蒲刈, 安浦), 尾道市, 福山市, 東広島市(安芸津), 廿日市市(宮島)</p>

関 太郎・中西弘樹・鈴木兵二・堀川芳雄 1975. 厳島(宮島)の維管束植物. 厳島の自然—総合学術研究報告—(天然記念物彌山原始林・特別名勝厳島緊急調査委員会, 編), p. 221-332. 宮島町.

久藤広志 2000. 豊田郡安芸津町植物ノート(1). 比婆科学, 193: 34-35.

(久藤広志・吉野由紀夫)

リュウノヒゲモ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Potamogeton pectinatus L.

オモダカ目 ヒルムシロ科

環境省: NT

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概 要	<p>【摘要】海岸近くの水域に生育する沈水植物。近年水質の悪化にともない、全国的に減少している。</p> <p>【分布】北海道から琉球, 世界の温帯から熱帯にかけて分布する。</p> <p>【形態】茎が細く, よく分枝する沈水植物で, 葉は針状で長さ5~15 cm, 幅0.3~1.3 mmの針状で全縁。葉の基部は托葉と合着して茎を抱く。花期は7~9月で, 花穂は長さ1.5~4 cm, まばらに花被のない花をつける。</p> <p>【近似種との区別】 イトクズモは葉が対生。カワツルモは葉が互生, 葉に細かい鋸歯がある。</p>
生息・生育状況	<p>この水路の水源は湧水なので, 水温などの季節的な変化が少ない。ここでは地元の人が年6~8回水路の水草を刈り取り, 清掃している。</p>
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	<p>生育地の改変(河川開発, 湖沼開発, 土地造成など)</p> <p>生育環境の変化(水質汚濁, 農薬汚染, 富栄養化)</p> <p>河川の水質悪化や周辺部の水路のコンクリート化などにより, 生育環境が悪化している。</p>
特記事項	<p>広島市(南区宇品)では戦前に報告がある。いくつかの地域で報告があるが, ほとんどが現状不明である。</p>
産地情報	<p>広島市(南区), 呉市(安浦, 豊浜), 廿日市市(宮島)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(久藤広志・吉野由紀夫)

イトクズモ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Zannichellia palustris L.

オモダカ目 ヒルムシロ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】海水の影響を受ける汽水で、工場や人家排水の流入しない所に生育する小型の沈水する多年草で、全国的に激減している。</p> <p>【分布】北海道から琉球列島、南北両半球の冷温帯に分布する。</p> <p>【形態】地下茎は横にはい枝を出す。枝は長さ 10~15 cm くらい。葉は対生し、糸状で長さ 3~5 cm、幅 0.2~0.5 mm。花は夏に葉腋につき、小型で目立たない。雄花と雌花が対になってつく。雄花は 1 個の雄しべだけで、雌花は台状の花被の上に数個の雄しべがある。柱頭はラップ状で特異な形をしている。果実は 2 mm くらいで半月型、長さ 1.5~3.3 mm の柄があり、背面に突起がある。花柱は花後に長く伸び 3 mm に達する。</p> <p>【近似種との区別】カワツルモに似ているが小型であり、葉が対生するので容易に区別できる。イトモの葉も互生である。果実が特異な形態をなし、他に似たものがない。</p>
生息・生育状況	<p>竹原市の下水処理場の末端の渦に生育しており、背後の民家から汚水の流入があり、環境の悪化が心配される。2009 年に東広島市（安芸津）の海岸近くの水路からもその生育が確認されている。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（河川開発、湖沼開発、土地造成など） 生育環境の変化（水質汚濁、農薬汚染、富栄養化）</p>
特記事項	<p>呉市から三原市までの海岸付近の調査が不足している。</p>
産地情報	<p>広島市（南区）、竹原市、東広島市（安芸津）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(久藤広志・吉野由紀夫)

カワツルモ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Ruppia maritima L.

オモダカ目 カワツルモ科

環境省: NT

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】淡水と海水の混ざる汽水中で、工場および生活排水などが流入しない所に生育する沈水の多年草。海岸の埋め立てや水質の悪化によって全国的に激減している。</p> <p>【分布】世界中の沿岸域に広く分布する。</p> <p>【形態】茎が横にはい、節から枝を出す。枝の長さは 20~50 cm、ときに 1 m 近くに達する。葉は糸状で互生し、長さ 5~10 cm、幅 0.2 mm 内外、下部は葉鞘となる。花は 6~8 月、花柄は花後に伸長し、長さ 5~8 cm、多少ねじれる。とくにねじれるものをネジリカワツルモといい、広島県産のものはかなりねじれている。花は花柄の先端に散形につき花被はなく、雄しべは 2 個、果実は 1 花に 4~7 個、ゆがんだ卵形で、先端は短く嘴状で、長さ 2.5 mm くらい。</p> <p>【近似種との区別】イトクズモは葉が対生する。イトモは葉の幅が広い。散形花序とねじれた花柄が特徴的で、他に例がない。</p>
生息・生育状況	<p>土井（1983）は忠海と三原から記録しているが、近年、確認されていない。福山市の芦田川から報告したが、河口堰のために絶滅した。呉市安浦町では、堤防付近の用水路内に生育が確認された。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（河川開発、湖沼開発、土地造成など） 生育環境の変化（水質汚濁）</p>
特記事項	<p>—</p>
産地情報	<p>広島市、呉市（安浦、豊浜、豊）、竹原市、三原市、尾道市（瀬戸田）、福山市、東広島市（安芸津）、廿日市市（宮島）</p>

久藤広志 1997. 広島県呉市周辺におけるカワツルモの新産地について. 比婆科学, 182: 61-63, pls. 2.

(久藤広志・吉野由紀夫)

シロシャクジョウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Burmannia cryptopetala Makino

ヤマノイモ目 ヒナノシャクジョウ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】湿った樹下に生える腐生植物で、本州(近畿地方)、四国、九州、琉球と中国(海南島)に分布する。</p> <p>【形態】茎は直立して高さ5~15 cm、乳白色、葉は互生し、披針形または狭卵形の鱗片で、鋭頭。花期は夏から秋で、茎の先に長さ8~10 mmの花が1~数個つく。花柄の下に葉と同形の鱗片の包葉がある。花は筒形で白色、上部は黄色を帯び、くさび形の縦翼が3枚あり、花被片は短い三角形の外花被片3個で内外被がない。無柄のおしべが3本、花被筒内の上部に着き、葯は大きく間隔があり、両側に葯胞をつけ、上部に突起が一つある。</p> <p>【近縁種との区別】ヒナノシャクジョウは花が頭状に集合して花筒部に翼はない。</p>
生息・生育状況	<p>常緑広葉樹林の林床に生育する。宮島の薄暗い常緑樹林下に生育している。個体数はごくわずかである。年によって発生数に増減があり、ほとんど見られない年もある。本種は小形で目立たないため、今後新産地が見つかる可能性がある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>観光地であるため、公園管理のために林床が整地されたり、観光客による植物の踏みつけなどが懸念される。ニホンジカやイノシシが増えているため、踏みつけや掘り返しなどによる生育場所の攪乱が懸念される。現在の自生地は国立公園内にあるため、自生地の開発は規制されるが、公園管理のために不用意に林床を整地しないよう注意が必要である。</p>
特記事項	<p>宮島町において、2007年8月に、中国地方では始めて発見された。保護活動については不明だが、現在の自生地は国立公園内であるため、生育地の環境は保たれている。</p>
産地情報	<p>廿日市市(宮島)</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

向井誠二・坪田博美・澤田つや子・北本照子・吉野由紀夫・関 太郎 2007. 宮島におけるシロシャクジョウ *Burmannia cryptopetala* Makino の発見. *Hikobia*, 15: 61-66.

(松井健一)

ウエマツソウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Sciaphila secundiflora Thwaites ex Benth.

タコノキ目 ホンゴウソウ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】南方系の腐生植物で、林床の落葉の間に生える多年草。</p> <p>【分布】本州(新潟・和歌山県以西)・四国・九州・琉球・小笠原にかけて分布し、台湾・香港・タイ・ニューギニア・スリランカにも分布する。</p> <p>【形態】地上茎の径0.8 mm、高さ6~10 cmの微細な腐生植物で、退化した鱗片状の葉は茎とともに紫褐色をしている。花期は7~9月、茎の上部に雄花、その下部に雌花をつける。</p> <p>【近似種との区別】ウエマツソウの花柄は花より短く2~3 mm。ホンゴウソウの花柄は細く、糸状で花より長く3 mm。</p>
生息・生育状況	<p>1993年に植物公園のスタッフによって、東郷山(恵下山国有林)で発見された。生育地はもとコウヤマキ林であったと推定されるスギ・ヒノキ植林下で、海拔540 m、個体数は多い。植物体が小さく、花期以外は確認することは困難である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変(森林伐採、土地造成、道路工事) 生育環境の変化(自然遷移)</p>
特記事項	<p>単子葉植物としては、その大きさがもっとも小さい部類に属する。根の中に共生菌の菌糸がはいると、菌糸は落ち葉などを分解し、植物体はこれを栄養として成長する。生育する可能性がある地域でアセスメント等の調査を行う時は、花期を外さないように調査する必要がある。</p>
産地情報	<p>広島市(佐伯区)、世羅町(甲山)</p>

井上尚子・関 太郎 1999. 特定地域植生調査(東郷山)第三報-植物相のまとめ-. 広島市植物公園紀要, 18: 1-60.

浜田展也・武内一恵(監修・解説)・小池周司(写真) 2011. 広島山野草(夏編). 379 pp. 南々社, 広島.

(吉野由紀夫)

ヒメユリ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Lilium concolor Salisb.

ユリ目 ユリ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】山地の向陽の草原に生育する小型のユリで、7月ごろ、朱赤色の花を上に向けて咲かせる。全国的に減少している。</p> <p>【分布】本州(東北地方以南)・四国・九州・朝鮮半島・中国大陸・アムールに分布する。</p> <p>【形態】茎の高さは30~50 cmの小型のユリで、朱赤色の花を数個上に向けて咲かせる。花被片は倒披針形で、長さ3~4 cm、朱赤色の花被片に濃色の斑点がある。茎には線形で長さ5~10 cmの葉が多数ついている。</p> <p>【近似種との区別】ユリ属の中で、花が上向きに咲き、雄しべが斜上するのは、スカシユリとヒメユリしかないが、ヒメユリの方が小型である。また、茎に毛がないので、毛のある中国産種からわけて、変種 <i>var. partheion</i> (Sieb. et de Vriese) Baker とすることもある。</p>
生息・生育状況	<p>本県を代表する自生地は自然環境保全地域内にあるが、乱獲により絶滅寸前である。この産地では、蛇紋岩よりなる尾根から山頂にかけて矮生したカシワの灌木が点在し、乾燥した岩上にネザサ、ショウジョウソグ、ネコヤマヒゴタイ、ススキなどの草原が広がっている。その草原の中にヒメユリが点在している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（草地開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育環境の変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p> <p>産地により花の色に変異があるため、山野草店では山地名を明示して高値で販売されている。この乱獲に歯止めをかけることが急がれる。</p>
特記事項	<p>自生地付近の農家が里山管理を行ったところ、本種の生育が確認された。本種の保全には伝統的な草地管理を復活させるのが望ましい。</p>
産地情報	<p>県北東部</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編)2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(吉野由紀夫)

ホソバナアマナ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-③

Lloydia triflora (Ledeb.) Baker

ユリ目 ユリ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】北海道から九州とユーラシア大陸東部にかけての広い範囲に分布する多年草。山地の草地に生える。</p> <p>【形態】地下に1 cmほどの鱗茎があり、根生葉はふつう1個で幅1.5~3 mm。花茎は高さ約15 cm、花期は5~6月、花は白色で1~5個つく。基部に腺体はない。</p> <p>【近似種との区別】県内に分布するアマナとは全体の大きさや葉の数で、キバナノアマナやヒメアマナとは花色で区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>戦前、高木哲雄が産地を明記せず記録しているが、標本などは未確認であった。2006年に自生が確認されたものの、その後新しい自生地は確認されていない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>周囲の土地造成や草地の維持管理作業ができなくなった場合の環境悪化、または人の立ち入りや採集が脅威となる。</p>
特記事項	<p>現在、土地所有者の努力で生育環境が維持されている。不用意な立ち入りは避けるべきである。</p>
産地情報	<p>非公開</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編)2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

田村 実・高橋 弘 2015. ユリ科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 168 - 177. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ヒナラン 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Amitostigma gracile (Blume) Schltr.

キジカクシ目 ラン科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】本州（関東地方以西）、四国、九州、朝鮮半島、台湾、中国大陸に分布する。樹林下の岩上に生育する多年草。</p> <p>【形態】地下には紡錘形に肥厚した塊根がある。茎はやや斜めに立ち、高さ 5~15 cm。葉は茎の下部に 1 個。花期は 5~7 月で、淡紫色の小花を 10~15 個、花茎の一方に偏ってつける。</p> <p>【近似種との区別】日本にヒナラン属は 4 種あるが、広島県に自生するのはヒナランのみである。山口県に自生記録のあるイワチドリとは花の大きさが異なる。同様の環境に生えるウチョウランやヒナチドリとも花の大きさや形で明瞭に区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>県内の沿岸部から吉備高原面にかけて、やや明るい崖地の岩上に浅く堆積した土壌がある場所に生えていることが多い。道路沿いで崩落防止工事のために、生育地そのものが消滅したり、環境が悪化している場所が多数ある。また、乱獲によっても生育個体数が減少した。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>道路工事などによる生育地の破壊、樹木伐採による環境の悪化、採集などが脅威である。栽培技術は確立しているが、自生地復帰させる場合は産地や病気の罹患に注意しなければならない。</p>
特記事項	<p>近年、県東部では生育が確認されていない。</p>
産地情報	<p>県内のほぼ全域</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

キエビネ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-③, CR+EN-④

Calanthe sieboldii Decne ex Regel

キジカクシ目 ラン科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】静岡県以西の本州、四国、九州、韓国、台湾、中国に分布する常緑の多年草。</p> <p>【形態】葉は 2~3 枚つき、長さ約 40 cm。質はやや薄く、柄が明瞭で長い。花期は 4 月下旬から 5 月上旬で、黄色で大型の花を 8~15 個つける。唇弁の中裂片は先が 2 裂せず、先端が微突型になる。</p> <p>【近似種との区別】エビネに比べ、全体が大型で、花弁は黄色である。また、唇弁の中裂片の先が 2 裂しない。花のない時期は同じく大型のサルメンエビネと間違えやすいが、サルメンエビネの葉柄は幅広く軟弱で、とくに前年の葉がすべて倒伏している点異なる。</p>
生息・生育状況	<p>県内では中間樹林帯からブナ帯下部にかけての樹林下に生えるが非常にまれ。森林の伐採や乱獲によってすでに絶滅した場所もあると思われる。現在確認されている場所でも人の立ち入りによって環境が悪化して個体数が減っている場合がある。最近県の北東部や中部で観察例があるが、人為的な植栽または栽培株からの逸出の可能性もある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>森林開発や乱獲がもっとも脅威である。一方で、エビネと自然交雑してタカネ（ソノエビネ）となり、純粋なキエビネが少なくなる可能性がある。</p> <p>人工的に栽培した個体を植え戻さないなどの注意が必要。</p>
特記事項	<p>改訂新版日本の野生植物 1 では、学名を <i>Calanthe citrina</i> Scheidw. としている。</p>
産地情報	<p>県内のほぼ全域</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

クゲヌマラン 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Cephalanthera longifolia (L.) Fritsch

キジカクシ目 ラン科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】北海道から九州, ユーラシア大陸に広く分布する多年草。近年, 国内では新たな自生地が多数報告されている。</p> <p>【形態】高さ 10~30 cm で先端部に白色の数花をつけ, ギンランによく似ている。</p> <p>【近似種との区別】葉は質がやや厚くギンランに近い。花はほとんど開かず唇弁基部にある距が側萼片基部からほとんど突き出ない点でギンランと異なる。ササバギンランも同様に花は開かないが, 全体により大型で花数が多く, 苞が線形でとくに最下の 1~2 個は極端に長い。</p>
生息・生育状況	<p>2010 年に広島県内で初めての自生地が発見された。沿岸部の樹林下にまばらに生えるが, これまでに確認されているのは数十株だけである。近年, イノシシによる自生地の破壊やごみの不法投棄などによって生育環境が悪化し, 生育個体も減少している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>イノシシなど動物による生育地の改変や林道工事などの自生地破壊が脅威である。本種の生態には不明な点が多いが, 保全を目的とした播種試験等の研究がある。</p>
特記事項	<p>近年日本の各地で自生地が発見され, 分類学的な検討がなされた結果ヨーロッパから中国にかけて広く分布する種類と同種であると結論された。</p>
産地情報	<p>沿岸部</p>

世羅徹哉・近藤芳子 2013. 広島県フロラ覚書(7). 広島市植物公園紀要, 31: 39-42.

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

クマガイソウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Cypripedium japonicum Thunb. var. *japonicum*

キジカクシ目 ラン科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】北海道西南部から九州, 朝鮮半島, 中国大陸に分布し, 冷温帯から暖帯にかけての樹林下に生え, しばしば竹林あるいはスギ人工林に群生する。日本の野生ランでは最大の花をつける夏緑性の多年生草本。</p> <p>【形態】茎は高さ 30~40 cm, 上部に扇形で径 10~20 cm の葉を 2 枚つける。花期は 4~5 月頃, 茎頂に袋状の唇弁がある花を 1 個つける。葉が無毛の変種や唇弁が紅紫色を帯びない品種が記載されている。</p> <p>【近似種との区別】大型の 2 葉を付けた特徴的な姿は, 近似種と間違えることはない。</p>
生息・生育状況	<p>島嶼部から中国山地まで県内のほぼ全域に自生記録がある。自生地である人工林の伐採などによる環境の悪化に加え, 過度の採取のために激減した。現在も, 非常に高い採取圧がある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>森林の開発や放置による環境悪化と採集がもっとも大きな脅威である。特色のある種類なのでメディアに取り上げられやすいが, 自生地情報の扱いには注意する必要がある。</p>
特記事項	<p>—</p>
産地情報	<p>県内のほぼ全域</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

イチヨウラン 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-③

Dactyloctenium aegyptium Rchb.f.

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: DD

概要	<p>【摘要】南千島、北海道から九州に分布し、亜寒帯から冷温帯の林床に生える多年草で、本州西部や九州ではまれである。</p> <p>【形態】葉は1個、長さ3~6cmの楕円形で先は尖らず、1~2cmの柄がある。葉の基部から高さ10~20cmの茎を出して1花を頂生する。花期は5~7月。花は大きさ約2.5cm、淡緑色に紫色の斑点がある。</p> <p>【近似種との区別】ヒトツボクロは、葉は同様に1個だが濃緑色で平行脈が目立つ。また、花が小さく多数が穂状につく。北海道から山陰東部、四国に分布するコイチヨウランは、全体に似ているが葉は小さくより円形に近い。花も小さく複数付き、開花期は夏である。</p>
生息・生育状況	<p>県内では西中国山地のブナ林またはブナ帯にあるスギ植林内のごくまれに生育が確認されているが、再調査時には個体数の減少や未確認という場合が多い。一部の生育地は伐採により消失した。世羅町からも記録があるが未確認である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>森林開発や盗掘が脅威となる。 適切な環境を維持できる広範囲な森林の保全や盗掘防止策を講じる必要がある。</p>
特記事項	<p>本種は本来亜高山帯に生える植物とされ、県内の自生地は、ほぼ本州の最西端なのでたいへん貴重である。</p>
産地情報	<p>県北西部</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

エゾスズラン 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-③

Epipactis papillosa Franch. et Sav. var. *papillosa*

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】北海道から九州、ユーラシア大陸とアフリカ北部にも分布するとされ、亜寒帯から冷温帯の樹林下や暖温帯の海岸林に生える落葉性多年草。アオスズランとも呼ばれる。</p> <p>【形態】茎は高さ30~60cmになり、全体に褐色の短縮毛がある。葉は長さ7~12cmの卵状楕円形で5~7個つく。花は緑色を帯びた褐色。7~8月に数個~30個が総状につく。</p> <p>【近似種との区別】茎に褐色の縮毛があることでカキランなどとは容易に区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>県東部の石灰岩地帯に自生している。もともと希少な種だったが、乱獲などのため、以前と比べると生育数は非常に少ない。現在確認されている場所は限られているが、最近では観察に訪れる人が多いようで、踏み付けなどで傷む個体も出ている。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>森林開発や盗掘、人の立ち入りによる踏み付けなどが脅威となっている。 栽培や移植の可否については不明。</p>
特記事項	<p>図鑑によって用いられる和名が異なり、標準和名の統一がないようである。また、改訂新版日本の野生植物 1では、種の範疇が見直され、学名も <i>Epipactis helleborine</i> (L.) Crantz に変更されている。</p>
産地情報	<p>庄原市(東城), 神石高原町(油木)</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

マツラン 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Gastrochilus matsuran (Makino) Schltr.

キジカクシ目 ラン科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】岩手県以南の本州（太平洋側）、四国、九州および朝鮮半島南部に分布し、暖温帯の常緑広葉樹林やクロマツ林などの樹木に着生する多年草。</p> <p>【形態】茎は細く 1~3 cm、厚く線状楕円形の葉を密に 2 列互生する。葉にはふつう紫色の小点があり、わずかに湾曲する。5~6 月、葉腋から出る長さ約 1 cm の花茎に黄緑色の数花を密生する。花の唇弁基部は丸い袋状。</p> <p>【近似種との区別】同属のモミランは開花期が 3~4 月と早く、唇弁基部は細長い円柱形の距になるほか、茎が細く長く這っている。カヤランは葉が大きく、長い花茎を下垂させて黄色い花をつける。</p>
生息・生育状況	<p>県西部を中心に、中間樹林帯の樹木に着生している。以前はクロマツに着生していたという情報もあるが、今は確認できていない。森林の伐採や採取などのために個体数が減少しているが、生育が知られていなかった地域で、倒木に着生しているのが偶然発見されることもあり、県内の生育状況には解明されていない部分もある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>森林開発による環境変化や採取が脅威となる。長期間の栽培保存は困難。</p>
特記事項	<p>前はベニカヤランの和名を用いたが、グリーンリストにしたがってマツランとした。学名にも変更がある。</p>
産地情報	<p>広島市、福山市、廿日市市、安芸太田町</p>

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

モミラン 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Gastrochilus toramanus (Makino) Schltr.

キジカクシ目 ラン科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】宮城県以南の本州、四国、九州に分布し、針広混交林中の樹幹に着生する。</p> <p>【形態】茎は細く長く、分岐しながら匍匐して樹幹を覆うように着生する。葉は 2 列に互生、長さ約 1 cm の卵状楕円形、普通紫色の斑点がある。3~4 月、葉腋から短い花茎を出して数個の花をつける。花は黄緑色で紫色の斑紋があり、唇弁には長さ 3~4 mm の円柱形の距がある。</p> <p>【近似種との区別】ベニカヤラン（マツラン）の小さい個体がよく似ているが、モミランより開花期が遅く、茎が短く、唇弁基部の距が丸い袋状なので区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>県北西部の狭い範囲に自生しているのみで、生育個体はわずかである。歩道整備や自然災害のために着生している樹木が伐採または倒壊するなどの環境変化がある。また、常に過度の採取圧にさらされ、継続的な減少の原因になっている。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>自生地情報の管理に気を付け、採取圧を軽減する必要がある。歩道整備などの工事を行う際は、着生樹木をよく調査し、工事エリア外に移植するなどの措置を講じる必要がある。</p>
特記事項	<p>—</p>
産地情報	<p>安芸太田町</p>

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

シロテンマ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Gastrodia elata Blume var. *pallens* Kitag.

キジカクシ目 ラン科

環境省: CR

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】北海道から九州, 台湾, 中国に分布し, 樹林下に生える菌従属栄養のまれな地生ラン。オニノヤガラと同一種で, 植物体全体が淡黄白色になる変種とされる。母種に比べると小さいものが多いことからヒメテンマの別名がある。</p> <p>【形態】地下に肥大した塊茎があり, 茎は淡黄白色で高さ 20~50 cm またはそれ以上になる。花期は 6~8 月, 茎の上部に数個から十数個の花をつける。花も茎と同様の帯白色。</p> <p>【近似種との区別】オニノヤガラに比べると全体に小さく花数も少なく, 帯白色である。アオテンマは全体が淡緑色の品種とされるがシロテンマの大型の個体と区別しにくい場合もある。</p>
生息・生育状況	<p>これまで中国山地沿いの数か所で自生が報告されている。いずれの場所も生育数のごくわずか。戸河内の自生地は登山道のそばにあり, 道の整備工事などで環境が変わったため近年発生していない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変, 森林の伐採などが大きな脅威となる。 栽培, 移植は困難と思われる。</p>
特記事項	<p>前回のレッドデータブックではオニノヤガラの色変わり品種とする扱いにしたがって学名を <i>G. elata</i> Blume f. <i>pallens</i> (Kitag.) Tuyama としている。</p>
産地情報	<p>庄原市, 廿日市市, 安芸太田町</p>

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

石田源次郎・柴田昌男・三上幸三 2002. 広島県フロラ覚書 (4) シロテンマ (新産地). 広島市植物公園紀要, 21: 49-51.

(世羅徹哉)

ベニシスラン 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-③

Goodyera biflora (Lindl.) Hook.f.

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】北海道南部から本州, 四国, 九州, 台湾, 朝鮮半島, 中国を経てヒマラヤに分布し, 冷温帯から暖温帯の樹林内に生える常緑の多年草。</p> <p>【形態】茎は高さ 4~10 cm, 3~5 枚の葉が互生する。葉はビロード状の暗緑色で, 表面には白色の網目模様がある。花期は 7~8 月。淡紅色で長さ約 2 cm の細長い花を 1~4 個咲かせる。</p> <p>【近似種との区別】大きな細長い花は近縁種にはない。花のない場合でも, 葉の質と色模様が近似種とのよい区別点になるが, 模様の鮮明さには個体差がある。</p>
生息・生育状況	<p>空中湿度の高い常緑樹林内の岩の上などに生育している。現在 2 か所しか確認されておらず, もともと生育個体数が少ないうえに乱獲や道路工事の影響で減少している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変や乱獲が脅威となる。 短期間の栽培は可能。栽培株の野生復帰には十分注意する必要がある。</p>
特記事項	<p>近年の研究でヒマラヤ産の種と同一とする見解が取り入れられ, 学名も変更されている。</p>
産地情報	<p>非公開</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ツリシュスラン 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-③

Goodyera pendula Maxim.

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】北海道から九州、台湾に分布し、湿度の高い樹林内の樹幹に着生または、岩上に生育する常緑多年草。</p> <p>【形態】茎は、開花する年の春から伸びて下垂し、7~9月の開花期には長さ10~20cmに達して先端部が上方に曲がって斜上し、多数の小花を一方に偏って密生する。開花した茎は枯れ、基部に新しい芽を生じる。葉は長さ2~3cmの披針形で縁が波打つ。</p> <p>【近似種との区別】同様な環境には、同定を誤るような近似種はない。</p>
生息・生育状況	西中国山地でまれに生育が確認されているが、産地、生育個体数ともに非常に少ない。継続的に観察されていた自生地でも、着生していた樹木が倒壊して絶滅した場所が複数ある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	森林伐採や道路拡幅などの環境変化を伴う開発や工事、乱獲が脅威となる。長期間の栽培保存は困難。適切な移植場所の選定が重要。
特記事項	—
産地情報	廿日市市, 安芸太田町

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

ハクウンラン 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Kuhlhasseltia nakaiana (F.Maek.) Ormerod

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】東北以南の本州、四国、九州、台湾に分布するが全国的にまれ。クリ帯からブナ帯にかけての針葉樹林や夏緑広葉樹林の林床に生える。</p> <p>【形体】緑色の細い茎が地表を這い、先端部が立ちあがって径約1cmの卵円形の葉を数個つける。通常の根はなく、茎の節部の膨らんだところから根毛を出す。花茎を含めて高さ10cmほどになる。花期は7~8月、白色の唇弁が目立つ小花を数個つける。花後に葉と花茎が枯れ、秋に新葉を展開する。</p> <p>【近似種との区別】ツクシアリドオシランは、唇弁基部が小さな半円形に2裂することで明瞭に区別できる。</p>
生息・生育状況	県内では、ブナ帯下部の夏緑広葉樹林下に生えるが、2005年の発見以来自生地は1か所だけである。登山道に近い踏みつけにより生育環境が悪化している。林道建設工事を行い、周辺環境がかなり変化している。生育数は著しく減少した。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地付近では登山道から外れて林床にはいることを制限する必要がある。長期間の生育域外保全は技術的に困難。関東では、自生地に播種して生育数を復元する試験が行われている。
特記事項	これまでとは学名が異なっている。
産地情報	呉市(倉橋), 廿日市市

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633pp. 平凡社, 東京.

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ギボウシラン 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-③

Liparis auriculata Blume ex Miq.

キジカクシ目 ラン科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】北海道南部, 本州(八丈島含む), 四国, 九州, 朝鮮半島(済州島)の林内や湿原に生えるまれな多年草。</p> <p>【形態】茎は卵形, 先端に2葉をつける。葉は広卵形で長さ5~12 cm, 幅3~8 cm, 先は急に細くなり, 縦方向の葉脈が明瞭で縁は緩く波打ち, ギボウシの葉に似ている。花期は7~8月, 高さ15~30 cmに達する花茎を伸ばし, 淡い黄緑色の花を十数個つける。</p> <p>【近似種との区別】ジガバチソウなどほかのクモキリソウ属の種とは葉の形態で区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>県西部の樹林内で谷川沿いの湿った岩場に生育していたが, 大雨による氾濫以降確認されていない。近年新しい自生地が発見された。生育環境は以前の記録と異なり, 明るい林縁である。しかし, 新たな自生地でも環境の悪化が危惧され, 生育数は減少している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>採取の禁止および生育地の環境変化を伴う工事を規制する。短期間の栽培は可能。移植などに適する場所の選定が肝要となる。マスコミ報道は自粛が望まれる。</p>
特記事項	—
産地情報	県西部

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

フガクスズムシソウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-③

Liparis fujisanensis F.Maek. ex F.Konta et S.Matsumoto

キジカクシ目 ラン科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】北海道から九州にかけて分布し, 冷温帯林のおもにブナの古木に着生する多年草。</p> <p>【形態】基部に扁平な卵状の肥大した茎があり, 葉は2個で長さは1.5~5 cm. 6~8月, 高さ3~10 cmの花茎上部に紫褐色の花を数個つける。</p> <p>【近似種との区別】クモキリソウに比べ小さく, 葉が細く厚みがあり, 花の唇弁が紫褐色であることや, 側萼片が筒状に巻く点で異なる。スズムシソウとは着生という生育型のほか, 唇弁が中央付近で外曲する, 側萼片が側方に開出するなどの点で区別される。</p>
生息・生育状況	<p>県内では, 西中国山地のブナ林内の樹木に着生していて, ごくまれ。周辺樹木が伐採されると環境が悪化して生育が阻害される。また, 採取圧が非常に高く, 登山道沿いの場所ではすでに消滅した自生地もある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>森林伐採や乱獲が脅威である。 長期間の生育域外保全は困難。</p>
特記事項	<p>近年このグループは分類学的な再検討が行われている。</p>
産地情報	<p>廿日市市, 安芸太田町</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633pp. 平凡社, 東京.

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

セイタカスズムシソウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-③

Liparis japonica (Miq.) Maxim.

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】北海道から九州, 朝鮮半島, 中国東北部, アムール地方に分布し, 亜寒帯から冷温帯の樹林下に生える多年草。</p> <p>【形態】楕円状球形の茎があり, 先端に長さ 6~12 cm の広楕円形の葉を 2 個つける。花茎は高さ 10~30 cm になり, 7 月, 淡緑色または淡紫色の花をまばらにつける。</p> <p>【近似種との区別】ジガバチソウ, クモキリソウ, スズムシソウなどとは花期が異なる。唇弁の形はスズムシソウに似るが, 花がまばらにつく。フガクスズムシソウとは生育環境が異なり, ギボウシランとは葉の形態で区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>県内での記録はあったが標本が確認されないため, 未確認種としていた。2014 年に 1 か所で 5 個体の自生を確認したが, その後減少し, 開花に至らない幼株 1 個体のみとなっている。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>自生地を改変するような環境の悪化, 採集が脅威となる。</p>
特記事項	<p>本種は, 最近分類学的な再検討がなされ, 2 つの分類群に分ける見解が示されている。それによると県内に生育する種は, アキタスズムシソウ (<i>Liparis longiracemosa</i> Tsutsumi et al)にあたる。</p>
産地情報	<p>非公開</p>

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

土井美夫 1983. 広島県植物目録. 148 pp. 博新館, 広島.

(世羅徹哉)

ササバラン 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Liparis odorata (Willd.) Lindl.

キジカクシ目 ラン科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】栃木県以南の本州から, 琉球, 中国, 台湾からヒマラヤ, インド, ミクロネシアにかけて広く分布し, 暖温帯から熱帯の日あたりのよい草原に生える多年草。全国的に減少している。</p> <p>【形体】地表近くに卵形の茎があり, 葉を数個つける。葉は狭長楕円形で縦じわが多く先端が鋭先形。6~7 月, 葉の中心から高さ 20~30 cm の花茎を出し, 上方に紫色を帯びた茶褐色または黄緑色の花をややまばらに多数つける。</p> <p>【近似種との区別】花がない場合, イネ科植物の新芽やササ類に類似しているが, 卵形の茎があるので区別できる。花があれば, 同定を間違えるような近似種はない。</p>
生息・生育状況	<p>2007 年に貯水池の土手で 1 株の生育を確認した。人為的な植え付けなどではないと判断されたが, 近隣の同様な環境にも生育は確認されていない。発見された株は, 2009 年には確認できなかった。その後も, 周辺の同様な環境を含め県内では発見されていない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>草原の保全。過度の立ち入りを制限する。採集を禁止する。</p>
特記事項	<p>—</p>
産地情報	<p>非公開</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

フウラン 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-③

Neofinetia falcata (Thunb.) Hu

キジカクシ目 ラン科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】 関東南部以西の本州から琉球、朝鮮半島南部、中国東南部に分布し、暖温帯から亜熱帯の樹木に着生または岩上に生育する多年草。</p> <p>【形態】 茎は短く基部で分岐し、2列につく葉の葉鞘で覆われる。葉は固い革質、線形で湾曲し、背面(下側)に鋭い稜があって断面はV字形。花期は産地によって違い、5~8月にかけて咲き、白色で5~10個つく。夕方から夜にかけて芳香を放つ。</p> <p>【近似種との区別】 県内には、本種に似た植物はないが、遠景ではノキシノブと紛らわしい。</p>
生息・生育状況	<p>これまで瀬戸内沿岸部で、庭木や神社境内の樹木に着生していることは知られていたが、本来の自生ではないと考えられてきた。今回、自然度が高い樹林内の岸壁に生育しているのが確認され、自生と判断した。園芸目的で採取されたため、個体数が大幅に減少している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>自生地を破壊するような改変や周辺樹木の伐採などによる環境変化、乱獲が脅威となる。栽培保存は可能。栽培品は安易に植え戻さない。</p>
特記事項	—
産地情報	非公開

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

高杉茂雄・榎木成司・山下 博 2014. 広島県に自生するフウランについて. 比叢科学, 250: 69-70.

(世羅徹哉)

ノビネチドリ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-③

Neolindleya camtschatica (Cham.) Nevski

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】 北海道、本州、四国、九州、朝鮮半島、千島列島からカムチャッカ半島に分布し、亜寒帯から冷温帯域の樹林内または林縁の湿った場所に生育する。広島県内の自生地は、本州最西端で、植物地理学上貴重な生育地である。</p> <p>【形態】 ひも状の根と肥厚した円柱状の根が混在する。茎は太く高さ 30~60 cm に達し、縁が波打つ楕円形の葉を数枚つける。5~7月頃、先端部に淡紫色の花を多数つける。</p> <p>【近似種との区別】 同様な環境に生育するテガタチドリ、ハクサンチドリなどとは葉の形と大きさがまったく異なる。</p>
生息・生育状況	<p>テガタチドリとして 1970 年代に記録され、1992 年に写真集で紹介された。2000 年頃に自生地が 2 か所発見されたが、写真撮影の目的で立ちはいる人が増えて環境が悪化したことに加え、乱獲されたために 2010 年には自生株が確認されなくなった。最近、新たな自生地が発見された。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変、乱獲が脅威である。長期的な域外保全は困難。自生地の環境を含めて保全する必要がある。</p>
特記事項	<p>本州最西端という学術的な価値を守るため、移植や域外保全の手法によるのではなく、現在の自生地と自生個体の保全がもっとも重要である。</p>
産地情報	非公開

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ツレサギソウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-⑤

Platanthera japonica (Thunb.) Lindl.

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】北海道から九州, 朝鮮半島, 中国に分布する。冷温帯から暖温帯の日あたりのよい草原や明るく湿った林床に生育する多年草。</p> <p>【形態】水平に伸びる肥厚した根茎があり, 茎は高さ約 50 cm で 5~8 個の葉をつける。下部の葉は長さ 10~20 cm の狭長楕円形で基部は鞘となって茎を抱く。花期は 5~6 月, 花は多数あり大きさ約 2 cm, 白色。唇弁は, 長さが 13~15 mm で基部両側に突起があり, 長さ 3~4 cm の下垂する距がある。</p> <p>【近似種との区別】ミズチドリは花が小さい。ハシナガヤマサギソウは花が黄緑色で, 距が水平に伸びる。</p>
生息・生育状況	<p>県内では, 東部の吉備高原面や西部の中国山地でわずかな自生記録があるが, 1983 年以降生育が確認されていない。もともと希少なことに加え, 採草地などの生育適地が激減したためと思われる。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変, 環境変化や乱獲が脅威となる。草刈りなどで草原を維持する場合は, 刈時を検討する必要がある。</p>
特記事項	—
産地情報	福山市, 安芸太田町

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ハシナガヤマサギソウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-③

Platanthera mandarinorum Rchb.f. subsp. *mandarinorum* var. *mandarinorum*

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州西部, 四国, 九州, 朝鮮半島, 中国に分布し, 冷温帯から暖温帯の日あたりのよい草地に生える。多型なヤマサギソウの変種とされ, 同定の難しい個体もある。</p> <p>【形態】茎の高さは 20~40 cm でやや稜がある。葉は数個あるが最下部の 1 個が大きく, 線状長楕円形で長さ 5~11 cm。花期は 5~7 月, 黄緑色で, 長さ 25~35 mm の水平に伸びる距がある。</p> <p>【近似種との区別】ヤマサギソウの他の変種とは, 距の長さと伸びる向きで区別するが判別しにくい個体もある。ツレサギソウは花が白色で距が下垂することで区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>1982 年に県内で撮影された写真をもとに, 2002 年に生育が発表されたが, この自生地の詳細や現状は不明である。2017 年に別の産地が報告され, 自生を確認した。草地としての生育環境は維持されているが, 個体数はわずかである。近隣の同様な環境でも他には確認されていない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>管理放棄による草原の植生遷移や人が立ちはいることでおこる踏み付けまたは採集が脅威となる。栽培保存や移植の可否は不明である。</p>
特記事項	<p>種内の変異が大きく, 変種レベルの同定は難しい場合もある。今回自生を確認した個体は植物体も花も標準的なものと比べると大型である。</p>
産地情報	東広島市, 安芸太田町

小池周司 2017. 東広島市でハシナガヤマサギソウを確認. 比婆科学, 261: 50-51.

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ヒナチドリ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Ponerorchis chidori (Makino) Ohwi var. *chidori*

キジカクシ目 ラン科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】北海道, 本州, 四国に分布し, 冷温帯山地の樹幹に着生する。</p> <p>【形態】地下には塊根があって高さ 7~15 cm の茎を出す。葉は基部に 1 個だけで, 広披針形。花期は 7~8 月, 茎の先端部に数個つき, 紅紫色で距を含めた大きさは約 2 cm。</p> <p>【近似種との区別】ウチョウランとは葉の数や形で区別できる。ヒナランは同様に葉を 1 個しかつけないが, 花の形態が異なるほか, 生態的にも区別可能である。</p>
生息・生育状況	<p>県西部のブナ帯に, きわめてまれに生育している。ブナ林の伐採や林道工事で生育地が縮小しているほか, 非常に高い採取圧にさらされており, 乱獲によって激減した。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>ブナ帯域における森林伐採, 林道工事などによる生育環境の悪化, 乱獲が大きな脅威となる。ある程度の期間栽培保存することは可能だが, 自生地への植え戻しは慎重に行う必要がある。採集禁止の措置が必要。</p>
特記事項	<p>属の扱いが変更され, 学名が前回と異なっている。</p>
産地情報	<p>廿日市市</p>

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

ステゴビル 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Allium inutile Makino

キジカクシ目 ヒガンバナ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】ニラに似た小型の多年草本で, 地下に鱗茎がある。全国的にもきわめてまれである。日本の固有種。</p> <p>【分布】本州 (宮城県から広島県)・四国 (香川県)</p> <p>【形態】鱗茎は球形で径 1~1.5 cm, 淡褐色。花は 9 月下旬に開花し, 花の時には葉はない。花茎は 15~20 cm。葉は花後に出て, 冬を経て初夏に枯れる。葉の幅は 2~3 mm, 長さは 20 cm くらいで, 表面は平たく裏面は円い。花柄は 5~6 本, 花の時には 10~12 mm であるが, 花後に伸長して 20 mm くらいになり垂れ下がる。花被片は長さ 5 mm くらい, 6 枚, 基部が 1 mm ほど合生する。果実は長さ 4 mm くらいで楕円形, 種子は黒色。</p> <p>【近似種との区別】ノビルやヤマラッキョウに似ているが, 小型であり, 花は 9 月に開花し, その時には葉はない。</p>
生息・生育状況	<p>庄原市が確実な産地で, 他に福山市にもあったそうであるが, 道路工事のため絶滅した。本州の宮城県から広島県まできわめてまれに分布し, 本県の生育地は本種の分布の西限と南限のようである。自生地は国定公園境界付近にある。石灰岩地帯の路傍で草刈や人の通行のために, 他の大型の草本や低木が茂らないような環境に生育している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変 (森林伐採, 草地開発, 土地造成, 道路工事) 生育環境の変化 (自然遷移) 園芸採取 路傍に生育しているので, 道路拡張工事が憂慮される。また, 定期的に草刈をすることも重要で, 放置すれば大形の草本や低木が茂って消滅してしまう。保護の困難な環境である。</p>
特記事項	<p>広島県の生育地は西限の可能性がある。本属はネギ属に似ているが, 花被片が合生するという系統上からも興味深い特徴を有している。</p>
産地情報	<p>県東部</p>

井波一雄 1987. ステゴビル広島県に新産. レポート日本の植物, 32: 109-110.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編) 2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(吉野由紀夫)

ミドリヨウラク 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Polygonatum inflatum Kom.

キジカクシ目 クサスギカズラ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】山地の草原に生える大陸系の多年草。</p> <p>【分布】本州（中国地方）、四国、九州、朝鮮半島、中国大陸（東北部）に分布する。</p> <p>【形態】根茎は節間が長く、径 4～5 cm。茎は高さ 30～70 cm、葉は長楕円形でやや薄く、長さ 10～15 cm、裏面は白色を帯びる。花期は 6 月、花柄の先に 3～7 個の苞があり 3～7 花がつく。苞は膜質で広披針形、1 脈がある。苞と同じ長さの小花柄に淡緑色の花がつく。花筒は長さ 20～25 mm、内面と花糸に長軟毛がある。</p> <p>【近似種との区別】ワニグチソウは苞が草質。花は白緑色で花筒の内面に毛がないことから区別される。</p>
生息・生育状況	<p>帝釈峡とその周辺部に生育する。溪谷の歩道付近にも生育しているので、保護が必要である。個体数は少ない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（石灰採取、森林伐採、草地開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育環境の変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>1984 年に三上幸三によって県東部で生育が確認された。大陸系の植物で植物地理学上重要である。</p>
産地情報	<p>県東部</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.
 広島県東城町植物誌編纂委員会(編)2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(吉野由紀夫)

ワニグチソウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Polygonatum involucreatum (Franch. et Sav.) Maxim.

キジカクシ目 クサスギカズラ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】山地の林下に生育する大陸系のまれな多年草。</p> <p>【分布】北海道から九州、朝鮮半島、中国大陸（東北部）、ウスリーに分布する。</p> <p>【形態】根茎は節間が長く。茎は高さ 20～40 cm、上部は斜上する。葉は卵状楕円形で、長さ 5～10 cm、裏面はやや粉白色である。花期は 5～6 月、花腋から下垂する花柄の先にふつう 2 個の苞がありその内側に 2 個の花がつく。苞は葉質で卵形、数脈がある。小柄に白緑色の花がつく。花筒は長さ 25 mm、内面と花糸に毛がない。</p> <p>【近似種との区別】ミドリヨウラクは苞が膜質で広披針形。花は淡緑色で花筒の内面に毛があることから区別される。</p>
生息・生育状況	<p>生育地が限定され、個体数も少ないので厳重な保護が必要である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（石灰採取、森林伐採、草地開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育環境の変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>1990 年に実光紀之によって県東部から発見された。大陸系の植物で植物地理学上重要である。</p>
産地情報	<p>県東部</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.
 甲山町史編さん委員会(編)2003. 甲山町史自然編. 304 pp. 甲山町, 広島県.

(吉野由紀夫)

アオイカズラ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Streptolirion lineare Fukuoka et Kurosaki

ツククサ目 ツククサ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】 ややつる性の一年生草本で、崖や路傍などの不安定な立地に生育する。従来、ヒマラヤやタイに分布する <i>Streptolirion volubile</i> Edgew. と同種とされたが、日本、朝鮮半島および中国のものは独立の新種とされた。そのタイプ標本は広島県福山市で採集されたものである。</p> <p>【分布】 日本では、岡山県西部と広島県東部の石灰岩地帯におもに分布する。</p> <p>【形態】 一年草で茎は他の草などにかからまって、長さ 2~3 m に伸び、平滑で、ツククサのようにやや肉質である。葉は心形で、長さ 5~6 cm, 幅 3~5 cm, 先端は長く尖り、縁には細毛がある。葉の基部には葉鞘があり、長い縁毛がある。花は葉鞘の間から長い柄の花序を出し、先端に苞があって、花はその中にある。花は夏から秋にかけて咲き、白色で、一日でしぼむ。がく片は舟形で 3 枚、花弁は線形で 3 枚、雄しべは 6、花糸には白い毛がある。種子は黒色で、多少上下に扁平でしわがあり、3~4 mm の長さがある。</p> <p>【近似種との区別】 分類学的には近い属がないので、花や果実を見れば容易に同定できる。花がないと、一見オノドコロに似ているが、葉鞘のあることで区別できる。</p>
生息・生育状況	産地は県立自然公園内にある。帝釈峡や藤尾溪谷から報告があるが、近年確認されていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	路傍に生育し、落石防止網には適応しているが道路の拡張、のり面へのコンクリート吹き付けなどにより壊滅の恐れがある。常に人為的に草刈などが行われるか、水流などで環境が破壊されるような所に生育しているので、毎年草刈をしないと、他の草本や低木が茂って消滅するおそれがある。
特記事項	—
産地情報	福山市, 庄原市 (東城)

Fukuoka, N. & Kurosaki, N. 1991. A new species of *Streptolirion* (Commelinaceae) from Japan. *Acta Phytotax. Geobot.*, 42(1):57-60.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(日朝直樹・吉野由紀夫)

ゴマシオホシクサ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Eriocaulon senile Honda

イネ目 ホシクサ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: DD

概要	<p>【摘要】 静岡県以西の本州、四国、九州に分布し、湿地に生える一年生草本。広島県では宮島から記録されている。</p> <p>【形態】 葉は多数、ロゼット状につき、長さ 4~9 cm, 幅 5~8 mm, 9~13 脈がある。花期は 8~9 月、花茎は 5~20 cm, 頭花はやや大型で径 5~6 mm, 花床に毛がない。がく片は合生し、上方中部まで 3 裂、花弁は筒状に合生し、上部は 3 裂する。</p> <p>【近似種との区別】 クロホシクサは葉が細く基部の幅 1~2 mm, 3~5 脈なので区分できる。また、頭花は黒色を帯びる。</p>
生息・生育状況	宮島の海岸に近い水が染み出てくる湿地に湿地にまれに生育する。近年調査が行われず、現状が不明であったが、須屋浦の旧耕作地付近の湿地に生育しているのが確認された。付近の植物はシカによる食害があり、本種もその恐れがある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	もともと個体数が少なく、個体群がきわめて小さい。遷移進行や植生の変化による生育地の消失・縮小や環境の質的劣化の危険性が大きい。また、開発行為や森林伐採などによる生育地(湿地)の消失・縮小の危険性もある。採取の禁止や、生育環境の変化や水質悪化をまねく事業を規制することによる湿原の保全が必要である。
特記事項	分類の困難な仲間であり、国内でも限られた地域からしか報告されていない。基準産地は熊本県球磨村の球磨川付近の湿地である。
産地情報	廿日市市 (宮島)

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

関 太郎・中西弘樹・鈴木兵二・堀川芳雄 1975. 厳島(宮島)の維管束植物. 厳島の自然—総合学術研究報告—(天然記念物彌山原始林・特別名勝厳島緊急調査委員会, 編), p. 221-332. 宮島町.

(松井健一・吉野由紀夫)

ミカワシンジュガヤ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Scleria mikawana Makino

イネ目 カヤツリグサ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】湿地にまれに生える一年草。叢生する。</p> <p>【分布】本州（茨木県以西）、九州に分布する。国外ではインド、スリランカ、タイ、ニューギニア、アフリカに分布している。</p> <p>【形態】全体が灰緑色か汚緑色で葉は硬い。高さ 30~70 cm, 5~7 節がある。葉鞘は長さ約 5 cm, 翼がない。葉は狭い線形, 長さ 10~25 cm, 幅 2~3 mm。花期は 7~10 月, 花序は 3 個内外で, 穂は上部に限られてつく。穂は長さ 2~4 cm, やや多数花をつける。果実には網目状の紋がある。</p> <p>【近似種との区別】同属のコシンジュガヤやマネキシジュガヤは全体が黄緑色か鮮緑色で葉は柔らかい。穂は基部近くの葉腋からも出るので区別できる。</p>
生息・生育状況	県内では限られた地域の湿地に生育している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（湖沼開発, 湿地開発, 土地造成） 生育地の環境変化（水質汚濁など）
特記事項	東広島市では都市化にともない, 小規模な湿地やため池は環境調査もなく, 潰されている。行政は対策を考える必要がある。
産地情報	東広島市（福富）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

タイシャクカモジ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Elymus pendulinus (Nevski) Tzvelev var. *pendulinus*

イネ目 イネ科

環境省: CR

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】山林中に生えるまれな多年草。</p> <p>【分布】日本（広島県帝釈峡）、朝鮮半島（京畿道光陵）に分布する。長田（1989）は「北海道にもこの型があるように思われる」と記述。</p> <p>【形態】稈は高さ 50~100 cm, 葉は長さ 15~25 cm, 幅 4~8 mm, 表裏反転, 裏面は上面にあり, 鮮やかな緑色。花穂は細く, しなやかで垂れる。芒は細く, 直立, 小穂の基部には毛がある。</p> <p>【近似種との区別】カモジグサやアオカモジグサに似るが, 鮮緑色で光沢のある葉が特徴的で, 稈の基部が紅色を帯び, 小穂の基盤に毛があることで区別される。</p>
生息・生育状況	1937 年に大井次三郎博士によって, 田代善太郎氏が帝釈峡で採取した標本をタイプとして新種が記載されたが, 1942 年に大井博士によって朝鮮から報告されたコウリョウカモジグサと同種とされた。永らく不明であったが, 最近, 帝釈峡内で生育が確認された。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（石灰採掘, 森林伐採, 土地造成, 道路工事） 生育環境の変化（自然遷移） シカによる捕食
特記事項	目立たない草なので, 採取される恐れはないが, 普通の雑草のように見えるので, 遊歩道建設による自生地の破壊や清掃などによる除去や踏み付けの危険がある。
産地情報	庄原市（東城）

長田武正 1989. 日本イネ科植物図譜. 759 pp. 平凡社, 東京.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

ムカゴツヅリ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Poa tuberifera Faurie ex Hack.

イネ目 イネ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】山地にまれに生える多年草。本種は 1889 年に牧野富太郎によって高知県鳥形山から発見されたが、その後の報告例は少ない。</p> <p>【分布】本州、四国、九州に分布。日本特産。</p> <p>【形態】稈の基部 2~3 節がふくれて球状になるのが特徴。稈は束生し、高さ 20~40 cm、葉は長さ 15 cm、幅 4 mm くらい。小穂はまばらにつき、長い柄をもつ。護穎は長さ 4 mm くらいで、竜骨の縁に軟毛がある。</p> <p>【近似種との区別】同じ属のミズイチゴツナギの変種に稈基部が球状にふくれるタマミズイチゴツナギがあるが、小穂の数が多く、植物体も大形である。</p>
生息・生育状況	<p>社叢の一部の日陰の草地に生育している。以前は、その付近の路傍にもあったが、工場の建設や道路の舗装のため消滅した。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（土地造成、道路工事） 生育環境の変化（踏みつけ、自然遷移）</p>
特記事項	<p>目立たない草なので、採取される恐れはないが、普通の雑草のように見えるので、清掃などによる除去や踏み付けの危険がある。再発見が望まれる。</p>
産地情報	<p>安芸高田市（八千代）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

アズマレイジンソウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-③

Aconitum pterocaulle Koidz. var. *pterocaulle*

キンボウゲ目 キンボウゲ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】東北から近畿にかけての太平洋側に分布するとされ、温帯林の林縁や明るい林床に生える多年草。広島県は近畿地方からの隔離分布になる。</p> <p>【形態】茎は斜上して長さ 1.0 m に達し、上部で分岐し、曲がった毛がある。根生葉は花期にも生存し、長柄があり葉身は腎円形、5~7 中裂、裂片には粗い鋸歯がある。花期は 8~10 月、花は淡紅紫色。茎の上部、花柄、萼片、雌蕊などに曲がった毛がある。</p> <p>【近似種との区別】レイジンソウは、花柄や花の外面に開出毛がある。</p>
生息・生育状況	<p>中国山地の東部、西部に数か所の自生地があるが、どの場所も生育個体数が減少しており、絶滅の危険性が高い。東城の 1 集団は伐採した材木の仮置き場になったため絶滅した。他の自生地では採集圧が高く、激減している。高野町と芸北からも記録があるが未確認である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の保全。採取の禁止。 県内産の個体群は、分類学的に検討の必要がある所以他産地の個体を植え戻さない。</p>
特記事項	<p>県西部の個体は自然交雑種のフジレイジンソウではないかと指摘されている。今後、県東部産の個体を含め詳細な検討が必要であるが、ここではアズマレイジンソウとして扱う。</p>
産地情報	<p>非公開</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

門田裕一・西川恒彦 2016. キンボウゲ科. 改訂新版 日本の野生植物 2(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 119-170. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

サンインシロカネソウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Dichocarpum nipponicum (Franch.) W.T.Wang et P.K.Hsiao var. *sarmentosum* (Ohwi) Tamura et K.Kosuge
キンボウゲ目 キンボウゲ科

環境省: なし
広島県 2011: CR+EN
広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】 福井県から鳥取県までの山陰地方に分布が知られていたが、飛び離れて広島県で発見された。</p> <p>【形態】 多年草本で、茎は高さ 5~15 cm。根出葉は長い柄があり 10 cm くらい。頂部の小葉は 3 小葉からなり扇形。側部の小葉は 5 小葉からなる。茎葉は対生し、托葉が合生している。花は 4 月上旬に開花。1 本の茎上に 2~3 個の花がつく。がく片は 5 枚。うつむいて咲き、淡黄色で基部は暗赤色。果実は袋果で、2 個が対生する。</p> <p>【近似種との区別】 トウゴクサバノオは花が 1 個で、やや上向きに開花する。</p>
生息・生育状況	森林の陰湿な環境に生育するが、生育地が限定され、個体群がきわめて小さい。
存在を脅かす要因・保全の留意点	もともと生育地が限定され、個体数が少ない。生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。生育地が路傍にあるので、道路の拡張工事が行われると危険である。盗掘など再生産能力を上回る採取圧があり、個体数が減少している。生育地とその付近の保全、路傍の斜面（山側）の森林全体を保護することが必要である。
特記事項	広島県では、最近まで、シロカネソウ属の植物は知られていなかったが、1988 年にサンインシロカネソウが報告されて以来、1994 年にトウゴクサバノオが報告された。広島県での分布は植物地理学上から貴重な存在である。
産地情報	三次市（君田）、庄原市（高野）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.
中村慎吾・小川光昭 1994. 広島県産シロカネソウ属 2 種の記録. 比婆科学, 159: 65-66.

(松井健一・吉野由紀夫)

シロカネカラマツ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-③

Thalictrum koikeanum Sera, N.Hamada et Kadota
キンボウゲ目 キンボウゲ科

環境省: なし
広島県 2011: CR+EN
広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】 広島県北東部に固有の多年草で、2011 年に新種として記載された多年草。</p> <p>【形態】 全体無毛で茎の高さは 1.5 m に達する。茎葉は大きく 4~6 回 3 出複葉で、2~5 個が互生する。花期は 7 月、大きな円錐花序に多数つく。花は径 5~7 mm、白色のがく片が開花終了まで残存する。雄蕊は 24~35 あり、花糸は糸状で白色、葯は明るい黄色の楕円形で先端部（葯隔）がわずかに突出する。柱頭は楕円形。そう果は紡錘形で 10~15 個、長さ 1 mm ほどの柄があり、約 8 本の畦状隆起がある。</p> <p>【近似種との区別】 カラマツソウ属の他種とは、開花期にも残存する萼片の白色と葯の鮮黄色という花色で、容易に区別できる。</p>
生息・生育状況	2005 年に発見され、2011 年に新種記載された。自生地はごく狭い範囲に 3 か所確認しているが、現在も毎年生えるのは 1 か所だけで、年によって生育個体数がかなり増減する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路沿いの自生地は、拡幅工事や除草作業の影響を受けやすい。乱獲が脅威となる。栽培は可能。
特記事項	広島県固有の種類。自生地が工事などの影響を受けやすい場所なので、関係部署と連携した保全策を講じる必要がある。
産地情報	庄原市

門田裕一・西川恒彦 2016. キンボウゲ科. 改訂新版 日本の野生植物 2(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 119-170. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

ベニバナヤマシャクヤク 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-

③

Paeonia obovata Maxim.

ユキノシタ目 ボタン科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】6月頃、淡紅色の美しい花をつける草本。山地の林内にまれに見られるが、観賞価値が高いため、掘り取られる恐れが大きい。西日本では絶滅寸前の状態である。</p> <p>【分布】北海道・本州・四国・九州・朝鮮半島・中国大陸（東北部）・サハリン・南千島に分布する。</p> <p>【形態】多年草。茎は高さ30~50cmになり、葉は2回3出複葉で、裏面にふつう毛がある。6月頃、茎の先に径4~5cmで淡紅色の美しい花をつける。雌しべは数個あり、柱頭が強く外に曲がる。</p> <p>【近似種との区別】本種より多いヤマシャクヤクは、葉がふつう無毛で、花は白色、柱頭はより短く、あまり外に曲がらない。花期は少し早く、5月頃咲く。</p>
生息・生育状況	山地の林内に点在。時に何本か集まって生えていることもあるが、きわめてまれである。山地の落葉広葉樹林、スギ植林で、溪側など、適潤な林床に生える。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地（森林伐採） 園芸用の採取
特記事項	ケナシベニバナヤマシャクヤク(f. <i>glabra</i> (Makino) Kitam.)を含む。 広島市安佐北区の生育地は栽培逸出の可能性がある。
産地情報	広島市（安佐北区）、庄原市（東城）

積山澄晃 1963. ベニバナヤマシャクヤク. 比婆科学, 64: 22.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(日朝直樹・吉野由紀夫)

ヤシャビシャク 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Ribes ambiguum Maxim. var. *ambiguum*

ユキノシタ目 スグリ科

環境省: NT

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】落葉広葉樹林の巨樹上に着生する落葉性の低木。その個体数はきわめて少ない。</p> <p>【分布】本州、四国、九州に分布し、中国大陸西部に産する。</p> <p>【形態】太い根をブナなどの巨樹の樹皮上に這わせて着生し、よく分枝した小枝を樹上に広げる落葉性の小低木。5月頃、淡緑白色の花を咲かせる。</p> <p>【近似種との区別】樹上に生育する近似種はない。</p>
生息・生育状況	深山の樹上に着生する。県西部のブナ林で確認されている。生育地は国定公園内にある。ブナなどの巨樹が繁茂する、安定した落葉広葉樹林を持続することが必要である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（森林伐採、道路工事） 園芸採取 山草として珍重され、乱獲されている。
特記事項	挿し木などにより増殖させることができる。よく発達した温帯林の老木上に生えるが、その個体数は少なく、貴重な植物である。
産地情報	県西部

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

ハマビシ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Tribulus terrestris L.

ハマビシ目 ハマビシ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】日本では海岸砂地に生育する一年生草本。</p> <p>【分布】本州（関東地方および福井県以西）、四国、九州、琉球列島、台湾、朝鮮半島、チベット、インド、アジア西部、ヨーロッパ南部、アフリカと広く分布している。</p> <p>【形態】一年生草本で、茎は地上をはい、長さ0.5～1 m、葉は対生し、4～8対の小葉があり、サンショウの葉に似ている。小葉は長さ8～15 mm、幅3～4 mm。花は黄色で、7～10月に開花し、花弁は5枚、雄しべは10個。果実は外側に鋭いトゲがある5分果に分かれている。動物が果実を踏み付けると痛いので、それを取り除くため、種子が分散される。</p> <p>【近似種との区別】日本ではハマビシ科の植物は1種だけで、特徴のある葉と果実を見れば他の種と混同することはない。</p>
生息・生育状況	<p>海岸のハマゴウ群落中の小道の上に生育している。</p> <p>片田(1890)には「安芸海田」と記録がある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（海浜開発、土地造成、堤防建設など）</p> <p>生育環境の変化（踏みつけ）</p> <p>生育地は海水浴の場所から少し離れているので、直接の影響は、現在はない。</p>
特記事項	<p>1995年の「広島県の絶滅のおそれのある野生生物」のハマビシの欄には、「海岸の作業などの場合には注意が必要であろう」と記した。また、2004年版には「ごく狭い領域に生育しているので、地元と十分に協議して保護に努めなければならない。」としていたが、埋め立てと堤防建設によって自生地は消失したようである。</p>
産地情報	<p>福山市</p>

片田豊太郎（編）1890. 広島県尋常師範学校植物園草木目録. 106 pp. 松村書房, 広島.

広島県版レッドデータブック見直し検討会（編）2004. 改訂・広島県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックひろしま 2003—, 516 pp. 広島県.

（吉野由紀夫）

ヒナノキンチャク 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Polygala tatarinowii Regel

マメ目 ヒメハギ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】日あたりのよい原野や山地の乾いた礫地や岩の割れ目に生える一年草。</p> <p>【分布】本州・四国・九州に分布し、朝鮮半島、中国大陸、フィリピン、東南アジア、シベリア東部などに分布する。中国地方では岡山、広島と山口県に産する。</p> <p>【形態】茎は基部から分岐し、高さ7～15 cmと小さい。葉は薄く、卵円形または楕円形で、長さ1～3 cm。基部は急に細まり、長さ2～8 mmの葉柄に沿下する。花期は7～10月。総状花序は花が多数で、茎および枝に頂生し、花軸とともに長さ8 cmにもなる。花は黄色みのある淡紫色で長さ約2 mm。果実は片側につき、扁平形で径3 mm程度。果実の形が小銭を入れるきんちゃくに似ている。</p> <p>【近似種との区別】同じ属のヒメハギやカキノハグサは花が8～20 mmで、短い総状花序をつくることによって区分される。</p>
生息・生育状況	<p>乾いた石灰岩地の割れ目に生育する。植物体が小さく、他の植物が大きく生育できないような環境に生育している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（石灰採掘、土地造成、道路工事）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>インターネット上によく掲載されるので、絶滅のおそれがきわめて高い。</p>
産地情報	<p>神石高原町（神石）</p>

吉野由紀夫・富沢由美子・長谷信二・吉原礼子 2004. 広島県新産ヒナノキンチャクの生育環境. 比叢科学, 212: 38-39.

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

（吉野由紀夫）

イワキンバイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Potentilla ancistrifolia Bunge var. *dickinsii* (Franch. et Sav.) Koidz.

バラ目 バラ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】ブナ林域の岩場に生育し、7月頃に径1cmくらいの黄色い花をつける多年草。</p> <p>【分布】北海道、本州、四国、九州のおもにブナ林域の岩場に生育する多年生草本。</p> <p>【形態】岩上に生える多年草で、全体に伏毛がある。茎は高さ10~20cmで直立する。葉は3または5小葉からなり、小葉は菱状卵形で長さ2.5~5cm。花期は6~8月で、花序は数~10余りの花をつける。花は黄色で、径1cm。</p> <p>【近似種との区別】オヘビイチゴの葉は掌状5小葉からなり、キジムシロも5~7個の小葉からなる。ミツバツチグリは走枝を出す、イワキンバイは出さない。</p>
生息・生育状況	<p>ブナ林のやや乾いた岩場に生育する。広島県では北東部のブナ林域の山地の岩場に生育し、産地は国定公園内にある。</p> <p>西中国山地でもわずかに見られる。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（草地開発、スキー場建設、道路工事）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>広島県の生育地は本州の西限であり、貴重なものである。</p>
産地情報	<p>庄原市（西城、東城、高野、比和）、北広島町（芸北）</p>

吉野由紀夫・池田博・鈴木兵二 1988. 比婆山池ノ段(広島県)西斜面の植物. 比婆科学, 139: 1-16.

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

シロヤマブキ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Rhodotypos scandens (Thunb.) Makino

バラ目 バラ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】朝鮮半島や中国大陸に起源をもつ落葉低木。5月上旬に白花を咲かせる。</p> <p>【分布】岡山県西部から広島県東部を中心に限られた地域に生育。産地の大部分は県立公園、国定公園内にある。</p> <p>【形態】葉は単葉で対生し、托葉がある。花は白色、両性、側枝の先端に1個ずつつく。白色の花弁は4枚、雄しべは多数あり、雌しべは4個の離生する心皮よりなり、黒色の瘦果を4個実らせる。</p> <p>【近似種との区別】ヤマブキに似ているが、ヤマブキの葉は互生で、本種は対生し、がくや花びらは4枚である。</p>
生息・生育状況	<p>県内では東部で確認されているが、個体数は多くない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、草地開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育環境の変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>小豆くらいの大きさの種子は、発芽しやすく、栽培は容易である。石灰岩地域でなくても栽培できる。シロヤマブキ属のなかで、この1種のみが東アジアに分布する。</p>
産地情報	<p>三原市、福山市（福山）、庄原市（東城）、神石高原町（神石）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編) 2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(日朝直樹・吉野由紀夫)

サクラスミレ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Viola hirtipes S.Moore

キントラノオ目 スミレ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】日本産のスミレ属の中では、もともと花が大きく、ピンク色で美しい。</p> <p>【分布】北海道, 本州, 九州, 朝鮮半島, ロシア (沿海州), 中国大陸 (北部) に分布する大陸系の植物。</p> <p>【形態】地上に茎の出ない型のスミレで, 葉身は狭卵形, 長さ 3~7 cm, 幅 2~3 cm, 葉柄は長さ 5~15 cm, 花柄とともに長軟毛がある。花は 5 月, 淡紅紫色, 花弁は長さ 15~20 mm, がくは無毛。</p> <p>【近似種との区別】コスミレに近い種であるが, これは人家の周辺などにふつうに見られ, 葉柄は無毛, 花は白っぽい紫色である。</p>
生息・生育状況	まれな種で, その生態はまだよく分かっていない。自然度の高い森林にも生育しているし, 二次林にも生育している。個体数は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変 (草地開発, 土地造成, 道路工事)</p> <p>生育環境の変化 (自然遷移)</p> <p>園芸採取 (花が美しく, 山草として珍重されるので, 乱獲が憂慮される。)</p>
特記事項	—
産地情報	庄原市 (西城, 東城, 口和, 比和), 安芸太田町 (戸河内), 北広島町 (芸北)

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

キスミレ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Viola orientalis (Maxim.) W.Becker

キントラノオ目 スミレ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】本州中部地方以西, 四国, 九州の太平洋側地域に点在するほか, 朝鮮半島, 中国東北部, ロシア沿海地方に分布する。明るい草原や落葉樹林の林床に生え, 黄色の花をつける多年草。</p> <p>【形態】地を這う根茎はなく, 高さ 10~15 cm の, 細く直立する茎が叢生する。茎の下部には葉がなく, 上部に 3~4 個の葉をつける。根出葉は少数, 葉は卵状心臓形。3~5 月, 葉腋に黄色の花をつける。がく片に附属体がある。</p> <p>【近似種との区別】ダイセンキスミレはよく似ているが, 茎が紅紫色を帯び, 茎葉は厚く光沢がある。がく片に附属体がほとんどない。</p>
生息・生育状況	日あたりのよい草原や落葉広葉樹の疎林, 山地の路傍に生える。広島県からは戦前に記録されている。1975 年に三上幸三が再発見した後不明だったが, 1997 年にふたたび発見されたものの, それ以後確認されていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変, 植生遷移による環境の悪化, 乱獲が脅威となる。
特記事項	—
産地情報	庄原市

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編)2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

門田裕一 2016. スミレ科. 改訂新版 日本の野生植物 3(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 209-227. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ホソバシロスマレ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-③

Viola patrinii Ging. var. *angustifolia* Regel

キントラノオ目 スミレ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】近畿以西の本州，四国，九州に分布し，山地の湿った草原に生育する小型の多年草。</p> <p>【形態】花時の高さは 10 cm 程度。葉はほぼ直立し，葉柄は葉身より長い。葉身は狭披針形で基部はくさび形。花は 5～6 月，花茎に頂生し，花弁は細く白色で，下唇と側花弁基部には紫色の細脈がある。</p> <p>【近似種との区別】基本変種のシロスマレは近畿以東に分布し，葉身が長楕円形で先が丸く，葉底部が切形になる点で区別される。アリアケスマレは山地にはまれで耕作地周辺に多く，花期の葉がほぼ水平に開出し，葉身がより広く基部が切形。花色は白から紫色と変異がある。</p>
生息・生育状況	佐伯町羅漢山，芸北町八幡から記録されているが近年生育が確認されていない。中国山地の稜線にある草原で確認されているが，自生地，個体数ともに非常に少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変，遷移による環境悪化，踏み付けなどの被害が脅威となる。栽培保存は難しいと思われる。
特記事項	—
産地情報	庄原市，廿日市市，安芸太田町，北広島町

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

門田裕一 2016. スミレ科. 改訂新版 日本の野生植物 3(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 209-227. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

アゼオトギリ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Hypericum oliganthum Franch. et Sav.

キントラノオ目 オトギリソウ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】湿地に生育する多年生草本。</p> <p>【分布】関東以西の本州，四国，九州，朝鮮半島南部に分布する。</p> <p>【形態】茎は円柱状で数本まとまって生える。よく分枝し茎も枝も匍匐する。葉は長楕円形で，基部はやや茎を抱く。花期は 7～8 月で径 10～12 mm の黄色の花を少数つける。花期は 7～8 月で，花序はややまばらに少数の花をつける。花は黄色で，花弁は 7～8 mm。</p> <p>【近似種との区別】似た環境に生育するサワオトギリは花が小形で，花弁の長さは 4～6 mm。</p>
生息・生育状況	広島県では沿岸部から内陸部の農村とその周辺部の田の畔や湿地に生育している。生育地点は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（湿地開発，耕地整理，土地造成など） 生育環境の変化（自然遷移，湿地の乾燥，樹林化など）
特記事項	広島市佐伯区・呉市・福山市（福山・新市）・東広島市・廿日市市（吉和）・北広島町（芸北）・庄原市（東城・比和）・神石高原町（上下）などから報告があるが，誤認の可能性もある。検討が必要である。
産地情報	東広島市，大崎上島町

下田路子 1991. 広島県のため池の現状. ため池の自然, 13: 4-6.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

チュウゴクボダイジュ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Tilia chugokuensis Hatus.

アオイ目 アオイ科

環境省: CR

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】 ゆがんだ卵形の葉をもつ落葉高木である。県天然記念物に指定されている。</p> <p>【分布】 八千代町の土師ダム湖岸に 1 株のみが知られている珍希変種。</p> <p>【形態】 落葉高木。葉はゆがんだ卵形で、長さ 7~12 cm、柄は長く 2.5~6.5 cm ある。へら形の包葉の途中から花序の柄が出ている。7 月、10~20 個の花をつける。果実は楕円形で、縦に明瞭な 5 稜があり、灰褐色の毛でおおわれている。</p> <p>【近似種との区別】 マンシュウボダイジュは、葉の基部が凹み、葉柄がやや短い。果実は球形で稜がない。中国産のシナボダイジュは、葉がやや長めで小さく、鋸歯があらう。</p>
生息・生育状況	<p>八千代町の土師ダム湖岸に 1 株 (3 支幹に分岐) 生えている。樹高約 18 m、各支幹の胸高幹囲は 1 m 内外。本樹のある土地は、もと観音堂の境内で、ずっと昔そこに音林寺という寺があったと伝えられている。日当りのよい適潤地に生える。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変 (土地造成、道路工事など)</p> <p>動物による被害 (シカによる食害)</p>
特記事項	<p>本種記載に使われた基準標本の母樹である。1998 年にイギリス、ケンブリッジ大学の Dr. Pigott (ボダイジュの仲間の研究家) が来日し、関、世羅の 2 人が案内したところ、マンシュウボダイジュと同種であると明言された。分類学的な再検討が必要であろう。県天然記念物 (土師のチュウゴクボダイジュ)。</p>
産地情報	<p>安芸高田市 (八千代)</p>

Hatusima, S. 1972. A new linden from Japan. J. Geobotany, 20(1): 2-4.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

オオマルバノコンロンソウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②,

CR+EN-③

Cardamine arakiana Koidz.

アブラナ目 アブラナ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】 湿り気のある樹林の林床に生える多年草。西日本に分布するが、まれである。日本固有種。</p> <p>【分布】 本州 (京都府・兵庫県・岡山県)、四国 (徳島県)、九州 (宮崎県) に分布する。</p> <p>【形態】 茎は高さ 10~30 cm になり、開出毛がある。根生葉は 1~3 小葉からなり、頂小葉はほぼ円形で、直径 1.5~5 cm。茎葉は根生葉より小さく、小葉の幅も少し狭い。葉の表面には短毛が散生する。花期は 3 月下旬~4 月下旬に咲く。花弁は長さ 6~7 mm、花柱は 1.5 mm。果実は長さ 2~3 cm になる。</p> <p>【近似種との区別】 オオマルバノコンロンソウは果実が無毛で、マルバノコンロンソウは果実に毛があることから区別される。</p>
生息・生育状況	<p>谷筋の湿った落葉樹林下に生育している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変 (森林伐採、土地造成、道路工事)</p> <p>生育環境の変化 (自然遷移)</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>県東部には以前から不明なアブラナ科の植物があった。マルバノコンロンソウと混同していた可能性がある。</p>
産地情報	<p>福山市, 三次市</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

加藤雅啓・海老原 淳 (編) 2011. 日本の固有植物. 503 pp. 東海大学出版会, 神奈川県.

(吉野由紀夫)

キバナハタザオ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Sisymbrium luteum (Maxim.) O.E.Schulz

アブラナ目 アブラナ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】 県東部の石灰岩地帯に生育する大陸系の多年生草本。</p> <p>【分布】 中国大陸, 朝鮮半島を経由して対馬, 本州 (岩手県以南から広島県) にまれに分布する。</p> <p>【形態】 茎は直立し, 高さ 60~120 cm, まれに上部で分枝し, 白毛がある。下部の葉は長柄があり, 羽状に深裂する。中部以上の葉は卵状で短い葉柄がある。長さ 10~16 cm, ふちにふぞろいな鋸歯があり, 両面に白毛がある。花期は 6~7 月, 花弁は黄色でへら状, 長さ 10~13 mm, 果実は開出し, 長さ 10~15 cm, 幅 1.5 mm。</p> <p>【近似種との区別】 帰化植物のカキネガラシやイヌカキネガラシはよく分枝し, 果実は長さ 8 cm 以下なので区別できる。</p>
生息・生育状況	県東部の石灰岩地にわずかに生育する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変 (石灰採掘, 森林伐採, 土地造成, 道路工事) 生育環境の変化 (自然遷移など)
特記事項	—
産地情報	庄原市 (東城)

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

コギシギシ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Rumex dentatus L. subsp. *klotzschianus* (Meisn.) Rech.f.

ナデシコ目 タデ科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】 関東以西の本州, 四国, 九州に分布し, 畑地や海岸に生える越年草。</p> <p>【形態】 高さ 30~70 cm になり, 全体に赤紫色を帯びることなく淡緑色をしている。花期に根出葉はなく, 茎葉には柄があって長楕円形, 先は鈍形, 基部は円形または心形で無毛。花は 4~6 月, 円錐状花序にまばらに輪生する。翼状内萼片は三角状卵形, 縁に 2~4 対の刺状突起があり, 3 個すべてにこぶ状突起が発達する。</p> <p>【近似種との区別】 コガネギシギシは花期が 6~9 月で全体が黄色味を帯び, 茎葉の基部がくさび形である。エゾノギシギシは葉の中肋が赤味を帯び, 裏面が有毛である。</p>
生息・生育状況	戦前は広島市西区や福山市仙酔島で, 1980 年代には福山市で記録されているが標本を確認できなかった。2016 年に, 大崎上島で自生が確認された。その後, 自生地は土地の開発や除草剤散布の影響で激減している。一方, 島内のため池の岸辺で一時的な発生があったが, この自生地は貯水によって水没した。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変や除草剤散布のほか, エゾノギシギシなど他種との交雑が脅威となっている。長期的な栽培維持の可否については調査中である。
特記事項	—
産地情報	大崎上島町

大沼みお・藤富信之 2018. 大崎上島町の希少植物 II. 広島商船高等専門学校紀要, 40: 73-84.

米倉浩司 2017. タデ科. 改訂新版 日本の野生植物 4(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 84-104. 平凡社, 東京. (世羅徹哉)

キブネダイオウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Rumex nepalensis Spreng. subsp. *andreaeanus* (Makino) Yonek.

ナデシコ目 タデ科

環境省: EN

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】京都府、岡山県、広島県に分布し、川辺に生える多年草。</p> <p>【形態】茎は直立して 1.4 m に達する。花期には根生葉はない。茎葉には柄があって卵状楕円形、先は円頭、基部は心形、裏面脈上に短毛がある。花序は円錐状で断続的に多数の花を輪生する。翼状内萼片は幅が広く基部が切形で、縁全体に先が鉤状に曲がった長い刺毛がある。3 個の内萼片のうち 1 個には線形で不明瞭なこぶがある。</p> <p>【近似種との区別】マダイオウは、内萼片の縁の刺毛が下方だけにあり、先が曲がらない。エゾノギシギシとは葉の形や内萼片のこぶ状突起の状態で区別するが、交雑して中間型のものがある。</p>
生息・生育状況	<p>山地の溪流沿いや水路沿いの湿った場所に生育している。広島県での自生は 2014 年に初めて報告された。土砂が大量に堆積し、他の植物が生育しているような場所ではエゾノギシギシと交雑していると思われる個体が多い。また、平成 30 年西日本豪雨時に自生地の溪流が増水し、かなりの数の個体が枯死したため、全体の生育数が激減している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>河川改修などで自生地が減少したり環境が変化すること、エゾノギシギシなど他種との交雑が進むことが脅威となっている。河川工事でもコンクリートの 3 面張ではなく、植物が生育できるような環境を設けることが必要。</p>
特記事項	<p>本種は全国的にも絶滅が危惧されている貴重種である。県内の自生地でも交雑は進んでいると思われるが、豪雨災害のために直接的に激減した個体数を回復させることが喫緊の課題である。そのため、災害復旧工事が行われる場所では残存株の保全や今後の生育場所の確保に配慮する必要がある。</p>
産地情報	<p>福山市</p>

世羅徹哉・近藤芳子 2015. キブネダイオウの新産地. 分類, 15: 51-55.

米倉浩司 2017. タデ科. 改訂新版 日本の野生植物 4(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 84-104. 平凡社, 東京. (世羅徹哉)

タチハコベ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Moehringia trinervia (L.) Clairv.

ナデシコ目 ナデシコ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】北海道から九州にやままれに分布し、北半球の温帯に広がる一年草または越年草。</p> <p>【形態】山地に生え、茎は下部から分枝して開出し、高さ 10~20 cm、下向きの短毛を密生する。葉は有柄で、卵形から広卵形、基部はくさび形から円形、長さ 7~25 mm、両面に短毛がある。花期は 6~8 月、花はまばらで、小花柄は長さ 1~4 cm、萼片は広披針形、縁部は白色。萼片は鋭尖頭で果実より長い。</p> <p>【近似種との区別】同属のオオヤマフスマの葉は無柄、長楕円形、がく片は鈍頭で果実より短い。</p>
生息・生育状況	<p>確認されている自生地は宮島のみである。厳島神社の背後や人家付近の石垣に生育する。個体数はきわめて少ない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地利用の変化にともなう生育環境の質的劣化の危険性がある。シカによる食害、生育場所の攪乱の可能性もある。シカの口が届く範囲は食べられるようである。採取の禁止。生育地の環境変化を伴う工事を規制し、移植を義務づける。生育地とその周辺の保全に加えて、草刈りなどの管理も必要である。栽培は容易で、種子でよく繁殖する。</p>
特記事項	<p>宮島の大聖院への道路沿いの自生地は石垣が組み直された時に消滅した。2011 年の調査では島内の 2 か所で生育を確認した。</p>
産地情報	<p>廿日市市 (宮島)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

土井美夫 1983. 広島県植物目録. 148 pp. 博新館, 広島.

(松井健一・吉野由紀夫)

ワダソウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Pseudostellaria heterophylla (Miq.) Pax

ナデシコ目 ナデシコ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】 山中の草の間に生える多年草で県内ではきわめてまれである。</p> <p>【分布】 本州（福島県以南）、九州、朝鮮半島、中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】 主根は紡錘状に太くなる。茎は直立し、高さ 10～20 cm、枝を分けない。下部の葉は倒披針形、3～4 対、上部は広卵形または菱状卵形、上方の 2 対は葉が接近して輪生状になる。花期は 4～5 月、茎頂に 1～5 個、花柄は 1～2 cm、ちじれた毛を密生し、花後まがる。花卉は 5 枚で白色、先はややへこみ、長さは 7～8 mm。</p> <p>【近似種との区別】 同属のワチガイソウは上部の 2 対の葉は離れている。花は葉腋から出る。</p>
生息・生育状況	吉備高原面の山地にきわめてまれに分布する。落葉樹林域の草原あるいは竹林内、林縁部に生育する。個体数が少なく厳重な保護が必要。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、道路工事など）</p> <p>生育環境の変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	世羅町（甲山）の男鹿山付近のマダケ林内で確認されている。
産地情報	庄原市（東城）、世羅町（甲山）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

オグラセンノウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Silene kiusiana (Makino) H.Ohashi et H.Nakai

ナデシコ目 ナデシコ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】 ナデシコに似た湿地に生える赤色花のまれな多年本。</p> <p>【分布】 本州（大阪以西）・九州・朝鮮半島に分布する大陸系要素の代表的な植物。</p> <p>【形態】 多年草。茎は高さ 50～100 cm、葉は細長く、4～11 cm で対生する。7～8 月、葉頂に数個の美しい花をつける。花卉は鮮やかな赤色で長さ 1 cm 余、先はいくつかに深裂する。</p> <p>【近似種との区別】 ナデシコは、より乾燥した所に生え、花は淡紅色で花卉はより多く細糸状に深裂する。同属のフシグロセンノウは葉が広く、花は朱赤色で花卉は分裂しない。</p>
生息・生育状況	中・北部地域の湿地に稀産するが、個体数はきわめて少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（湿地開発、ゴルフ場建設、土地造成、道路工事など）</p> <p>生育環境の変化（自然遷移、湿地の感想・樹林化など）</p> <p>過度の園芸採取</p>
特記事項	前回、いくつかの自生地を調査したが、生育は確認できなかった。今回も確認できていない。県内の確実な自生地は、現在見当たらない。県指定野生生物種
産地情報	県中部・北部

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

イワアカザ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Chenopodium gracilispicum H.W.Kung

ナデシコ目 ヒユ科

環境省: CR

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: DD

概要	<p>【摘要】山野に生える一年草。かつて帝釈峡から報告されている。</p> <p>【分布】本州, 九州, 朝鮮半島, 中国大陸, シベリアなどに分布するアジア大陸系のまれな植物。</p> <p>【形態】茎は細く, 直立して分枝し, 高さ 60 cm 内外になる。葉は長い柄があり, 三角状卵形, 先は鋭形, 基部は広いくさび形。長さ 3~5 cm, 幅 2.5~4.5 cm。花期は 8~9 月, 円錐花序はまばらにつく。萼は 5 深裂する。</p> <p>【近似種との区別】ウラジロアカザは茎が斜上するか地面に伏す。ウスバアカザやシロザの葉は多少とも切れ込みがある。</p>
生息・生育状況	
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変 (森林伐採, 道路工事など)</p> <p>生育環境の変化 (自然遷移)</p>
特記事項	<p>高木哲雄(1933)が「広島県に於ける高等植物の分布に就いて」にヒメアカザ (帝釈峡) と記録している。また, 山下 輝(1988)が「帝釈峡の自然」に「林辺路傍の一部にやや群生, 稀」と記録しているが, 標本がみあたらない。近年報告がなかったが, 2010 年に東城町の道路法面に生育しているのが確認された。</p>
産地情報	<p>福山市 (福山), 庄原市 (東城)</p>

高木哲雄 1933. 広島県に於ける高等植物の分布に就て(予報). 崇徳, 10: 1-11.

山下 輝 1988. 広島県帝釈峡の種子植物. 帝釈峡の自然, p. 147-188. 「帝釈峡の自然」刊行会, 東城町.

(吉野由紀夫)

ヒロハマツナ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Suaeda malacosperma H.Hara

ナデシコ目 ヒユ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】海岸に生育する一年草。海岸線の埋め立てにより全国的に絶滅あるいは絶滅寸前の所が多い。</p> <p>【分布】本州 (兵庫県, 岡山県, 広島県, 山口県), 九州 (福岡県, 佐賀県, 長崎県, 大分県, 鹿児島県) の塩湿地に分布する。</p> <p>【形態】一年生草本で高さ 15~35 cm, 葉は肉質で長さ 1~2 cm, 幅 2.5~3 mm くらいで, 秋に紅葉する。果実は星形の花被片に包まれる。種子は平たい円形で光沢はない。</p> <p>【近似種との区別】ハママツナは葉の幅が 1.5 mm くらいで狭く, 果実はやや角ばった円形の花被に包まれる。ハママツナの種子は光沢がある。</p>
生息・生育状況	<p>福山市の河口域の満潮時には海水に浸かる泥地に生育しているが, 個体数が少ない。付近にはハマサジやハママツナなどの塩生植物が多いが, 水質の悪化など, 環境が全体として悪くなりつつある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変 (河川開発, 埋め立て工事, 堤防建設など)</p> <p>自然環境の変化 (水質汚濁, 自然遷移)</p>
特記事項	<p>広島県では海浜部の改変が著しい。古い時代は環境調査がないまま, 埋め立て等が行われたので, 評価が困難である。</p>
産地情報	<p>広島市, 尾道市, 福山市</p>

藤井茂美 1968. 広島県東部にみられる塩湿地植物群落. 広島大学教育学部紀要 第三部, 17: 29-36.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

モロコシソウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Lysimachia sikokiana Miq.

ツツジ目 サクラソウ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】南方系の多年生草本で、琉球列島から太平洋岸に沿って北上し、本県の産地は北限に近い。</p> <p>【形態】茎は稜角があって高さ 30~50 cm、葉とともにまばらな粒状の毛がある。乾くと全草に香気がある。葉は互生し、葉身は披針形で長さ 5~10 cm、幅 2~3 cm、花は 8 月上旬に開花し、花柄は細長く 2~6 cm で下向きに咲く。花冠は 5 裂し、鮮やかな黄色、果実は球形で径 6 mm くらいで、白く、種子は微細。</p> <p>【近似種との区別】同属のギンレイカ (ミヤマタゴボウ) が似ているが、葉身はしだいに葉柄に移行し、モロコシソウのような明瞭な葉柄がない。また、ギンレイカは葉の裏側に紫褐色の斑点があり、花は白い。</p>
生息・生育状況	<p>宮島町の一部にのみ知られている。海岸に近い自然度の高い森林で、湿った暗い林床にまばらに生え、個体数は少ない。温暖で湿潤な環境を好み、暗い林床に生育している。産地は国立公園内にある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>宮島町は全島が国立公園で、生育地は観光ルートから外れているため、人の来るとも少なく、直接の脅威はないと思われる。しかし、分布限界に近い孤立した個体群でもともと個体群がきわめて小さく、消滅しやすい分布特性をもつ。そのため、生育地の環境変化を伴う工事を禁止するなど、生育地の保全が必要である。温室で栽培すればよく繁殖する。</p>
特記事項	<p>宮島に産する南方系の植物の代表である。広島大学宮島自然植物実験所では、実験所内に一部を移植し、保全を行っている。</p> <p>最近ではボートを使って自生地に写真を撮りに来る人が見られる。シカによる食害については不明。</p>
産地情報	<p>廿日市市 (宮島)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編)2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(松井健一・吉野由紀夫)

ツルマンリョウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Myrsine stolonifera (Koidz.) E. Wakler

ツツジ目 サクラソウ科

環境省: NT

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】常緑の匍匐性低木。西南日本における著しい隔離分布種である。</p> <p>【分布】本州 (奈良県, 広島県, 山口県), 九州 (鹿児島県 (屋久島)), 沖縄県, 台湾, 中国大陸にする。</p> <p>【形態】常緑の匍匐性低木で、地上茎は斜上して長さ 1~1.5 m になる。葉は互生する。花は 6~7 月で葉腋に束生する。果実は球形で径 5 mm くらい、赤く熟する。</p> <p>【近似種との区別】同属のタイミンタチバナは直立し、高さ 10 m に達する。また、果実は黒紫色に熟す。ヤブコウジ属のカラタチバナやマンリョウは、花序が円錐状か散房状になる。</p>
生息・生育状況	<p>三原市では約 50 m² の広さに立ち上がった茎が 100 本以上あり、群生している。広島市内の産地は多数の個体が見られる。乾燥した若いヒノキ植林下では、生育が悪い。</p> <p>広島県では、谷筋の常緑林の多いヒノキ植林下と、アカガシ、アカマツ、ツクバネガシなどからなる斜面上部から尾根筋にかけて生育する。産地は県自然環境保全地域内および共有林内にある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変 (森林伐採)</p> <p>園芸採取</p> <p>三原市 (本郷) では土石流が発生し、生育地のすぐそばの土壌が抉り取られた。上流部に作られたゴルフ場と関連があるかもしれない。</p>
特記事項	<p>マスコミの報道は自粛が望まれる。広島県では 1983 年と 1994 年に発見され、植物地理学上の貴重な存在である。県指定野生生物種</p>
産地情報	<p>広島市 (安佐北区), 三原市 (本郷)</p>

中西弘樹・吉野由紀夫 1984. ツルマンリョウの新産地(広島県)とその生態. 植物地理・分類研究, 32(2): 155-157.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

サクラソウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Primula sieboldii E.Morren

ツツジ目 サクラソウ科

環境省: NT

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】北海道南部, 本州, 九州, 朝鮮半島, 中国 (東北部), シベリア東部に分布し, 山麓や河岸の湿気の多い草地に生える多年草。</p> <p>【形態】地下に太く短い根茎がある。4~5 月, 葉の展開とともに高さ 15~40 cm の花茎を伸ばし, 先端に 5~20 個の花を散形につける。葉には長柄があり, 葉身は卵状長楕円形, 先は鈍頭, 基部は心形。花は普通紅紫色だが, 濃淡などに変異がある。江戸時代以降園芸的に流行がみられ, 花色や花形がさまざまな園芸品種が作出されている。</p> <p>【近似種との区別】クリンソウは葉柄が短く, 花が層をなして輪生する。また, 花卉の根元は黄色 (サクラソウは白色) である。</p>
生息・生育状況	吉備高原面から中国山地にかけて多数の記録があるが土地の開発, 植生の遷移や乱獲などで激減した。現在, 天然記念物に指定されたり, 土地所有者が保全活動を行っている場所では群生が維持されている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変, 管理放棄などによる生育環境の悪化, 乱獲が脅威となる。栽培は可能であるが, 栽培品を安易に植え戻さない。
特記事項	本種については全国的に遺伝的な解析が行われ, 広島県内産の自生個体と他県産の関連性もほぼ解明されている。また, 広島県内でも産地によって遺伝的な違いが見られる。したがって, 産地が不明確であったり, 異なる産地由来の栽培品を植え戻してはならない。三次市天然記念物 (三良坂町内全域)
産地情報	福山市, 府中市, 三次市, 庄原市, 北広島町, 神石高原町

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

高橋英樹 2017. サクラソウ科. 改訂新版 日本の野生植物 4 (大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 187-201. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

シラタマノキ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Gaultheria pyroloides Hook.f. et Thomson ex Miq.

ツツジ目 ツツジ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】矮低木性の高山植物で, 花も果実も白い。山頂付近の岩礫地に生えていて, 登山者の目につきやすいので, 掘り取られる恐れが大きい。</p> <p>【分布】北海道・本州 (広島県以北)・千島列島・アリューシャン列島・樺太に分布する。広島県の産地は分布の南限に当たる。</p> <p>【形態】高さ 10~15 cm の常緑矮低木。葉は厚く, 楕円形で, 長さ 1.5~2.5 cm, 葉脈のしわがよく目立つ。夏, 2~6 cm の花枝に 2~6 個の下向きの花をつける。がくは緑色, 花冠は白色でつぼ形, 果実も白く丸い。全体にサロメチールの香りがする。</p> <p>【近似種との区別】県北の山地の所々に見られる同属のアカモノは, 茎に赤褐色の長毛が著しく, 花は春咲き, がくは赤色, 果実は赤い。</p>
生息・生育状況	北東部の山の頂上付近で, 日あたりのよい乾燥した岩礫地で被陰木のない所に生えている。産地は国定公園内にある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変 (森林伐採, 草地開発, 道路工事) 園芸採取
特記事項	中部地方以北の高山では普通であるが, 広島県の生育地は植物地理学上, 貴重な存在である。
産地情報	県北東部

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

ハナムグラ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Galium tokyoense Makino

リンドウ目 アカネ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】川岸や湿地に生育する多年草で、分布は本州(東北～中部地方)と九州(大分県)とされる。朝鮮半島、中国にも分布する。</p> <p>【形態】高さ 30～60 cm、茎は細く横に広がって斜上、4稜あって稜上には逆刺が多い。葉は 4～6 輪生し、倒披針形か狭楕円形で先が短く尖るかしばしばわずかにへこみ、長さ 2～3 cm、裏面中肋と縁に下向きの刺状毛がある。花期は 5～7 月で、茎上部の葉腋から枝を出し、白い小さな花を多数集めて咲かせる。同属の他種と比べて花付きがよい。果実は双頭状で無毛。</p> <p>【近縁種との区別】オククルマムグラは葉縁に逆刺なく、葉先に微突起がある。オオバナヤエムグラは果実に刺毛がある。</p>
生息・生育状況	<p>現在確認されている産地は 1 か所で、中国山地の山麓部にある湿地の一つに生育している。個体数は少ない。自生地が公園の敷地内にあるため、現状では生育環境が保全されている。ただし、保全が保証されているわけではない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>孤立した個体群であり、消滅しやすい分布特性をもつ。土地利用の変化にともなう生育環境の質的劣化、人や動物による踏み付けなどの危険性がある。管理された公園内にある生育地では保全されているが、利用者による踏みつけが起きないようにすることが必要である。</p> <p>定期的な草刈りなどにより遷移の進行を抑える。</p>
特記事項	<p>過去の記録では、広島市東区、安佐北区、東広島市河内町があげられる。河川整備のため、非常に減少している種である。保護・保全活動については不明。</p>
産地情報	<p>庄原市(西城)</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

土井美夫 1983. 広島県植物目録. 148 pp. 博新館, 広島.

(松井健一)

ルリミノキ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Lasianthus japonicus Miq.

リンドウ目 アカネ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】南方系の常緑低木。県内唯一の生育地は瀬戸内海での分布の北限に近い。</p> <p>【分布】本州(静岡県以西)から四国, 九州, 台湾, 中国大陸南部にかけて、暖帯・亜熱帯地方に分布する。</p> <p>【形態】高さ 1.5 m 内外、細い枝を開出する。葉はやや厚い皮質で長楕円形、先は鋭く尖る。6 月頃、対生した葉のわきに数個の白い高杯状の花を咲かせる。球形の液果は、12 月頃り色に熟する。</p> <p>【近似種との区別】茎にあとまで毛が残るサツマルリミノキ(品種)は、毛が残らないルリミノキとほぼ同じ分布をする。</p>
生息・生育状況	<p>常緑広葉樹林の林内に生育しているが、その個体数もきわめて少ない。常緑広葉樹林下において生育できる樹木であるから、周辺の樹林が存続することが、本種の存続・保全につながる。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変(森林伐採, 土地造成, 道路工事) 園芸採取</p>
特記事項	—
産地情報	<p>廿日市市(大野)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(久藤広志・吉野由紀夫)

チトセカズラ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Gardneria multiflora Makino

リンドウ目 マチン科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】常緑のツル性木本。県東部にわずかに分布する。</p> <p>【分布】本州（兵庫県以西）にきわめてまれに分布し、中国大陸にも分布している。大陸系の植物で「阿哲要素」と考えられる。</p> <p>【形態】常緑の大木性つる植物で、葉は狭い長楕円形、深緑色で光沢があり、全縁、先は鋭く尖り、長さ7~12 cm、幅1~3.5 cmで対生する。花序は1~2 cmの柄があり、3出状に1~2回分かれて数個~10個の花をつける。花は6~7月に開花し、橙黄色、花冠は5深裂、直径約12 mm、雄しべは無毛。果実は球形で赤熟する。</p> <p>【近似種との区別】同属のホウライカズラは、花の数が1~3個で、花は白色である。サカキカズラ（キョウチクトウ科）は花がないとよく似ているが、切ると乳液がでる。</p>
生息・生育状況	林道と溪谷の間の急傾斜地にあり、大木性つる植物なので、樹木にまきついている。林道の路傍にあるが、川に向かって急斜面で落ち込んでいるので、大規模な道路の改修工事でもないかぎり大丈夫である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（河川開発、土地造成、道路工事） とくに花が美しいわけでもなく、目立たない植物なので、採取される恐れはない。道路や河川の改修工事にあたっては、事前のチェックが望まれる。
特記事項	広島県では、確実な生育地は2か所しかなく、きわめて貴重なものである。 堀川・佐々木(1966)が報告した神石高原町（豊松）についてはその後確認されていない。
産地情報	福山市（福山、新市）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

井上尚子・近藤芳子・吉野由紀夫 2016. 広島県植物覚書(8)広島県のチトセカズラ(マチン科)の新産地. 広島市植物公園紀要, 33: 137-142. (吉野由紀夫)

ムラサキ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Lithospermum erythrorhizon Siebold et Zucc.

ムラサキ目 ムラサキ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】乾燥した日あたりのよい林縁や草原に生育する多年草。全国的に激減している植物の代表的な種。</p> <p>【分布】北海道・本州・四国・九州、朝鮮半島、中国大陸（東北部）、アムールに分布する。日本列島と大陸との関連を示す種で、植物地理学上から重要である。</p> <p>【形態】根は太く乾くと濃紫色になる。茎は高さ30~50 cm、粗毛がある。葉は柄がなく、互生し、披針形で長さ3~7 cm、幅7~20 mm、粗毛がある。花は6~7月、茎の上部の葉腋につく。花冠は5裂し、白色。種子（分果）は灰白色で硬く、光沢があり、長さ3 mmくらい。</p> <p>【近似種との区別】ホタルカズラは茎を横に長く延ばすこと、また花は大きく青紫色であることから、容易に区別できる。</p>
生息・生育状況	西南日本では、石灰岩地帯に生育することが多い。乾燥して日当たりのよいところが好条件である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（森林伐採、草地開発、土地造成、道路工事） 生育環境の変化（自然遷移） 園芸採取
特記事項	日本列島と大陸との関連を示す種で、植物地理学上からも重要である。西南日本では、石灰岩地帯に生育することが多い。古来、紫色の染料としても有名である。
産地情報	呉市、三原市（久井）、福山市（新市）、府中市、三次市、神石高原町（油木）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(久藤広志・吉野由紀夫)

ヤマホオズキ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Physaliastrum chamaesarachoides (Makino) Makino

ナス目 ナス科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】谷間の湿った林内に生育する多年草で、本州（関東南部以西）、四国、九州に分布する。</p> <p>【形態】茎は軟弱で細く、直立して高さ 30～60 cm。葉は卵形または卵状楕円形で質薄く、長さ 5～15 cm、上半部に 2～3 の粗歯があり、先は鋭くとがる。互生だが普通は節ごとに 2 枚ずつ付く。花期は 8～10 月頃で、葉腋に 1 花が下向きに咲く。花冠は径 7～8 mm で白色、浅く 5 裂して先が尖る。萼は短い筒形で 5 裂し、有毛、花後成長して球形の果実を包み、卵球形で長さ 12～15 cm になり、10 本の稜とまばらに刺状の突起がある。液果は径 1 cm ほどで黄橙色。</p> <p>【近縁種との区別】センナリホオズキは萼の毛が刺状にならない。</p>
生息・生育状況	夏緑広葉樹林および二次林の湿った林床や林縁に生育する。自生地は県東部と西部の溪谷で、湿り気のある森林内や林縁、林道沿いなどに生育しているが、個体数は少ない。神石町や安佐北区の自生地では、その後生育が確認されていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	もともと個体数が少なく、個体数の減少や個体群の縮小が著しい。森林伐採などによる生育地の消失・縮小が懸念される。道路沿いの自生地は、道路の改修により自生地が破壊される危険がある。また、管理放棄による生育環境の悪化も懸念される。そのため、林道沿いに自生地がある場合、道路の改修にあたっては自生地の環境を保全すべきである。
特記事項	過去に記録はあるが標本がなかった。2007 年に県内では初めて生育が確認された。保護・保全活動については不明である。
産地情報	広島市（安佐北区、佐伯区）、福山市（福山）、神石高原町（神石）

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

牧野富太郎 1961. 牧野新日本植物図鑑 1060pp. 北隆館, 東京.

(松井健一)

アオホオズキ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Physaliastrum japonicum (Franch. et Sav.) Honda

ナス目 ナス科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】山地谷沿いの湿った林内に生育する多年草で、本州、四国に分布する。</p> <p>【形態】茎は柔らかく軟毛散生し、まばらに分枝して高さ 30～60 cm。葉は膜質、長楕円形で長さ 5～12 cm、両面にまばらな短軟毛、葉縁に短毛が生え、先端は鋭頭、基部は楔形で、互生するが普通は節ごとに 2 枚ずつ付く。花期は 6～7 月で、葉腋に下向きに 1～2 個の花を付ける。花は広鐘形で浅く 5 裂し、径 1.5～2 cm、淡緑色、花糸に長毛がある。がくは先の開いた長めのつぼ形で、果期には果実より長く、短い刺状突起がまばらにつく。</p> <p>【近縁種との区別】イガホオズキはがくに毛があり、果時にはそれが刺状突起となる。花糸は無毛。</p>
生息・生育状況	夏緑広葉樹林および二次林の湿った林床に生育する。西中国山地の夏緑広葉樹林に覆われた谷の湿潤な林床に生育しているが、個体数はきわめて少ない。生育地もわずかしは見つかっていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	もともと個体群がきわめて小さく、孤立した個体群であるため、消滅しやすい。生育地付近では伐採が行われており、森林伐採などによる生育地の消失・縮小が懸念される。生育地も個体数も限られているので、生育地一帯の森林伐採の規制が必要である。
特記事項	2003 年に県内では初めて生育が確認された。
産地情報	県北西部

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

牧野富太郎 1961. 牧野新日本植物図鑑 1060pp. 北隆館, 東京.

(松井健一)

ヒメトラノオ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Veronica rotunda Nakai var. *petiolata* (Nakai) Albach

シソ目 オオバコ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】夏、青紫色の花が穂状に咲く多年草。</p> <p>【分布】本州（宮城県以西）・四国・九州・朝鮮半島・中国大陸（北部）・アムールに分布する。中国地方ではめったにない稀産種である。</p> <p>【形態】多年草。茎は高さ 40～90 cm、葉は対生し、狭披針形で細く、基部は短い葉柄状になる。8～9 月、茎の上方に数本の花序枝を出し、青紫色の花が穂になって咲く。</p> <p>【近似種との区別】ヤマトラノオはよく似ているが葉がより広く、その基部は狭くなるがほとんど無柄である。しかし、その区別は必ずしも明瞭ではない。</p>
生息・生育状況	<p>県の東北部の数か所から知られているが、きわめて少ない。花が美しいので掘り取られる恐れが大きい。溪畔、林縁、草地のやや湿った所に生える。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（湿地開発、草地開発、土地造成など）</p> <p>生育環境の変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>栽培は可能と思われる。</p> <p>母種のヤマトラノオは本州、四国、九州北部、朝鮮半島、中国大陸（東北部）に分布する。</p>
産地情報	<p>庄原市（庄原、東城）、神石高原町（豊松）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編)2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(吉野由紀夫)

ダイセンクワガタ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③,

CR+EN-⑤

Veronica schmidtiana Regel subsp. *senanensis* (Maxim.) Kitam. et Murata f. *daisenensis* (Makino)

T.Yamaz.

シソ目 オオバコ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】山地の岩礫地に生える多年生草本。</p> <p>【分布】本州（近畿地方北部、山陰地方）に分布し、砥石郷山から記録があるが近年は確認されていない。</p> <p>【形態】茎は高さ 10～25 cm、葉は対生して根ぎわに集まり、長さ 1.5 cm 程度の柄がある。葉に重鋸歯があり、やや短く三角状卵形で羽状に浅～中裂する。花期は 7～8 月、枝の先にまばらな総状花序をつける。がく裂片は倒披針形で先のとがり方が著しくない。花冠は青紫色または紅紫色で径 10～12 mm、深く 4 裂する。</p> <p>【近似種との区別】ミヤマクワガタはがく裂片が倒披針形で先のとがるので区分できる。</p>
生息・生育状況	<p>山地の岩礫地。</p> <p>西中国山地の砥石郷山から堀川芳雄が 1959 年にミヤマクワガタとして報告した。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（草地開発、道路工事）</p> <p>生育環境の変化（踏みつけ、自然遷移など）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>再発見に努める。</p>
産地情報	<p>安芸太田町（戸河内）</p>

堀川芳雄・鈴木兵二・安藤久次・中西 哲 1959. 三段峡・八幡高原及びその周辺地域所産高等植物目録. 三段峡と八幡高原総合学術調査報告, p. 195-224, pls. 1-3. 広島県教育委員会, 広島.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

ゴマノハグサ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Scrophularia buergeriana Miq.

シソ目 ゴマノハグサ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】本州，四国，九州，朝鮮半島，中国に分布し，やや湿った草原に生える多年草。根を乾燥したものは漢方名玄参（ゲンジン）として用いられるが，真の玄参は中国に分布する別の種である。</p> <p>【形態】根は太く紡錘形。茎は分枝せず，直立して高さ 80～150 cm。葉は対生し，卵形または長卵形で，長さ 5～10 cm，幅 2.5～5 cm，葉柄がある。花期は 7～8 月，茎の先に細い総状の花序をつくり，多数の花を密につける。花冠はつぼ形で，長さ 6～7 mm，黄緑色。果実はさく果で，長さ 5～7 mm。</p> <p>【近似種との区別】 同属のオオヒナノウスツボは，花が紫紅色，花柄が長く花序は幅が広い円錐花序になる。</p>
生息・生育状況	庄原市の自生地は低木類の伐採跡にできた草地だが，樹木が成長すると減少している。他の産地は現状不明。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変や植生遷移による環境の悪化が脅威となる。栽培保存は可能。
特記事項	—
産地情報	福山市，庄原市，神石高原町

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

大橋広好 2017. ゴマノハグサ科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 91-95. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

イブキジャコウソウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Thymus quinquecostatus Čelak. var. *quinquecostatus*

シソ目 シソ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】大陸系の小型の低木で，乾燥した日あたりのよい岩場に生育している。</p> <p>【分布】北海道・本州・九州・朝鮮半島・中国大陸・ヒマラヤに分布する。</p> <p>【形態】岩の間に生える小型の低木で，茎は細く地上をはい，枝は高さ 3～15 cm で斜めに立ち上がる。葉は対生し，長さ 5～10 mm，幅 3～6 mm，葉の縁には鋸歯はなく，両面に腺点があり，脈は羽状に 2～3 対，ハーブの 1 種であるタイムと同属で全体に香りがある。花は 6～7 月に枝の上部に集まってつき，花冠は 2 唇形で，長さ 7～8 mm の株と 5～6 mm の株があり，2 型性を示す。色は淡紫色で，雄しべは 4 本，種子（分果）はやや偏平で平滑，長さ 0.7 mm くらい。</p> <p>【近似種との区別】本種に近い属はないが，ツツジ属の幼生が一見似ている。しかし，イブキジャコウソウの葉は対生し香りがあることで容易に区別できる。</p>
生息・生育状況	広島県では北東部に 1 か所知られているのみである。尾根の岩の間に生育し，個体数は多くない。本種は海岸，高山，石灰岩，蛇紋岩，安山岩地帯などと，生育地は変化に富んでいるが，共通している条件は，他の植物にとっては栄養条件の悪い環境であり，乾燥して日あたりがよく風通しのよい所である。一般に酸性の岩石は好まないようである。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（草地開発，土地造成，道路工事） 生育環境の変化（自然遷移） 園芸採取
特記事項	本県の生育地は，中国地方では唯一であり，貴重な存在である。
産地情報	県北東部

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

ゴマクサ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Centranthera cochinchinensis (Lour.) Merr. subsp. *lutea* (H.Hara) T.Yamaz.

シソ目 ハマウツボ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】本州（関東以西）、四国、九州、琉球、朝鮮半島、中国、インドシナに分布し、湿地に生える一年草。全国的に激減している。</p> <p>【形態】茎は直立して硬く、高さ 10～60 cm、短い剛毛がある。葉は対生し、狭披針形または広線形で先は円頭、両面に剛毛が生える。花期は 8～10 月。上部の苞葉の腋につき、花冠は長さ 15～20 mm、黄色、横向きで 5 裂する。さく果は楕円形で、種子は小さい。</p> <p>【近似種との区別】近似種はない。</p>
生息・生育状況	<p>自生地は、普通の湿地ではなく丘陵地の斜面や池の堤防などで、常にわずかに水がしみ出しているような場所で、他の草があまり茂っていない環境である。これまでに、東広島市の 2 か所で確認されているが減少している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変、遷移などの環境悪化や人による踏み付けなどが脅威となる。栽培保存については不明。</p>
特記事項	<p>本種の生育適地はたいへん脆弱な環境で、周辺工事による水脈の変化や高茎草本の侵入などで容易に悪化する。全国的にも減少しており、保全の難しい種である。</p>
産地情報	<p>東広島市</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

藤井紀之 2017. ハマウツボ科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 149-162. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ミカワシオガマ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Pedicularis resupinata L. subsp. *oppositifolia* (Miq.) T.Yamaz. var. *microphylla* Honda

シソ目 ハマウツボ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】東海地方と広島県に隔離分布し、湿地に生える多年生草本。花は 10～11 月、紅紫色の花を多数つける。</p> <p>【形態】茎は高さ 30～50 cm、直立する。葉は互生し、長さ 10～20 mm、幅 4～7 mm と小さい。花は 8～10 月、紅紫色の花を 10 個ほどつける。花唇上部の先は短くつまる。</p> <p>【近似種との区別】シオガマギクは山地の草地に生えて全体大型になり、葉も大きく、花唇上部は先がくちばし状にとがる。</p>
生息・生育状況	<p>アカマツ林に囲まれた小さな湿地に生育している。個体数は少ない。湿地の縮小にともない、徐々に減少している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変、周辺の樹林伐採や水路の遮断による自生環境の変化、乱獲などが脅威となる。栽培、移植については不明。</p>
特記事項	<p>湿地のある場所やその周辺地域は法的な保護がなされていないため、大規模な開発により生育地が消滅する恐れがある。</p> <p>広島県内の本種集団については、さまざまな角度から分類学的な検討が進められている。</p>
産地情報	<p>世羅町</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

藤井紀之 2017. ハマウツボ科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 149-162. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ヤチシャジン 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Adenophora palustris Kom.

キク目 キキョウ科

環境省: CR

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】湿地に生える多年草。花期は8月頃で、淡紫色のロート状の花を数個、穂状につける。日本列島が大陸とつながっていた第四紀の氷河時代に朝鮮半島から侵入したもので、地史的にも貴重なものといえる。</p> <p>【分布】大陸系の植物で、愛知県と岐阜県の一部、岡山県西部と広島県東部にのみ分布する。朝鮮半島・中国大陸東北部に分布する。</p> <p>【形態】湿地に生える多年草本で、茎は高さ60~100 cm。葉は互生する。花は8月頃で淡紫色のロート状で長さ1~1.5 cm。数個を穂状につける。花柱はやや突出する。</p> <p>【近似種との区別】同属のソバナは山地の草地に生える。また、葉の基部は心形で、長い柄があり、花は円錐花序につく点などがヤチシャジンと異なる。</p>
生息・生育状況	アカマツの低木林と湿地の接する境界部分に生育する。個体数は少ない。広島県では東部の世羅台地や神石高原の湿地に限られるようである。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（湿地開発、土地造成など）</p> <p>生育環境の変化（自然遷移）</p> <p>生育環境の悪化（水質汚濁）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	マスコミの報道は自粛が望まれる。県指定野生生物種
産地情報	県中部・東部

下田路子・実光紀之・吉野由紀夫 1989. 分布上興味深い広島県世羅台地の湿原植物—ミカワシオガマの新産地など—。植物地理・分類研究, 37: 9-14.

井上尚子 2011. 日本の野生植物栽培記録④〜ヤチシャジンの試験栽培〜。広島市植物公園栽培記録, 32: 4-7.

(吉野由紀夫)

ヒゴタイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Echinops setifer Ijima

キク目 キク科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】多数の頭状花（1花よりなる）が集まって、濃青色の球花をつける多年草で、やや乾いた草地にまれに見られる。生育地の破壊、乱獲で激減した。</p> <p>【分布】本州（岐阜県・愛知県・岡山県・広島県）・九州・朝鮮半島に分布する。</p> <p>【形態】大型の多年草。茎は高さ1 m内外、アザミに似た羽裂葉が互生する。上部でわずかに枝を分かち、8~10月、1花よりなる頭状花が多数集まった径5 cm内外の球状花序を枝先につける。花は濃青色で美しく、昔は盆花としてよく使われたという。</p> <p>【近似種との区別】一見似ているナバナは、マツムソウ科で、葉は対生、頭状の花序は楕円体状で紅紫色である。</p>
生息・生育状況	県内の中・東部の各地から知られているが、現在、自生が確認されている所は少ない。日あたりのよい草地に生育している。やや乾いた原野で、定期的に草刈りが行われて、他の植物、とくに樹林が茂りすぎない場所を好む。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>草地開発、土地造成など</p> <p>生育環境の変化（草地の利用放棄、自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	大陸系要素の一つで、本州の愛知〜岐阜、岡山、広島県と九州北部に隔離分布する希少種で、植物地理学上貴重である。
産地情報	県北部・中部

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

兼子伸吾・瀬井純雄・高橋佳孝・井鷲裕司 2009. 阿蘇地方および中国地方におけるヒゴタイ *Echinops setifer* Ijima の現状. 保全生態学研究, 14: 125-130.

(吉野由紀夫)

フジバカマ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Eupatorium japonicum Thunb.

キク目 キク科

環境省: NT

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】大きな河川の河原や堤防に生育し、しばしば栽培され、また栽培からの逸出と思われるものが人家付近にあることがある。</p> <p>【分布】本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。北村四郎博士は「日本では奈良朝に中国から帰化したものであろう」と述べている。朝鮮半島・中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】多年草本で地下茎を引いて群生する。茎は高さ 1~1.5 m, 下部は無毛。葉は互生し、深く 3 裂し、やや硬く、腺点はなく、長さ 8~13 cm, 裂片は幅 3~4.5 cm, 上面はやや光沢がある。花は 8~9 月に開花し、総苞は長さ 7~8 mm, 総苞片は約 10 個。植物体には独特の香りがある。</p> <p>【近似種との区別】同属のヒヨドリバナは、茎に毛が多いこと、葉の下面に腺点があることで区別できる。ヤマヒヨドリが茎に毛がなく、葉に腺点もないが、葉が単葉で 3 裂しない。最近、アメリカフジバカマが、しばしば栽培されているが、これは全体に紅紫色を帯び、花は紅紫色で植物体はやや小形である。</p>
生息・生育状況	<p>広島市、安芸太田町（加計・戸河内）の生育地は、1992 年に発見され、標本も生態写真もある確実な情報であるが、近年確認されていない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（河川開発、河川改修など） 生育環境の変化（自然遷移） 不安定な立地が、本種の本来の生育地であって、河川改修が全国的に進み、洪水が少なくなったことも、本種の減少要因の一つであろう。</p>
特記事項	<p>天明元年(1781)に小田好道が著した「山県草木志」には、「蘭 古名ふぢばかま・戸谷村石見路に有」（現在の豊平町戸谷と思われる）と記されている。河川の河原に生育することが多い。不安定な立地なので、洪水などで流されやすい。</p>
産地情報	<p>広島市（佐伯区）、府中市、安芸太田町（加計、戸河内）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.
世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

ウスユキソウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Leontopodium japonicum Miq. var. *japonicum*

キク目 キク科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】山地の乾いた礫地や岩の割れ目に生える多年草。</p> <p>【形態】茎はそう生し、高さ 25~50 cm となる。葉は披針形、長さ 4~6 cm。表面は多少綿毛があり、裏面は綿毛を密生する。花期は 7~8 月。頭花が茎頂または枝の先に数個密生する。総苞は径 5 mm, 片は 3 列。縁に筒状の雌花あり、そう果は長さ 1 mm, 冠毛は白色。本州・四国・九州に分布し、中国大陸に分布する。中国地方でこの仲間が生育するのは本地域のみであり、著しい隔離分布である。</p> <p>【近似種との区別】植物体の高さや葉の形などから細分されるが、詳細はよく判らない。「日本の固有植物」にある門田の見解に従った。</p>
生息・生育状況	<p>山頂近くにある草原にわずかな個体が生育している。著しい隔離分布種である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと孤立したきわめて小さい個体群で、消滅しやすい分布特性をもつ。再生産能力を上回る採取圧がある。生育地をかなり広く保護し、採取の禁止および生育地の環境変化を伴う工事を禁止する必要がある。自生地の山は生物多様性の保全のために登山禁止とすべきである。</p>
特記事項	<p>Kitamura (1937) の報告以後、生育情報がなかった。2004 年に上村恭子・山下容富子の 2 人によって、県北東部の山で約 70 年ぶりに再発見された。中国地方では広島県にのみ生育し、著しい隔離分布の種である。インターネットに情報が流れたため、多くの人が訪れるようになった。</p>
産地情報	<p>県北部</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.
浜田展也・武内一恵(監修・解説)・小池周司(写真) 2011. 広島の山野草(夏編). 379 pp. 南々社, 広島.

(松井健一・吉野由紀夫)

ミコシギク 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Leucanthemella linearis (Matsum.) Tzvelev

キク目 キク科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】湿地に生える多年草で、秋に径 3~6 cm の白色の頭花をつける。</p> <p>【分布】大陸系の植物で、本州・九州・朝鮮半島・中国大陸に隔離分布する。</p> <p>【形態】多年生草本で、長く地下茎を引き、先に新苗をつくる。茎は高さ 30~100 cm で直立し、葉は互生し、1~2 対に羽裂する。花期は 9~11 月頃で、径 3~6 cm の白色の頭花を枝に頂生する。</p> <p>【近似種との区別】ミコシギクは、そう果が湿っても粘性とならないが、キク属の他の種は粘質をおびる。またキク属で湿地に生育するのは、ミコシギクのみである。</p>
生息・生育状況	<p>ヌマガヤ、クサレダマ、サワシロギク、オオミズゴケなどからなる山間の湿原に分布する。広島県では世羅台地などの台地の湿原に点在する。県西北部の湿地には見られないようである。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（湿地開発、土地造成）</p> <p>生育環境の変化（水質汚濁、富栄養化、人の踏み付け、自然遷移）</p> <p>園芸採取（個体の乱獲、盗掘、過剰な採取など）</p>
特記事項	<p>マスコミの報道は自粛が望まれる。</p>
産地情報	<p>県中部</p>

下田路子・実光紀之・吉野由紀夫 1989. 分布上興味深い広島県世羅台地の湿原植物—ミカワシオガマの新産地など—。植物地理・分類研究, 37: 9-14.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

イヌドウナ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Parasenecio tanakae (Franch. et Sav.) Kadota

キク目 キク科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】大型の多年草。本州北部に知られていたが、近年、安芸太田町で隔離的に分布しているのが発見された。</p> <p>【分布】本州（東北地方・関東地方北部）に分布する。広島県は著しい隔離分布である。</p> <p>【形態】大型の多年生草本で、茎はやや稲妻型に屈曲し、高さ 1~2.5 m にも達する。葉は互生し、長さ幅が 25~35 cm のほぼ正三角形をなし、先端と両翼はとがる。葉柄には広い翼があり、基部では茎を抱く。花は 7 月下旬、茎の上部に大型の円錐花序をなし、総苞は長さ 7~8 mm である。</p> <p>【近似種との区別】中国山地に分布する植物の中では、オオカニコウモリが似ているが、より小型であり、茎の稲妻型の屈曲が顕著で、葉が腎形で三角型ではない。基本種のヨブスマソウは本州中部以北に分布するが、葉柄の翼が茎を抱かず、茎は直立し、総苞は 10~12 mm とより長い。</p>
生息・生育状況	<p>安芸太田町（戸河内）の小さい溪流に沿った、湿ったスギ植林地に群生しているが、個体数は多くない。本来は、ブナ林域の溪谷で、融雪水の豊富な林床と思われるが、広島県に隔離分布している所は、ブナ林域のスギ植林地である。産地は国有林内にある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、道路工事など）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>新潟県から隔離的に分布し、サンカヨウ、ヤグルマソウ、ヒメモチなどとともに、中国山地の植物群が日本海側の多雪地帯の植物群と一続きのものであることを示す貴重な存在である。</p> <p>マスコミなどの報道の自粛が望まれる。</p>
産地情報	<p>安芸太田町（戸河内）</p>

田村 実・小山博滋 1989. 中国地方産イヌドウナの染色体と核型. 植物分類・地理, 40(1-4): 93-98.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

ネコヤマヒゴタイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Saussurea modesta Kitam.

キク目 キク科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】長野県, 近畿, 岡山県, 広島県に隔離分布するが, きわめてまれな植物である。花期は 8 月～10 月。</p> <p>【形態】多年草で, 角ばった茎は無毛であり, 上部で枝を分ける。花期の根生葉は広い線形で, 両面ともに無毛である。頭花は小數で, 淡桃色の花を密散房状に咲かせる。</p> <p>【近似種との区別】葉は披針形で鋸歯があり, 総苞片は 5 列あり, 総苞外片が鋭尖頭している点が近縁種との相違点である。</p>
生息・生育状況	産地の 1 か所は草原で, 草刈り場であったため, 人為との微妙なバランスの下にさまざまな草本の生育地が保全されていた。しかし, 盗掘のためか, 個体数の減少が著しい。管理放棄による草原の縮小も懸念される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	孤立してきわめて小さい個体群である。生育環境である草原がカシワなど樹木の侵入や開発により減少しやすいなど, 消滅しやすい分布特性をもつ。インターネットによる情報で, 希少種を見に来る登山者も多く, 草原が著しく踏み荒らされており, 盗掘の脅威にさらされている。そのため, 生育地の岩場を保全することや被陰木の伐採が必要であるとともに, マスコミの報道自粛など情報管理も必要であろう。
特記事項	全国的にも生育地に限られる。県内の産地は, 本種の分布上の西限にあたるだけに, 生育地の保全を行うことは大切な責務である。猫山にはスキー場も開設され, 山頂付近にまで開発が広がると, 本種を含めて他の貴重な植物が生育する環境が破壊されることが懸念される。蛇紋岩地は樹木の成長が遅いので遷移の進行は遅いとはいえ, 山頂付近の草原にカシワなどの樹木が繁茂すると, 草原が退行し, 多くの貴重な草本が消滅する可能性がある。
産地情報	県北部

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編)2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(松井健一・吉野由紀夫)

オオダイトウヒレン 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Saussurea nipponica Miq. subsp. *nipponica* var. *nipponica*

キク目 キク科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】樹林下に生育する多年生草本。秋に花冠が帯紫色の花をまばらに多数つける。近畿・中国地方の山地に産するが, きわめてまれであり, 残存植物として隔離分布している。</p> <p>【形態】茎は高さが 50～100 cm になり, 根出葉は花時にもある。葉は長柄があり, 広卵形で, 基部は心形になる。上部の葉は小形になる。花期は 8～10 月で, 頭花はまばらに多数つく。総苞には淡褐色の細毛が密生し, 花冠は帯紫色。</p> <p>【近似種との区別】ホクチアザミは葉の裏側に綿毛があって白い。ネコヤマヒゴタイの葉は披針形で細長い。</p>
生息・生育状況	広島県内の生育地はきわめて少ない。斜面中腹の適湿な落葉樹林下, またはまれに植林下に生育する。しかし, もともと生育地が少なく, その生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。そのため, 個体数の減少や個体群の縮小が著しい。
存在を脅かす要因・保全の留意点	もともと個体数が少ないが, 個体数の減少や個体群の縮小が著しい。土地利用の変化にともなう管理放棄, 遷移の進行による植生変化など, 生育環境の質的劣化が大きい。盗掘されている可能性もある。そのため, 森林, とくに林床の保全, 生育地の環境変化を伴う工事を制限することが必要である。また, 採取を禁止するべきである。マスコミの報道は自粛が望まれる。栽培は可能である。
特記事項	—
産地情報	県北東部

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編)2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(松井健一・吉野由紀夫)

セイタカトウヒレン 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Saussurea tanakae Franch. et Sav. ex Maxim.

キク目 キク科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】山地の樹林下に生育する多年生草本。秋に花冠が帯黒紫色の花をやや総状につける。本州（関東、中部・中国地方）、朝鮮、中国の山地に産するが、きわめてまれであり、隔離分布している。</p> <p>【形態】茎は高さが 70～100 cm になり、つねに著しい翼がつく。根出葉は花時に枯れてない。茎葉は柄があり、葉身は心形または広卵形で、長さ 8～15 cm、縁に不規則な歯牙がある。花期は 8～10 月で、頭花はやや総状につく。総苞には黒紫色で絹毛がある。また総苞が鐘形で総苞片が 9 列ある。花冠は帯紫色。</p> <p>【近似種との区別】Kadota(2007)が記載したタイシャクトウヒレンは花は 9～10 月に、3～8 個が上部の総状花序につく。</p>
生息・生育状況	<p>吉備高原面にきわめてまれに分布し、樹林下あるいは林縁部に少数個体が生育している。広島県からは、1984 年に三上幸三によって発見された。もともと個体数が少ないが、生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。そのため、個体数の減少や個体群の縮小が著しい。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地利用の変化にともなう生育環境の質的劣化や、遷移進行による植生の変化のため、生息地が狭められ、消失している。盗掘されている可能性もある。そのため、生育環境、とくに森林や岩場の保全や、生育地の環境変化を伴う工事を制限することが必要である。採取を禁止すべきであろう。マスコミの報道は自粛が望まれる。栽培は可能。</p>
特記事項	<p>広島県からは、1984 年に三上幸三によって発見され、井波（1988）が図説した。</p>
産地情報	<p>県北東部</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編)2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(松井健一・吉野由紀夫)

キクアザミ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Saussurea ussuriensis Maxim. var. *ussuriensis*

キク目 キク科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州（東北南部以西）と九州、朝鮮半島、中国、ロシア沿海地方に分布し、山地の草原や林縁に生える多年草。</p> <p>【形態】茎は直立して高さ 30～120 cm になり、翼はない。花時にも根出葉がある。下部の葉には長柄があり、葉身は質が硬く光沢があって羽状に浅～中裂し、基部は心形から切形で腺点はない。花期は 9～10 月、1 cm ほどの花を散房状に多数つける。総苞片は鋭頭。</p> <p>【近似種との区別】ミヤコアザミは、葉身に腺点があり、基部がくさび形。総苞片が円頭である。</p>
生息・生育状況	<p>福山市の状況は不明。東城では山地上部の林縁にかろうじて数株が生育していたが、今回の調査では確認していない。もともと確認例も少ない希少種であり、環境の悪化によって絶滅が危惧される。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変、植生遷移による環境の悪化が脅威となる。栽培は可能。</p>
特記事項	<p>—</p>
産地情報	<p>福山市, 庄原市</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編)2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

門田裕一・瀬戸口浩彰・副島顕子・東馬哲雄・中田政司・森田竜義・米倉浩司 2017. キク科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 198-369.

(世羅徹哉)

ハンゴンソウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Senecio cannabifolius Less. var. *cannabifolius*

キク目 キク科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】北海道, 本州, 朝鮮半島, 中国 (東北部), 千島列島, カムチャッカからアリューシャンにかけて分布し, 山地草原や林間の草地に生える多年草。中国地方は分布の南西限にあたる。</p> <p>【形態】地下茎は匍匐し, 地上部は高さ 2 m になり, 上部で分枝する。花時に根生葉はなく茎葉は多数, 下部のものは卵形で細く羽状深裂し, 上部の葉は 3 中裂~披針形の単葉。花期は 7~8 月, 大きい散房花序に黄色い頭花を多数つける。総苞は筒型, 総苞片は 1 列。</p> <p>【近似種との区別】コウリンカは草丈が 60 cm ほどで, 舌状花弁がオレンジ色である。ハンカイソウは湿地に生え, 花時に根生葉があり, 掌状に深裂する。舌状花弁が大きい。</p>
生息・生育状況	北東部の山地にまれに生育している。ブナ帯域にある高茎草原や明るい林縁部などに見られるが個体数は少ない。環境変化のために衰退している個体群がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変や植生遷移による環境の悪化が脅威となる。栽培は可能。
特記事項	—
産地情報	庄原市

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

門田裕一・瀬戸口浩彰・副島頭子・東馬哲雄・中田政司・森田竜義・米倉浩司 2017. キク科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 198-369.

(世羅徹哉)

コウリンカ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Tephroseria flammea (Turcz. ex DC.) Holub subsp. *glabrifolia* (Cufod.) B.Nord.

キク目 キク科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】山地の草原に生える多年草。夏に 3~4 cm の橙色の花を数個つける。</p> <p>【分布】本州と朝鮮半島に分布する。</p> <p>【形態】茎は直立し, 高さ 50~60 cm でほとんど毛はない。根出葉は花時に枯れる。下部の葉は広倒披針形で, 長さ 10~16 cm, 基部はやや茎を抱く。花時は 7~9 月, 頭花は 6~13 個つき, 径 3~4 cm, 舌状花は橙色で, 反りかえって咲く。</p> <p>【近似種との区別】タカネコウリンギクは九州に分布し, 茎に密に長いちぢれた毛がある。</p>
生息・生育状況	広島県は本州における分布の西限であり, 生育地が限られ個体数も少ない。産地は国定公園内にある。山地の適湿な草地に生える。あまり群生しない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変 (草地開発, 土地造成, 道路工事) 生育環境の変化 (自然遷移) 園芸採取
特記事項	—
産地情報	庄原市 (西城, 東城, 口和, 高野, 比和), 廿日市市 (佐伯), 安芸太田町 (戸河内)

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

西岡秀樹・中村慎吾(編) 2018. 広島県庄原市比和町吾妻山植物誌. 156 pp. 庄原市立比和自然科学博物館, 広島県.

(吉野由紀夫)

ホタルサイコ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Bupleurum longiradiatum Turcz. var. *elatius* (Koso-Pol.) Kitag.

セリ目 セリ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】山野の日あたりのよい原野や樹林下に生える多年草。</p> <p>【分布】本州・四国・九州に分布する。</p> <p>【形態】茎は株状で、上部は枝をわけ、高さ 50~150 cm になる。根出葉には長い柄があり、卵形から長楕円形、茎葉は長く、基部は広がって茎を抱く。葉の表面は緑色、裏面は青白色、平行脈の間に横に走る小脈がある。花期は 7~8 月。花序は茎頂か対生した枝の先につき、総苞片や小総苞片は小さく、長楕円形。花は小さく黄色。果実は長楕円形で、長さ 3.5~4 mm。</p> <p>【近似種との区別】県内に産する同属のミシマサイコは葉が細長く、すべて基部が細まるのに比べ、ホタルサイコでは、茎の上部の葉は多少とも基部が広まり、茎を抱くことによって区分される。</p>
生息・生育状況	市街地に近い樹林の林床に生育している。個体数はきわめて少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事など）</p> <p>生育環境の変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>薬用植物として使われるので、古い時代に植えられた可能性がある。</p> <p>インターネット上に掲載されるので、絶滅のおそれが高まる。</p>
産地情報	県中部

広島市植物公園(編) 2005. 高木リスト 広島県産高等植物目録. 広島市植物公園紀要, 22:23: 5-129.

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

ミシマサイコ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Bupleurum stenophyllum (Nakai) Kitag. var. *stenophyllum*

セリ目 セリ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】山野に生える多年生草本。花は黄色で 8~10 月頃咲く。生薬としてよく利用され採取されるため、日本各地で減少している。</p> <p>【分布】本州, 四国, 九州, 朝鮮半島に分布する。</p> <p>【形態】茎は高さ 40~70 cm, 上部は分枝する。葉は広線形で長さ 4~15 cm, 幅 5~15 mm。花期は 8~10 月で、花は黄色、小散形花序は 5~10 個の花からなる。</p> <p>【近似種との区別】ホタルサイコは、茎の葉の基部が広がり、茎を抱くので区別される。</p>
生息・生育状況	石灰岩や蛇紋岩地帯などの草地に生育している。産地は国定公園内にある。個体数は少なく、群生することはないようである。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（草地開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育環境の変化（自然遷移）</p> <p>薬用採取</p>
特記事項	種子による増殖と栽培は可能。
産地情報	県中部・北部

広島大学理学部附属官島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編) 2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(吉野由紀夫)

オオカサモチ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Pleurospermum uralense Hoffm.

セリ目 セリ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】山地に生える大型の多年生草本。 【分布】北海道，本州中部以北，アジア北東部に分布する。広島県は離れて分布する。 【形態】茎は太く中空，多汁で高さ 120 cm になる。下部の葉は長い葉柄があり，2～3 回羽状に複生する。上部の葉はしだいに小さく無柄になる。小葉や最終裂片は鋭く切れ込む。上部の枝は対生，または輪生する。花期は 7～8 月，複散形花序は大型で，茎頂のものは径 15～39 cm になる。総苞片も小総苞片も羽状に切れ込む。花弁は白色，果実は卵形。 【近似種との区別】シシウドは総苞片も小総苞片もないことから区分できる。</p>
生息・生育状況	<p>県東部の山塊の尾根の草原や林縁，西側斜面下部の谷筋に生育する。林冠の樹木が茂っているため生育はあまりよくない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採，草地開発，道路工事など） 生育環境の変化（自然遷移）</p>
特記事項	—
産地情報	庄原市（西城，東城）

広島県東城町植物誌編纂委員会(編) 2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

フキヤミツバ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Sanicula tuberculata Maxim.

セリ目 セリ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】山地に生える多年草。 【分布】本州（中部地方以西），四国，九州，朝鮮半島（南部）にまれに分布する多年草。 【形態】茎は高さ 8～20 cm，上部に 2 枚の葉を対生する。根出茎は 5～12 cm の柄があり，小葉は 3 個あり，両側の 1 枚は深く裂ける。5 月上旬に開花，茎の先に 1 個の花序をつける。花序の中央部に 1～4 個の雌花があり，まわりに 10 個内外の雄花がある。 【近似種との区別】ウマノミツバが同じ属でよく似ているが，フキヤミツバはより小形であり，茎に 2 枚の葉が対生している。ウマノミツバの茎は高く，数枚の葉がついている。</p>
生息・生育状況	<p>三次市（三良坂）の生育地は，近くに市指定のサクラソウの天然記念物があり，一応，環境は保護されている。しかし，若いスギの植林地であり，スギが生育すると暗くなり，下草が茂ると影響を受ける。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採，道路工事など） 生育環境の変化（自然遷移） 園芸採取</p>
特記事項	三次市天然記念物（三良坂町内全域）
産地情報	三次市（三次，吉舎，三良坂）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

浜田展也・武内一恵(監修・解説)・小池周司(写真) 2011. 広島県の山野草(春編). 367 pp. 南々社, 広島.

(吉野由紀夫)

ベニオグラコウホネ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Nuphar oguraensis Miki var. *akiensis* Shimoda

スイレン目 スイレン科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】ため池に生育する抽水植物。</p> <p>【分布】東広島市の西条盆地が新変種が記載された基準産地であり、日本で西条盆地が唯一の産地である。</p> <p>【形態】葉は卵形で抽水状態になり、長さ6~14 cm, 幅4~11 cm, 葉裏に毛が多い。葉柄は中実。花期は6~9月で、花は径3~5cmで黄色、柱頭盤は黒ずんだ赤、鮮やかな赤、オレンジ色に近いものまであるが、黄色にはならない。</p> <p>【近似種との区別】コウホネに似るが、コウホネの柱頭盤は黄色。また、コウホネやサイジョウコウホネに比べ葉が小さい。</p>
生息・生育状況	池の埋立てや水質の悪化により、減少している。ため池の改変や埋立ては、生物関係者が知らないうちに行われることが多く、気がついた時は、生育地の池がなくなっていた事もある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（湖沼開発、ため池の改修、土地造成） 生育地の環境変化（水質汚濁、農薬汚染、富栄養化）
特記事項	下田路子が東広島市を基準産地として新変種として発表した。分類学上、貴重なものである。
産地情報	東広島市（西条，黒瀬），世羅町

下田路子 2007. 東広島市のコウホネ属植物. 105 pp.+添付資料. 東広島市教育委員会, 東広島.

(吉野由紀夫)

オグラコウホネ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Nuphar oguraensis Miki var. *oguraensis*

スイレン目 スイレン科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】ため池に生え、水面葉をつける。6~10月に、黄色で径2~3.5 cmの花をつける。</p> <p>【分布】本州、四国、九州のため池や河川に生育する固有種で、産地が局限されている。</p> <p>【形態】根茎は太く、水面葉は広卵形で長さ8~14 cm, 幅6~9 cmになる。柄は扁平で、中空になる。花期は6~10月で、花は黄色、径2~3.5 cm, 柱頭盤は黄色。ベニオグラコウホネは柱頭盤が赤い。</p> <p>【近似種との区別】オグラコウホネは葉が水面に浮くが、コウホネは挺水する。ヒメコウホネは葉が水面に浮くが、柄は中実である。オグラコウホネの柄は中空である。</p>
生息・生育状況	農村部の比較的きれいなため池に生育するが、環境変化に敏感で、近年広島県下でも減少しつつある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（湖沼開発、ため池の改修、土地造成） 生育地の環境変化（水質汚濁、農薬汚染、富栄養化）
特記事項	ため池の改変や埋立ては、生物関係者が知らないうちに行われることが多く、気がついた時は、生育地の池がなくなっていた事もある。
産地情報	三原市（久井），三次市（三次，三良坂），東広島市（西条，八本松，黒瀬，豊栄），世羅町（世羅，世羅西）

世羅台地の自然編集委員会(編)2001. 世羅台地の自然-生物編・目録- . 144 pp. 世羅台地の自然発刊連絡会(甲山・世羅・世羅西町教育委員会), 世羅町.

下田路子 2007. 東広島市のコウホネ属植物. 105 pp.+添付資料. 東広島市教育委員会, 東広島.

(吉野由紀夫)

キビヒトリシズカ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Clhloranthus fortunei (A.Gray) Solms

センリョウ目 センリョウ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】本州（岡山県，広島県），四国（香川県），九州北部（壱岐，対馬を含む），朝鮮半島，中国（中部）に分布し，林中や林縁に生える多年草。</p> <p>【形態】根茎は短く，数本の茎が直立し，高さ30～50 cmになる。地上茎の下部には鱗片葉が，上部には2対または3対の大型の葉をつける。葉は接して輪生状に見えることが多いが，1～6 cmの間隔をあけることもある。花期は4～5月。穂状花序を1本頂生し，多数の花を密集してつける。白色で糸状に伸びる葯隔の長さは8～12 mm，葯は4個。</p> <p>【近似種との区別】ヒトリシズカは花期が早く，白色の葯隔が3～5 mmと短く，葯が2個である。</p>
生息・生育状況	<p>県東部の島嶼部から沿岸部，内陸部にかけて自生地があり，古生代から中生代の堆積層地帯に生育している。アベマキやコナラなどの落葉樹林の林床や林縁部で他の草本類が少ない場所に見られる。今回の調査で新たな自生地が確認された一方で，既知の産地で見られなくなった場所もある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変，管理放棄や植生遷移による環境悪化，乱獲などが脅威となる。栽培保存は可能。</p>
特記事項	—
産地情報	<p>呉市，尾道市，福山市，庄原市，大崎上島町，世羅町，神石高原町</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県，広島.

米倉浩司 2015. センリョウ科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司，編)，p. 52-53. 平凡社，東京.

(世羅徹哉)

ヒメカンアオイ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Asarum takaoi F.Maek. var. *takaoi*

コシヨウ目 ウマノスズクサ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】湿地や河畔に生育する小さい多年草。</p> <p>【分布】本州（中部・東海・北陸・近畿・中国地方）および四国東部に生育する。日本の固有種。</p> <p>【形態】葉身は腎円形で鈍頭，長さ，幅ともに2.5～3.5 cmと小さい。葉柄は4～12 cmで，地下茎は匍匐し，分枝して広がる。花期は3～4月で，花は淡紫褐色で径約1 cm，萼筒は長さ7～9 mmで，上端にくびれがなく，内面に18～21本の縦の隆起線があり，細かい格子状になる。</p> <p>【近似種との区別】県内に生育する同属のサンヨウアオイ，ミヤコアオイは葉が卵形で，ヒメカンアオイに比べ，大きい。この2種の花期は4～5月で花の先がくびれることでヒメカンアオイと区別される。</p>
生息・生育状況	<p>県北の生育地では湿原のオオミズゴケの中や，水路の畔道に群生している。また，河内町では河畔のヨシやオオミズゴケの中に群生している。広島県では湿地や河畔のやや過湿な立地に生育するようである。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採，河川開発，湿地開発，土地造成，道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>井波（1988）は北広島町（芸北）産のものをゼニバサイシンとしている。</p> <p>広島県は本種の分布の西限である。</p>
産地情報	<p>三原市（大和），北広島町（芸北）</p>

山手万知子・桧山 智 1985. 広島県新産のヒメカンアオイ. ヒコピア, 9: 269-271.

井波一雄 1988. 広島県植物図選IV. 100 pls.+12 pp. 博新館，広島.

(日朝直樹・吉野由紀夫)

オオヤマレンゲ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Magnolia sieboldii K.Koch subsp. *japonica* K.Ueda

モクレン目 モクレン科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】日本のブナ帯に隔離分布する落葉広葉低木。点在して、個体数も少ない。</p> <p>【分布】本州（関東以西）、四国、九州、中国大陸、朝鮮半島のブナ帯に分布する。</p> <p>【形態】葉は互生し、倒卵形、長さ6~18 cm、全縁。6月に枝の先端に、下向きに径5~10 cmの芳香のある白色の大きな花を咲かせる。花被片は普通9枚、雄しべは多数、葯は淡黄緑色。集合果は楕円形で赤く熟する。</p> <p>【近似種との区別】基本亜種のオオバオオヤマレンゲは葉がより大きく、雄しべは赤紫色を呈し、朝鮮半島、中国大陸に分布する。園芸品種として庭園に利用されている。</p>
生息・生育状況	<p>県北部と西部の山頂近くのブナ林の中に生育している。樹冠に隙間ができて、林床に陽光が射し込むところに群生している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事） 園芸採取</p>
特記事項	<p>ブナ林域に生育する種であり、ブナ林が伐採されると消滅する。県内のブナ林は生態系の保全のため、伐採を禁止すべきと思われる。</p>
産地情報	<p>庄原市（西城、高野、比和）、廿日市市（吉和）、北広島町（芸北）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(久藤広志・吉野由紀夫)

オモゴウテンナンショウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Arisaema iyoanum Makino subsp. *iyoanum*

オモダカ目 サトイモ科

環境省: EN

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】本州（広島県・山口県）、四国（高知県・愛媛県）に分布し、山林の林下に生える多年草。広島県と四国の関連性を示す植物群のひとつである。</p> <p>【形態】偽茎はやや斜上し、葉柄より長い。葉は1個で、7~15枚の小葉を鳥足状につけ、葉軸は発達する。小葉は長楕円形で、鋭尖頭。花期は5月。花序はやや前屈してつき、花柄は長さ1~5 cm、仏炎苞は緑白色で、細かい紫斑がある。口辺部はすこし開出する。附属体は棒状で、基部は少し太く、先端はややふくれて2~5 mm。</p> <p>【近似種との区別】マムシグサとは、本種の葉が1枚で苞の舷部が広いので区分できる。ヒロハテンナンショウは小葉が5枚なので区分できる。</p>
生息・生育状況	<p>県北西部の山地や溪谷の林下に生育する。しかし、分布の限界にあたり、消滅しやすい分布特性をもつため、伐採などにより生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。そのため、保護されている地域以外での個体数減少が著しい。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>森林の伐採などによる生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。盗掘される危険も大きい。そのため、森林の保全や生育地の環境変化を伴う工事を規制すること、および採取の禁止が必要である。</p>
特記事項	<p>広島県の植物講習会が三段峡で行われた折りに、寺崎留吉が採集した標本に基づいて中井猛之進が東亜植物図譜3の2(1939)に新種（アキテンナンショウ）として発表した。現在では、オモゴウテンナンショウ (<i>Arisaema iyoanum</i> Makino)と同種とされている。本種は四国と広島県西部にのみ分布しており、広島県と四国の関連性を示す植物群のひとつである。葉が1枚だが苞の舷部が細い不明種が本種と混同されることがある。</p>
産地情報	<p>広島市（安佐北区）、三次市（作木）、廿日市市（佐伯、吉和）、安芸太田町（加計、筒賀、戸河内）、北広島町（芸北）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

邑田 仁 2011. 日本のテンナンショウ. 265 pp. 北隆館, 東京.

(松井健一・吉野由紀夫)

ヒメザゼンソウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Symplocarpus nipponicus Makino

オモダカ目 サトイモ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】湿地に生える北方系の多年草。春に暗紫色の仏炎苞をつける。生育適地の保全が必要である。</p> <p>【分布】北海道・本州・朝鮮半島に分布する。</p> <p>【形態】短い根茎より葉柄の長い卵状心形の葉を広げ、その中央に暗紫色の仏炎苞を咲かせる。花序は楕円体で雌雄両性の花をつける。</p> <p>【近似種との区別】ザゼンソウは、葉の展開に先だって花を開くが、ヒメザゼンソウは、葉が展開した後には花序をつける。また、葉が小さい。</p>
生息・生育状況	<p>県北部の湿地の周辺の林縁部や、路傍に点々と分布している。しかし、その生育適地が少なくなるにともない、個体数も減少する傾向にある。自生地の多くは国定公園内にある。海拔 350 m 以上の高地に安定した湿地が存在することが生育条件となる。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（池沼開発、湿地開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（水質汚濁、自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>ザゼンソウ属は、ザゼンソウと本種の 2 種しか存在せず、植物地理学的にも貴重な植物である。</p> <p>ザゼンソウは県内では確認されていない。</p>
産地情報	<p>三次市（君田）、庄原市（西城、東城、高野、比和）、廿日市市（吉和）、安芸太田町（戸河内）、北広島町（芸北、大朝）</p> <p>堀川芳雄・鈴木兵二・横川広見・松村敏則 1959. 八幡高原の植生概観. 三段峡と八幡高原総合学術調査研究報告, p. 109-120. 広島県教育委員会, 広島.</p> <p>広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.</p>

(吉野由紀夫)

イワシヨウブ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Triantha japonica (Miq.) Baker

オモダカ目 チシマゼキシヨウ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】山中（亜高山帯）の湿地に生える多年草。</p> <p>【分布】本州に分布し、広島県は本種の分布の西限にあたる。</p> <p>【形態】花茎の高さは 20～40 cm、葉はその下部に集まる。花穂は全体の長さ 4～6 cm、花は 2～3 個ずつ集まってつき、白色の花被片 6、雄しべ 6、雌しべは 1 個で 3 花柱がある。花柄や花軸にべたつく腺毛のあることと、種子に長い尾があるのが特徴。</p> <p>【近似種との区別】同属にヒメイワシヨウブ、ハナゼキシヨウなど似た種があるが、いずれも花軸や花柄は無毛で、種子に尾がないことで識別できる。が、小型であり、花は 9 月に開花し、その時には葉はない。</p>
生息・生育状況	<p>県北部の海拔 1200 m 付近の湿気の多い草原に生育している。自生地は国定公園内にある。個体数は少ない。高野町では海拔 500 m にある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（湿地開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育環境の変化（踏み付け、自然遷移）</p> <p>園芸採取</p> <p>生育環境さえ保持されれば絶滅の危機は少ないが、乱獲による危険がある。</p>
特記事項	<p>比婆山では写真を撮る登山者によって草原内に歩道ができ、乾燥化や踏み付けによって生育環境が悪化してしまった。早急に保護対策をとる必要がある。</p>
産地情報	<p>庄原市（西城、高野、比和）</p> <p>広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.</p> <p>浜田展也・武内一恵(監修・解説)・小池周司(写真) 2011. 広島山野草(秋編). 379 pp. 南々社, 広島.</p>

(吉野由紀夫)

マルバオモダカ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Caldesia parnassiifolia (Bassi. ex L.) Parl.

オモダカ目 オモダカ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】湖沼や水田などの生える多年草の浮葉から抽水植物。</p> <p>【分布】本州から奄美、中国大陸、インド、オーストラリアなどに分布する。県内の限られた地域のため池に生育する。</p> <p>【形態】葉は長い葉柄があり、葉身は卵形または腎形で、基部は心形、径 5~10 cm、水面に浮かぶ。花期は 8~9 月、高さ 50~100 cm の花茎を出し、枝を 3 個ずつ輪生する円錐花序を作る。花卉は 3 枚で白色、径 1 cm 程度。</p> <p>【近似種との区別】マルバオモダカは葉が卵心形で、ウリカワ、オモダカ、アギナシ、ヘラオモダカとは葉の形が異なることから区別できる。トチカガミは 1 花ずつ水面で開花し、大きな花茎はつくらない。</p>
生息・生育状況	世羅台地面のため池に生育する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（河川開発、湖沼開発、土地造成など） 生育環境の変化（水質汚濁、農薬汚染、富栄養化）
特記事項	—
産地情報	三原市（本郷、久井）、三次市（三次、三良坂）、庄原市（庄原、東城）、東広島市（西条、八本松、黒瀬）、世羅町（世羅）

黒瀬町史編さん委員会(編) 2003. 黒瀬町史 環境・生活編. 772 pp. 黒瀬町.

(久藤広志・吉野由紀夫)

セトヤナギスブタ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Blyxa alternifolia (Miq.) Hartog

オモダカ目 トチカガミ科

環境省: EN

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州の中部以西と九州に分布し、水田やため池、水路に生育する沈水性の一年草。</p> <p>【形態】茎は分枝して長さ 5~25 cm になり、長さ 6~8 cm。花は 7~10 月、子房とともに長さ 3~4 cm の花茎を出し、目立たない白色花を水面上に咲かせる。果実は筒状の線形で長さ 1.5~3 cm、紡錘形の微細な種子が多数ある。種子の両端に突起はなく、表面には縦方向に不明瞭な隆起線が複数ある。</p> <p>【近似種との区別】スブタとは、茎が長く分枝し、種子の両端に尾状突起がないこと、ヤナギスブタに比べると葉が長く全体に大きく、種子の表面に不明瞭な縦隆起がある点で区別される。</p>
生息・生育状況	2009 年に庄原市の水田で初めて確認された後、八本松の古いため池でも発見された。八本松のため池ではかなり多数が生育していたが、今回調査では未確認である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変、水質の悪化などが脅威となる。 栽培保全や移植の可否については不明。
特記事項	—
産地情報	庄原市、東広島市

角野康郎 2014. 日本の水草. 325 pp. 文一総合出版, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

マルミスブタ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Blyxa aubertii Rich.

オモダカ目 トチカガミ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】一年生の沈水植物。かつては水田の雑草であったが、除草剤の使用などによって、現在では著しく少なくなっている。</p> <p>【分布】本州、九州、琉球に分布する。</p> <p>【形態】茎はなく、下部からひげ根を多数出す。葉は根生し、細長く、長さ10~30 cmになる。花期は7~10月頃で、花柄は葉腋から伸びる。種子は楕円形で表面に小突起があるが、種子に尾状突起がない。</p> <p>【近似種との区別】スブタの種子は両端に尾状突起がある。また、ヤナギスブタは茎が発達して伸びる。</p>
生息・生育状況	<p>県内では西条盆地や三原市（本郷）の用倉のため池に生育していたが、用倉では新空港建設によりなくなった。広島市の記録は古いため、現状は不明である。近年東広島市（黒瀬）から報告があり、県内にはまだ産地があると思われる。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（湿地開発、湖沼開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育環境の変化（水質汚濁、富栄養化、ため池の管理放棄）</p>
特記事項	<p>水質汚濁に敏感で、地域環境の指標種として重要である。</p>
産地情報	<p>広島市、三原市（本郷）、東広島市（西条、八本松、黒瀬）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

東広島市教育委員会(編)2010. 東広島市の水草—西条町・志和町・高屋町・八本松町—. 108 pp. 東広島市教育委員会, 東広島.

(吉野由紀夫)

サガミトリゲモ(ヒロハトリゲモ) 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Najas chinensis N.Z.Wang

オモダカ目 トチカガミ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】ため池や山間の水田などにまれに生育する沈水性の一年草。</p> <p>【分布】本州~琉球、東南アジアに分布している。</p> <p>【形態】茎はよく分枝し、葉は糸状でやや扁平、長さ1.5~3 cm、幅0.3~0.6 mm、縁に細かい鋸歯がある。花期は7~9月、雌雄同株で、ふつう別の葉腋に付く。種子は長楕円形で、長さ2.5~3 mm。種子表面は六角形の網目模様があり、長さと同幅がほぼ同じ。</p> <p>【近似種との区別】イバラモは葉の幅が1~3 mmと広い。オオトリゲモは葉の長さが3 cm、果実は長さ3.5~4 mmとサガミトリゲモに比べ大きいことで区別される。トリゲモの種子の表面は横に長い長方形の網目模様がある。この仲間の同定には種子が必要で、夏から秋の標本が重要である。</p>
生息・生育状況	<p>ため池に生育するが、きわめて少ない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（河川開発、湖沼開発、土地造成など）</p> <p>生育環境の変化（水質汚濁、農薬汚染、富栄養化、ため池の管理放棄）</p>
特記事項	<p>県内のため池の植物に関する調査が、不足している。</p>
産地情報	<p>庄原市、東広島市（黒瀬）</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(久藤広志・吉野由紀夫)

イトモ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Potamogeton pusillus L.

オモダカ目 ヒルムシロ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】ため池や流水中に生育する沈水植物。</p> <p>【分布】日本全土, 世界の温帯から熱帯に広く分布する。</p> <p>【形態】地下茎が横走り1節おきに水中茎が伸びる。葉は線形, 無柄, 全縁で長さ2~6 cm, 幅0.7~1.5 mm。秋になると枝の先端が長さ1.5~2.5 cmの殖芽となり, 水底に沈んで越冬する。花期は6~8月, 花序はややまばらで, 長さ4~5 cmになる。</p> <p>【近似種との区別】リュウノヒゲモは葉が対生する。ホソバミズヒキモの沈水葉と似ているが, 殖芽が1 cm前後なので区分できる。</p>
生息・生育状況	ため池や水路に生育するが, 水質汚濁や水路の改変工事のため少なくなった。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変(河川開発, 湖沼開発, 土地造成など) 生育環境の変化(水質汚濁, 農薬汚染, 富栄養化, ため池の管理放棄)
特記事項	県内のため池の植物に関する調査が, 不足している。
産地情報	広島市(安佐北区), 三原市(大和), 福山市, 三次市(三良坂), 東広島市(黒瀬, 豊栄), 北広島町(大朝), 世羅町(世羅西)

東広島市教育委員会(編)2010. 東広島市の水草—西条町・志和町・高屋町・八本松町—. 108 pp. 東広島市教育委員会, 東広島.

(久藤広志・吉野由紀夫)

ホンゴウソウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Sciaphila nana Blume

タコノキ目 ホンゴウソウ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】暗い林下の落ち葉の間に生える多年生の腐生植物。その生育地は全国的にごくわずかしか知られておらず, きわめて希少な植物である。</p> <p>【分布】南方系の腐生植物で, 本州(関東以西)・四国・九州・琉球にかけて分布している。</p> <p>【形態】地上茎の径0.5 mm, 高さ3~4 cmの微細な腐生植物で, 退化した鱗片状の葉は茎とともに紫褐色をしている。8月頃茎の上部に雄花, その下部に雌花をつける。</p> <p>【近似種との区別】ホンゴウソウの花柄は細く, 糸状で花より長く3 mm。ウエマツソウの花柄は花より短く2~3 mm。</p>
生息・生育状況	暗い林の下の落葉の間に生える多年生の腐生植物であるため, 落葉が堆積し, 安定した森林を維持する必要がある。宮島町では公園内に確認された。呉市ではアカマツ林内に生育している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変(森林伐採, 土地造成, 道路工事) 生育地の環境変化(踏み付け) このような種は里山の利用が放棄され, 樹林が発達することによって, 生育環境ができてきたと思われる。今後, 新たな産地が確認される可能性がある。
特記事項	単子葉植物としては, もっとも小さい部類に属し発見は困難である。根の中に共生菌の菌糸がはいると, 菌糸は落ち葉などを分解し, 植物体はこれを栄養として成長する。
産地情報	広島市(安佐南区, 安佐北区), 呉市(呉, 安浦, 川尻), 三次市(三次, 吉舎), 東広島市(福富), 廿日市市(宮島)

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

宮崎萌未・佐々木晶子・金行悦子・小倉亜紗美・木下晃彦・中坪孝之 2015. 菌従属栄養植物ホンゴウソウの保全—生育環境の解明と移植—. 保全生態学研究, 20: 213-220.

(吉野由紀夫)

ホソバナコバイモ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Fritillaria amabilis Koidz.

ユリ目 ユリ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】日本固有の多年草で、アマナやカタクリとともに広島を代表する春植物である。</p> <p>【分布】本州（中国地方）・四国・九州に分布する。</p> <p>【形態】鱗茎はくり形で、径7~9 mm くらい、茎は高さ5~15 cm で、上部に対生する葉と3輪生する広線形の葉をつける。花は3月下旬~4月上旬で、茎頂に1個、下向きに白い花をつける。花被片は長さ15 mm くらい、網状斑紋はなく、全縁で、花糸と花柱は平滑である。</p> <p>【近似種との区別】コバイモやコシノコバイモには花被片に網状の斑紋があることから区分される。</p>
生息・生育状況	<p>落葉樹林下や竹林内、あるいは林縁部に群生することが多い。広島県では中・古生層の粘板岩の地域に限定されるようである。生育地は定期的な下刈りなどが行われているようである。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事）</p> <p>生育環境の変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p> <p>安佐北区（安佐町）の寺院近くの生育地は、斜面の崩壊防止工事のため、消失した。</p>
特記事項	<p>県の東部と西部に隔離的に分布する。</p>
産地情報	<p>広島市（安佐北区）、福山市（福山、新市）、府中市、三次市（作木）、廿日市市（佐伯）、安芸太田町（加計、筒賀）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

セトウチホトギス 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Tricyrtis setouchiensis Hir.Takah.

ユリ目 ユリ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州（近畿，中国地方）と四国に分布する多年草。花の形態や根に含まれる成分をもとに1974年に新種として記載された。</p> <p>【形態】高さ30~60 cm になり、下向きの毛がある。花期は8~10月、茎頂と上部葉腋に1~2個つき、花柄に毛が多い。花糸、花柱に紫色の斑点があり、花被片の下部には黄色い着色がある。</p> <p>【近似種との区別】花の各部の色でヤマジノホトトギスから区別される。</p>
生息・生育状況	<p>これまで県内では散発的に記録されている。庄原市、神石高原町では溪谷内の斜面や溪流沿いの植林地に生育していたが、近年の確認例がほとんどない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変、森林伐採が大きな脅威となる。</p> <p>栽培は可能と思われる。</p>
特記事項	<p>県内のこの種群はチュウゴクホトトギスも含め検討が必要とされている（広島県植物誌）。今後、分類学的な研究が進み、この分類群の扱いが変更される可能性もあるが、現時点ではこの型の個体数が減少しているため、要注意種から絶滅危惧Ⅱ類に変更した。</p>
産地情報	<p>広島市、尾道市、三次市、庄原市、安芸太田町、神石高原町</p>

田村 実・高橋 弘 2015. ユリ科. 改訂新版 日本の野生植物1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 168 - 177. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編)2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

キンセイラン 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-③

Calanthe nipponica Makino

キジカクシ目 ラン科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】北海道から九州, チベットに分布し, おもに温帯域に生育する多年草。</p> <p>【形態】地表に小型の球茎がある。葉は広線形から狭披針形で1球茎あたり3~5個あり, 6~7月に長さ15~30cmの花茎を伸ばして, 淡黄緑色の花をまばらに5~12個つける。</p> <p>【近似種との区別】他のエビネ類に比べ葉が細く短い。また, 厚みと光沢があり, 枚数が多い。開花期が, 春咲き性と夏咲き性の中間である。キンセイランは, 葉の形態は似ているが花が紫色で異なり, 中国地方には分布しない。</p>
生息・生育状況	吉備高原面から中国山地にかけての林内で, とくに水はけのよい斜面や苔むした岩が覆っているような場所に生育する。自生地のあるスギ人工林の伐採で自生株が減少している。県西部では, 小さい集団が散発的に見られるが, 個体数は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	自生地のある樹林の伐採, 林道工事などによる生育地の改変, 乱獲が大きな脅威である。長期間の栽培保存は困難。また, 栽培株の植え戻しはできるだけ行わない。
特記事項	—
産地情報	広島市, 庄原市, 安芸太田町, 神石高原町

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ナツエビネ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②, VU-③

Calanthe reflexa (Kuntze) Maxim.

キジカクシ目 ラン科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】本州, 四国, 九州, 朝鮮半島南部, 台湾, 中国東部からヒマラヤに分布し, 冷温帯から暖温帯の樹林に生育する多年草。</p> <p>【形態】地表に球茎がある。葉は, 球茎あたり3~5個あり, 縦じわが多く光沢がない。7~9月, 高さ20~30cmの花茎を伸ばし, その上部に7~15個の淡紫色の花をつける。</p> <p>【近似種との区別】春咲き性種に比べ, 葉の縦じわが多く, 光沢がない葉質は独特である。果実が熟するころの花茎は細く, 青味がかかった紫色である。キンセイランと間違えやすいが, 開花期が異なる点や葉の大きさと質で判断する。</p>
生息・生育状況	中間樹林帯からブナ帯にかけての樹林下に生える。とくに空中湿度が高く, 水はけのよい場所に生育し, 倒木上や地上数メートルの高さの樹幹に着生していることもある。樹林の伐採や開発行為などの影響や, 採取されるために個体数が減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	森林伐採, 土地の改変を伴う工事や採集が脅威となる。長期間の栽培保存は困難。栽培株はできるだけ植え戻さない。
特記事項	最近の図鑑では種の範疇が見直され, 学名が変更されている。
産地情報	広島市, 呉市, 福山市, 三次市, 庄原市, 廿日市市, 安芸太田町, 北広島町

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

サルメンエビネ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-③

Calanthe tricarinata Lindl.

キジカクシ目 ラン科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】北海道から九州, 朝鮮半島, 台湾, 中国からヒマラヤに分布し, 冷温帯林に生える多年草。</p> <p>【形態】球茎は球状, 大きな葉を 3~4 個つける。葉柄は幅広く葉身に連続的に移行する。高さ 30~50 cm の花茎上部に 7~15 個の花をまばらにつける。がく片と側花弁は緑または黄褐色, 唇弁は紫褐色~朱紅褐色で中央基部にふぞろいに隆起したしわがある。</p> <p>【近似種との区別】花がない場合, エビネに比べると葉が大きく葉柄が幅広い。キエビネとは葉の数が多く, 葉身が細長く, 葉柄が幅広いなどで異なっている。ナツエビネとは, 葉の質や表面の光沢, 前年の花茎の状態などで区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>ほとんどはブナ帯の自然林, 二次林またはスギ人工林内に生育しているが, まれに標高の低い場所に生育している場合がある。森林の伐採や林道工事などで減少するほか, 採取圧にさらされている。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>森林伐採, 土地を改変するような工事, 乱獲が脅威となる。</p> <p>長期間の栽培保存は困難。栽培株はできるだけ植え戻さない。</p>
特記事項	<p>今回調査で, 東広島の植林地で生育を確認したが, 本種の分布域から推測して人為的な栽培か逸出の可能性が高い。</p>
産地情報	<p>広島市, 庄原市, 廿日市市, 安芸太田町, 北広島町</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ユウシュンラン 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume var. *subaphylla* (Miyabe et Kudô) Ohwi

キジカクシ目 ラン科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】北海道から九州, 朝鮮半島に分布し, 樹林下に生えるややまれな多年草。</p> <p>【形態】茎は細く, 高さは 10 cm 内外で退化した鱗片葉か, 2 cm 以下の小さい葉を数個つける。5~6 月, わずかに開く白色花を茎の上部に 1~数個つける。</p> <p>【近似種との区別】ギンランやクゲヌマラン, ササバギンランとは, 植物体や葉の大きさ, 花の開き方などで区別する。</p>
生息・生育状況	<p>県内では広範囲に分布するが自生地は断続的で, 冷温帯樹林下から暖温帯上部の林床に生える。かなり湿潤な林縁, スギ植林地, 乾燥気味の尾根道などさまざまな環境で確認されているが, 生育数は少ない。森林伐採や登山者の踏みつけなどによる環境の悪化で生育数が減少している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変, 森林伐採が大きな脅威となる。</p> <p>長期間栽培することは困難。移植も難しいと思われる。</p>
特記事項	<p>図鑑によっては, ギンランの変種ではなく独立種として扱い, 学名が変更されている場合がある。</p>
産地情報	<p>広島市, 庄原市, 安芸太田町, 神石高原町</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178 - 231. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

キンラン 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Cephalanthera falcata (Thunb.) Blume

キジカクシ目 ラン科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】本州から九州, 朝鮮半島, 中国に分布し, 暖温帯の疎林中に生える多年草。</p> <p>【形態】茎は高さ 30~70 cm, 線状に隆起した稜がある。葉は広披針形で 5~8 個, 弱い光沢がある。4~6 月, 茎頂部に 3~12 個の黄色く半開する花をやや頭状につける。</p> <p>【近似種との区別】同属他種とは花色で区別できる。花がない場合は, 茎に明瞭な稜線があることや葉の質が比較的厚いことなどで区別する。</p>
生息・生育状況	沿岸部から中国山地にかけて広く分布し, 明るい林床や林縁部に自生している。とくに沿岸部や県中央部では開発による自生地の消滅, 里山の管理放棄による環境悪化などのために生育個体数が著しく減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変, 植生遷移による環境悪化などが脅威となる。長期間の栽培保存や移植の可否については不明。
特記事項	—
産地情報	広島市, 呉市, 三原市, 福山市, 三次市, 庄原市, 東広島市, 廿日市市, 熊野町, 安芸太田町, 北広島町, 大崎上島町, 世羅町, 神石高原町

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ヒメノヤガラ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Chamaegastrodia sikokiana Makino et F.Maek.

キジカクシ目 ラン科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】岩手県以南の本州, 四国, 九州, 朝鮮半島南部, 中国からヒマラヤに分布する菌従属栄養の多年草。暖温帯から中間温帯の林床に生えるが希少である。</p> <p>【形態】地下に分枝した根茎があり, 黄褐色または赤褐色で高さ 10~20 cm の茎をのばす。茎には鱗片状に退化した, 茎と同色の葉が数個互生する。花は 7~8 月, 茎に沿って上向する花柄の先端に横向きに咲く花を 5~10 個つける。</p> <p>【近似種との区別】小型のオニノヤガラやムヨウラン類とは, 花の形や地下部の形態で区別できる。タシロランは, 生育環境や植物体の色が異なる。</p>
生息・生育状況	県内では, 海拔高度 400~900 m にある落葉広葉樹林, またはスギ人工林の林床に生える。県の北西部, 北部から記録があり, 近年東部でも生育が確認された。森林の伐採や自生地への立ち入りによって生育数が減少していると思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	森林伐採, 土地改変, 人の立ち入りなどが脅威となる。栽培は困難。移植の可否は不明。菌従属栄養を考慮した保全策が必要。
特記事項	グリーンリストでは学名が変更されているため, 前回とは学名が異なる。
産地情報	庄原市, 廿日市市, 安芸太田町, 神石高原町

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

トケンラン 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-③

Cremastra unguiculata (Finet) Finet

キジカクシ目 ラン科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】北海道, 本州, 四国, 九州, 韓国, 中国に分布し, 亜寒帯から冷温帯の落葉樹林下に生える多年草。全国的に採取圧が高く, 自生個体が減少している。</p> <p>【形態】地下に, 細い地下茎でつながった球茎があり, その先端に2葉を生じる。葉は長さ10 cm前後の長楕円形でしばしば紫色の小点がある。5~6月, 高さ30~40 cmの花茎上部に数花がまばらにつく。花は, 黄褐色で白色の唇弁が目立つ。</p> <p>【近似種との区別】同属のサイハイランは大きな1葉をつけ, 花の形態もまったく異なる。別属のコケイランは葉が細い線形で, 花が小さな黄色で斑点模様がない。</p>
生息・生育状況	<p>おもに中国産地のブナ帯域の落葉樹林下に生育する。分布域は広いが自生地, 生育個体数ともに少ない。登山道沿いの生育地では踏圧による環境悪化が進行し, また採集圧にもさらされている。県東部や西部では, まれに中間樹林帯の常緑樹林下に生育し, 貴重な自生地となっているが, 近年採集によって個体数が減少している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>森林伐採, 乱獲, 登山道外への不用意な立ち入りなどが脅威となる。栽培保存や移植の可否については不明。</p>
特記事項	<p>初夏の開花後に地上部が枯れ, 秋に新葉を展開する。登山者の多い夏に地上部がないので不用意な踏みつけに会う危険性が高い。</p>
産地情報	<p>庄原市, 安芸太田町, 北広島町, 神石高原町</p>

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

タシロラン 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Epipogium roseum (D.Don) Lindl.

キジカクシ目 ラン科

環境省: NT

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】関東以西の本州から九州, 琉球, 熱帯アフリカ, 熱帯から亜熱帯アジア・オセアニアに広く分布し, 暖温帯から熱帯の常緑樹林下に生える菌従属栄養の地生ラン。近年, 全国的に新しい自生地が報告されている。</p> <p>【形態】地下に楕円形の根茎がある。茎は白黄色で開花期に出て高さ20~50 cmになり, 薄い膜質の鞘状葉を数個つける。5~7月(県内では7月), 多数の白色花を総状につける。</p> <p>【近似種との区別】同様の環境には間違えるような近似種はない。</p>
生息・生育状況	<p>広島湾沿岸の常緑広葉樹林内で1997年に初めて生育が確認された。この自生地は道路沿いで, ごみの投げ捨てや集積した落ち葉の廃棄場所にされていたため生育環境の悪化が続き, 近年発生していない。その後広島市と呉市で新たな自生地が発見された。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>ごみの不法投棄など, 環境悪化や人の立ち入りが脅威となる。一時的な栽培は可能。菌従属栄養を考慮した保全策が必要。</p>
特記事項	<p>同一場所での発生数は不安定であるが, 全国的に新産地が報告され, 県内でも生育適地と思われる環境が増加していることから絶滅危惧Ⅱ類に変更した。</p>
産地情報	<p>広島市, 呉市</p>

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

吉野由紀夫・久藤広志 2013. 広島県呉市のタシロラン (*Epipogium roseum*)とその生育環境. 比婆科学, 247: 27-29.

(世羅徹哉)

ムカゴソウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-③

Herminium lanceum (Thunb. ex Sw.) Vuijk

キジカクシ目 ラン科

環境省: EN

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】北海道南西部から琉球、熱帯アジア、ニューギニアに分布し、亜寒帯から熱帯のやや湿った草地に生える多年草。</p> <p>【形態】地下に肥厚した楕円状球形の塊根があり、茎は細く高さは20~45 cm。葉は線形または広線形で3~5個あり、長さ8~20 cm。花期は6~8月、大きさ1 cm弱で淡緑色の花を茎の上部に密生する。</p> <p>【近似種との区別】オオヤマサギソウ、オオバノトンボソウ、トンボソウなどとは葉が細く長いこと、また、花が小さく密につき、唇弁が深く切れ込むことで明瞭に区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>県内では、吉備高原面から中国山地にかけての広い範囲で記録されているが、自生地は断続的で個体数は少ない。管理放棄による草地の減少などのため、県中央部から東部の吉備高原面の自生地では絶滅した可能性がある。現在は、山焼きなどで管理された中国山地沿いの草原でまれに見られる。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変、草原の消失、過度の立ち入りが脅威となる。</p> <p>栽培保存や移植の可否は不明。</p>
特記事項	<p>前回調査で自生が確認された安芸太田町では、個体数が著しく減少し、庄原市の自生地では近年確認されていないなど、急激に減少していることから絶滅危惧Ⅱ類に変更した。</p>
産地情報	<p>庄原市、東広島市、廿日市市、安芸太田町、世羅町、神石高原町</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ムヨウラン 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Lecanorchis japonica Blume

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】本州(東北地方南部以南)、四国、九州、朝鮮半島南部、台湾、中国に分布し、暖温帯から亜熱帯の樹林下に生える菌従属栄養の地生ラン。</p> <p>【形態】地下に根茎があり、開花時に出る地上茎は淡褐色、鞘状の苞葉を数個付け高さ30~40 cm。花期は5~6月、茎の上方に淡黄色の花を数個つける。花色には変異が多い。ラッパ状で平開しない。</p> <p>【近似種との区別】変種のホクリクムヨウランは子房に突起があり、花柄が茎から離れて開出し、花が紫褐色であることなどで区別する。</p>
生息・生育状況	<p>吉備高原面のシラカシ林から自生の報告が多いが、広島市や安芸太田町のブナ帯の樹林でも観察されている。また、近年沿岸部の二次林内からも自生の報告がある。他方、安芸高田市の自生地では、工事やニホンジカの食害のために生育環境が大きく変化し、発生しなくなった。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>森林伐採、土地改変、森林内の環境悪化が脅威となる。</p> <p>栽培は困難と思われる。菌従属栄養を考慮した保全策が必要。</p>
特記事項	—
産地情報	<p>広島市、福山市、府中市、三次市、庄原市、安芸高田市、安芸太田町、神石高原町</p>

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

ホクリクムヨウラン 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Lecanorchis japonica Blume var. *hokurikuensis* (Masam.) T.Hashim.

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】本州，四国，九州，琉球に分布し，ムヨウランと同様の環境に生える菌従属栄養の地生ラン。ムヨウランの変種とされる。</p> <p>【形態】分枝する地下茎があり，6～7月に高さ30～40cmの茎を出し，上部に数個の花をつける。花柄は茎からほぼ直角方向に開出し，先端に下向きに花を付ける。花は平開せず，紫褐色で，子房表面に微細な角状突起がある。</p> <p>【近似種との区別】ムヨウランによく似るが，花柄が茎に対して直角に近くなること，花色が暗紫色で，子房表面に微細な突起があることなどで区別される。</p>
生息・生育状況	<p>県内では，吉備高原面のシラカシ林やアラカシ林内の薄暗い林床に生える。ムヨウランよりもまれである。一部の自生地は工事の影響で環境が変化し，年によっては発生しなくなっている。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>森林伐採，環境の悪化，人の立ち入りなどが脅威となる。</p> <p>栽培や移植についての可否は不明。菌従属栄養を考慮した保全策が必要。</p>
特記事項	—
産地情報	三原市，三次市

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

ヒメフタバラン 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Neottia japonica (Blume) Szlach.

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】本州，四国，九州，琉球に分布し，暖温帯の樹林下に生える多年草。葉の形や模様，花の色に変異があって品種に分けられている。</p> <p>【形態】茎は直立して高さは5～30cm，断面は四角形で2葉をつける。葉は卵状三角形から楕円形，長さ1～2cm。花は3～5月，紫色を帯びるかまたは緑色，細い唇弁が2裂する。</p> <p>【近似種との区別】アオフタバランは冷温帯樹林に生えて夏に開花し，花色が緑色で，唇弁の先が円形なことで区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>県の西部と東部内陸の吉備高原面に分かれて自生地があるが，その数は少ない。モミ，ツガ林やヒノキ植林内に生育している。宮島には比較的多数が広範囲に生育していたが，その一部は台風で倒れた樹木を集積する場所になったため消滅した。他の自生地でも環境が悪化し，激減している。島外の自生地ではイノシシの掘り返しの被害や乱獲の危惧にさらされている。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>自生地の破壊，生育環境の悪化が脅威であり，乱獲も危惧される。</p> <p>一時的な栽培維持は可能だが，移植の可否は不明。</p>
特記事項	<p>グリーンリストでは学名が変更されている。新しい図鑑でも同様の扱いになっている。</p>
産地情報	広島市，廿日市市，神石高原町

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

ヨウラクラン 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Oberonia japonica (Maxim.) Makino

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】本州（宮城県以南）、四国、九州、琉球、韓国、台湾、中国に分布する。おもに暖温帯樹林の樹木に着生または岩上に生育する小型の多年草。</p> <p>【形態】茎は長さ1~4 cmで多数束生して下垂する。葉は扁平、袴状に2列に互生。花期は4~6月、茎頂から長さ2~8 cmの花茎を出し、淡黄褐色の小花を密に輪生して円柱状（ひも状）になる。</p> <p>【近似種との区別】オオバヨウラクランは全体に大型で、葉の幅が5~8 mmと広い。広島県には分布しない。</p>
生息・生育状況	<p>県西部と中部から自生記録がある。溪流沿いや社叢の樹林内で樹木に着生している。県内の生育数は少なく、自然災害によって生育地の森林が消滅した場所もある。現在自生している場所でも、人手が届くところは採取跡があり、減少が著しい。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>森林伐採や乱獲が脅威となる。栽培や移植は可能と思われる。</p>
特記事項	—
産地情報	<p>広島市、廿日市市、安芸高田市、安芸太田町</p>

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

サギソウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Pecteilis radiata (Thunb.) Raf.

キジカクシ目 ラン科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】北海道から九州、朝鮮半島、中国東部、極東ロシアに分布し、亜寒帯から暖温帯の湿地に生育する多年草。</p> <p>【形態】地下に楕円状球形の塊根があり、茎は高さ20~40 cm、下方に長さ5~10 cmの線形の葉を数個つける。7~8月に白色で大型の唇弁と長い距を持った花を1~3個つける。</p> <p>【近似種との区別】オオミズトンボやダイサギソウは、全体が大型で、サギソウより小型の白色花を多数穂状に付ける。県内には分布しない。ミズトンボは県内の同様な環境に生育するがサギソウのような白く大きな唇弁がない。</p>
生息・生育状況	<p>県内ほぼ全域に分布し、湿地だけでなく水田の用水路沿いなどでも見られるが、自生地だった大きな湿地が消滅するなど減少が続いている。また、県中央部ではニホンジカの食害により、生育が制限されている場所がある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>自生地である湿地の消滅、乱獲が大きな脅威となる。ニホンジカの食害も減少要因になっている。産地によって開花期が異なるなど遺伝的な分化があるので、不用意な移植、栽培品の植え戻しは行わない。</p>
特記事項	<p>属の扱いが変わり、学名が変更されている。</p>
産地情報	<p>広島市、呉市、竹原市、三原市、尾道市、福山市、府中市、三次市、庄原市、大竹市、東広島市、廿日市市、安芸高田市、熊野町、北広島町、世羅町、神石高原町</p>

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

ミズチドリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Platanthera hologlottis Maxim.

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】南千島, 北海道から九州, 朝鮮半島, 中国東部, シベリアに分布し, 山間の日あたりのよい湿地に生える多年草。ジャコウチドリと呼ばれることがある。</p> <p>【形態】地下には水平に伸びる肥厚した根があり, 茎は高さ 50~90 cm になる。葉は線状披針形, 5~12 個つく。花径は約 1 cm, 白色で芳香があり, 7~8 月に多数が総状につく。</p> <p>【近似種との区別】サギソウの花は同じ白色だが大きく, 少ない。ミズトンボは緑色花で, 形も異なる。外来種のアメリカモジズリとは, 花を正面から見た場合, 本種では側萼片が左右に開き, 唇弁が舌状に下垂していることで区別できる。</p>
生息・生育状況	吉備高原面から中国山地にかけての湿地や休耕地に生育するが, 開発や植生遷移により自生地が減少している。また, 乱獲によっても減少した。
存在を脅かす要因・保全の留意点	自生地である湿地の消滅, 乱獲が脅威となる。栽培, 移植は可能だが, 栽培品を植え戻すことはできるだけ避ける。
特記事項	—
産地情報	庄原市, 廿日市市, 安芸太田町, 北広島町

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

マイサギソウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Platanthera mandarinorum Rchb.f. var. *neglecta* (Schltr.) F.Maek.

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】北海道から九州, 朝鮮半島, 中国に分布し, 冷温帯から暖温帯の日あたりのよい草地に生える多年草。ヤマサギソウの変種。</p> <p>【形態】地下には肥厚した紡錘形の根が少数あり, 茎は高さ 20~40 cm でやや不明瞭な縦皺がある。最下の1葉が大きく, 線状長楕円形で, その上には長披針形の小型の葉が数個ある。花期は5~7月, 花径は2~3 cm, 黄緑色で数個が総状につき, 距が長く上方に向く。</p> <p>【近似種との区別】狭義のヤマサギソウやハシナガヤマサギソウは距が水平またはやや下方に伸びることで区別する。</p>
生息・生育状況	世羅町では, 古いため池の堰堤や管理された草地に生育している。他の自生地は中国山地稜線やその近くの草原である。いずれも個体数は少なく, 減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変, 遷移による環境悪化, 乱獲が脅威となる。栽培保存, 移植の可否は不明。
特記事項	今後, 世羅町などにニホンジカが侵入して食害が発生した場合は危険度が高まる。最近の図鑑では学名が異なっている。
産地情報	庄原市, 安芸太田町, 北広島町, 世羅町

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

トンボソウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Platanthera ussuriensis (Regel et Maack) Maxim.

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】南千島, 北海道から九州, 朝鮮半島, 中国, 極東ロシアに分布し, 冷温帯から暖温帯の林床に生える多年草。</p> <p>【形態】茎は高さ 15~35 cm, 下部に長楕円形で長さが 8~13 cm の 2 葉をつけ, 上には数個の鱗片葉がある。花は大きさ数ミリ, 淡緑色で 7~8 月に約 10 個つく。細長い唇弁は基部で 3 裂し, 小さい側裂片がある。</p> <p>【近似種との区別】ノヤマトンボ (オオバノトンボソウ) は, 茎に縦襞がある。オオヤマサギソウは, 植物体も花も本種より大きく, 唇弁が舌状で 3 裂しない。</p>
生息・生育状況	<p>県内で確認されている自生地は, 海拔高度が 500~800 m の溪谷内や落葉樹林内の湿った場所で, しばしば群生している。安芸太田町の自生地は登山道沿いにあり, 踏み付けなどで環境が悪化している。庄原市の自生地では水害で激滅した。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変, 森林の伐採による環境の悪化などが大きな脅威となる。栽培保存は困難と思われる。</p>
特記事項	<p>最近の図鑑ではツレサギソウ属に分類され, 学名が変更されている。</p>
産地情報	<p>庄原市, 安芸太田町, 北広島町</p>

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

トキシソウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Pogonia japonica Rchb.f.

キジカクシ目 ラン科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】千島, 北海道から九州, 朝鮮半島, 中国, 極東ロシアに分布し, 亜寒帯から暖温帯の日あたりのよい湿地に生える多年草。</p> <p>【形態】地下には横に伸び, 細く硬い根茎がある。茎は高さ 10~30 cm, 中央付近に線状長楕円形の 1 葉をつける。花は 5~7 月, 紅紫色でがく片は半開し, 茎の先端に 1 個つく。花色や花卉の形に変異があり, 品種として区別されている。</p> <p>【近似種との区別】ヤマトキシソウは草地に生え, 花が小さく, がく片がほとんど開かない。</p>
生息・生育状況	<p>県内のほぼ全域で自生の記録があるが, 湿地の減少, 生育環境の悪化, 過度の採取によって生育数が激滅している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>湿地の消滅, 乱獲が脅威となる。栽培保存や移植は可能だが, 栽培品の植え戻しは極力行わない。</p>
特記事項	<p>—</p>
産地情報	<p>広島市, 呉市, 三原市, 福山市, 府中市, 三次市, 庄原市, 東広島市, 廿日市市, 安芸高田市, 府中町, 熊野町, 安芸太田町, 北広島町, 世羅町, 神石高原町</p>

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

ヤマトキノウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Pogonia minor (Makino) Makino

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】北海道から九州, 台湾, 朝鮮半島, 中国南部に分布し, 日あたりのよい草地に生える落葉性の多年草。</p> <p>【形態】茎は高さ 10~20 cm, 中央よりやや上側に長楕円形の 1 葉をつける。6~8 月, 茎の先端に大きさ約 1.5 cm の淡紅色または白色の花を頂生する。花は斜上し, ほとんど開かない。</p> <p>【近似種との区別】トキノウとは, 生育環境, 花の大きさ, 色や開き方が異なる。</p>
生息・生育状況	沿岸部低地や島嶼部を除くほぼ全域から自生記録がある。生育適地となる草原の減少や環境悪化, 過度の採取などのため生育数が減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	自生地の消滅, 乱獲が脅威となる。 長期間の栽培保存は困難。移植の可否は不明。
特記事項	—
産地情報	広島市, 三原市, 尾道市, 府中市, 三次市, 庄原市, 東広島市, 廿日市市, 安芸太田町, 北広島町, 世羅町, 神石高原町

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

ウチョウラン 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-③

Ponerorchis graminifolia Rchb.f. var. *graminifolia*

キジカクシ目 ラン科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】本州, 四国, 九州, 朝鮮半島に分布し, 暖温帯のやや湿った岩壁上に生える多年草。溪谷内では樹木に着生している場合もある。</p> <p>【形態】地下には楕円状球形の塊根がある。茎は細く, 花茎とともに高さ 10~20 cm になり, 線形の葉を 2~3 個つける。花期は 6~8 月, 淡紅紫色の花を数個つける。距は太く長い。</p> <p>【近似種との区別】近縁のヒナチドリは, 幅広い葉を 1 枚つける。また, 県内には分布しないがサツマチドリ, クロカミランやアワチドリなどの変種は距が細く短い点が異なる。</p>
生息・生育状況	県内では西部に多く, 中部, 東部では少ない。中間樹林帯の崖地にある岩棚などに生育しているほか, 溪谷では, 樹木に着生していることもある。一時全国的に乱獲され, 県内でも自生数が激減した。近年は人工交配種の出現で野生株に対する採集圧は低くなっているが, 減少傾向は続いている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変や乱獲が脅威となる。 栽培は可能だが, 栽培品を安易に植え戻さない。
特記事項	—
産地情報	広島市, 三原市, 大竹市, 廿日市市, 安芸太田町, 北広島町, 神石高原町

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

コキンバイザサ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Hypoxis aurea Lour.

キジカクシ目 キンバイザサ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】暖地の山地に生える多年草。中国地方ではいくつかの地域で確認されていたが、県内からは報告がなかった。近年、西中国山地の草原で生育が確認された。</p> <p>【分布】本州（宮城県以南）・四国・九州・琉球に分布し、中国大陸南部・台湾・マレーシア・インドに分布する。</p> <p>【形態】根茎は塊状で径6～10 mm, 短い茎に数個の葉が束生する。葉は線形で長さ10～25 cm, 幅は広いところで2～4 mm。全体に長い毛が多い。平行脈があり, 全縁。花期は4～6月。花茎は5～10 cm, 葉腋から出て細く, その先にふつう1個まれに2個の花をつける。花被片は6個, 披針状長楕円形で, 長さ4～6 mm。黄色で平開する。花全体に長い毛がある。雄しべは6個, 葯は花糸より短い。果実は長楕円形, 長さ8～10 mm。種子は球形で黒褐色, 表面に小粒状突起が密生する。</p> <p>【近似種との区別】キンバイザサは葉の幅が1～2 cmになる。また花被に長い筒部があることから区別される。</p>
生息・生育状況	<p>海拔約1,000 mの高原の草原に生育する。個体数は少ない。三次市の生育地は海拔が低い。県内の分布はまだよく判っていない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（草地開発, 土地造成, 道路工事） 生育環境の変化（踏み付け, 自然遷移） 園芸採取</p>
特記事項	<p>広島県では2008年に初めて生育が確認された。中国地方では鳥取県(2012)が絶滅危惧Ⅰ類, 島根県(2013)が絶滅危惧Ⅱ類, 岡山県(2010)が準絶滅危惧, 山口県(2018)が絶滅危惧ⅡB類に選定している。</p>
産地情報	<p>県西部・中部</p>

佐久間智子 2013. 深入山火入れ草地の維管束植物. 高原の自然史, 15: 1-19.

(吉野由紀夫)

ヒオウギ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Iris domestica (L.) Goldblatt et Mabb.

キジカクシ目 アヤメ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州から沖縄, 朝鮮半島, 中国, 東南アジア, インドに分布し, 山地の草原などに生え, しばしば観賞用に栽培される多年草。</p> <p>【形態】剣形の葉が扇状に並ぶ。葉は, 長さ30～50 cm, 幅2～4 cmで先はとがる。茎は高さ50～100 cmになり, 上部で2～3分枝し, 枝の先端に2～3花をつける。花期は8～9月。1花の大きさは3～4 cm, 花被片は6個あり橙色で内面に暗赤色の斑点がある。</p> <p>【近似種との区別】逸出しているヒオウギズイセン, ヒメヒオウギズイセンは本種に比べて葉が細く柔らかく, 花が穂状に多数つくので区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>沿岸部の堆積岩地域や県中央部から北東部にかけて比較的多数の生育記録があるが, 樹林への遷移, 生育地の埋め立てなどのために消滅した場所が多い。また, 耕作地や人家近くには逸出とみなされる個体が生育している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変, 植生遷移等の環境悪化が脅威となる。 栽培は可能。</p>
特記事項	<p>—</p>
産地情報	<p>呉市, 三原市, 福山市, 庄原市, 大竹市, 安芸太田町, 世羅町, 神石高原町</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編)2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

田中伸幸 2015. アヤメ科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 233-236. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ヒメシヤガ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Iris gracilipes A.Gray
キジカクシ目 アヤメ科

環境省: NT
広島県 2011: VU
広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】ブナ帯より下部の山地のやや乾いた林床などに生育する多年草。</p> <p>【分布】北海道（西南部）・本州・四国・九州（北部）に分布し、西日本では分布が限られている。日本の固有種。</p> <p>【形態】シヤガに似ているがやや小型で、花は淡紫色、花被片は全縁で、外花被片の中央は白く、紫色の脈と黄斑がある。花茎は細長く、高さ 30 cm 以下。花期は 5～6 月。葉は光沢がなく淡緑色で細く、冬に枯れる。</p> <p>【近似種との区別】シヤガに似ているが、葉の幅が 5～15 mm と狭く、葉に光沢がなく、冬に枯れることなどで区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>これまで知られていた大朝の産地は、寺院の跡地であり、植栽されたものが野生化した可能性もあると指摘されていた。新産地は、山地頂上付近の林下と滝の近くの岩壁であるから、自生状態にあるといえる。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事） 生育地の環境変化（自然遷移） 園芸採取</p> <p>分布域の西限に近いこともあって、生育地の環境が急変すると絶滅する恐れがある。花が小さく可憐であることもあって、全国的に盗掘により生育地が消滅している。</p>
特記事項	<p>よく結実し、実生栽培しやすい。ササなどの刈り取りを行うと一次的に増殖するが、人為的に増殖を図るより現在の生育環境を保持することが望ましい。</p>
産地情報	<p>庄原市（口和、高野）、北広島町（芸北、大朝）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(日朝直樹・吉野由紀夫)

カキツバタ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Iris laevigata Fisch.
キジカクシ目 アヤメ科

環境省: NT
広島県 2011: VU
広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】初夏、青紫色の美しい花をつける湿地生の多年草。</p> <p>【分布】北海道から九州、朝鮮半島、中国大陸（東北部）、シベリア東部の水湿地に広く分布する。最近では全国的に少なくなった。</p> <p>【形態】多年草。葉は長さ 30～70 cm、幅 2～3 cm、中脈はない。初夏、高さ 40～70 cm の花茎が立ち、その先に 2～3 花をつける。花は濃紫色で、外花被片の下部は白から淡黄色である。時に、秋になっても咲いているものがある。</p> <p>【近似種との区別】ノハナショウブは葉の幅が狭く(0.5～1.2 cm)、中脈が明瞭である。アヤメは乾燥した所に生え、外花被片の下部は黄色で、青紫色の網目模様がある。</p>
生息・生育状況	<p>牧野（1943）によれば、昭和 8 年頃は八幡高原の湿原一面に自生していたという。かつては八幡高原の一群落が県天然記念物に指定されていたが、戦後の農業開発によって自生地が破壊消失され、指定が解除された。産地は国定公園境界付近にあるが、本来の野生か栽培されたものか分からない所もある。土地開発やヨシやヌマガヤなどの繁茂、乱獲などで激減した。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（湿地開発、耕地整理、土地造成など） 生育環境の変化（自然遷移、湿地の乾燥、樹林化など） 園芸採取</p> <p>湿原の開発、乱獲、他の植物の繁茂による被圧で減少しつつある。一方、栽培品の逸出、移植で自生か否か分からないものが少なくない。</p>
特記事項	<p>安芸高田市の産地は栽培品の逸出と考えられる。</p>
産地情報	<p>三原市（大和、久井）、大竹市、安芸高田市（吉田）、安芸太田町（戸河内）、北広島町（芸北）</p>

牧野富太郎 1943. 植物記. 415 pp. 桜井書店, 東京.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(久藤広志・吉野由紀夫)

エヒメアヤメ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Iris rossii Baker

キジカクシ目 アヤメ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】低山地のアカマツ林や草地に生える小型のアヤメ属の多年草。</p> <p>【分布】岡山県以西の本州・四国・九州・朝鮮半島・中国大陸東北部に分布する。大陸要素の植物である。</p> <p>【形態】多年草。葉は細く、長さ20~30 cm、縦じわがあつて一見スゲの葉のようである。4~5月、1茎に1花をつける。花は径4cm内外、青紫色で、外花被片の根元は白黄色。内被片は立ち、全部青紫色である。果実は球形で径8 mm内外、多数の種子ができ、アリによって散布される。</p> <p>【近似種との区別】アヤメ(葉30~50 cm、花径8 cm内外)に比べて小形、ヒメシヤガは、1茎に2~3花つき、淡紫色、外花被片の中央部にトサカ状突起がある。</p>
生息・生育状況	<p>低山地の疎開したアカマツ林や草地に生え、県内では吉備高原面を中心に点々と分布するが、しだいに減少しつつある。陽光を好むので、生育地がアカマツ林の場合は上層の木や草を除いて疎開させる必要がある。かつては広島市安芸区船越にも生育していたようであるが、現在は見られない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変(草地開発、土地造成、道路工事)</p> <p>生育環境の変化(草地の利用放棄、自然遷移)</p> <p>園芸採取</p> <p>国の天然記念物に指定されている三原市沼田西町では、よく保護されているが、ほかでは、土地開発、上層植物の繁茂、乱獲などの脅威にさらされている。三次市では市の天然記念物に指定し保護している。</p>
特記事項	<p>移植は困難である。原田一郎(1985)は種子からの繁殖に成功している。福山市天然記念物(宇山のエヒメアヤメ及びその自生地、春日町大字宇山)</p>
産地情報	<p>主として吉備高原面</p>

原田一郎 1985. 誰故草の復活. 209 pp. 中国新聞社, 広島.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

ヤマトミクリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Sparganium fallax Graebn.

イネ目 ガマ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】湖沼、ため池、河川などに群生する多年生の抽水植物。</p> <p>【分布】本州、四国、九州、アジア東部に分布する。</p> <p>【形態】茎は立ち高さ30 cm~1 mほどになり、葉は幅1~2 cmで3稜形。茎の上部の葉腋から枝を出し、この枝の下部に雌性頭花、上部に雄性頭花をつける。雌性頭花の下端のものには長さ約3 cmになる柄がある。</p> <p>【近似種との区別】ナガエミクリは雌性頭花の下端のものには長さ約3 cmになる柄があるので他種と区分できる。また、ヒメミクリは1~3花序をつけるが、ナガエミクリは茎に1花序をつける。</p>
生息・生育状況	<p>県内のため池や水田の溝、河川にごくまれに生育し、個体数も少ないうえ、生育地も減少している。広島県内のヤマトミクリの分布、生育状況はほとんどわかっていない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変(河川開発、湖沼開発、土地造成など)</p> <p>生育環境の変化(水質汚濁、農薬汚染、自然遷移)</p>
特記事項	<p>せら夢公園の湿地で保全されている。</p>
産地情報	<p>三原市、福山市(新市)、庄原市(高野)、東広島市(黒瀬、豊栄)、北広島町、世羅町(世羅、甲山)</p>

黒瀬町史編さん委員会(編) 2003. 黒瀬町史 環境・生活編. 772 pp. 黒瀬町.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(久藤広志・吉野由紀夫)

ナガエミクリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Sparganium japonicum Rothert

イネ目 ガマ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】湖沼, ため池, 河川などに群生する多年生の抽水植物。</p> <p>【分布】本州, 四国, 九州からアジア東部に分布する。</p> <p>【形態】茎は立ち, 高さが 30 cm~1 m ほどになる。葉は幅 1~2 cm で, 3 稜形。花序は上側に 4~8 個の雄性頭花が, 下側に 3~6 個の雌性頭花がつく。小さな果実の集まった集合花がクリのイガに似ていることから実栗(ミクリ)という。</p> <p>【近似種との区別】花茎が分岐しない点で, ミクリやヒメミクリと区別できる。また, 下の方の雌性頭花に柄があるのが, 本種の特徴である。</p>
生息・生育状況	<p>県内のため池や水田の溝, 河川にごくまれに生育し, 個体数も少ないうえ, 生育地も減少している。広島県内のナガエミクリの分布, 生育状況はほとんどわかっていない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変(河川開発, 湖沼開発, 土地造成など)</p> <p>生育環境の変化(水質汚濁, 農薬汚染, 富栄養化, 自然遷移)</p>
特記事項	—
産地情報	<p>三原市, 三次市(吉舎, 三良坂), 庄原市(東城), 東広島市(西条, 八本松, 黒瀬, 豊栄), 安芸高田市(吉田), 北広島町, 世羅町(世羅西)</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(久藤広志・吉野由紀夫)

ヒメミクリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Sparganium subglobosum Morong

イネ目 ガマ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】湖沼, ため池, 河川などに群生する多年生の抽水植物。</p> <p>【分布】北海道, 本州, 四国, 九州, 琉球, 朝鮮半島, 中国大陸(北部)に分布する。</p> <p>【形態】地下茎は横走り, 茎は高さ 30~50 cm, 上部に 1~3 花序をつける。下部の葉は立ち, 茎よりも長く, 線形。幅 2~5 mm, 裏面に稜がある。花期は 6~8 月, 頭花は腋生, 1 花序に雌頭花は 1~3 個まばらにつけ, 柄がない。雄頭花は 2~7 個まばらにつける。</p> <p>【近似種との区別】ナガエミクリやミクリは葉の幅が 4~12 mm と広いので区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>県内のため池や水田の溝, 河川にごくまれに生育し, 個体数も少ないうえ, 生育地も減少している。広島県内のヒメミクリの分布, 生育状況はほとんどわかっていない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変(河川開発, 湖沼開発, 土地造成など)</p> <p>生育環境の変化(水質汚濁, 農薬汚染, 富栄養化, 自然遷移)</p>
特記事項	—
産地情報	<p>府中市(上下), 庄原市(庄原), 東広島市(西条, 八本松, 河内), 北広島町(芸北, 大朝)</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

角野康郎 2014. 日本の水草. 326 pp. 文一総合出版, 東京.

(久藤広志・吉野由紀夫)

ヤマトホシクサ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Eriocaulon japonicum Körn.

イネ目 ホシクサ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】湿地やため池の泥地に生育する一年草。</p> <p>【分布】本州に生育する固有種。</p> <p>【形態】一年生の草本で茎はない。葉は叢生し、線形で長さ6~12 cmになる。秋に多数の花茎をつけ、高さ12~16 cmになる。頭花は半球形で、径5~6 mm、花苞は倒卵状くさび形。上部外側に白色凸起毛がある。花冠は下部筒状、上部は3裂する。多数の黒藍色を帯びた花からなる。</p> <p>【近似種との区別】近縁のヒロハノイヌノヒゲは頭花が白色または淡褐色からなる。</p>
生息・生育状況	<p>広島県では限られた地域の、ため池の泥地にのみ生育が確認されている。</p> <p>西条盆地や三原市（本郷）用倉のため池で生育が確認されている。</p> <p>夏から秋にかけて水がひいたため池の泥地に生育する。県内での調査は十分でない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（湖沼開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育環境の変化（ため池の管理放棄、水質汚濁、自然遷移）</p> <p>水質汚濁やため池の改修などによる生育環境の悪化、あるいはため池の埋立てによる生育地の消滅。</p>
特記事項	<p>分類の困難な仲間であり、国内でも限られた地域からしか報告されていない。</p>
産地情報	<p>呉市（倉橋）、竹原市、三原市（大和、本郷）、大竹市、東広島市（西条、八本松、黒瀬、豊栄）、安芸高田市（高宮）、江田島市（江田島）、熊野町、世羅町（甲山）</p>

Shimoda, M. 1983. *Deinostemato-Eriocaulum hondoensis* (Nov.): communities of emerged pond shores in Hiroshima Prefecture, Japan. *Jap. J. Ecol.*, 33: 121-134.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

クロホシクサ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Eriocaulon parvum Körn.

イネ目 ホシクサ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】本州から九州に分布し、湿地やため池の泥地に生育する一年生草本。</p> <p>【形態】葉は多数、ロゼット状につき、細く基部の幅1~2 mm、長さ3~10 cm、3~5脈ある。花期は8~9月、花茎は5~20 cm、鞘は長さ2~4 cm、頭花は球形で径4~5 mm、花床に毛がある。花がく片は合生し、上方中部まで3裂、花弁は筒状に合生し、上部は3裂し、上縁に白毛がある。また、頭花は黒色を帯びる。</p> <p>【近似種との区別】ゴマシオホシクサは葉が長さ4~9 cm、幅5~8 mm、9~13脈あるので区別できる。また、花床に毛がある。</p>
生息・生育状況	<p>吉備高原面から中国山地の低湿地やため池のほitoriなどにまれに生育する。しかし、ため池の管理放棄や開発、遷移の進行などによる生育地の消失・縮小のため、最近では情報が無い。下記の産地はいずれも過去の記録である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>開発行為や森林伐採、遷移進行や植生の変化などによる生育地（湿地）の消失・縮小が著しい。また、水質汚濁やため池の改修などによる生育環境の悪化、あるいはため池の埋立てによる生育地の消滅も起きている。ため池の改修や、池の水質を悪化させる事業の規制、湿地の保全が必要である。</p>
特記事項	—
産地情報	<p>広島市（安佐南区）、府中市、庄原市（口和）、東広島市、安芸高田市（八千代、美土里）、安芸太田町（加計）、北広島町（芸北）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

関 太郎・中西弘樹・吉野由紀夫・宝理信也・田丸豊生・松村雅文・鈴木兵二 1983. 滝山峡の維管束植物. 滝山峡—自然と生活—総合学術調査研究報告(滝山峡総合学術調査委員会, 編), p. 237-294. 滝山峡総合学術調査委員会, 広島.

(松井健一・吉野由紀夫)

ヒロハノオオタマツリスゲ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Carex arakiana Ohwi

イネ目 カヤツリグサ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】山地の樹林内や湿った草地に生える多年草。</p> <p>【分布】本州（北陸地方～中国地方の日本海側）・九州北部のおもにブナ林域に分布する。日本の固有種。</p> <p>【形態】叢生し、基部の鞘は赤紫色を帯びる。葉は深緑色で幅 6～12 mm。前年の葉が残る。花茎は 30～70 cm、果胞が完熟すると垂れ下がる。頂小穂は雄性、側小穂は雌性で短柱形、長さ 1～1.5 cm、長い柄があり下垂し、花はまばら。</p> <p>【近似種との区別】タマツリスゲに比べ、葉の幅が広く 5～10 mm で大型である。</p>
生息・生育状況	おもに県内のブナ林域の林床部に生育している。個体数は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事） 生育環境の変化（自然遷移）
特記事項	西中国山地のブナ林は 1970 年代までにその多くが伐採されたので、伐採以前にどの程度生育していたのかは確かめるすべがない。
産地情報	三次市、庄原市（西城）、北広島町（芸北）

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

すげの会(著)・正木智美(編) 2018. 日本産スゲ属植物分布図集. 766 pp. すげの会, 岡山.

(吉野由紀夫)

ミタケスゲ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Carex dolichocarpa C. A. Mey. ex Kom.

イネ目 カヤツリグサ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】北海道、本州（中部以北、東海、中国地方）、九州と千島列島やカムチャッカに分布し、湿原に生える多年草。中国地方や九州の自生地は最近発見された。</p> <p>【形態】茎は直立して叢生し、高さ 20～50 cm。葉は花茎より短い。頂小穂は雄性、側小穂は雌性でまばらに 2～4 個つく。果胞は熟すと長さ 10～13 mm になって開出する。</p> <p>【近似種との区別】大きな披針形の果胞が開出する側小穂がまばらにつく姿は独特で、他に似たスゲ類はない。</p>
生息・生育状況	県中央部にある山中の湿地に生育している。県内では 2009 年に初めて自生が確認された。複数の行政区域にまたがるが、狭い範囲で 5 か所に自生し、個体数は少ない。乾燥化が進んで自生が確認できなくなった場所や、大規模な開発で自生地である湿原そのものが消失した場所もあるほか、イノシシの掘り返しで生育個体数は非常に減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変、植生遷移や動物の被害などの環境悪化が大きな脅威である。 栽培は可能。
特記事項	広島県は、全国的に見ても特異な分布地である。遺伝的な多様性保全の観点からも、広島県の自生個体を保全する必要がある。
産地情報	三次市、安芸高田市

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

一橋賢三・世羅徹哉 2014. 広島県におけるスゲ属植物(カヤツリグサ科)の分布. 広島市植物公園紀要, 32: 53-102.

(世羅徹哉)

アズマスゲ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Carex lasiolepis Franch

イネ目 カヤツリグサ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】北海道から九州に分布し、山地の明るい樹林内に生育する多年草。2009年に初めて中国地方（広島県）で生育が確認された。</p> <p>【形態】根茎は短く叢生し、匍匐枝はない。植物体全体に開出した軟毛が密生する。葉は幅3～5 mm、花期は4～5月。有花茎は高さ5～15 cm。頂小穂は雄性、側小穂は雌性で、雌鱗片は暗赤褐色。</p> <p>【近似種との区別】ヒカゲスゲ節に属するが、小型で葉が柔らかく全体に軟毛が密生することなどで同じ節に属する他種と区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>三次市、江田島市に自生の記録があるが標本が未確認でその後の状況も不明である。世羅町ではスギ植林地の周辺部で、アカマツやコナラが優占する森林の林床部に、府中市では山道沿いの明るい路傍に生育しているが個体数は少ない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>道路工事など土地の改変を伴う開発や森林伐採が脅威となる。栽培、増殖は可能と思われる。</p>
特記事項	<p>2009年に世羅町で発見され、その後隣接する府中市でも自生が確認された。</p>
産地情報	<p>呉市（音戸）、府中市、世羅町</p>

一橋賢三・世羅徹哉 2014. 広島県におけるスゲ属植物(カヤツリグサ科)の分布. 広島市植物公園紀要, 32: 53-102.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉・吉野由紀夫)

ジングウスゲ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Carex sacrosancta Honda

イネ目 カヤツリグサ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州（伊豆以西）から九州に分布し、低山の林縁、林床に生える多年草。</p> <p>【形態】短い根茎がある。花茎の高さは20～40 cm、葉は細く花茎より短い。小穂はすべて雄雌性で茎に離れてまばらにつく。果胞に明瞭な柄があり、先端部は急に細まり嘴は長い。花期は9～10月。</p> <p>【近似種との区別】果胞の先が急に細くなり長い嘴になることで他のナキリスゲ類と区別される。</p>
生息・生育状況	<p>現在確認されている自生地は宮島だけである。谷沿いの湿潤な場所で、蘚類が繁茂するような岩の隙間などに生えているが生育個体はごくわずかである。同じ宮島にある以前の自生地は土砂の流入で環境が悪化し、消滅したと思われる。ニホンジカの食害も危惧される。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変、周辺樹木の伐採や自然災害による環境の悪化などが脅威となる。栽培保存は可能と思われる。</p>
特記事項	<p>—</p>
産地情報	<p>廿日市市</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

カガシラ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Diplacrum caricinum R.Br.

イネ目 カヤツリグサ科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】千葉県以西の本州から琉球、台湾、中国南部から東南アジア、インド、オーストラリアに分布し、湿地にまれに生える一年草。</p> <p>【形態】茎には3稜があって長さ5~20 cm, 基部で分岐し、やや多数の葉をつける。葉は線形で長さ1~5 cm, 幅2~5 mm, 総苞片も同形で、腋に短い柄のある頭状の花序を出し、小穂を密につける。果実は7~10月に熟し、球形で白色、2枚の鱗片に包まれたまま脱落する。</p> <p>【近似種との区別】ケシンジュガヤやマネキシンジュガヤは全体により大きく、花序が円錐形で、果実は鱗片を残して脱落する。</p>
生息・生育状況	<p>宮島を産地とする報告があるが、広島県植物誌には掲載がなく、標本等も知られていない。2019年に県内で初めて生育を確認した。古い湿地の中の周囲から水が流れ込み、ほかの草本類が少ない場所に10~20株が自生している。イノシシの掘り返しのために枯死した株もあり、環境が悪化して数が減少している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>植生遷移による環境の変化、イノシシの掘り返しや人の立ち入りによる環境悪化が脅威となる。栽培については不明。</p>
特記事項	—
産地情報	三原市

勝山輝男・早坂英介 2015. カヤツリグサ科. 改訂新版 日本の野生植物 1 (大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 294-362. 平凡社, 東京.

土井美夫 1983. 広島県植物目録. 148 pp. 博新館, 広島.

(世羅徹哉)

セトウチコスズ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Sasa magnifica (Nakai) Sad.Suzuki subsp. *fujitae* Sad.Suzuki

イネ目 イネ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】林縁などの斜面にごくまれに見られる小型のササ。</p> <p>【分布】広島県と山口県、四国、九州に分布する。広島県が基準産地。</p> <p>【形態】稈は高さ30~50 cm, 径2~4 mm。稈の上部から基部で枝分かかれする。稈鞘は逆行の細毛が密生し、葉鞘にも細毛が密生する。節間と節は細毛があるが、まれに無毛。葉は枝の先端に2~3枚つき線状長楕円形で、長さ18~21 cm, 幅は3~4 cm, 両面無毛。肩毛はない。</p> <p>【近似種との区別】アシカガコスズ(イナコスズ)は稈鞘が無毛で葉裏に軟毛があり、サイヨウザサは節以外無毛であることで区別される。</p>
生息・生育状況	<p>県南部にごくまれに見られ、林縁の斜面に群落をつくる。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変(森林伐採, 土地造成, 道路工事)</p> <p>生育環境の変化(自然遷移, 樹林化など)</p> <p>道路沿いの斜面林縁などに見られるため、雑草として除去されるおそれ強い。除草剤の散布や下刈り、道路工事の際には留意することが必要。</p>
特記事項	<p>鈴木貞雄(1980)は、藤田幹雄が豊田郡東野町梶ヶ浜(大崎上島)で採集した標本に基づいて新亜種とした。</p>
産地情報	三原市, 大崎上島町(大崎, 東野)

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

小林幹夫 2017. 日本のタケ亜科植物. 435 pp. 北隆館, 東京.

(久藤広志・吉野由紀夫)

ハネガヤ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Stipa pekinensis Hance

イネ目 イネ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】林地に生育する北方系の多年草。</p> <p>【分布】北海道, 本州, サハリン, 中国大陸(東北部)に分布する。</p> <p>【形態】茎は束生し, 細長い。高さ 80~120 cm。葉は互生し, 葉下部の鞘は長く, 葉質は厚い。葉は線形で長さ 10~35 cm, 幅 1.2 cm 位先尖る。花期は 8~9 月, 花は淡紫色を帯び, 茎先に長さ 30~50 cm の円錐花穂を作り直立する。細長い中軸の各節から 3~4 個の枝を輪生し分枝, 枝上にまばらに小穂をつける。小穂は細長く 1 花からなり, 小穂には短柄がある。芒は長さ 2~2.5 cm。</p> <p>【近似種との区別】ヒロハノハネガヤは円錐花序が線形で, 直立する。ハネガヤの円錐花序は卵形である。</p>
生息・生育状況	<p>廿日市市の生育地は近年確認されていない。庄原市の生育地は道路沿いの二次林縁である。そのため, 生育状況はよく分からない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変(森林伐採, 土地造成, 道路工事)</p> <p>生育環境の変化(自然遷移)</p>
特記事項	<p>道路沿いに生育するため, 草刈りで刈られてしまう可能性が高い。</p>
産地情報	<p>呉市, 福山市, 庄原市(西城, 東城), 廿日市市, 神石高原町(神石)</p>

広島県東城町植物誌編纂委員会(編) 2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

ヤマキケマン 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Corydalis ophiocarpa Hook.f. et Thomson

キンボウゲ目 ケシ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州(関東以西), 四国, 台湾, 中国からインド北部にかけて分布し, 山地の半日陰にある岩上などに生育する多年草。しばしば石灰岩地にも生える。</p> <p>【形態】高さ 40~80 cm になる。葉は白色を帯びた青緑色で無毛の羽状複葉。5~7 月にかけて淡緑黄色花を多数つける。蒴果は線形で長さ約 3 cm になり, 著しく屈曲する。</p> <p>【近似種との区別】フウロケマンやミヤマキケマンに比べると茎が高く, 全体に白色を帯び, 蒴果が屈曲することで区別される。</p>
生息・生育状況	<p>戦前に, 戸河内(三段峡)と道後山で, 1990 年代に君田で記録されているが標本がなく未確認である。2004 年に, 高木哲雄の資料の中に, 三段峡産の標本が見いだされ, さらに 2007 年には三段峡とは別の溪谷で自生が再発見された。その自生地は急峻な溪谷に沿った林縁部でおよそ 10 個体の生育を確認していたが, 今回の調査では確認できなかった。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>森林の伐採, 河川改修や自然災害による自生地の改変が脅威となる。</p>
特記事項	<p>—</p>
産地情報	<p>安芸太田町</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

福原達人 2016. ケシ科. 改訂新版 日本の野生植物 2(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 103-108. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

サンカヨウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Diphylleia grayi F.Schmidt

キンボウゲ目 メギ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】ブナ林域の落葉樹林下に生育する大型の多年草。5月上旬に白い花を3~10個つける。</p> <p>【分布】北海道・本州・サハリンの温帯から亜寒帯に分布する。広島県は本種の分布の南西限である。</p> <p>【形態】根茎は太く、茎は高さ30~60cmになり分枝しない。上部に30cm前後の縁に切れこみのある葉を2枚つける。花期は5月上旬頃で、上の葉のもとから短い柄を出し、3~10個の白い花をつける。6月下旬には径1cmほどの青紫色の実をつける。</p> <p>【近似種との区別】日本では1属1種である。類縁のトガクシショウマは、葉が2枚であるが、3出複生し、中国地方には分布しない。</p>
生息・生育状況	山頂部のブナ林の林床や溪谷部に生育している。広島県では中国山地と西中国山地のブナ林域に生育が限られるようである。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事） 園芸採取
特記事項	島根県境の自生地が一般向きの図書に地図入りで公表され、著しく減少した。
産地情報	庄原市（高野）、廿日市市（吉和）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

吉野由紀夫・世羅徹哉 2009. 広島県のサンカヨウ(*Diphylleia grayi* Fr. Schm.)の新産地とアオホオズキ(*Physaliastrum sabatieri* (Makino) Makino). 広島市植物公園紀要, 27: 7-11.

(吉野由紀夫)

キクザキイチゲ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Anemone pseudoaltaica H.Hara var. *pseudoaltaica*

キンボウゲ目 キンボウゲ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】主として近畿地方以北の本州、北海道の温帯に分布しているが、それより南にかけては、わずかに点在する状態である。そのわずかな生育地の一つが県内に残存しており、貴重である。</p> <p>【形態】細長い根茎より根生葉を一枚のぼす。花茎も一本だけのぼし、途中に3枚の総苞葉をつけ、その頂に淡紫色ときには白色の花を咲かせる。</p> <p>【近似種との区別】キクザキイチゲの総苞葉の小葉は深く切れ込み、柄の基部は広がって翼状になるが、アズマイチゲの小葉は深く切れ込むことはなく、柄の基部は広がらない。</p>
生息・生育状況	落葉広葉樹林の林床や林縁部に生える多年草。県北部の一部に点在または小群落をつくっているが、分布域はきわめて限られ、個体数も少ない。生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しいため、個体数が減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	もともと個体群がきわめて小さく、管理放棄や遷移の進行による二次林・二次草地の変容が主因である。盗掘の危険もある。生育地の周辺をかなり広く保全し、採取を禁止すべきである。適当に上層の樹木や草本の伐開や、生育地の環境変化を伴う工事の規制が必要がある。現在の落葉広葉樹林が適当に利用されながら持続することが大切である。栽培はきわめて困難。
特記事項	—
産地情報	県北部

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

渡辺泰邦・桑田健吾・桑田武子・浜田展也・西岡秀樹 1998. 広島県高野町の種子植物. 広島県高野町の自然誌(比婆科学教育振興会, 編), p. 23-134. 高野町・高野町教育委員会, 高野町.

(松井健一・吉野由紀夫)

トウゴクサバノオ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Dichocarpum trachyspermum (Maxim.) W.T.Wang et Hisao

キンボウゲ目 キンボウゲ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】山の湿った立地に生育する多年生草本。県東部などにわずかに見られる。</p> <p>【分布】本州，四国，九州に分布する。日本の固有種。</p> <p>【形態】茎は直立し高さ 10～20 cm，4 稜がある。根出葉は数枚束生し，柄を含めて長さ 4～14 cm，3 小葉からなり，頂小葉は菱形卵状，3 尖裂する。側小葉は 2 小葉からなり，卵形。茎葉は対生し，対になった葉の基部の鞘は合着する。花期は，4～5 月，1 本の茎は 1 花をつける。花柄は 1.5～2.5 cm，がく片は 5 枚，花は淡黄緑色で全開せず，やや垂れ下がって咲く。径 6～8 mm。茎の基部に閉鎖花をつけ，種子には小さな突起がある。</p> <p>【近似種との区別】サンインシロカネソウは 1 本の茎上に 2～3 個の花がつくことから区分される。</p>
生息・生育状況	<p>溪谷の樹林内や林縁部に群生している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採，土地造成，道路工事）</p> <p>生育環境の変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>広島県での分布は植物地理学上から貴重な存在である。</p>
産地情報	<p>広島市（佐伯区），福山市</p>

中村慎吾・小川光昭 1994. 広島県産シロカネソウ属 2 種の記録. 比婆科学, 159: 65-66.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(日朝直樹・吉野由紀夫)

オキナグサ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Pulsatilla cernua (Thunb.) Berchtold et J.Presl

キンボウゲ目 キンボウゲ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】春，暗紫赤色で鐘形の花をつける。多毛の草本で，日あたりのよい草地や川原に生える。花の姿や色に風情があって観賞用に適しているため，全国的に乱獲され，激減した。</p> <p>【分布】本州・四国・九州・朝鮮半島・中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】植物全体に毛が多い多年草。羽状複葉の根生葉が束生，4～5 月，10 cm 内外の花茎（途中で輪生する茎葉あり）を出し，先端に鐘形で暗紫色の花をつける。花の外側は長い白毛でおおわれる。花後，茎は 30～40 cm に伸び，白毛の密生した果実が集まって，老人の白髪頭のようにみえる。</p> <p>【近似種との区別】淡黄色の花をつける同属のツクモグサは高山植物で，西南日本には分布しない。その他の種で似ているものはない。</p>
生息・生育状況	<p>日あたりのよい草地，川原，山地の路傍などに生え，以前は，広島市域の山地にもよく見られた。現在はほとんど見られない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（河川開発，草地開発，土地造成，道路工事）</p> <p>生育環境の変化（草地の利用放棄，自然遷移）</p> <p>園芸採取</p> <p>観賞価値が高く，乱獲されることが多い。また，土地開発，河川改修による生育地の破壊もある。定期的に草刈りをして，日当りをよくし，川原の生育地では，砂礫の掘り取りなど，土地のかく乱がないようにする必要がある。</p>
特記事項	<p>記録上の産地は多いが，現在はその多くが見られなくなっている。</p>
産地情報	<p>広島市（西区，安佐南区，佐伯区），呉市，三原市（久井），福山市，三次市（君田，三和），庄原市（西城，東城，口和，高野，比和），東広島市，廿日市市（宮島），安芸高田市（甲田），北広島町（芸北，大朝）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

ヒキノカサ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Ranunculus ternatus Thunb. var. *ternatus*

キンポウゲ目 キンポウゲ科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】日あたりのよい湿った草地に生育する。花期は3~5月。</p> <p>【分布】本州(東北南部以西), 四国, 九州, 朝鮮半島(済州島), 台湾, 中国大陸南部に分布。</p> <p>【形態】根出葉は小さく, 根が紡錘状にふくらむ。茎は5~30 cm, よく分枝し, ほとんど無毛。根出葉は1~4個, 葉身は3全裂あるいは掌状に3浅裂から深裂する。花期は4月, 花色は黄色で, 花弁は5枚, 直径12~17 mm。</p> <p>【近似種との区別】ウマノアシガタは根が紡錘状に膨らまないことから区分される。</p>
生息・生育状況	河川の堤防の斜面の湿った草地
存在を脅かす要因・保全の留意点	開発により本来の生息・生育地(湿地や河川水辺)が消失し, 堤防の斜面で生育している。将来堤防の管理方法の変更があった場合, 生育地が失われる可能性がある。
特記事項	—
産地情報	福山市

江塚昭典・松本和夫 1985. 福山市周辺の植物相. 中国農事試験場報告 E, 23: 1-107.

日朝直樹・吉野由紀夫 2015. 福山でヒキノカサを確認. 比婆科学, 254: 16-17.

(日朝直樹)

カラマツソウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Thalictrum aquilegifolium L. var. *intermedium* Nakai

キンポウゲ目 キンポウゲ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】北海道と本州に分布し, 海岸から高山の日あたりのよい草地に生える多年草。</p> <p>【形態】全体無毛で茎は高さ2 mまたはそれ以上になる。花期に根生葉はなく, 茎葉は3~4回3出複葉で托葉, 小托葉ともに明瞭。花期は6~9月, 複散形状の花序に白色花を多数つける。萼片は白色または紫色を帯び, 早落する。そう果は楕円形, 円頭からやや鋭頭で柄があり, 7~15個が下垂してつく。</p> <p>【近似種との区別】マンセンカラマツは, そう果の先端が切形または微凹形で3~8個と少ない。</p>
生息・生育状況	北東部の山地上部にある開けた草原に生育するが, 生育地, 個体数ともに少ない。自生地の森林化や, 登山者の立ち入りが多くなったことによる踏みつけなど影響が懸念される。北広島町から記録があるが未確認である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	人の立ち入りや植生遷移による環境の変化が脅威となる。栽培は可能。
特記事項	—
産地情報	庄原市

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

門田裕一・西川恒彦 2016. キンポウゲ科. 改訂新版 日本の野生植物 2(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 119-170. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

タイシャクカラマツ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-③

Thalictrum kubotae Kadota

キンボウゲ目 キンボウゲ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】広島県帝釈台に分布し、石灰岩地の乾燥した岩場や明るい林床に生える多年草。</p> <p>【形態】植物体全体に腺毛があってやや粘り、高さ 30~40 cm になる。花時に根生葉はなく、茎葉は 4~5 個。葉は 2~5 回 3 出の複葉で表面は灰色を帯びた緑色、裏面は帯白色。小葉はしばしば 3 浅裂し、先端は微突型、表面は腺毛を散生し、裏面には腺毛が密生して葉脈が隆起する。花期は 5~6 月、花は径 1~1.5 cm、下向きに開き、がく片は 4 個で長さ 4~5 mm、残存する。そう果は無柄、紡錘形で約 8 脈あり、腺毛がある。</p> <p>【近似種との区別】アキカラマツは、より大きく花期が遅く、がく片が早落することで区別される。</p>
生息・生育状況	帝釈峡に面した石灰岩台地の明るい林床に生育する。他の地域からは見つからない。生育場所、生育個体ともに少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変や採取が脅威となる。栽培は可能。
特記事項	以前から地元の研究者には、カラマツソウ属の不明種として認識されていたが、2005 年に新種記載された。
産地情報	庄原市, 神石高原町

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

門田裕一・西川恒彦 2016. キンボウゲ科. 改訂新版 日本の野生植物 2(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 119-170. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

カラマツソウ属の1種 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Thalictrum sp.

キンボウゲ目 キンボウゲ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】アキカラマツに似た種で、県内のごく狭い範囲に生育する植物である。前回の改定時には暫定的にイワカラマツとして選定したが、その後の観察で、狭義のイワカラマツには該当しないと考えられたため、カラマツソウ属の 1 種とした。</p> <p>【形態】茎は直立、斜上または懸垂し、長さ 150 cm に達する。全草に腺毛があり、粘着し、特異な臭気がある。花は例年 6 月中旬から咲き始める。萼片は比較的遅くまで残っている場合もあり、そう果にも腺毛がある。</p> <p>【近似種との区別】タイシャクカラマツは花期が 5 月である。一般的なアキカラマツとは腺毛の状態や開花期が異なる。関東に産するイワカラマツに比べると腺毛の密度が低く、集団内にはかなり低いものも見られる。</p>
生息・生育状況	三次市西城川に沿った道路に面した崖地に生育する集団と、灰塚ダム周辺の集団がある。灰塚ダムの集団は、工事による改変を免れた斜面に自生しているものと、改変された場所から人工的な道路のり面に移植された個体群からなる。西城川では崖地保護の工事や除草作業の影響を受けている。灰塚ダムでは、移植された場所の日あたりが悪くなり、株数が減少している。改変されなかった斜面の自生株の現状は不明。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の拡幅、斜面の崩落防止工事などによる改変や、除草作業の影響が脅威となる。栽培は可能。
特記事項	この植物は当初ニオイカラマツとして準絶滅危惧に選定され、前回改定時には暫定的にイワカラマツとして選定したもので、当初から分類学的に検討が必要な植物とされてきた。アキカラマツ自体が変異の大きな種として知られているが、この植物は形態的特徴から県内に自生する他のアキカラマツとは容易に区別できる。一方で典型的なイワカラマツとも異なるので、種名を確定するためには専門的な調査・研究が必要なことから、カラマツソウ属の 1 種とした。
産地情報	三次市

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

門田裕一・西川恒彦 2016. キンボウゲ科. 改訂新版 日本の野生植物 2(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 119-170. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ミヤマカラマツ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Thalictrum tuberiferum Maxim. var. *tuberiferum*

キンボウゲ目 キンボウゲ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州，四国，九州，朝鮮半島，中国大陸東北部，ロシア沿海地方に分布し，温帯林の林床や林縁，溪谷沿いの湿った岩場や高山草原などさまざまな環境に生える多年草。</p> <p>【形態】根が紡錘状に肥大し，しばしば匍枝を出す。根出葉は1～2個で，2～3回3出複葉，花期にも残り，長い柄がある。花期は5～8月。花序は散房状，花は白色または淡紫色を帯びる。径約8mm，がく片は4～5個，倒卵状で花期には落ちる。そう果は扁平で，両面に3稜がある。</p> <p>【近似種との区別】花期に根生葉があり，花序が散房状で，そう果に翼がなく3稜がある点でアキカラマツやカラマツソウと区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>広島市，庄原市，廿日市市，神石高原町からの記録は未確認である。確実な自生地は安芸太田町だけで，滝の下部の湿った岩場に生育している。個体数の大きな増減はない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>現在の自生地は，自然災害による地形改変あるいは乱獲が脅威となる。栽培は可能。</p>
特記事項	—
産地情報	安芸太田町

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

門田裕一・西川恒彦 2016. キンボウゲ科. 改訂新版 日本の野生植物 2(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 119-170. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉・吉野由紀夫)

ヤマビワ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Meliosma rigida Siebold et Zucc.

アワブキ目 アワブキ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】暖地性の常緑小高木。島嶼部と沿岸部の温暖な地域の社叢にまれに分布する。</p> <p>【分布】本州（伊豆半島以西）・四国・九州・琉球・台湾・中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】常緑の小高木で，若枝，花序，葉柄，および葉裏に褐色の綿毛を密生する。葉は革質で長さ12～30cm，幅3～7cm，表面は無毛で，裏面は細脈まで明瞭に隆起する。花期は6月，大きな円錐花序を作る。花は白色。核果は球形で，径7mm程度，はじめ赤色で，のち熟して黒紫色になる。</p> <p>【近似種との区別】広島県に自生する同属のアワブキは落葉性で，葉は洋紙質なので区別される。</p>
生息・生育状況	<p>コジイやシリブカガシなどの優占する常緑広葉樹林内に，サカキやクロキ，ヤブツバキ，カクレミノなどとともに生育する。広島県では南西部の沿岸の常緑広葉樹林（おもに社叢）に点在する。県東部には見られない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採，土地造成，道路工事）</p>
特記事項	<p>本種が生育する呉市の神田神社の社叢は市の天然記念物に指定されている。</p>
産地情報	<p>呉市（呉），廿日市市（大野），江田島市（能美）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

太刀掛 優・久藤広志 2008. 呉市倉橋町宇和木 林道寒那火山線に自生するヤマビワ. 比婆科学, 228: 30.

(吉野由紀夫)

ヤマモガシ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Helicia cochinchinensis Lour.

ヤマモガシ目 ヤマモガシ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】本州（東海地方以西の主として太平洋岸，瀬戸内海沿岸には少ない），四国，九州，琉球列島，台湾，中国南部，インドシナに分布する熱帯系の樹木。</p> <p>【形態】常緑広葉高木で，幹は高さ 10～15 m に達する。葉は革質で光沢があり，倒披針形から長楕円形，長さ 10～15 cm，幅 2 cm ほど。8 月上旬に開花，小さい花を穂状に密生し，がくは白色で 4 枚，花弁のように見える。雄しべはがく片につく。果実は紫黒色，楕円形で長さ 1.5 cm くらい。</p> <p>【近似種との区別】日本にはヤマモガシ科の植物は本種のみで，花があれば容易に区別できる。葉は，ヤマモモ，ミミズパイ，タイミンタチバナに似る。本種の葉は光沢が強く，葉脈に特徴がある。</p>
生息・生育状況	<p>海岸近くのおもに常緑樹林内に生育する。宮島町では海拔の低い地域のモミーミズパイ林に生育しているが，個体数が少ない。沖美町では，沿岸部のアカマツ林に生育している。生育地の林内に芽生えは見られるが，幼木の成長が遅く，小さいうちに個体数が減少してしまう。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと個体数が少ない，分布限界に近く，孤立した個体群であるなど，消滅しやすい分布特性をもつ。土地利用の変化にともなう生息・生育環境の質的劣化が懸念される。宮島ではシカによる食害が憂慮される。</p> <p>森林を保全し，生育地の環境変化を伴う工事の規制，採取の禁止が必要である。森林伐採，とくに松くい虫被害木の伐採や搬出の際には芽生えや幼木を損傷せず，幼木を保護する必要がある。</p>
特記事項	<p>宮島町はほぼ分布の北限にあたる。ヤマモガシ科の植物は南半球に分布の中心があり， Gondwana 大陸の遺存といわれている。</p> <p>宮島では比較的好く見られるので 2003 年までは準絶滅危惧としていたが，本土側ではきわめて少ない。保護の指定ではないが，宮島の網の浦では，町当局によって根元に柵がつくられ保護されている。</p>
産地情報	<p>呉市（音戸），廿日市市（宮島），江田島市（沖美）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

土井美夫 1983. 広島県植物目録. 148 pp. 博新館, 広島.

(松井健一・吉野由紀夫)

アオベンケイ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Hylotelephium viride (Makino) H.Ohba

ユキノシタ目 ベンケイソウ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】ブナ林域の樹幹や岩上に生育する多年生草本。中国地方ではきわめて少ない。</p> <p>【分布】本州（中部地方以西）・四国・九州に生育する。</p> <p>【形態】花茎は長さ 20～50 cm で斜上する。葉は対生し，長さ 3～6 cm で柄がある。花茎は斜上し，花期は 9～10 月，花序は散房状で，花弁は淡黄緑色である。</p> <p>【近似種との区別】ベンケイソウは直立し，全体に粉白をおびる。また，葉の長さは 5～8cm とアオベンケイより大きい。</p>
生息・生育状況	<p>県内での確認地点は少ない。産地は国定公園内にある。広島県では生育地は海拔の高いブナ林域に限られるようである。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採，土地造成，道路工事） 園芸採取</p>
特記事項	<p>戦後のブナ林域の伐採と造林によって生育環境が減少したと考えられる。</p>
産地情報	<p>庄原市（西城，高野），廿日市市（吉和），安芸太田町（戸河内），北広島町（芸北）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

浜田展也・武内一恵(監修・解説)・小池周司(写真) 2011. 広島県の山野草(秋編). 379 pp. 南々社, 広島.

(吉野由紀夫)

タコノアシ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Penthorum chinense Pursh

ユキノシタ目 タコノアシ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】大型の多年草で、茎の先に、吸盤をつけたタコの足のようなかっこの花序枝が何本も生じるが、花は黄緑色で目立たない。</p> <p>【分布】本州から奄美大島・東アジアに広く分布する。田園域、河沼畔などの湿地に生える。</p> <p>【形態】大形の多年草。30~80 cmの茎が直立し、披針形で長さ6~11 cmの葉が互生する。8~10月、茎の上部に何本かの花序枝を出し、その片側に多数の花をつける。その様子が、吸盤のついたタコの足のように見える。がくは黄緑色で、花弁を欠く。</p> <p>【近似種との区別】近似種はないが、花がないと葉や茎がセイタカアワダチソウに似ている。また、両者はしばしば混生している。</p>
生息・生育状況	<p>前に広島市から報告されていたが、現在は見られない。県東部の内陸部で採集された標本もあるが、きわめて希産である。休耕田、水田のかんがい水路、沼地、川畔などの、湿潤で肥沃な場所に生じ、水位が変動する場所に多いようである。庄原市は国定公園内、福山市は国土交通省の河川敷にある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（湖沼開発、河川開発、湿地開発、土地造成）</p> <p>生育環境の変化（水質汚濁、富栄養化、自然遷移）</p> <p>土地開発、耕地整理、河川改修などで、生育地が破壊されやすい。</p> <p>花が目立たないので、その存在すら意識されないことが多く、保護が困難な種の代表的なものである。</p>
特記事項	<p>移植は可能である。観賞価値が低いので、掘り取られることはほとんどない。東アジアに広く分布するが、1属1種が知られているだけで、植物分類学的に貴重な種である。全国的に減少しつつある稀少種である。</p>
産地情報	<p>広島市、福山市（福山、神辺）、庄原市（総領、東城）、神石高原町（油木）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.
 浜田展也・武内一恵(監修・解説)・小池周司(写真)2011. 広島山の山野草(秋編). 南々社, 広島.

(吉野由紀夫)

ウドカズラ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Ampelopsis cantoniensis (Hook. et Arn.) Planch. var. *leeoides* (Maxim.) F.Y.Lu

ブドウ目 ブドウ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: DD

概要	<p>【摘要】本州（紀伊半島以西）、四国、九州、台湾北部に分布し、暖温帯林に生え、樹冠に達する大型のつる性落葉木本。</p> <p>【形態】つる性で、巻きひげの先は2分する。葉は全長12~30 cmで、2~4対羽状に複生し、最下の羽片はさらに3裂する。花期は6~7月、花序は大型で柄がある。花は径2~3 mm、黄緑色、花弁は5枚。果実は球形で赤~黒く熟する。</p> <p>【近似種との区別】同属のノブドウは草本状で、葉は切れ込むが単葉である。</p>
生息・生育状況	<p>大久保一治が1975年に宇賀峡で初めて採取した後、生育状況は不明であったが、2015年に同所で再発見された。植林されていない崖地の明るい場所で、樹木に巻き上がって生育している。確認されている個体数は少ない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>周辺樹木の伐採、崖地の工事などが脅威となる。</p> <p>長期間の栽培保存については不明。</p>
特記事項	<p>これまで県内で自生の記録があったが、生育が確認されていなかったため情報不足あるいは要注意種としていた。今回の調査で生育を確認したので評価・選定した。</p>
産地情報	<p>広島市</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編)2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

世羅徹哉 2019. 広島県フロラ覚書(9)ウドカズラおよびミツバコンロンソウ. 広島市植物公園紀要, 34: 37-39.

(世羅徹哉・吉野由紀夫)

イヌハギ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Lespedeza tomentosa (Thunb.) Siebold ex Maxim.

マメ目 マメ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】川原や海に近い日あたりのよい砂地に生える多年草で、茎の下部は木化する。</p> <p>【分布】本州・四国・九州・琉球・朝鮮半島・中国大陸・インド・ヒマラヤに分布する。</p> <p>【形態】高さ 150 cm になり、全体に黄褐色の軟毛がある。頂小葉は長楕円形で長さ 3~6 cm。花期は 7~9 月。花は帯黄白色、長さ 8~10 mm、長い総状花序につく。萼には開出する白黄色毛を密生する。</p> <p>【近似種との区別】マキエハギは全体にやや無毛、頂小葉は長さ 1~2 cm である。ネコハギは長く地を這うので区分される。</p>
生息・生育状況	沿岸部から吉備高原にかけて分布するが、近年減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（耕作地の区画整理、土地造成、道路工事）</p> <p>生育環境の変化（草地の利用放棄、自然遷移）</p>
特記事項	—
産地情報	広島市（西区、安佐南区）、福山市（福山、神辺、新市）、三次市、庄原市（庄原、東城、口和）、廿日市市、安芸高田市（吉田）、神石高原町（油木、神石、豊松）

浜田展也・武内一恵(監修・解説)・小池周司(写真) 2011. 広島の山野草(秋編). 379 pp. 南々社, 広島.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

ヒナノカンザシ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Salomonina ciliata (L.) DC.

マメ目 ヒメハギ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】日あたりのよい湿地に生える小型の一年草。</p> <p>【分布】本州・四国・九州・朝鮮半島南部・台湾・東南アジア・フィリピン・オーストラリアに分布している。北村四郎博士は「ツバメのような渡り鳥によって広く分布したのであろう」と述べている。</p> <p>【形態】小型の一年生草本で、高さ 6~15 cm、葉は互生し、長楕円形、長さ 5~14 mm、8~9 月に細長い穂状花序をつくり、淡紫色の花をつける。</p> <p>【近似種との区別】ヒメハギが似ているが、これは多年草本で根が太いので区別できる。</p>
生息・生育状況	池の堤防から水がしみ出しているような日あたりのよい、わずかに水がしみ出る湿地で、他の植物があまり生えていない環境に生育している。このような湿地には、ゴマクサ、サギソウ、イシモチソウ、ミミカキグサ属などが生育している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（湿地開発、草地開発、土地造成）</p> <p>生育環境の変化（踏みつけ、自然遷移）</p> <p>草刈や堤防の改修工事などが憂慮される。</p>
特記事項	本種が生育している湿地には貴重な種が多い。
産地情報	三原市（久井）、三次市、東広島市（西条、八本松、黒瀬）

黒瀬町史編さん委員会(編) 2003. 黒瀬町史 環境・生活編. 772 pp. 黒瀬町.

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

コテリハキンバイ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Potentilla riparia Murata var. *miyajimensis* Naruh.

バラ目 バラ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】1968年に鳴橋直弘が宮島産の標本に基づいて記載した新変種で、香川県と広島県に分布する多年草。</p> <p>【形態】匍匐枝を出し、三出葉の各小葉は厚くて光沢がある。小葉の長さは0.8~1.2 cm, 夏葉は大きくなる。花期は4~5月で花は小さい。</p> <p>【近似種との区別】テリハキンバイに比べ、植物体の各部は小さく、葉柄は開出する白毛を密生し、小葉は倒広卵形から倒卵形をしていることで区分される。ツルキジムシロは側小葉を一对以上もった羽状葉である。</p>
生息・生育状況	<p>広島県あるいは近県にのみ分布する種で、花崗岩地の樹林や林縁部、石垣にまれに生育する。下記の産地のうち、宮島町と瀬戸田町以外は過去の記録である。宮島では弥山、大元公園、奥の院から多々良間にある。シカの踏みつけや食害のため激減している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと個体数が少なく、土地利用の変化にともなう生育環境の質的劣化や生育地の消失・縮小が著しい。シカによる食害、生育場所の攪乱も深刻である。生育地の環境変化を伴う工事の規制により生育地を保全する、採取の禁止、シカの食害を防ぐためフェンス等を設置することなどが必要である。</p>
特記事項	<p>村田(1974)は小豆島での観察から、コテリハキンバイはテリハキンバイの変異の中に含まれるとしている。本種の変異についてのさらなる研究が必要である。</p>
産地情報	<p>三原市, 尾道市(瀬戸田), 三次市, 廿日市市(宮島), 江田島市(沖美)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

関 太郎・中西弘樹・鈴木兵二・堀川芳雄 1975. 厳島(宮島)の維管束植物. 厳島の自然—総合学術研究報告—(天然記念物彌山原始林・特別名勝厳島緊急調査委員会, 編), p. 221-332. 宮島町.

(松井健一・吉野由紀夫)

バクチノキ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Prunus zippeliana Miq.

バラ目 バラ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】高木になる常緑広葉樹。</p> <p>【分布】本州(千葉県以西), 四国, 九州, 琉球, 台湾に分布する。山陽地方ではごく限られた地点にのみ生育する。</p> <p>【形態】高さ15 mになる。樹皮は灰黒色で鱗状にはげ、その跡は紅黄色となり、特徴のあるまだら状になる。葉は長さ8~14 cm, 長楕円形で葉柄の上部に1対の蜜腺がある。花期は9月, 葉腋から穂状の花序を出す。核果はゆがんだ長楕円形で、翌年紫黒色に熟する。</p> <p>【近似種との区別】リンボクは葉が長さ7~9cmと小さく、樹皮はまだら状にならない。また、ハイノキ科のカンザブロウノキは葉に蜜腺がないので区分される。</p>
生息・生育状況	<p>県内では、その個体数はきわめて限られている樹木である。近年大崎上島町の中古生層地帯で自生が確認された。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変(森林伐採, 土地造成, 道路工事)</p> <p>呉市内の常緑広葉二次林内に生育していたものは一部が伐採され、現状は不明である。</p>
特記事項	<p>Nakanishi (1976)は蒲刈町産の本種をウラゲバクチノキ(<i>f. infravelutina</i> (Makino) Sugimoto)としている。ウラゲバクチノキは葉の裏面に毛が生える1型で、基本種に混じってまれに見られる。</p>
産地情報	<p>呉市(呉, 蒲刈), 大崎上島町(木江)</p>

Nakanishi Hiroki 1976. Notes on the flora of the Chugoku District, Japan (2). J. Geobotany, 23(4): 90-92.

大沼みお・藤富信之 2019. 大崎上島町の希少な木本植物. 広島商船高等専門学校紀要, 41: 97-104.

(久藤広志・吉野由紀夫)

ウラジロイワガサ(ミヤジマシモツケ) 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-

③

Spiraea x hayatae Koidz.

バラ目 バラ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】岩場などに生える落葉低木。本種の果実の毛の生え方がイワガサとイブキシモツケの中間のため、両者の雑種ではないかとの説もある。</p> <p>【分布】広島県, 山口県, 愛媛県の限られた地域に分布している。</p> <p>【形態】落葉低木で高さ 0.5~2 m, 葉は互生し, 倒披針形で長さ 2~4 cm, 幅 1~2 cm, 葉裏は白っぽく, 毛はない。花は 5 月上旬に開花し, コデマリに似ているが, あまり多く枝上につかない。果実は縫合線に沿って毛があるが, ほかは無毛。</p> <p>【近似種との区別】イブキシモツケは広島県東部の石灰岩地帯や蛇紋岩地帯に分布し, 葉裏に毛があり, 果実の全体に毛が多い。イワガサは, 県西部に分布し, 全体が無毛である。</p>
生息・生育状況	日あたりのよい乾燥した岩壁の割れ目に生育している。溪谷の岩壁などではやや湿った日陰にも生育しているが生育はよくない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変 (森林伐採, 土地造成) 生育環境の変化 (自然遷移) 園芸採取, 動物による食害
特記事項	岩壁にあるので, あまり人為的な影響を受けない。大竹市ではダムのため水没した所もある。小泉源一(1915)が宮島の標本をもとに新種として発表した。
産地情報	大竹市, 廿日市市 (宮島)

Koidzumi, G. 1915. Decades plantarum novarum vel minus cognitarum. Bot. Mag. Tokyo, 29:155-160.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

クロカンバ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Rhamnus costata Maxim.

バラ目 クロウメモドキ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】山地に生育する落葉低木。中国山地のブナ林にまれに分布する。</p> <p>【分布】本州・四国・九州に分布する。日本特産の固有種。</p> <p>【形態】高さは 6 m 前後になる。葉は対生で, 大型, 長さ 8~17 cm, 幅 4~9 cm, 倒卵状長楕円形, 急尖頭, 基部は鈍円でわずかに不相称, 細鋸歯がある。側脈は 17 から 23 対あり, 裏面に隆起し, 脈上に淡黄褐色の毛がある。葉柄は 3~6 mm。花期は 5~6 月, 雌雄異株で若い枝の下方の葉腋に数個ずつ束生する。核果は倒卵状球形で黒熟する。</p> <p>【近似種との区別】クロウメモドキは葉が互生し, 葉柄が 5~20 mm あることで区分できる。また, カエデ科のチドリノキとは鋸歯の形, 花のつく位置, 果実の形などによって区分できる。</p>
生息・生育状況	中国山地・西中国山地の海拔 1,000 m 以上のブナ林下にまれに生育する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変 (森林伐採, 土地造成, 道路工事)
特記事項	戦後のブナ林の伐採によって生育地や個体数が減少したと考えられるが, 確実な資料がない。
産地情報	庄原市 (西城, 比和), 北広島町 (芸北)

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

カカツグユ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②
Maclura cochinchinensis (Lour.) Corner var. *gerontogea* (Siebold et Zucc.) H. Ohashi
 バラ目 クワ科

環境省: なし
 広島県 2011: なし
 広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】 海岸近くの山地に自生するつる性の常緑藤本。</p> <p>【分布】 本州（紀伊半島南部，山口県），四国，九州，沖縄，中国大陸南部，台湾に分布する。</p> <p>【形態】 葉は互生し，長さ 2~8 cm，幅 1~3.5 cm の倒卵形。先端は急に狭まって尖り，基部は楔型。葉は厚く，表面は暗緑色で光沢がある。裏面は淡緑色。両面とも無毛。葉腋から長さ 1~2 cm の太く鋭い棘が出る。花期は 5~6 月。雌雄異株。果実は集合果。直径 1.5~2 cm の球形。11~12 月に黄色に熟す。</p> <p>【近似種との区別】 同属のハリグワは，葉が卵形で裏面に微毛があり，落葉する。</p>
生息・生育状況	石灰岩地帯の常緑樹林内に生育していた。周囲の高木を支えにして，多数分岐してつる状に伸び，15 m の高さに達していた。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（森林伐採，石灰採掘，土地造成，道路工事） 生育環境の変化（自然遷移，樹林化など）
特記事項	—
産地情報	大崎上島町（木江）

大沼みお・藤富信之 2019. 大崎上島町の希少な木本植物. 広島商船高等専門学校紀要, 41: 97-104.

(久藤広志)

テングシデ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②
Carpinus tschonoskii Maxim. var. *torta* Horikawa nom. nud.
 ブナ目 カバノキ科

環境省: なし
 広島県 2011: VU
 広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】 イヌシデの変種で枝が蛇状に屈曲し，特異な景観を呈する。自生地は国指定の天然記念物。</p> <p>【分布】 北広島町の（大朝）田原にのみ生育する。</p> <p>【形態】 落葉高木で高さ 15 m 程度になる。主幹や枝が蛇状に屈曲し，特異な景観となる。葉は互生し，葉身は卵形から狭卵形。長さ 4~8 cm，幅 2~4 cm，基部は円形から広いくさび形。鋭い細重鋸歯がある。雌雄同株で花は 4~5 月，新芽の時期に花をつける。10 月頃に結実し，その発芽個体も大部分は特異な樹形を保持している。</p> <p>【近似種との区別】 母種のイヌシデに比べ樹形が著しく異なることで区分される。この形質は集団として遺伝的に固定している。</p>
生息・生育状況	大朝町田原の熊城山の東斜面，海拔 640 m 付近に群生する。大小約 100 個体が生育する。自生地は柵で囲み保護されているが，写真を撮る人が無断で中にはいることが多い。実生の生育にとってよくないので，観察者のマナーが求められる。 この地方にシカが侵入している。シカによる実生への食害が憂慮される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の環境変化（人の踏み付け） 動物による被害（シカによる食害） その他（ナラ枯れ病）
特記事項	指定地域外にもいくつかの個体が生育しているので，それらの保存が重要である。
産地情報	北広島町（大朝）

大朝町教育委員会(編) 1998. 広島県天然記念物大朝町の天狗シデ現状調査報告書. 83 pp. + 14 pp. 大朝町教育委員会, 大朝町.

(吉野由紀夫)

ノウルシ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Euphorbia adenochlora C.Morren et Decne.

キントラノオ目 トウダイグサ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】日本固有で、北海道から九州に分布し、河川敷、湿地、田の畔など生育する多年草。春に発芽、開花し夏には地上部は枯れる。</p> <p>【形態】地下には肥厚した根茎がある。茎は太く高さ 30~40 cm で叢生し、長楕円形または披針形の葉を互生する。5 月ころ、茎頂部に多数の花をつけるが、花序の下にある苞葉が鮮黄色になって花卉のように見える。子房と果実の外面にはいぼ状突起を密生する。</p> <p>【近似種との区別】マルミノウルシ（中国地方には自生しない）は葉が紅色を帯び、子房や蒴果にいぼ状突起がない。タカトウダイは茎が細く葉はまばらに互生する。イワタイゲキは海岸生である。</p>
生息・生育状況	<p>福山市で記録があるが標本が確認されていない。2010年に三次市の河川敷で自生地が2か所確認された。2か所とも小群落だが、その後もほぼ増減なく生育している。他の地域では確認されていない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変や植生遷移などの生育環境の悪化が脅威となる。栽培は可能。移植も可能と思われる。</p>
特記事項	—
産地情報	三次市

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

黒沢高秀 2016. トウダイグサ科. 改訂新版 日本の野生植物 3(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 147-166. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

エゾアオイスミレ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Viola collina Besser

キントラノオ目 スミレ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】北海道、本州の中部以北、サハリンからユーラシアの亜寒帯地域に広く分布するとされ、山地から亜高山の夏緑樹林の林床や林縁に生える多年草。</p> <p>【形態】地下茎は太く、密に節があり、地上匍匐枝はない。葉と花柄に開出する粗毛がある。葉は卵形、基部は深い心形で先端は鈍形。花期は4~5月、開花期に前年の葉がない。</p> <p>【近似種との区別】アオイスミレとは、地上匍匐枝がなく、葉がより細く先端が鈍く尖ることで区別される。</p>
生息・生育状況	<p>県北東部で、超塩基性岩が分布する山地上部で記録されている。森林の林縁や路傍に生育するが自生地、生育個体ともにごくわずかである。路傍の自生地は、林道工事などで壊滅する可能性が高い。林縁部では、樹林の発達によって環境が変化し、生育個体が減少している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>林道工事や森林伐採が脅威となる。栽培や移植の可否については不明。</p>
特記事項	—
産地情報	庄原市

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

門田裕一 2016. スミレ科. 改訂新版 日本の野生植物 3(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 209-227. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ゲンジスミレ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-③

Viola variegata Fisch. ex Link. sensu lato

キントラノオ目 スミレ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州の関東地方から中部地方と中国地方、さらに四国に分布するとされ、山地の明るい夏緑広葉樹林内や林縁に生える多年草。四国や中国地方では石灰岩地に生える。</p> <p>【形態】地下茎は短い。全体に細毛を密生するかまたはほとんど無毛、葉は円心形、先端は丸く縁には低い鋸歯があつて、基部は深い心形。表面は暗緑色、裏面は紫色を帯びる。花期は5月。花柄は葉より短く、花弁は淡紅紫色、どの花弁にも紫条があり、側花弁基部は有毛。</p> <p>【近似種との区別】シハイスミレは葉先が尖り、普通無毛。側花弁基部が無毛なことで区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>県東部の石灰岩地域でまれに発見される。夏緑広葉樹林やヒノキ人工林の明るい林縁部に生育する。自生地、個体数ともに少ない。自生地情報が広まった場所では個体数が激減した。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変、植生遷移や人の立ち入りによる環境の悪化、乱獲が脅威となる。栽培、移植は可能。</p>
特記事項	<p>県内には、葉表面の葉脈に沿った白斑が明瞭なファイリゲンジスミレ (<i>Viola variegata</i> var. <i>variegata</i>) と呼ばれるものが多いが、白斑の鮮明度は連続的で区別が困難な場合が多いことから広義のゲンジスミレ (<i>Viola variegata</i> sensu lato) として扱う。</p>
産地情報	<p>庄原市, 神石高原町</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

門田裕一 2016. スミレ科. 改訂新版 日本の野生植物 3(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 209-227. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

タイシャクイタヤ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Acer pictum Thunb. subsp. *taishakuense* (K.Ogata) H.Ohashi

ムクロジ目 ムクロジ科

環境省: EN

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】石灰岩地帯の溪谷林に生育する落葉高木。阿哲要素の植物である。</p> <p>【分布】イタヤカエデの変種で、日本では広島県のみ知られ、朝鮮半島南部にも分布している。</p> <p>【形態】落葉高木であるが、あまり大きくならず、樹高数mくらいである。葉は5角形で、深く5裂し、裂片は鋭く尖り、全縁。葉の下面全体に密に長い曲がった毛があり、葉上面の主脈上にも毛がある。</p> <p>【近似種との区別】イタヤカエデの変種であるオニイタヤ(ケイタヤ)も葉の下面に毛があるが、葉の上面には毛がない。</p>
生息・生育状況	<p>石灰岩地帯の溪谷斜面に生育しているが、陰湿な所からかなり乾いた立地まであり、まだ、その生態はよく分かっていない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変(石灰採掘, 森林伐採, ダム建設, 土地造成)</p> <p>生育地の環境変化(自然遷移)</p> <p>生育地の大部分は国定公園内で保護されているが、歩道の整備などに際しては、木が小さいものが多いので、十分な配慮が望まれる。</p>
特記事項	<p>タイシャクイタヤとオニイタヤとの関係は、今後、十分な研究が望まれる。イタヤカエデ類の毛には変異が大きく、いろいろな段階が観察される。庄原市天然記念物(三坂氏清のタイシャクイタヤ, 東城町三坂)</p>
産地情報	<p>庄原市(東城), 神石高原町(油木, 神石)</p>

緒方 健 1964. 本邦産イタヤカエデ類について(一). 北陸の植物, 12(4): 94-97.

浜田展也 2010. 日本の絶滅危惧樹木シリーズ(33)タイシャクイタヤ. 林木の育種, 235: 22-25.

(吉野由紀夫)

マンシュウボダイジュ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Tilia mandshurica Rupr. et Maxim. var. *mandshurica*

アオイ目 アオイ科

環境省: CR

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】吉備高原の渓谷にまれに生育する落葉高木。 【分布】中国地方（山口，広島，岡山）・朝鮮半島・中国大陸（北部・東北）に分布する。 【形態】高さ 20 m になる落葉高木で，若枝は星状毛が早く落ちる。葉柄は長さ 3～5 cm，葉身はゆがんだ円形で，先は短く鋭くとがる。基部はゆがんだ切形または浅心形で長さ 9～15 cm，幅 6～15 cm，裏面に星状毛を密生する。花期は 7 月，葉柄の基部に長さ 8～11 cm の花序を伸ばし，10～20 個の花をつける。総包葉は狭長楕円形で，中部以下が花序の軸と合着する。果実は球形で径 7 mm 程度，短い星状毛が密生し，灰白色。 【近似種との区別】シナノキは葉が小さい。またチュウゴクボダイジュは果実に稜があって角ばることで区分される。中国産のシナボダイジュは，葉がやや長めで小さく，鋸歯があらう。</p>
生息・生育状況	吉備高原の渓谷にまれに自生する。北広島町（大朝）では寺院跡に植えられた個体が大きくなっている。庄原市（東城）指定の天然記念物「大元のボダイジュ」は本種である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（森林伐採，土地造成，道路工事）
特記事項	—
産地情報	庄原市（東城）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編)2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(日朝直樹・吉野由紀夫)

ツチトリモチ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②, VU-③

Balanophora japonica Makino

ビャクダン目 ツチトリモチ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】一見キノコのような形をした寄生植物で，広島市内では照葉樹林内に見られる。 【分布】南方系の植物で，本州（紀伊半島・中国地方）・四国・九州・奄美に分布する。中国地方では唯一の産地である。植物地理学的に貴重な植物である。 【形態】ハイノキ科植物の根について生える寄生植物。11～12 月，6～12 cm の花茎を生じ，頂端に長楕円体状の赤い花穂をつける。一見，キノコのようなものである。雌雄異株であるが，雄株は知られていない。単為生殖によって結実する。 【近似種との区別】県内北部の山地にまれに見られるミヤマツチトリモチは，カエデ属，イヌシデなどの根に寄生し，花穂は橙黄色である。</p>
生息・生育状況	広島市沿海域にある照葉樹林（タブノキ，クロキ，ヤブツバキ）の暗い林床に群生する。産地は国有林および国立公園内にある。ハイノキ科の樹木がある照葉樹林の陰地に生育する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採，道路工事） 生育地の環境変化（踏みつけ，ごみの投棄） 過度の採取 林内に立ち入って，林床を踏み荒らしたり，ゴミを投棄したりする危険がある。形が変わっていて，美しい赤色であるので，よく目立ち，掘り取られる恐れもある。キノコと間違えて採取する人もいるようである。</p>
特記事項	<p>移植して栽培することは不可能。 初冬になると，インターネットの広島の植物に関するホームページでよく紹介される。採取される恐れがあるので，このような公開は慎むべきである。</p>
産地情報	広島市（南区）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

ミヤマツチトリモチ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Balanophora nipponica Makino

ビャクダン目 ツチトリモチ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】ブナ林域のイタヤカエデ、ウリハダカエデ、イヌシデなどの落葉樹に寄生する多年草。一見するとキノコのように見える。</p> <p>【分布】本州（秋田県・岩手県以南）・四国・九州に分布する。日本の固有種。</p> <p>【形態】落葉樹の根に寄生し、高さ 10 cm 前後、花茎は 1 個の根茎に数個生じる。花期は 7 月下旬から 8 月で、花穂は楕円形で橙赤色から橙黄色。雌雄異株であるが、雄株は発見されていない。</p> <p>【近似種との区別】県南部に見られるツチトリモチは花穂が赤く、花期は 11～12 月である。</p>
生息・生育状況	多雪地帯の落葉樹林下に点在する。谷筋に群生することがある。いくつかの産地は国定公園内にある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（森林伐採、道路工事） 園芸採取
特記事項	移植して栽培することは不可能。
産地情報	庄原市（西城、高野、比和）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

ホザキヤドリギ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Loranthus tanakae Franch. et Sav.

ビャクダン目 オオバヤドリギ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】冷温帯のミズナラやブナ、クリなどの落葉広葉樹に寄生する落葉低木。穂状花序を伸ばし、多くの果実をつける。</p> <p>【分布】本州（東北から中部地方と兵庫県、広島県）、朝鮮半島、中国大陸東北部に分布する。</p> <p>【形態】落葉の低木。葉はやや肉質で対生し、楕円形。長さ 2～3 cm、幅 1～1.5 cm。6～7 月に枝先に長さ 3～5 cm の穂状花序をのばし、多くの花をつける。果実は淡黄色に熟する。</p> <p>【近似種との区別】ヤドリギは茎が 2 又分岐し、分岐部に短い柄をつけた果実を 1～3 個つける。ホザキノヤドリギは穂状に果実をつけることから区分される。</p>
生息・生育状況	ブナ帯の落葉樹に寄生する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（森林伐採、道路工事） 園芸採取
特記事項	移植して栽培することは不可能。
産地情報	庄原市（東城）、北広島町（芸北）

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

サイコクヌカボ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Persicaria foliosa (H.Lindb.) Kitag. var. *nikaii* (Makino) H.Hara

ナデシコ目 タデ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】本州（近畿・中国地方）、四国、九州に分布し、池の縁や湿地に生育する一年生草本。広島県からはこれまで報告がなかった。</p> <p>【形態】高さ 10～30 cm、茎は基部が伏臥分枝し、上部は斜上する。多くは赤褐色を帯び、節部がわずかに高くなる。葉は披針形。花期は 9～10 月、枝の先につく花穂は非常にまばらに花を断絶してつけ、花は長さ 2～2.5 mm、淡紅色。瘦果は長さ約 2 mm。</p> <p>【近似種との区別】サイコクヌカボはヤナギヌカボより花穂の花がさらにまばらにつくことから区分できる。</p>
生息・生育状況	<p>湿地や水位の下がったため池の泥地に生育しているが、生育環境であるため池の消失や環境の質的劣化が著しく、個体数は多くない。最近東城町や三次で新たな産地が発見されたが、そこでも個体数の減少が著しい。三次市の自生地では、干上がったため池底部がイノシシに掘られ、個体数が減少している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと個体数が少ないが、土地利用の変化にともなう生育環境の質的劣化が著しい。生育地の埋め立てを禁止し、集水域を含めた湿地やため池の周辺環境と水質の変化を及ぼす行為を規制することで、湿地と水質を保全する必要がある。</p>
特記事項	<p>高木は戦前に広島市牛田で、江塚・松本(1985)は福山市から記録しているが、標本等が不明であったため、1995年版では取り上げなかった。</p> <p>最近になって東城町のため池で生育が確認された。</p>
産地情報	<p>広島市（東区）、福山市（福山）、三次市（三次）、庄原市（東城）、海田町</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編) 2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(松井健一・吉野由紀夫)

ヤナギヌカボ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Persicaria foliosa (H.Lindb.) Kitag. var. *paludicola* (Makino) H.Hara

ナデシコ目 タデ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】池の縁や湿地に生育する一年生草本。</p> <p>【形態】茎の下部は斜めに倒れ、節から根を出し、上部は斜上して枝を分ける。高さ 30～50 cm になる。葉はやや厚く、長披針形から長線形、両面に毛があり、裏面には腺点がある。長さ 3～9 cm。乾くと茎とともに赤褐色になる。托葉鞘は筒状で同じ長さの縁毛がある。花期は 9～10 月、総状花序は細く、まばらに花をつけ、頂生または腋生で直立する。花は長さ 1.5 mm、淡紅色。瘦果はレンズ形、黒褐色で光沢がある。北海道、本州、九州に分布する。</p> <p>【近似種との区別】ハナタデやイヌタデは葉が卵形から披針形。ヌカボタデは葉の裏面に腺点がないことから区別される。</p>
生息・生育状況	<p>水湿地、ため池のほたりや干上がった底部にわずかに生育している。しかし、ため池の開発や管理放棄などにより生育地の消失・縮小や水質悪化など環境の劣化が著しく、個体数が減少している。</p> <p>下記の産地のうち、芸北町・甲山町・福山市は過去の記録である。吉和の産地では、最近生育が確認されない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>ため池や湿地の開発や森林伐採、管理放棄などによる生育地の消失・縮小、水質汚濁と富栄養化の影響で、生育環境の質的劣化が起きている。生育地の埋め立てを禁止し、集水域を含めた湿地やため池の周辺環境と水質の変化を及ぼす行為を規制することで、湿地と水質を保全する必要がある。</p>
特記事項	—
産地情報	<p>福山市、東広島市、廿日市市（吉和）、北広島町（芸北）、世羅町（甲山）</p>

広島大学理学部附属官島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(松井健一・吉野由紀夫)

マダイオウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Rumex madaio Makino

ナデシコ目 タデ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州（宮城県，山形県以南），四国，九州に分布する日本の固有種。川辺の水湿地に生える大型の多年草。</p> <p>【形態】茎は直立し，高さ 1.6 m に達する。茎葉には柄があって長さ 25～35 cm の長卵形から長楕円状被針形，基部は心形から円形，裏面の脈上に短毛を密生する。花期は 6～7 月，円錐花序に多数花を輪状につける。果期の翼状内萼片は広心形で 3 個のうち 1 個には不明瞭な線形のこぶ状突起があり，縁の下半部に鋭鋸歯がある。</p> <p>【近似種との区別】エゾノギシギシは葉裏の脈上に乳頭状突起があり，翼状内萼片の中脈が楕円形のこぶ状に隆起する。キブネダイオウは内萼片の縁全体に先端が曲がった長い刺毛がある。</p>
生息・生育状況	<p>県の東部および西部に生育の記録がある。山地の水路や谷川沿いの明るく湿潤な場所に生育している。加計の自生地の一部はダム建設のために消失することになり，自生株は近隣の適地に移植されたが，その後の状況は不明である。近年確認されている場所は複数あるが，生育環境の悪化や他種との交雑で個体数が減少している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変や管理不足による生育環境の悪化，近縁種との交雑による遺伝的な汚染が脅威となっている。栽培は可能。</p>
特記事項	<p>本種は以前，薬用植物のダイオウの代用として栽培された歴史がある。</p>
産地情報	<p>広島市，庄原市，安芸太田町，神石高原町</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

米倉浩司 2017. タデ科. 改訂新版 日本の野生植物 4(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 84-104. 平凡社, 東京. (世羅徹哉)

イシモチソウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Drosera peltata Thunb. var. *nipponica* (Masam.) Ohwi

ナデシコ目 モウセンゴケ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】湿原や湿地に生育する食虫植物。</p> <p>【分布】本州（関東以西），九州，西表島，朝鮮半島，中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】茎の高さ 10～30 cm，地上に球状の塊茎がある。根生葉は花期にはなくなる。三日月型の茎葉がまばらに互生し，その表面と縁に長い腺毛がある。腺毛の先端より粘液を分泌し，昆虫などを捕食する。5～6 月，白い花を咲かせる。</p> <p>【近似種との区別】イシモチソウとナガバノイシモチソウは，ともに地上茎をもつが，前者の葉は三日月形で，後者の葉は狭線形をしている。</p>
生息・生育状況	<p>県内では，西条盆地に多く生育している。山すその小湿地やため池の周辺の湿地，水田の土手などに分布しているが，生育環境が微妙に変化し，生育適地がしだいに減少している。サギソウなどが生育する貧栄養の湿地に混生しているが，湧出水や流入水が富栄養化すると，他の植物が繁殖し，本種は消滅する。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（湖沼開発，湿地開発，ため池の埋立，土地造成など） 生育環境の変化（水質汚濁，富栄養化，ため池の管理放棄）</p>
特記事項	<p>食虫植物として捕虫葉を持ち，貧栄養の湿地での生活に適応し，特有の生活様式を持つように進化した本種グループは，学術的にも貴重な存在である。そして，これらの植物たちの生活の基盤となる小湿地について，その存在を経済的な価値だけで判断せず，多様な生態系の一つとして位置づけ，保全していく必要がある。</p>
産地情報	<p>広島市（安佐北区），呉市，三原市（三原，久井），尾道市（御調），福山市，府中市，東広島市（西条，八本松，黒瀬），熊野町，世羅町</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(久藤広志・吉野由紀夫)

ワチガイソウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Pseudostellaria heterantha (Maxim.) Pax var. *heterantha*

ナデシコ目 ナデシコ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】中国山地の林中にまれに生える多年草。</p> <p>【分布】本州（福島県以南）・四国・九州・中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】太い茎は1~2個。茎は直立し、高さ8~15cmになる。下部は枝を分ける。葉は対生し、卵状披針形で、長さ10~40mm、幅2~4mm、先は鋭形。上部の2対の葉も離れている。花期は4~6月。花は上部の葉腋から細長い枝を出し、1個つける。花弁は白色で長さ約6mm。</p> <p>【近似種との区別】同属のワダソウは上方の2対の葉が接近して輪生状になる。花は1~5個頂生する。</p>
生息・生育状況	県北部の中国山地の林内や林縁部にきわめてまれに分布する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	—
産地情報	広島市（安佐北区）、三次市（君田）、庄原市（高野、比和）、廿日市市（吉和）、安芸太田町（筒賀）

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

浜田展也・武内一恵(監修・解説)・小池周司(写真) 2011. 広島の山野草(春編). 367 pp. 南々社, 広島.

(吉野由紀夫)

キレンゲショウマ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②, VU-③

Kirengeshoma palmata Yatabe

ミズキ目 アジサイ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】本州（奈良県、広島県、島根県）、四国、九州、朝鮮半島、中国（東部）に分布し、冷涼な山地林内の湿った急斜面、岩礫地や岩上に生える多年草。</p> <p>【形態】茎は高さ80~120cm、葉は対生して下部のものは有柄、上部のものは無柄、円心形で径10~20cm、浅く掌状に裂け、圧毛がある。7~8月、茎の先に円錐状の花序をつける。花は黄色、ラップ状、花弁は2~3cm長で、やや肉が厚い。果実は広卵形で、翼のある種子が多数できる。</p> <p>【近似種との区別】近似種なし。</p>
生息・生育状況	ブナ帯域の森林内にある急斜面や渓谷沿いの岩場などに群生する。安芸太田町で最初に報告され、その後廿日市市や北広島町に接する島根県側の山塊など、西中国山地一帯で散発的に群落が確認されている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>大規模開発、乱獲やニホンジカによる食害が脅威となる。</p> <p>種子繁殖および栽培は可能である。</p>
特記事項	いわゆるソハヤキ要素の一つとされるが、四国、九州の自生地ではニホンジカの食害によって激滅している。西中国山地に隔離分布している個体群は学術的にも貴重な存在であるが、広島県内の自生地付近にもニホンジカの生息が確認されており、食害が広がる前にニホンジカの個体数管理を進める必要がある。
産地情報	廿日市市、安芸太田町

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

大場秀章 2017. アジサイ科. 改訂新版 日本の野生植物 4(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 157-172. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉・吉野由紀夫)

ホンシャクナゲ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Rhododendron japonoheptamerum Kitam. var. *hondoense* (Nakai) Kitam.

ツツジ目 ツツジ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】常緑の亜高木または低木。5月下旬に花を咲かせる。園芸植物として人気が高く、よく盗掘される。</p> <p>【分布】本州（愛知，長野，富山以西）と四国の一部に分布する</p> <p>【形態】葉は互生し枝の先に集まり，長楕円形で長さ10～15 cmに達する。葉の下面には毛がなく，銀白色を呈する。花冠は淡紅色，径5 cmくらいで7裂する。</p> <p>【近似種との区別】ホンシャクナゲは，ツクシシャクナゲに比べて，葉がやや薄く，下面の毛がなく，色が淡い。（従来，県内の種はツクシシャクナゲとされて，報告されていた。）</p>
生息・生育状況	<p>渓谷の岩壁，湿原の周辺，尾根筋などさまざまな環境に生育している。県内西部に生育地が広がっているが，東部には見られない。酸性土壌を好み，アカマツとも混生し，さまざまな環境に適応して生育できるたくましさをもっているが，造成工事や，森林の皆伐，盗掘などの人為が加えられなければ，現状のまま保持することが本種にとって望ましい生育地である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採，土地造成，道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p> <p>花が美しいため，園芸用に山採りが繰り返されてきた。有名な産地では，小さい個体はほとんど盗掘されてしまった。</p>
特記事項	<p>山採りしたものを栽培することは，きわめて難しい。東広島市（福富）の生育地は県天然記念物に，廿日市市，安芸高田市では生育地の一部が市の天然記念物に指定されているが，地域を限らず，種そのものを保護の対象にすることが望ましい。</p>
産地情報	<p>広島市（安佐北区，安芸区，佐伯区），東広島市（福富），廿日市市（佐伯，吉和），安芸高田市（向原），安芸太田町（加計，筒賀，戸河内），北広島町（芸北，豊平）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

シロバナイナモリソウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Pseudopyxis heterophylla (Miq.) Maxim.

リンドウ目 アカネ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】山地の木陰に生える多年草。中国地方からはほとんど報告されていない。</p> <p>【分布】本州（関東地方西南部から中部，近畿，中国地方）のおもに太平洋側に分布する。日本の固有種</p> <p>【形態】多年草本で，細い根茎から直立する地上茎を出す。葉は卵形または三角状卵形で，長さ2～6 cm，幅1～2.5 cm，先は短く尖り，基部はくさび形に急に狭まって0.5～3 cmの柄となる。托葉は小さな三角形。花は6～7月，上部の葉腋に1～3個の花からなる2出集散花序をつくる。花冠は白色。花糸は花筒から長く突き出る。</p> <p>【近似種との区別】イナモリソウは同属であるが，茎が高さ3～5 cmで，花は紅紫色，花糸は短く，花外に突き出さないことによって区別される。</p>
生息・生育状況	<p>落葉樹林や植林の林床部，林縁部などに生育する。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採，土地造成，道路工事）</p>
特記事項	<p>—</p>
産地情報	<p>広島市（佐伯区），東広島市（福富），北広島町（芸北，大朝，豊平）</p>

斎藤隆登・田丸豊生・暮町昌保 1997. 広島県芸北町の種子植物目録. 高原の自然史, 2: 1-43.

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

ムラサキセンブリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Swertia pseudochinensis H.Hara

リンドウ目 リンドウ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】 草地に生える一年生草本，越年生草本。</p> <p>【分布】 本州（関東地方以西）・四国・九州・朝鮮半島・中国大陸（東北部）・アムールなどに分布する。</p> <p>【形態】 茎は太く，暗紫色を帯び，高さ 50～70 cm になるものがある。葉は線状披針形で長さ 2～4 cm，やや密に対生する。茎やがく裂片の縁に隆起する細点がある。花期は秋，花は淡紫色で，花冠裂片は幅広く，長さ 1～1.5 cm，濃紫色の脈がある。</p> <p>【近似種との区別】 センブリは茎やがく裂片の縁は平滑である。また茎は淡紫色を帯びることから区別できる。</p>
生息・生育状況	中国山地や吉備高原面に分布する。三次付近では里山にも見られる。個体数は比較的多い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（草地開発，土地造成，道路工事） 生育地の環境変化（自然遷移）
特記事項	山焼きを行っている地点や里山の維持管理を行っている地点で安定的に見られるようである。
産地情報	呉市，福山市，庄原市（西城，東城），大竹市，安芸太田町（戸河内），北広島町（芸北）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.
佐久間智子 2013. 深入山火入れ草地の維管束植物. 高原の自然史, 15: 1-19.

(吉野由紀夫)

チョウジソウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Amsonia elliptica (Thunb.) Roem. et Schult.

リンドウ目 キョウチクトウ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】 初夏，あい色の美しい花をつける多年草。湿った草地に生える。全国的に希産種である。</p> <p>【分布】 北海道・本州・四国・九州・朝鮮半島・中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】 多年草。高さ 40～80 cm の茎を叢生し，せまい披針形（長さ 4～8 cm）の葉が互生する。茎や葉をちぎると白い乳液が出る。5～6 月，茎頂にあい色の花を多数つける。花冠は径 1.3 cm 内外で，長い筒があり，5 つに分かれた裂片が水平に開き，横から見ると丁字形に見える。</p> <p>【近似種との区別】 近似種はないが，葉だけではサワギキョウに似ている。</p>
生息・生育状況	海岸，湖沼畔，河原などの湿った草地に生える。広島市，廿日市市から記録されているが，いずれも絶滅したと思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（湖沼開発，河川開発，土地造成） 生育地の環境変化（水質汚濁，農薬汚染，富栄養化）
特記事項	北海道大学（富士田ほか 2016）で本種の種生物学的な研究が行われた。
産地情報	広島市（安佐北区），庄原市（高野），廿日市市（宮島）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.
富士田裕子・加川敬祐・東 隆行 2016. 日本におけるチョウジソウ *Amsonia elliptica* (キョウチクトウ科)の産地とその現況. 保全生態学研究, 21: 77-92.

(吉野由紀夫)

マメダオシ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Cuscuta australis R.Br.

ナス目 ヒルガオ科

環境省: CR

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】日本全土の日あたりのよい野原や海岸に生える一年生の寄生植物。東南アジアから中国、オーストラリアに分布する。</p> <p>【形態】茎は細い蔓状で無毛、宿おもに左巻きに絡みつき、高さ 50 cm 内外、黄色を帯びる。葉は退化して鱗片状、根はなく、寄生根を出して宿主から養分を吸収する。花期は 7~10 月で、数個が密生、柄はない。萼は基部が広くさび形で、花冠は長さ約 2 mm、筒部に裂片と同長で 2 裂する鱗片がある。蒴果は花冠より長い。花柱は長さ約 1 mm。</p> <p>【近縁種との区別】ハマネナシカズラは花冠が蒴果より長く鱗片は大形で細裂する。アメリカネナシカズラは萼基部が円形で花柱が 2 mm 近い。</p>
生息・生育状況	<p>河川（下流）の河岸、高水敷や海浜域の草地に生育、ヨモギに寄生している。しかし、河川の改修や開発により、自然な河原が消失しつつあり、自生地が失われている。現在、確実な産地はほとんどない。下記の産地のうち、吉田町以外は過去の記録である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと個体数が少ないが、河川や海岸の開発などにより生育地が次々と消失していき、個体数の減少が著しい。河川改修や草地を伴う海岸の開発に当たっては、植物調査を行い、生育が確認された場合は、自生地の環境を保全すべきである。</p>
特記事項	—
産地情報	<p>広島市（東区、南区、西区、安佐南区）、呉市、竹原市、尾道市、福山市、府中市（府中、上下）、安芸高田市（吉田）、府中町、安芸太田町（戸河内）、北広島町（芸北）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

広島市植物公園(編)2005. 高木リスト. 広島市植物公園紀要, 22・23: 5-129.

(松井健一)

ハシドイ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Syringa reticulata (Blume) H.Hara var. *reticulata*

シソ目 モクセイ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】北海道、本州、四国、九州、朝鮮半島、千島（南部）に分布し、しばしば、石灰岩地帯に生育する。ライラック（リラ、ムラサキハシドイ）は同属の近縁種で、ハシドイは日本原産のライラックといえる。</p> <p>【形態】落葉の小高木で、樹皮はサクラに似ている。葉は対生し、卵形で、全縁、長さ 6~10 cm、幅 3~4 cm、上面は無毛、下面には微毛がある。6 月に白い花をつけ、芳香がある。花冠は 4 裂し、直径約 5 mm、雄しべは 2 本、果実はさく果、種子のまわりに翼がある。</p> <p>【近似種との区別】栽培種のライラックは、4 月に開花し、花色は白から紫、青と変化に富んでいる。樹皮には皮目がなく平滑である。</p>
生息・生育状況	<p>溪谷の樹林にまれに生育している。高宮町や神石町の生育地は溪谷に沿う森林で、岩が多く、高宮町の自生地は小規模な岩海をなしている。下記の産地のうち、高宮町と庄原市以外は過去の記録である。神石町、油木町、新市町の現状は不明である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと個体数が少なく、孤立した個体群で消滅しやすい分布特性をもつ。土地利用の変化にともない、湿原の減少、乾燥化など生育環境の質的劣化が見られる。伐採の規制や森林の保全が必要である。挿し木が可能。</p>
特記事項	<p>県の北東部の自生地は国定公園内、樹木なので取られる恐れは少ない。</p>
産地情報	<p>福山市（新市）、庄原市（庄原、東城）、安芸高田市（高宮）、安芸太田町（加計）、神石高原町（油木、神石）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(松井健一・吉野由紀夫)

キクガラクサ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Ellisiophyllum pinnatum (Wall.) Makino var. *reptans* (Maxim.) Yamaz.

シソ目 オオバコ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】 湿り気のある林縁に生える多年草。県内での分布域は限られている。</p> <p>【分布】 本州（近畿地方、中国地方）、四国に分布する。ヒマラヤ・中国大陸（中部）・台湾・フィリピン・ニューギニアに見られる。</p> <p>【形態】 葉柄は2~4 cm、葉身は2.5~6 cm。広卵形で羽状に深く裂ける。花期は5~6月、葉腋から細長い花柄を出し、先に1花を付ける。花は白色で、径7~8 mm。地上部は冬に枯れ、茎の先が円筒状にふくらんで残り、休眠芽となって越冬する。</p> <p>【近似種との区別】 キク類の葉に似るが、細長い地下茎を伸ばすことから区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>広島県東部の限られた地域の林縁部に生育する。花がないときは目立たない。道路の拡張工事などで生育地が破壊されるおそれがあるので、分布域で工事を行う場合は事前の調査が必要である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事）</p> <p>生育環境の変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	—
産地情報	福山市（福山、新市）、庄原市（東城）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(日朝直樹・吉野由紀夫)

トウオオバコ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Plantago japonica Franch. et Sav.

シソ目 オオバコ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】 海の近くの草地に生える多年草で、本州、四国、九州に分布する。</p> <p>【形態】 全体無毛で、葉はやや厚く卵形で長さ8~25 cm、幅5~18 cm、無毛またはやや毛があり、先は鋭く、基部はしだいに狭まって急に葉柄になり、葉柄は長さ3~20 cm。花茎は根生葉の間から数本伸びて高さ50~100 cm、花期は7~8月で、密に穂状につき、果実は蓋果で熟すと中央で横に割れ、中に8~12個の種子がある。種子は長さ0.8~1.2 mmで表面に薄い縞がある。</p> <p>【近縁種との区別】 オオバコは花茎が10~50 cmで種子は長さ1.5~1.8 mm、4~6個ある。セイヨウオオバコは本種に似るが種子は表面に縞状凹凸が目立ち、長さ1.4~2.0 mm、8~16個。</p>
生息・生育状況	<p>県南部や島嶼部の海岸草地にわずかに見られる。しかし、沿海地の大部分は護岸工事や道路工事などの開発が進み、生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。過去に記録のある生育地の多くは、開発により絶滅したと思われる。現在の生育状況は、呉市の一部を除いてほとんどが不明である。</p> <p>下記の産地のうち、呉市以外は過去の記録である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>記録のあった場所は、いずれも沿海地の開発行為や道路工事、管理放棄による遷移の進行などによって生育環境が失われている。生育地の多くは消失した。残る生育地については、開発せずに草刈りなどによって環境を保全する必要がある。また、生育地の再発見に努める。</p>
特記事項	過去の記録として、高木リストには五日市、吉浦一海田、江波、情島があげられている。鹿島では消失。
産地情報	呉市（呉、倉橋）、福山市

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

浜田展也・武内一恵・小池周司 2011. 広島県の山野草 夏編. 379 pp. 南々社, 広島.

(松井健一)

ナンゴククガイソウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②
Veronicastrum japonicum (Nakai) T.Yamaz. var. *australe* (T.Yamaz.) T.Yamaz.
 シソ目 オオバコ科

環境省: VU
 広島県 2011: VU
 広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】 溪畔や草地に生育する多年草。夏に穂状花序をつける。花冠は淡紫色。中国地方では産地、個体数ともに少ない。</p> <p>【分布】 紀伊半島, 中国, 四国, 九州中部に分布する。日本の固有種。</p> <p>【形態】 茎は円柱状で、直立して高さは0.8~1.5 mになる。葉は4~8枚輪生する。花期は7~8月で、茎の先に穂になった長い総状花序をつける。花軸に毛はなく、多数の花をつけ、花冠は淡紫色からなる。</p> <p>【近似種との区別】 クガイソウは花軸に毛があるので区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>広島県では北部のブナ林域の溪畔などに群生するが、限られた地点にしか見られない。やや明るい溪畔や草地にシシウド、オタカラコウなどと群生し、高茎草原を形づくる。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（草地開発, 土地造成, 道路工事） 生育地の環境変化（自然遷移） 園芸採取</p>
特記事項	<p>立岩山から市間山の山塊では風力発電が計画されているようである。生育地の破壊や環境悪化が憂慮される。</p>
産地情報	<p>庄原市（高野）, 廿日市市（吉和）, 安芸太田町（戸河内）, 北広島町（芸北）</p>

吉野由紀夫 1989. 立岩貯水池周辺地域(広島県)の維管束植物目録. 立岩貯水池周辺地域の自然, p. 175-224. 中国電力, 広島.
 広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

キセワタ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②
Leonurus macranthus Maxim.
 シソ目 シソ科

環境省: VU
 広島県 2011: VU
 広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】 山地や丘陵地の草原に生育する多年草で、北海道, 本州, 四国, 九州, 朝鮮半島, 中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】 茎は四角で直立, 硬くて下向きの粗毛があり, 高さ60~100 cm。葉は対生で1~5 cmの葉柄をもち, 卵形か狭卵形で長さ5~9 cm, 基部は広い楔形か切形, 先は鋭頭, 欠刻状の粗鋸歯あり, 粗い毛がある。花期は8~9月で, 花は数個ずつ群がって付き, がく裂片は細長く刺状, 花冠は淡紅紫色で長さ25~30 mm, 外側に密に白毛がある。果実は黒色で4室に分かれ, 長さ約2.5 mm。</p> <p>【近縁種との区別】 メハジキは葉が3深から全裂する。</p>
生息・生育状況	<p>県東部の丘陵地や山麓の農道わきや林縁の草地に生育しているが、産地は限られている。草地の開発や利用放棄などによる二次草地の遷移によって生育地が減少してきている。最近では、東城町以外では情報がない。</p> <p>下記の産地のうち、東城町以外は過去の記録である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと個体群がきわめて小さい。草地の開発や森林伐採, 利用放棄を主要因とする二次林・二次草地の遷移により, 生育環境が悪化, 生育地の消失・縮小が懸念される。開発や道路改修にあたっては, 自生地の環境を保全すべきである。</p>
特記事項	<p>過去に記録はあったが標本がなく未確認種とされていたが, 2002年以降にいくつかの地点で生育が確認された。</p>
産地情報	<p>呉市（呉）, 福山市, 庄原市（東城, 比和）, 世羅町（甲山）, 神石高原町（油木, 神石）</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.
 広島県東城町植物誌編集委員会(編) 2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(松井健一)

ヤマジソ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Mosla japonica (Benth. ex Oliv.) Maxim. var. *japonica*

シソ目 シソ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】日あたりのよい丘陵や裸地、岩隙などに生える一年草。県内での生育地はきわめて少ない。</p> <p>【分布】北海道・本州・四国・九州・朝鮮半島南部に分布する。</p> <p>【形態】一年草で、茎はやや細く、四角形で白い短毛がある。高さ10~40 cm、しばしば紅紫色を帯びる。葉は卵形~狭卵形で、3~10 mmの柄がある。基部はややくさび形で、長さ1~3 cm、幅7~17 mm、両面にやわらかい短毛を散生する。花期は9~10月。花穂は1~4 cmで、密に花をつける。苞は卵形から広卵形。花冠は紅紫色で、長さ3 mm、分果は球形でわずかに扁平。</p> <p>【近似種との区別】同じ属のヒメジソやイヌコウジュは苞が小さく線状披針で、小花柄より短い。ホソバヤマジソは葉が披針形から広線状である。</p>
生息・生育状況	日あたりのよい岩場の隙間に生育する。個体数は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>県内に本種の標本がないため、倉敷市立自然史博物館の標本庫に収蔵されている岡山県産の標本を閲覧させていただき、検討を行った。廿日市市の産地は現状不明である。</p> <p>県内の沿岸部や島嶼部には類似した環境が存在するので、ほかに見つかる可能性がある。</p>
産地情報	広島市（南区）、呉市（音戸）、廿日市市（佐伯）

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

テリハナツノタムラソウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Salvia akiensis A.Takano, Sera et Kurosaki

シソ目 シソ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】広島県の西部山地と島根県西部低地に分布し、林縁や溪谷沿いの草地に生育する多年草。</p> <p>【形態】地下に短い根茎があり、地上茎は高さ10~40 cm。葉は基部に数個~20個が束生し、多くは3出複葉。頂小葉が最大で卵形または卵円形。葉身の表は濃緑色で光沢がある。茎の中央部に茎葉があり、時に分枝しする。茎の先端部は円錐状花序で、数個の花をつける仮輪を密生する。花期は5月下旬から6月上旬。花は径約1 cmの紫色で花卉の外側に長毛がある。</p> <p>【近似種との区別】アキノタムラソウとは、花期が早いことと、開花時に雄蕊が前方に突出していることで区別できる。</p>
生息・生育状況	県内では、中間樹林帯の溪谷に沿った岩場で、浅く土壌が堆積した場所に生える。当初、数 km にわたって小群落が点在していたのが確認されていたが、豪雨による増水のために消失した群落があり、かなり減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>河川改修や大規模な豪雨災害などで河岸環境が改変されることが脅威となる。稀少種なので乱獲も危惧される。</p> <p>栽培維持は可能である。</p>
特記事項	前回は、仮称として選定したが、2014年に広島県を基準産地として新種記載された。種としては広島県と島根県のごく狭い範囲にだけ自生するが、両県の生育環境はまったく異なっている。ナツノタムラソウ群は分類学的に研究が進行中であり、本種の個体群は学術的にも貴重である。
産地情報	安芸太田町、北広島町

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

米倉浩司 2017. シソ科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 101-143. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

コナミキ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Scutellaria guilielmii A.Gray

シソ目 シソ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】千葉県以西の海岸に近い草地に生育する多年生草本。</p> <p>【分布】本州（千葉県以西）、四国、九州、琉球に分布する。</p> <p>【形態】茎は細く直立し、わずかに基部で分枝する。高さ20～40 cmになり、まばらに開出毛がある。葉は心形で、先は円く、上部のものはほとんど柄がない。花期は5月、葉腋に1個ずつ付き、白色。長さ7～8 mmでわずかに曲がる。分果は翼があり、長さ約2 mm。</p> <p>【近似種との区別】ヒメナミキは植物体がほとんど無毛、葉身は卵形三角形なので区分できる。</p>
生息・生育状況	宮島の海岸砂浜で、ハマゴウ群落やカキ殻を捨てた所などにまれに分布している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（海浜開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p> <p>動物（シカ）による食害</p>
特記事項	標本は1970年代に採集されたものである。最近、宮島で確認されたという報告がない。調査が必要である。シカの食害によって絶滅した可能性がある。
産地情報	廿日市市（宮島）

関 太郎・中西弘樹・鈴木兵二・堀川芳雄 1975. 厳島(宮島)の維管束植物. 厳島の自然—総合学術研究報告—(天然記念物彌山原始林・特別名勝厳島緊急調査委員会, 編), p. 221-332. 宮島町.

(吉野由紀夫)

キュウシュウコゴメグサ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Euphrasia insignis Wettst. subsp. *iinumae* (Takeda) T.Yamaz. var. *kiusiana* (Y.Kimura) T.Yamaz.

シソ目 ハマウツボ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】山頂の草地に生育する半寄生の一年草。</p> <p>【分布】本州（近畿北部）・中国・九州北西部に分布する。日本の固有種。</p> <p>【形態】茎は直立して分枝し、高さは10～20 cm。葉は対生で長さ7～10 mmで、先端が芒状の鋸歯がある。花期は8～10月で、長さ10 mmの白い花をつける。萼はほぼ同じ長さに4裂し、裂片は筒部より長く、先端が鋭く尖る。</p> <p>【近似種との区別】ツクシコゴメグサやタチコゴメグサは全体やや大型で、花が小さく萼が左右に大きく裂けることで区別できる。</p>
生息・生育状況	広島県では中国山地の、山頂草原にまれに見られる。日あたりのよいやや乾燥した場所で背の高い草が生えていないところを好む。放牧や草刈りをしなくなったため、ササの繁茂などにより減少が著しい。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（草地開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（草地の利用放棄、自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	2014年に公表された北広島町の報告書には文献の記載のみがあり、確認報告が見られない。
産地情報	庄原市（西城、東城、高野、比和）、廿日市市（吉和）、安芸太田町（戸河内）、北広島町（芸北）

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

タチコゴメグサ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Euphrasia maximowiczii Wettst. var. *maximowiczii*

シソ目 ハマウツボ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】山頂部の草地に生育する半寄生の一年草。</p> <p>【分布】本州（東北地方南部から近畿，中国地方西部）・四国西部・九州中北部・サハリン・朝鮮半島に分布する。</p> <p>【形態】茎は直立して分枝し，高さは20～40 cm。葉は対生で長さ6～12 mmで，先端が芒状の鋸歯がある。花期は8～10月で，長さ6 mmの白い唇形花をつけ，下唇は上唇とほぼ同長か少し長い。萼は上下で中裂し，その裂片はさらに中裂，先端が鋭く尖る。</p> <p>【近似種との区別】キュウシュウコゴメグサは全草小型で萼裂片が等しく4裂する。ツクシコゴメグサは葉の鋸歯が鈍頭で，花冠の下唇が長く大きいことで区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>広島県では中国山地の，山頂草原にまれに見られる。日あたりのよいやや乾燥した場所で背の高い草が生えていないところを好む。放牧や草刈りをしなくなったため，ササの繁茂などにより減少が著しい。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（草地開発，土地造成，道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（草地の利用放棄，自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>生育地の一部にシカが分布を広げている。シカによる食害が憂慮される。</p>
産地情報	<p>庄原市（西城，東城，高野，比和），安芸太田町（戸河内），北広島町（芸北）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

北広島町生物多様性専門委員会(編)2014. 北広島町の自然—北広島町自然学術調査報告書—. 700 pp. 北広島町教育委員会, 北広島町.
(吉野由紀夫)

ツクシコゴメグサ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Euphrasia multifolia Wettst. var. *multifolia*

シソ目 ハマウツボ科

環境省: EN

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】山頂の草地に生育する半寄生の一年草。</p> <p>【分布】本州（長野県，中国地方西部），四国（西部），九州（北部）に分布する。日本の固有種。</p> <p>【形態】茎は直立して分枝し，高さは20～30 cm。葉は対生で長さ7～10 mmで，鈍頭の鋸歯がある。花期は8～10月で，長さ8 mmの白い唇形花をつけ，下唇は上唇より長く大きい。萼は上下で中裂し，その裂片は浅裂，先端が鋭く尖る。</p> <p>【近似種との区別】キュウシュウコゴメグサやタチコゴメグサは葉の鋸歯の先端が芒状に尖るので区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>広島県では中国山地の，山頂草原にまれに見られる。日あたりのよいやや乾燥した場所で背の高い草が生えていないところを好む。放牧や草刈りをしなくなったため，ササの繁茂などにより減少が著しい。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（草地開発，土地造成，道路工事）</p> <p>生育環境の変化（草地の利用放棄，自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>—</p>
産地情報	<p>庄原市（西城，比和），廿日市市（吉和），北広島町（芸北）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

佐久間智子・白川勝信 2008. 雲月山火入れ草地の維管束植物. 高原の自然史, 13: 11-33.

(吉野由紀夫)

ホソバママコナ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Melampyrum setaceum (Maxim. ex Palib.) Nakai

シソ目 ハマウツボ科

環境省: EN

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】 明るい林内や草地に生える半寄生の一年草。県中央部の限られた地域に生育する。</p> <p>【分布】 本州（中国地方西部）・四国（北部）・九州（北部）・朝鮮半島・中国大陸（東北部）に分布する。</p> <p>【形態】 茎は高さ 25～50 cm，葉は狭披針形で先は尾状に長くとがり，基部に 2～4 mm の短い柄がある。花期は 8～10 月枝先に長さ 2～6 cm の花序を作り，多くの花を付ける。苞は紅赤色を帯びる。花冠は紅紫色で，長さ 13～16 mm。花喉の両側に白色の斑がある。</p> <p>【近似種との区別】 ママコナの葉は卵形か長楕円状披針形で赤褐色になるので区分できる。ミヤマママコナは花喉の両側に黄色の斑がある。</p>
生息・生育状況	西条盆地のため池の周辺部の草地に生育している。定期的な草刈によって生育環境が維持されているようである。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採，土地造成，道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	ため池の堤防や水路の工事により，従来の里山環境が減少し，生育環境が悪化しつつある。
産地情報	竹原市，東広島市

井鷲裕司 2008. 東広島島の自然誌(Ⅰ). 53 pp. 東広島市自然研究会, 東広島.

浜田展也・武内一恵(監修・解説)・小池周司(写真) 2011. 広島県の山野草(秋編). 379 pp. 南々社, 広島.

(吉野由紀夫)

ヒメタヌキモ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Utricularia minor L.

シソ目 タヌキモ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】 貧栄養の湖沼やや浅い池に生育する浮遊する水草で，食虫植物。</p> <p>【分布】 温帯に分布する北方系の植物で，日本では千島，北海道，本州に生育する。</p> <p>【形態】 茎は水中の泥土上をはい，長さ 15～30 cm になる。水中葉は 3～4 回分裂し，5～10 個の裂片に分かれ全縁で，少数の捕虫囊をつける。花茎は高さ 10 cm 内外となり，花期は 8～9 月，径 8 mm 内外の花をつける。花色は淡黄色。冬に越冬芽を作って本体は枯れる。</p> <p>【近似種との区別】 イトタヌキモの水中葉はまばらに生じ，小形で 1～3 回分裂し，細くて微歯があることから区分される。</p>
生息・生育状況	広島県では吉備高原面や世羅台地の湿原・湿地から報告されている。湿原中の水たまりや水路に生育する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（湿地開発，ため池の埋立，土地造成など）</p> <p>生育環境の変化（水質汚濁，富栄養化，ため池の管理放棄）</p>
特記事項	広島新空港やその周辺地域，東広島市とその周辺部の開発などによって，多くの自生地が失われた。
産地情報	三原市（本郷），府中市，三次市，庄原市（高野），東広島市（西条，八本松，河内），世羅町（世羅西）

下田路子 1987. 広島県用倉地区のため池の植生. 中西 哲博士追悼植物生態・分類論文集(中西 哲博士追悼植物生態・分類論文集編集委員会, 編), p. 175-185. 神戸群落生態研究会, 神戸.

(久藤広志・吉野由紀夫)

ムラサキミミカキグサ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Utricularia uliginosa Vahl

シソ目 タヌキモ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】湿地に生育する小型の食虫植物。</p> <p>【分布】北海道から琉球, 朝鮮半島, 中国大陸などに分布する。</p> <p>【形態】食虫植物で捕虫嚢は地下葉につける。地上葉は小さく, 長さ2~3.5 mm, 草丈は高く, 大きいものは20 cm くらいになる。花期は6~9月, 花は薄紫色, がくに乳頭状の突起がある。果実は球形で耳かき形ではない。</p> <p>【近似種との区別】ムラサキミミカキグサは草丈が小さく5 cm くらい。花は暗い青色で, 果実は耳かき形なので区分できる。ホザキノミミカキグサの小型のものが似ている。</p>
生息・生育状況	<p>広島県内では島嶼部から吉備高原面にかけて生育分布する。日あたりのよい湿地や湿原内で, ほかの植物があまり生えていない所に生育する。ミミカキグサより少ない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変 (湖沼開発, 湿地開発, ため池の埋立, 土地造成など)</p> <p>生育環境の変化 (水質汚濁, 富栄養化, ため池の管理放棄)</p>
特記事項	<p>食虫植物の生活の基盤となる小湿地について, その存在を経済的な価値だけで判断せず, 多様な生態系の一つとして位置づけ, 保全していく必要がある。</p>
産地情報	<p>広島市 (東区, 安佐北区), 呉市, 三原市 (大和, 本郷, 久井), 尾道市, 福山市, 府中市, 三次市 (三次, 三良坂, 三和), 庄原市 (東城, 口和), 東広島市 (西条, 八本松, 黒瀬, 福富, 安芸津), 廿日市市 (廿日市, 大野, 佐伯, 宮島), 安芸高田市 (八千代), 府中町, 熊野町, 安芸太田町 (戸河内), 北広島町 (芸北, 大朝), 世羅町 (世羅, 甲山, 世羅西)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(久藤広志・吉野由紀夫)

ツルツゲ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①

Ilex rugosa F.Schmidt var. *rugosa*

モチノキ目 モチノキ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】針葉樹林下に生育する匍匐性の常緑小低木で, 北海道, 本州, 四国, 九州の温帯域に分布する。</p> <p>【形態】高さ50 cm。茎は稜線あり, 前面に細点があつて無毛, 分枝が多く, 所々に根を出す。葉は互生で小さく革質, 広披針形から卵状楕円形で長さ2~4 cm, 短い葉柄をもち, 基部は鈍形で先は鈍頭, まばらに低鋸歯がある。表面は脈がへこんでしわがあり, 裏面は脈が隆起する。雌雄異株で花期は6~7月, 花は白色で径約5 mm, 葉腋に数個が束につく。がく, 花弁は4枚。果実は球形で赤く熟し, 径約5 mm。</p> <p>【近縁種との区別】モチノキ属の匍匐性低木は本種だけである。</p>
生息・生育状況	<p>スギ植林内の林床に少数個体が生育している。現在確認されている自生地は, 県内では西中国山地の1か所のみである。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと個体数が少ない。ほぼ分布限界と思われ, 消滅しやすい分布特性をもつ。生育地は植林であるため, 植林の伐採などによる生育地の消失・縮小の危険がある。自生地における植林伐採を規制する必要がある。</p>
特記事項	<p>これまで県内には記録がなかったが, 北広島町 (旧芸北町) の植林内で発見された。隔離分布。ただし, 島根県側にも自生地あり。</p>
産地情報	<p>北広島町 (芸北)</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

松井健一 2004. 広島県の植物についての新産地情報. 比婆科学, 212: 23-26.

(松井健一)

バアソフ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Codonopsis ussuriensis (Rupr. et Maxim.) Hemsl.

キク目 キキョウ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】山地の林下に生育する多年生のつる植物で、北海道から九州、台湾、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウスリー、アムールまで分布する。</p> <p>【形態】球形の塊根をもち、茎は若時に葉とともに白毛が多く、切れば乳白液を出す。葉は短枝上に3~4枚つき、卵形から卵状楕円形で長さ2~4.5 cm、両面とくに裏には通常白毛が多い。花期は7~8月頃で、短枝の先に下垂してつき、花冠は鐘形で白毛があり、縁は5裂、長さ2.5~3.5 cm、内面は濃紫色を帯び下半に濃紫色の斑点がある。果実は長さ1~1.3 cm、種子には翼がない。</p> <p>【近縁種との区別】ツルニンジンとは花冠が無毛で長さ2~2.5 cm、種子に翼がある。</p>
生息・生育状況	吉備高原面東部の丘陵や山地の夏緑広葉樹林などの林縁や林下に生育しているが、産地は少ない。過去に記録された産地は多いが、その多くは現状不明である。最近の記録のなかでは、三良坂、口和、東城のほかは、情報がなく、それ以外は過去の記録である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	もともと個体数が少ない。森林伐採や管理放棄などによる生育地の消失・縮小が懸念される。生育地の環境変化を伴う工事を規制する必要がある。
特記事項	文献では熊野町からも報告があるが、現状は不明である。
産地情報	広島市(佐伯区)、呉市(呉)、三原市(久井)、福山市(福山、新市)、三次市(三良坂)、庄原市(東城、口和、高野)、東広島市(豊栄)、廿日市市(吉和)、熊野町、安芸太田町(戸河内)、北広島町(芸北)、神石高原町(神石)

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

浜田展也・武内一恵・小池周司 2011. 広島の山野草 夏編. 379 pp. 南々社, 広島.

(松井健一)

ミツガシワ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Menyanthes trifoliata L.

キク目 ミツガシワ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】3小葉よりなる根出葉をもつ水生の多年草。</p> <p>【分布】北半球に広く分布する種で、日本でも中部以北では、湿原の池沼に普通にある。西日本の低地にも残存植物として見られることがある。</p> <p>【形態】水生の多年草。根茎は太く、横に這う。根出葉は卵状からひし状楕円形の3小葉よりなる。4~8月、高さ20~40 cmの花茎が出て、先の方に多数の花をつける。花冠はじょうご形で5裂し、白色、ときに淡紫色を帯びる。</p> <p>【近似種との区別】近似種はない。</p>
生息・生育状況	庄原市吾妻山の池沼に、長野県から移植されたものがよく育っている。水湿地や湿原の浅い池沼に生える。普通、高地に分布するが、低地にも残存植物として見られることがある。産地は国定公園内にある。北広島町(芸北)のキャンプ場では水の浄化に本種を植栽している。自生と紛らわしいので注意が必要である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変(湿地開発、草地開発、土地造成) 生育地の環境変化(湿地の乾燥、自然遷移) 北広島町(芸北)では最近発見されない。絶滅したようである。
特記事項	西南日本では稀産種である。三次市の産地は自生かどうか不明。 岡山県倉敷市の重井薬用植物園(海拔10 m)のため池には本種が栽培され、よく生育している。移植すれば暖地でも生育が可能である。
産地情報	三次市(三和)、北広島町(芸北)、世羅町(世羅)

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

ガガブタ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Nymphoides indica (L.) Kuntze

キク目 ミツガシワ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】 本州以西の湖沼やため池に生育する浮葉性の多年生水草。8月頃に径15mmの白色の花を水面上に数個つける。</p> <p>【形態】 葉柄は長さ1~2cmで、葉身は卵状円形で径7~20cm。水面上に浮かぶ。花は7~9月、花冠は白色で径15mm、柄の基部に束生する。花冠の裂片は、内側全面に長毛が目立つ。</p> <p>【近似種との区別】 同属のアサザは花冠が黄色いことで区別される。また、ヒメシロアサザはガガブタに比べ、著しく小さい。</p>
生息・生育状況	<p>ジュンサイ、ヒシ、フサモなどが生育する貧栄養から中栄養のため池に生育する。しかし、土地利用の変化にともなう生育環境の質的劣化、おもに池の埋め立てや、水質の悪化により、生育地の消失や個体数の減少が続いている。東広島市のため池に生育していたものは絶滅した。現在、確実な産地の情報はない。上記産地のうち、福山市以外は過去の記録である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと個体数が少ない。小さな個体群が孤立しているなど、消滅しやすい分布特性をもつ。土地利用の変化にともなう生育環境の質的劣化、とくに池沼の埋め立てや水質の汚染により全国的にも減少している。池の埋め立てや、集水域を含めたため池の水質に変化を及ぼす行為を規制する必要がある。また池の水草の移植を禁止するべきである。栽培は可能であるが、増殖については不明。</p>
特記事項	<p>本種が生育するため池は規模の小さいものが多く、埋め立て等の改変工事が環境アセスメントなどの対象にならないため、調査されないまま絶滅することがある。</p>
産地情報	<p>三原市(大和)、尾道市、福山市、三次市(君田)、東広島市、世羅町(甲山)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

土井美夫 1983. 広島県植物目録. 148 pp. 博新館, 広島.

(松井健一・吉野由紀夫)

カワラハハコ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Anaphalis margaritacea (L.) Benth. et Hook.f. subsp. *yedoensis* (Franch. et Sav.) Kitam.

キク目 キク科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】 河川中流域の川原に群生する多年生草本。</p> <p>【分布】 北海道~九州に分布する。日本の固有種。</p> <p>【形態】 茎はそう生し、中部でもよく分枝し、高さ30~50cm。葉は線形、幅は1~2mm、縁は裏に巻く。花期は8~9月、頭花は枝先に散房状につける。</p> <p>【近似種との区別】 ホソバナヤマハハコは葉の幅が2~6mmあり、山地の風衝草原に生える。茎はあまり分枝しないことで区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>しばしば川原に群生する。確認記録は多いが、標本等が残されていないことが多く、現状が不明な地点が多い。</p> <p>外来種のシナダレスズメガヤが河原に侵入し、生育環境が悪化している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変(河川開発、道路工事)</p> <p>生育地の環境変化(水害による流失、土砂の堆積、外来種の侵入)</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>太田川中流域の河原には多数生育していたが、2005年の台風以降、減少した。</p>
産地情報	<p>広島市(安佐北区、佐伯区)、福山市(福山、新市)、三次市(作木、三良坂)、庄原市(西城、比和)、廿日市市(吉和)、安芸高田市(吉田)、安芸太田町(加計、筒賀、戸河内)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

ヤハズハハコ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Anaphalis sinica Hance subsp. *sinica*

キク目 キク科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】山の砂礫地に生える多年草で変異が多く、本州関東地方以西、四国、九州と、朝鮮半島、中国に分布する。</p> <p>【形態】細い根茎があって多数の茎が立ち、高さ15~35 cm。根出葉は開花時に枯れる。茎葉は倒披針形で長さ4~6 cm、鈍頭、基部はしだいに狭くなって茎に翼状に流れる。裏面は白色の綿毛が密生。雌雄異株で花期は8~9月頃、雄株は枝の先に多数の頭花を球状散房状につけ、すべて筒状小花で、黄白色かわずかに紅色を帯びる。雌株の頭花は多数の雌花と、中心に少数の雄花がある。総苞は有毛、鐘形で長さ5 mm。</p> <p>【近縁種との区別】ホソバナヤマハハコやカワラハハコは葉基部が茎に流れない。</p>
生息・生育状況	<p>渓谷内の石灰岩の岩壁や堰堤のコンクリート壁に少数が生育している。しかし、生育環境が特殊で個体群がきわめて小さく、産地もわずかである。下記の産地のうち、神石以外は過去の記録である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと個体数がきわめて少ない。生育地が崖や堰堤のコンクリート壁に限定されており、法面や崖の改修などによる生育地の消失・縮小が懸念される。河川や道路の改修にあたり、自生地の環境を保全すべきである。</p>
特記事項	<p>土井(1983)によれば、帝釈峡、上下町で記録があるが、上下町については標本を確認できなかった。</p>
産地情報	<p>府中市(上下)、庄原市(東城)、神石高原町(油木、神石)</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編) 2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(松井健一)

コバナガンクビソウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Carpesium faberi C.Winkl.

キク目 キク科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】山地の林下に生える多年草で、本州近畿地方以西、九州と中国、台湾に分布する。</p> <p>【形態】茎は高さ50~70 cmで軟毛が生え、往々紫褐色を帯びて、上部は多く枝を出す。葉は互生で卵状長楕円形または披針形、柄を含めた長さ10~14 cm、鋭尖頭、基部はくさび形。下部の葉は長い柄があり、上葉の葉は線状披針形で小さい。根葉は通常花時にはない。花期は8~10月頃、茎および枝頂に単生して多数生じ、基部に頭花より長い多くの苞葉がある。総苞は鐘球形で小さく、長さ4 mm、片は4列で外片は短い。花冠は汚れた黄色。</p> <p>【近縁種との区別】ホソバガンクビソウは全体やや大きく総苞は長さ4.5 mm。</p>
生息・生育状況	<p>二次林や植林の林床および林縁のそで群落に少数が生育している。確認されている産地は少なく、現在、安佐北区以外に確実な情報はない。道路の改修時に生育環境が破壊されるなどにより、自生地が失われている可能性がある。</p> <p>下記の産地のうち、福山と新市町は過去の記録である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと個体数が少ない。森林伐採や林道の改修などによる生育地の消失・縮小が懸念される。生育地が林縁や林道沿いである場合、道路の改修工事にあたっては、自生地の環境を保全すべきである。</p>
特記事項	<p>—</p>
産地情報	<p>広島市(安佐北区、佐伯区)、三原市(三原)、福山市(福山、新市)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(松井健一)

ビッチュウアザミ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-④

Cirsium bitchuense Nakai

キク目 キク科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】広島県と岡山県に特産し、石灰岩壁その周辺に生える多年草。</p> <p>【形態】茎は直立または斜上し、高さ 50~150 cm、上部で分枝し、花時に根生葉はない。茎葉はしばしば鎌状に湾曲し、基部は茎を抱き耳部が大きく発達する。葉身は全縁状、草質で艶はなく両面無毛。花期は 8~11 月、頭花は多数あり、花梗は 2~15 cm、上向きまたは斜上する。総苞は細い円筒形、総苞片は圧着して 11~12 列、ほとんどすべてに楕円形の腺体があり、強く粘る。</p> <p>【近似種との区別】ウスバアザミは茎葉が茎の中央部に集まって茎を抱かず、花梗が短い穂状の花序となり、総苞片の先端が反転するなどで区別する。</p>
生息・生育状況	<p>石灰岩地域のごく狭い範囲に生育している。自生地は樹林下の道路沿いにあり、草地のような明るい場所には生育していない。帝釈峡内には、本種と別のアザミ属植物との中間的な形態を示す個体群があり、交雑による本種の減少が危惧される。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>道路の拡張工事や道際の除草作業などが脅威となる。</p> <p>栽培保存や移植については不明。</p>
特記事項	<p>本種と別のアザミ類との雑種と推定できる個体群があることから、交雑による影響を調査する必要がある。</p>
産地情報	<p>庄原市</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

門田裕一・瀬戸口浩彰・副島顕子・東馬哲雄・中田政司・森田竜義・米倉浩司 2017. キク科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 198-369.

(世羅徹哉)

ムラクモアザミ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Cirsium maruyamanum Kitam.

キク目 キク科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】中国山地沿いの水田畔、湿地などに生育する多年生草本。</p> <p>【分布】中国地方(島根, 鳥取, 広島)の特産で、日本の固有種。</p> <p>【形態】茎は高さ 50~90 cm。根出葉は花時に生存し、長さ 20~35 cm、羽状に深裂する。茎葉は茎を広く抱く。花期は 5~10 月、頭花は點頭する。総苞は幅 2~3 cm、片は覆瓦状に重なり粘着する。花冠は 20 mm。</p> <p>【近似種との区別】キセルアザミとノアザミの中間的な形で、ノアザミとは頭花が點頭することで、キセルアザミとは総苞がつぼ型になることと、茎葉が広く茎を抱くことで区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>水田畔や湿地などにごくまれに生育している。個体数は非常に少ない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変(湿地開発, 河川開発, 土地造成, 道路工事, ダム建設)</p> <p>生育地の環境変化(自然遷移)</p>
特記事項	<p>島根県と鳥取県、広島県産の標本で新種記載されたが、広島県の産地は現在島根県になっている。基準産地では現在絶滅したと思われる。</p>
産地情報	<p>三次市(三次, 君田), 庄原市(西城, 高野), 東広島市(西条, 八本松, 豊栄)</p>

Kitamura, S. 1937. Expositiones plantarum novarum Orientali -Asiaticarum 2. Acta Phytotax. Geobot., 6:18-23. (東亜産新植物記相 2)

門田裕一 2002. 広島県から再発見されたアザミームラクモアザミ. 国立科学博物館ニュース, 402: 14-15.

(吉野由紀夫)

ウスバアザミ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-④

Cirsium tenue Kitam.

キク目 キク科

環境省: EN

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】広島県東部と岡山県の石灰岩地帯に特産する。低地の樹林下に生える多年草。全国的にも分布域が限られる貴重種である。</p> <p>【形態】茎は直立して1.5 mに達し、花時に根生葉がなく、茎葉は茎を抱かず、茎の中央部に集まってつく傾向がある。葉身は草質で柔らかく、太く鋭い棘歯がある。花期は9～10月、花梗が短く穂状の花序となり、小花は斜上する。総苞は細い円筒形、総苞片は11～12列、圧着し、ほぼすべてに円形～狭楕円形の腺体があって強く粘る。</p> <p>【近似種との区別】葉は茎のほぼ中央に集まってつき、花梗が短く細い総状花序を持ち、細い総苞が著しく粘ることで他のアザミ類から区別できる。</p>
生息・生育状況	石灰岩地域とその周辺部に分布する。樹林下の路傍や山の斜面に生え、自生地は数か所あるが個体数は少ない。また、生育地周辺では他のアザミ属植物と交雑したと推察される個体が発見されており、今後種の独自性が失われる危険性があると考えられる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変、森林伐採などによる環境悪化、他種との交雑が脅威となる。栽培は可能だが難しい。
特記事項	—
産地情報	庄原市, 神石高原町

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

門田裕一・瀬戸口浩彰・副島顕子・東馬哲雄・中田政司・森田竜義・米倉浩司 2017. キク科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 198-369.

(世羅徹哉)

イワヤクシソウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Crepidiastrum yoshinoi (Makino) Pak et Kawano

キク目 キク科

環境省: EN

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】日あたりのよい乾燥した石灰岩の割れ目に生育する多年草。</p> <p>【分布】岡山, 広島両県の石灰岩地帯にのみ生育する阿哲要素の植物。</p> <p>【形態】茎は高さ30～40 cmで、葉は茎を抱かず、長い柄があり、長さ5～15 cmになる。花は8～10月で、頭花は径、約1.2 cmあり、黄色。小花は5個の舌状花からなる。</p> <p>【近似種との区別】ヤクシソウは小花が10個以上ある。また、茎につく葉は柄がなくて、茎を抱いている。</p>
生息・生育状況	広島県では東部の石灰岩地域にのみ生育する。産地は国定公園, 県立自然公園内にある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変(石灰採掘, 森林伐採, 土地造成, 道路工事)石灰岩地域にて道路や歩道を整備する時は、十分な注意が必要である。
特記事項	ヤクシソウとの間に雑種が知られている。
産地情報	福山市, 庄原市(東城), 神石高原町(油木, 神石)

広島大学理学部附属官島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(久藤広志・吉野由紀夫)

ホソバニガナ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Ixeridium beauverdianum (H.Lév.) Spring.

キク目 キク科

環境省: EN

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】草地に生育するまれな多年生草本。 【分布】本州（関東以西）、四国、九州に分布する。 【形態】茎は直立し高さ20～60 cm、根出葉は線状披針形、長さ5～8 cm、幅3～8 mm、緑白色。茎葉はふつう3個、線状披針形で基部は茎を抱かない。花期は5～10月、頭花は小さく径6～7 mm、総苞は長さ4～5 mm、そう果は褐色で、冠毛は淡汚褐色。 【近似種との区別】ノニガナは茎葉の基部がやじり形になってとがることから区分できる。ニガナも茎葉は葉の下部が広くなり、茎を抱くことから区分される。</p>
生息・生育状況	草地で確認された。個体数はきわめて少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（草地開発、土地造成、道路工事） 生育地の環境変化（草地の利用放棄、自然遷移）
特記事項	北村四郎博士の保育社の図鑑によるとベトナムやヒマラヤにも分布するとのことである。
産地情報	庄原市（高野）、廿日市市（佐伯）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

タカサゴソウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Ixeris chinensis (Thunb.) Nakai subsp. *strigosa* (H.Lév. et Vaniot) Kitam.

キク目 キク科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: DD

概要	<p>【摘要】日あたりのよい乾いた草地や山麓に生える多年生草本。 【分布】本州、四国、九州、朝鮮半島に分布する。 【形態】茎は高さ20～50 cm、根出葉は披針形またな長楕円状披針形で長さ8～25 cm、切れ込みがある。基部はやじり形にならない。花期は4～7月、頭花は径2 cmで淡紫色を帯びる。総苞は長さ9～11 mmで冠毛は白色。 【近似種との区別】海岸付近に生え、花色の似たウスベニニガナは、頭花に筒状の小花があることで区分される。また、茎から乳液を出さない。</p>
生息・生育状況	広島県では吉備高原面の草地に生育する。いずれの産地でも個体数は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（草地開発、土地造成、道路工事） 生育地の環境変化（草地の利用放棄、自然遷移）
特記事項	—
産地情報	広島市（東区）、福山市、三次市（三良坂）、庄原市（比和）、神石高原町（神石）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

浜田展也・武内一恵(監修・解説)・小池周司(写真)2011. 広島の山野草(春編). 367 pp. 南々社, 広島.

(吉野由紀夫)

アキノハハコグサ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Pseudognaphalium hypoleucum (DC.) Hilliard et B.L.Burtt

キク目 キク科

環境省: EN

広島県 2011: VU

広島県 2003: DD

概要	<p>【摘要】本州から九州, 朝鮮半島, 中国大陸, 東南アジアに分布し, 山地や丘陵の日あたりのよいやや乾いたところに生える一年生草本。</p> <p>【形態】高さは30~60 cmになり, 上部で分枝し, 茎は白い綿毛に覆われている。葉は披針形で, 長さ4~5 cm, 表面は緑色, 裏面は綿毛があって白い。基部はなかば茎を抱いている。花期9~11月, 黄色の頭花を散房状につける。花柱は花冠より長い。</p> <p>【近似種との区別】ハハコグサは茎の上部で枝分かれない。葉の両面に綿毛が密生するので区分できる。</p>
生息・生育状況	<p>山地の林縁部や, やや疎な林内に生育する。遷移の進行により生育環境が悪化しており, 元々個体数が少ないが, さらに減少が続いている。下記の産地のうち, 油木町以外は過去の記録である。現在, 明らかな産地の情報は無い。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと個体数が少ないが, 土地利用の変化にともなう生息・生育環境の質的劣化, 遷移の進行や植生の変化により, 個体数の減少や個体群の縮小が著しい。生育地の環境変化を伴う工事を制限し, 生育地とともに林縁部や草原を保全することが必要である。栽培は可能。</p>
特記事項	<p>2003年には情報不足としていたが, 産地が明らかになったので, 2011年よりランクを付けた。過去の産地記録は多いが, 標本があまり採集されていない。検討が必要と考えられる産地もある。</p>
産地情報	<p>広島市(東区, 安佐北区), 呉市(蒲刈), 福山市(福山, 新市), 大竹市, 東広島市(高屋), 廿日市市(佐伯), 安芸太田町(加計), 北広島町(芸北), 神石高原町(油木, 神石)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編)2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(松井健一・吉野由紀夫)

タイシャクトウヒレン 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Saussurea kubotae Kadota

キク目 キク科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】2007年にセイタカトウヒレンから分離して新種記載された広島県の固有種。</p> <p>【形態】茎は1.5 mに達するものがあり, 上部には蜘蛛毛があり, 下部には高さ7 mmに達する翼がある。花時に根生葉がなく, 下部の茎葉には長柄があり, 矢じり型, 上部のものは短柄で卵形。花は9~10月に, 3~8個が上部の総状花序につく。総苞は倒卵形で総苞片は13列ある。</p> <p>【近似種との区別】セイタカトウヒレンは, 本種よりも開花期が早く, 総苞が卵筒形で総苞片が8~9列などで区別する。</p>
生息・生育状況	<p>自生地は, 石灰岩台地にある夏緑広葉樹林内やヒノキ人工林の林縁などのやや乾燥した樹林で, 数か所が知られているが個体数はきわめて少ない。セイタカトウヒレンと同所的に生育している自生地もある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変, 森林の伐採, 乱獲などが脅威となる。移植や栽培保存については不明。</p>
特記事項	—
産地情報	庄原市

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編)2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

門田裕一・瀬戸口浩彰・副島顕子・東馬哲雄・中田政司・森田竜義・米倉浩司 2017. キク科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 198-369.

(世羅徹哉)

ヒメヒゴタイ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Saussurea pulchella (Fisch.) Fisch.

キク目 キク科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】日あたりのよい草原に生えるキク科の越年草。</p> <p>【分布】北海道から九州・朝鮮半島・中国大陸（東北部）・サハリン・東シベリアに分布する。</p> <p>【形態】高さ30~150 cm, 上部でよく分枝し, 多数の頭花をつける。葉は長さ12~18 cm, 羽状深裂または全縁で, 基部は茎に沿下し, 翼となることもある。葉の両面に細毛と腺点がある。花期は8~10月, 頭花は多数が散房状につき, 径12~16 mm, 総苞片には淡紅紫色の付属体がある。花冠は長さ11~13 mm。</p> <p>【近似種との区別】根が太くゴボウ状になる。総苞片の先に乾膜質で淡紅紫色の付属体があることで, 類似種と区別される。</p>
生息・生育状況	<p>島嶼部から中国山地まで点在し, 日あたりのよい草原や林縁に生育している。</p> <p>呉市白岳山と大崎上島は海岸に近い石灰岩地帯, 上蒲刈島は古生層地帯で, いずれも隔離された分布として注目される。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（石灰採掘, 草地開発, 土地造成, 道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（草地の利用放棄, 自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	—
産地情報	<p>呉市（呉, 蒲刈）, 庄原市（東城, 口和）, 安芸太田町（戸河内）, 北広島町（芸北）, 大崎上島町（木江）, 世羅町（甲山）, 神石高原町（油木, 神石, 豊松）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

レンプクソウ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Adoxa moschatellina L. var. *moschatellin*

マツムシソウ目 レンプクソウ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】林内に生える全体が細くてやわらかい多年草。北海道では普通な植物であるが, 南に下がるにつれてまれになる。</p> <p>【分布】北海道・本州（広島県が南西限）・九州に分布し, 北半球温帯に広く分布する。</p> <p>【形態】多年草本で, 白くて細長い地下茎を引き, その先端に芽をつける。茎は高さ5~10 cm, 無毛で繊細, 葉は長さ5~10 cm, 羽状に分裂し, 小葉は5個。花は春早く3~4月に開花し, 緑色で, 茎の先端に集まってつく。茎の頂端にある花は, 花冠が4裂して, 雄しべは8個, 周辺の花は花冠が5裂して, 雄しべは10個である。</p> <p>【近似種との区別】似た植物がないので, 容易に識別できる。</p>
生息・生育状況	<p>北村ほか(1957)「原色日本植物図鑑, 上」では, 近畿地方以東となっていたが, 1978年に広島大学宮島自然植物実験所の関太郎博士(当時)によって神石高原町(神石)で発見され, 三次市(吉舎・三良坂), 府中市などでもあいついで見つかった。その後, 九州中部でも見つかった。溪谷や河川に沿う砂質の立地に生育し, 春早く出芽して初夏には地上部が消失する「春植物」の代表的なものである。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採, 河川開発, 道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p> <p>目立たない植物であるうえ, 生育期間が短いので分かりにくい。</p>
特記事項	<p>レンプクソウは連福草の意味で, 根をたどるとフクジュソウに連なっていたということから名付けられたという。三次市天然記念物(三良坂町内全域)</p>
産地情報	<p>広島市(安佐北区), 福山市(福山), 府中市, 三次市(吉舎, 三良坂), 庄原市(総領, 東城), 神石高原町(神石)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

チョウジガマズミ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Viburnum carlesii Hemsl. var. *bitchiuense* (Makino) Nakai

マツムシソウ目 レンブクソウ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】春, 丁字状の, 白色で外側がピンクの花をつける落葉低木。</p> <p>【分布】中国地方, 四国, 九州の一部に隔離分布する希産種。近縁種が朝鮮半島, 中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】高さ1~3mの落葉低木。葉は対生し, 無柄, 両面に細かい毛が多い。4~5月, 枝の先に径3~6cmの合弁花が集まって咲く。高杯状の花冠は白色で, 外側はピンクを帯びる。果実は長楕円形で扁平, 黒く熟する。</p> <p>【近似種との区別】葉が多毛である点で似ているガマズミは, 葉柄が長く(1cm内外), 花冠は筒状にならず, 果実は卵形で赤く熟す。</p>
生息・生育状況	石灰岩地の急な斜面や尾根筋の岩場に生える。国定公園, 県立自然公園内に生育する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変(石灰採掘, 森林伐採, 土地造成, 道路工事) 石灰岩地域にて道路や歩道を整備する時は, 十分な注意が必要である。
特記事項	移植は困難。
産地情報	福山市(福山, 新市), 庄原市(東城), 神石高原町(油木, 神石)

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(久藤広志・吉野由紀夫)

ヤマヒョウタンボク 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Lonicera mochidzukiana Makino var. *nomurana* (Makino) Nakai

マツムシソウ目 スイカズラ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】本州(東海道以西), 四国, 九州に分布し, 山地樹林下に生える落葉低木。しばしば, 蛇紋岩地帯や石灰岩地帯に生育している。</p> <p>【形態】落葉低木で, 高さ1mくらい, 若枝は無毛, 冬芽は鋭く尖る。葉は対生し, 円卵形から長楕円形で, 全縁, 長さ2~5cm, 裏面は粉白色。花期は5~6月, 花柄は葉腋から出て葉の表面に沿って伸び, 2花をつける。花冠は2唇形で初め白色, 果実は液果で, 7~8月に赤く熟す。</p> <p>【近似種との区別】本種は葉の裏が粉白色になる点で, 県内に産する他のヒョウタンボク類と区別できる。基本変種のニッコウヒョウタンボクは本州(関東, 中部地方)に分布し, 葉が狭く, 花と果実が大きい。</p>
生息・生育状況	県内の広い範囲で断続的に自生地が報告されているが, 個体数は少なく未確認や現状不明の場所が多い。自生地は樹林内の露岩地で, 空中湿度の高い場所に多い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変, 森林伐採などが脅威となる。 栽培は可能と思われるが移植については不明。
特記事項	—
産地情報	広島市, 呉市(音戸), 三次市, 大竹市, 廿日市市, 安芸高田市, 府中町, 安芸太田町, 神石高原町

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編)2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

五百川 裕・奥山雄大 2017. スイカズラ科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 413-428. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉・吉野由紀夫)

ダイセンヒョウタンボク 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Lonicera strophiphora Franch. var. *glabra* Nakai

マツムシノウ目 スイカズラ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】本州（中部以西）、四国に分布し、山地樹林内の露岩地などに生える落葉低木。基本変種のアラゲヒョウタンボク（オオバヒョウタンボク）は、北海道（南西部）から本州（中部以北）に分布する。</p> <p>【形態】茎は分枝し、高さ1～2.5 m、枝は無毛または長腺毛が散生する。葉は対生し、卵形から長楕円状卵形、長さ3～11 cm、縁に長毛があるほか、両面に毛がある。花期は4～5月、花冠は漏斗状で淡黄色、2花を下垂する。苞は大きくて葉状、小苞はない。子房と花柱は無毛。</p> <p>【近似種との区別】基本変種とは子房や花柱の毛で区別する。その他県内に産する類似種とは、葉の大きさ、毛の状態、苞の形態で区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>県の北東部から西部にかけ、中国山地のブナ帯にある樹林下の露岩地に生育する。自生地は数か所が知られているがいずれも個体数は少ない。登山道近くでは人の立ち入りで減少している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変や森林伐採などが大きな脅威となる。人の踏み付けによる環境悪化も減少の要因となっている。栽培は可能と思われる。</p>
特記事項	—
産地情報	庄原市、廿日市市、安芸太田町、北広島町

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

五百川 裕・奥山雄大 2017. スイカズラ科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 413-428. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉・吉野由紀夫)

オニヒョウタンボク 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

Lonicera vidalii Franch. et Sav.

マツムシノウ目 スイカズラ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】本州（東北地方から中国地方）、朝鮮半島南部に隔離的に分布し、ごく一部の山地に生える落葉小高木。</p> <p>【形態】樹高5 mに達し、日本産のヒョウタンボク類の中ではもっとも大きい。樹皮は紙状に剥げ落ち、枝には微細な腺点がある。葉は対生、倒卵形から長楕円形で基部はくさび形、長さ3～9 cmで両面に立毛がある。花期は4～5月。苞は線形、卵形の苞があり、2花をつける。花冠は2唇形で黄白色。果実は液果で2個が合生し、7月頃に赤く熟する。</p> <p>【近似種との区別】幹が太く樹高も高い。葉が大きく、両面にやや硬い立毛があることなどで他のヒョウタンボク類からは容易に区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>県東部の石灰岩地に生える。渓谷から、かなり乾いた尾根や台地にも生育している。場所によっては個体数の多いところもある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変や森林伐採などの環境変化が大きな脅威となる。栽培は可能と思われる。</p>
特記事項	—
産地情報	庄原市、神石高原町

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

五百川 裕・奥山雄大 2017. スイカズラ科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 413-428. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉・吉野由紀夫)

サイコクヒメコウホネ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Nuphar saikokuensis Shiga et Kadono

スイレン目 スイレン科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】湖沼やため池に生育する浮葉植物。従来はヒメコウホネとされてきた。</p> <p>【分布】本州・四国・九州に広く分布する。県内では限られた地域のため池に生育している。</p> <p>【形態】葉は浮葉状態だが、抽水形となることもある。広卵形で長さ 10~30 cm, 幅 7~20 cm になる。基部は心形。葉柄の断面は中実である。花期は 6~10 月で、花は径 3~4 cm, 柱頭盤とともに黄色。</p> <p>【近似種との区別】ヒメコウホネはサイコクヒメコウホネに比べ小形で、葉が丸い。オグラコウホネは柄が中空である。またコウホネは葉が挺水する。</p>
生息・生育状況	<p>広島県では限られた地域のため池にしかなく、近年減少している。盆地や台地の水のきれいなため池に生育する。</p> <p>生育地であるため池の埋め立てや土砂の流入、水質の悪化などが見られる。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（湖沼開発、ため池の埋立、護岸工事、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（水質汚濁、富栄養化、農薬汚染、自然遷移）</p>
特記事項	<p>これまで広島県に分布するヒメコウホネは、Shiga and Kadono(2004, 2008)の研究によって新しい分類群（サイコクヒメコウホネ）とされ、西日本に広く分布することが判った。ヒメコウホネは東南北部地方から中部地方に分布し、分布域が限定されている。</p> <p>なお、従来の選定基準はヒメコウホネとして評価している。</p>
産地情報	<p>三次市, 庄原市(高野), 東広島市, 世羅町(世羅)</p>

Shiga, T. and Y. Kadono 2008. Genetic relationships of *Nuphar* in central to western Japan as revealed by allozyme analysis. *Aquat. Bot.*, 88:105-112.

角野康郎 2014. 日本の水草. 326 pp. 文一総合出版, 東京.

(吉野由紀夫)

サイジョウコウホネ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Nuphar x saijoensis (Shimoda) Padgett et Shimoda

スイレン目 スイレン科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】ため池に生育する抽水植物。東広島市の西条盆地が新変種が記載された基準産地である。</p> <p>【分布】これまでは広島県西条盆地が唯一の産地とされていたが、類似品は他の地域でも見つかっている。</p> <p>【形態】葉は卵形で抽水状態になり、長さ 12~23 cm, 幅 7~14 cm, 葉裏に毛が多い。葉柄は中実。花期は 6~9 月で、花は径 3~5 cm で黄色、柱頭盤は赤い。</p> <p>【近似種との区別】コウホネに似るが、コウホネの柱頭盤は黄色。</p>
生息・生育状況	<p>盆地のため池に、ヒシ、コウホネなどといっしょに生育する。西条盆地の北部と南部の限られたため池にのみ生育している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、河川開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（水質汚濁、富栄養化、農薬汚染、自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>一般に RDB の選定では雑種は対象としない。しかし西条盆地を中心とした一帯にしか見られない雑種なので、ランクを改め選定した。</p>
産地情報	<p>東広島市(西条, 八本松, 黒瀬)</p>

下田路子・大財順子・藤岡孝司 2001. 西条盆地(広島県)におけるサイジョウコウホネの生育地. 奥田重俊先生退官記念論文集「沖積地植生の研究」, p. 93-106. 奥田重俊先生退官記念会, 横浜.

(吉野由紀夫)

ハンゲシヨウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Saururus chinensis (Lour.) Baill.

コシヨウ目 ドクダミ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】低地の水辺や湿地に群生する多年草</p> <p>【分布】本州, 四国, 九州, 琉球, 朝鮮半島, 中国大陸, フィリピンに分布する。</p> <p>【形態】地下茎は太く横に這う。茎は高さ 50~100 cm, 葉は卵形, 基部は心形で 5 から 7 脈がある。花序に近い葉は花期に下半分が白くなる。花期は 6~8 月。花穂は 10 cm 前後になる。</p> <p>【近似種との区別】ドクダミは花時に 4 枚の白い総苞片がある。また葉が白くならない点でも区分できる。</p>
生息・生育状況	<p>人里近くの耕作地付近や湿地, 小水路など身近な環境に生育しているが, 近年の農地の区画整理や住宅地などの開発により生育環境が減少した。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変 (湿地開発, 耕地整理, 土地造成・道路工事など)</p> <p>生育環境の変化 (水質汚濁, 自然遷移)</p>
特記事項	<p>廿日市市 (宮島) ではシカが増えているが, 本種は食べられないようである。</p>
産地情報	<p>広島市 (東区, 西区, 佐伯区), 呉市 (呉, 倉橋, 蒲刈), 福山市 (福山, 内海), 庄原市 (比和), 廿日市市 (廿日市, 宮島), 北広島町 (芸北), 世羅町 (甲山)</p>

関 太郎・中西弘樹・鈴木兵二・堀川芳雄 1975. 厳島(宮島)の維管束植物. 厳島の自然—総合学術研究報告—(天然記念物彌山原始林・特別名勝厳島緊急調査委員会, 編), p. 221-332. 宮島町.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(日朝直樹・吉野由紀夫)

フウトウカズラ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Piper kadsura (Choisy) Ohwi

コシヨウ目 コシヨウ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】海岸近くの樹林に生育するつる性の木本。</p> <p>【分布】本州 (関東南部以西), 四国, 九州, 琉球, 朝鮮半島南部に分布する。関東南部以西に分布するが広島県では少ない。中国地方では山口県の沿岸部に比較的多く産する。</p> <p>【形態】常緑のつる性の木本で, 茎および枝は緑色, 節から根を出す。葉は互生し, 卵形, 長さ 5~8 cm, 先は細くとがり, 質厚く, 5 本の脈が目立つ。花期は 4~5 月で, 雌雄異株, 花穂は細く, 長さ 3~8 cm で下垂する。液果で径 3~4 mm, 橙赤色に熟する。</p> <p>【近似種との区別】クワ科のイタビカズラ類も常緑のつる植物だが, 葉は濃緑色で, 下面の小脈が著しく隆起することで区別される。</p>
生息・生育状況	<p>海岸近い谷筋のスギ植林下に群生している。近くに滝や谷川があり, 空中湿度も高い。豊浜町のものは葉の径が 10~15 cm と大きく, 葉下面に毛があり, 伊豆半島から記載されたオオバフウトウカズラに似ている。人為的に持ち込まれたものであろう。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変 (森林伐採, 土地造成, 道路工事)</p> <p>生育環境の変化 (自然遷移)</p>
特記事項	<p>広島市水内や福王寺山からも記録・報告されているが, 近年確認されていない。再調査の必要がある。</p>
産地情報	<p>広島市 (安佐北区, 佐伯区), 呉市 (蒲刈, 豊浜)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(久藤広志・吉野由紀夫)

タカハシテンナンショウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Arisaema nambae Kitam.

オモダカ目 サトイモ科

環境省: EN

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】林内や林縁部に生育する高さ 20～50 cm になる多年草。</p> <p>【分布】本州（岡山県西部から広島県東部）に分布する。日本の固有種。</p> <p>【形態】葉はふつう 2 個，小葉は鳥足状に 5～7 枚つき，花時に楕円形，長さは 4～10 cm。花期は 4～5 月。仏炎苞は葉より早く開き，紫色で多数の白条がある。舷部が筒部より短い。口辺部はあまり開出ししない。</p> <p>【近似種との区別】同じ時期に開花するヒガンマムシグサは舷部が筒部より長いので区分され，広島県西部に分布する。マムシグサは小葉が 7～14 枚と多いので区分できる。</p>
生息・生育状況	岡山県西部と広島県東部に分布する。県西部にはヒガンマムシグサが分布する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（石灰採取，森林伐採，土地造成，道路工事） 生育環境の変化（自然遷移）
特記事項	1966 年に岡山県高梁市で採取された標本に基づいて新種記載された。
産地情報	福山市（福山，新市），三次市（吉舎），庄原市（西城，東城），安芸高田市（甲田，向原），神石高原町（神石）

Kobayash, T., Murata, J. and Watanabe, K. 2000. The distinction of five taxa of the *Arisaema undulatifolium* group (Araceae) in western Japan. Acta Phytotax. Geobot., 51(1): 57-66.

邑田 仁 2011. 日本のテンナンショウ. 265 pp. 北隆館, 東京.

(日朝直樹・吉野由紀夫)

ムサシアブミ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Arisaema ringens (Thunb.) Schott

オモダカ目 サトイモ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】暖地の樹林内に生育する高さ 70 cm になる多年草。</p> <p>【分布】本州（愛知県，福井県以西），四国，九州，琉球，朝鮮半島（南部），台湾，中国大陸（南部）に分布する。</p> <p>【形態】地下部に球茎を持つ。葉は 2 個，小葉は 3 枚で広卵形。先は糸状にのび，長さ 12～30 cm。花期は 5 月。仏炎苞はあぶみ形で，高さ 7.5～10.5 cm。中部まではふちが巻いて筒状となる。舷部は筒のふちに広がり，広く耳形となる。肉穂花序は長さ 7.5～9 cm。花序付属体は白色。雌雄異株。</p> <p>【近似種との区別】近縁のミツバテンナンショウは小葉が 3 枚で，仏炎苞が葉より高くなる。オオハンゲも小葉が 3 枚であるが，附属体が長く伸びるので区別できる。</p>
生息・生育状況	常緑樹林あるいは夏緑落葉樹林内に生育する。 県内では帝釈峡付近と呉市情島・江田島市などに隔離的に分布する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（森林伐採，ダム建設，土地造成，道路工事） 生育環境の変化（自然遷移） 園芸採取
特記事項	観賞用として採取されることが多い。 自生地についてはマスコミの報道自粛が必要である。
産地情報	呉市（呉，蒲刈），福山市（福山），庄原市（東城），江田島市，神石高原町（神石）

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(久藤広志・吉野由紀夫)

アオテンナンショウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Arisaema tosaense Makino

オモダカ目 サトイモ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】山地の林内に生育する多年草。</p> <p>【分布】本州（兵庫県・岡山県・広島県）・四国・九州（大分県）に分布する。日本の固有種。</p> <p>【形態】全体が緑色，偽茎はふつう葉柄や花柄より長い。葉は2個または1個で，7～11枚の小葉を鳥足状につける。花期は5～6月。花柄は長さ5～7cm，仏炎苞は緑色で，口辺部は外曲する。附属体は太い棒状で，先端は円形，径6～10mm。</p> <p>【近似種との区別】仏炎苞の先端が長くなるので他種から容易に区別できる。</p>
生息・生育状況	宮島では樹林内に生育する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採，河川開発，土地造成，道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p> <p>宮島のシカは食べないようである。近年，宮島にイノシシが入ってきているので，掘り返される恐れがある。</p>
特記事項	これまで県内各地（福山市，庄原市など）から報告されているが，アオマムシグサと混同している可能性があり，標本の検討が必要である。
産地情報	呉市（蒲刈），廿日市市（宮島）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

邑田 仁 2011. 日本のテンナンショウ. 265 pp. 北隆館, 東京.

(吉野由紀夫)

スブタ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Blyxa echinosperma (C.B.Clarke) Hook.f.

オモダカ目 トチカガミ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】一年生の沈水植物。かつては水田の雑草であったが，除草剤の使用などによって，現在では著しく少なくなっている。</p> <p>【分布】本州・四国・九州・琉球・アジア東部・インド・オーストラリアに分布する。</p> <p>【形態】一年生の沈水植物で，茎はきわめて短く，下部からひげ根を多数出す。葉は根生し，細長く，長さ10～30cmになる。花期は7～10月頃で，花柄は葉腋から伸びる。種子は楕円形で表面に突起がある。また，両端に尾状突起がある。</p> <p>【近似種との区別】マルミスブタは種子に尾状突起がない。また，ヤナギスブタは茎が発達して伸びる。</p>
生息・生育状況	県内では西条盆地や三原市（本郷）のため池に生育していたが，空港建設によりなくなった。三次市でも採取されており，県内にはまだ産地はあると思われる。ため池や水田に生育する。貧栄養の水域に産する。県内での調査は十分ではない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（湖沼開発，土地造成，道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（水質汚濁，農薬汚染，自然遷移）</p>
特記事項	水質汚濁に敏感で，地域環境の指標種として重要である。
産地情報	三原市（本郷，久井），三次市（三次，三和），東広島市，安芸高田市（吉田，向原），安芸太田町（戸河内），北広島町（千代田）

東広島市教育委員会(編)2010. 東広島市の水草—西条町・志和町・高屋町・八本松町—. 108 pp. 東広島市教育委員会, 東広島.

(吉野由紀夫)

ミズオオバコ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Ottelia alismoides (L.) Pers.

オモダカ目 トチカガミ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】全国のため池，水路，水田などに生育する一年草。水質汚濁などにより，生育環境が著しく悪化し，全国的に減少している。</p> <p>【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球に分布し，アジアの熱帯から温帯域・オーストラリアに分布する。</p> <p>【形態】茎は短く葉は根生，水中に斜上する。葉は有柄，葉身は披針形から広卵形から円心形，質は薄く長さ3～35 cm，幅1～18 cm。葉縁に鋸歯がある。サイズと葉形は生育環境によって大きく変化する。花期は8～10月。花茎は長さ5～50 cm。花卉は白～薄い桃色で3枚。雄しべ3，雌しべ6がそろった両性花。果実は楕円形，長さ2～5 cm，多数のひだがあつて特徴的である。多数の種子を含む。</p> <p>【近似種との区別】種内変異が著しいが類似種はない。</p>
生息・生育状況	県内のきれいなため池や水田，河川の流れのゆるやかな立地に生育する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（湖沼開発，河川開発，土地造成，道路工事） 生育地の環境変化（水質汚濁，農薬汚染，自然遷移）
特記事項	宮島の包ヶ浦では絶滅した。
産地情報	呉市，福山市（新市），三次市（三良坂），庄原市（東城），東広島市（西条，八本松，黒瀬，豊栄），廿日市市（宮島），安芸高田市（吉田），世羅町（世羅）

世羅台地の自然編集委員会（編）2001. 世羅台地の自然—生物編・目録—. 144 pp. 世羅台地の自然発刊連絡会（甲山・世羅・世羅西町教育委員会），広島県.

黒瀬町史編さん委員会（編）2003. 黒瀬町史 環境・生活編. 772 pp. 黒瀬町.

（吉野由紀夫）

センニンモ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Potamogeton maackianus A.Benn.

オモダカ目 ヒルムシロ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】湖沼，ため池，水路などに生育する常緑性の沈水植物。もっとも深い場所まで生育する。広島県での生育はこれまで判っていなかった。</p> <p>【分布】北海道・本州・四国・九州・東南アジア北部に分布する。</p> <p>【形態】水中茎は中央のくびれた楕円形。葉身は線形，長さ2～9 cm，幅は2～3 mm，細かい鋸歯がある。花期は6～8月，花茎の長さ1～5 cm，花穂の長さ4～10 mm，花はまばらにつく。果実は長さ3～4 mm，柱頭部分が嘴状に突き出る。</p> <p>【近似種との区別】リュウノヒゲモは葉の幅が mm 以下である。エビモは葉がちぢれたように波打つので区分できる。</p>
生息・生育状況	角野(1994)の図鑑には県内に2か所，分布が示されているが，現状は不明である。東広島のため池に生育する。県内の確実な生育地はここだけである。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（湖沼開発，ため池の埋立，護岸工事，土地造成，道路工事） 生育地の環境変化（水質汚濁，富栄養化，農薬汚染，自然遷移）
特記事項	2018年11月に（故）下田路子博士が西条盆地のため池に生育しているのを確認した。
産地情報	東広島市

下田路子 2020. 広島県西条盆地におけるセンニンモの新産地. 水草研究会誌, 109: 23-26.

（吉野由紀夫）

ヒナノシャクジョウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Burmanna championii Thwaites

ヤマノイモ目 ヒナノシャクジョウ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】 繊細な白色の小草で、日陰に生える一年生の腐生植物。</p> <p>【分布】 本州(関東地方以西)・四国・九州・屋久島と沖縄島・中国大陸(南部)・マレーシア・インド・スリランカに分布する。</p> <p>【形態】 繊細な白色の腐生植物で、高さ3~15 cm, 根茎は球状にふくれ、多数のひげ根がある。鱗片葉は披針形でまばらに互生し、長さ2~4 mm。花期は8~10月、白色で柄がなく、やや頭状に集まる。外花被片は筒状に合着し、長さ6~10 mm。</p> <p>【近似種との区別】 この仲間で類縁の種は広島県では確認されていない。</p>
生息・生育状況	<p>樹林下に生育する。県内での確認地点が増えてきた。小さな植物なので、これまで見落とされていたと考えられる。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変(森林伐採, 河川開発, 土地造成, 道路工事)</p>
特記事項	<p>里山の管理(利用)が放棄され、樹林が発達することによって、生育環境ができてきたと思われる。今後、新たな産地が確認される可能性がある。</p>
産地情報	<p>広島市(安佐南区, 安佐北区), 呉市, 東広島市(福富, 豊栄), 廿日市市(宮島), 坂町</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

ミヤマエンレイソウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Trillium tschonokii Maxim.

ユリ目 シュロソウ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】 北海道から九州, 朝鮮半島, 中国, サハリンに分布し、山地の林床に生える多年草。シロバナエンレイソウとも呼ばれる。</p> <p>【形態】 地下茎は太く短い。茎は高さ20~40 cmで、その先端に長さ7~15 cmで菱状広卵形の葉を3輪生ずる。花期は5月、茎の先端に1個つき、外花被片は緑色、内花被片は白色で外花被片より長い。内花被片が淡紫色の品種がある。</p> <p>【近似種との区別】 エンレイソウは内花被片が無く、外花被片は緑色から黒色である。</p>
生息・生育状況	<p>県北部の落葉樹林下やスギ植林地の林縁部に生育する。個体数は非常に少ない。自生地の一部は自然公園の保護区内にあるが採集されることがある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変や周辺樹木の伐採, 乱獲などが脅威となる。</p> <p>一時的な栽培は可能だが、暖地での長期間の栽培には特殊な施設が必要。</p>
特記事項	<p>前はシロバナエンレイソウとした。最近の研究の結果、ユリ科からシュロソウ科に変更されている。</p>
産地情報	<p>庄原市, 神石高原町</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

高橋 弘 2015. シュロソウ科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 158-162. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉・吉野由紀夫)

マメヅタラン 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Bulbophyllum drymoglossum Maxim. ex Okubo

キジカクシ目 ラン科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】本州（福島県以南）、四国、九州、琉球、台湾、朝鮮半島南部、中国に分布し、暖温帯林内の樹木に着生または岸壁などの岩上に生育する多年草。</p> <p>【形態】細い根茎が分岐しながら伸張して広がる。葉の大きさは約1cmで、基部に肥大した球茎はない。5月、葉の付け根から長さ約1cmの糸状の花茎を出し、先端に褐色の1花をつける。暗紅色の花をつけるものは品種として区別されている。</p> <p>【近似種との区別】シダ類のマメヅタに似るが、花があることと、葉の表面にはマメヅタのような光沢はなく、多肉質なので区別できる。同属のムギランは葉が革質で大きく、基部に肥大した球茎を持つ。</p>
生息・生育状況	中国山地の高所を除く広い範囲から自生の記録があるが、県の西部に比べ東部では自生地が少ない。空中湿度が高い山中の樹木に着生または岩上に生育している。生育数にほとんど変化のない自生地もあるが、生育地の改変や乱獲によって生育数が減少している場所があるほか、現在の生育状況が不明な場所もある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変、森林伐採などが大きな脅威となる。栽培は可能であるが、栽培品を安易に植え戻さない。
特記事項	—
産地情報	広島市、三原市、福山市、廿日市市、安芸太田町、世羅町

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編)2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

ムギラン 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Bulbophyllum inconspicuum Maxim.

キジカクシ目 ラン科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】本州（宮城県以南）、四国、九州、朝鮮半島南部に分布し、暖温帯林の樹木に着生または岩上に生育する多年草。</p> <p>【形態】細い茎が分岐を繰り返して匍匐し、先端が卵形に肥大してその先端に長さ1~3cmの1葉をつける。花は6~7月、肥大した茎の基部から花茎を出し、帯黄白色の花を1~3個つける。</p> <p>【近似種との区別】マメヅタランやマメヅタには肥厚した球茎がない。ミヤマムギランは県内には分布しないが、葉が4~8cmと長いので容易に区別できる。</p>
生息・生育状況	県内では、北部地域を除く比較的広い範囲から自生の記録があるが生育数は少ない。おもに中間樹林帯の岩場や樹幹に生育している。開発行為などによる生育地の消滅、樹木の伐採や倒壊による環境変化などで生育数の減少が見られる。また、採集されて個体数が減少している場所もある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	自生地の森林伐採、乱獲が脅威となる。栽培保存や移植は可能だが、栽培品を安易に植え戻さない。
特記事項	—
産地情報	広島市、三原市、尾道市、福山市、府中市、大竹市、東広島市、廿日市市、安芸太田町、神石高原町

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編)2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

エビネ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Calanthe discolor Lindl. var. *discolor*

キジカクシ目 ラン科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】北海道南部から琉球, 朝鮮半島, 中国大陸に分布し, おもに暖温帯の林床に生える多年草。</p> <p>【形態】地表近くに球茎が連なり, 長さ 15~25 cm の葉を 2~3 個をつける。葉には明らかな柄がある。4~5 月, 新葉の展開と同時に高さ 30~40 cm の花茎を直立させ, 上部に 10~15 個の花を総状につける。花色は変異に富む。唇弁は 3 裂し, 中央裂片の先端が凹む。</p> <p>【近似種との区別】サルメンエビネはおもにブナ帯に生え, 大型で葉柄が幅広く葉身との区別がやや不明瞭になる。ナツエビネやキンセイランは花期が異なり, 冬芽がごく小さい。また, 葉が多く, 細い。キエビネはより大型で葉が幅広く, 葉柄は明瞭で長く, 硬い。いずれも, 花があれば区別は容易である。</p>
生息・生育状況	<p>島嶼部から中国山地のブナ林まで, ほぼ県内全域に分布している。里山の植物として比較的普通に見られたようだが, 都市化による開発で自生地が減少したうえに乱獲されたため激減した。現在も採集圧があるほか, 開発や管理放棄による森林環境の悪化のために減少している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の環境変化を伴う開発工事や乱獲が脅威となる。</p> <p>人工的に栽培した個体は安易に植え戻さない。</p>
特記事項	—
産地情報	<p>広島市, 呉市, 三原市, 福山市, 府中市, 三次市, 庄原市, 大竹市, 東広島市, 廿日市市, 府中町, 安芸太田町, 北広島町, 大崎上島町, 世羅町, 神石高原町</p>

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

ギンラン 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume var. *erecta*

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】北海道から九州, 朝鮮半島, 台湾, 中国からヒマラヤに分布し, 冷温帯から暖温帯の疎林中に生える落葉性多年草。</p> <p>【形態】茎は高さ 10~30 cm で無毛, 断面は円形。葉は 3~6 個互生し, 長さ 3~8 cm の狭長楕円形。花は白色, ほとんど開かず, 5~6 月に数個が茎の上部に総状につく。苞は狭三角形, 下位の 1~2 個は他よりも長い。</p> <p>【近似種との区別】ササバギンランは, 葉の裏面や花茎に白色の短毛状突起があり, 苞が線形で, 下位の 1~2 個はとくに長い。クゲヌマランは葉がやや硬く, キンランの葉質に似ている。また, 唇弁基部の距がごく短く, 側萼片基部のすき間から出ない。</p>
生息・生育状況	<p>島嶼部から中国山地まで広く分布しているが, 個体数は少ない。おもに里山の疎林内や林縁部に生育するため, 宅地造成や道路拡張工事などで失われた自生地が多い。里山の管理放棄や登山道沿いの踏みつけなどで生育数が減少しているところも見られる。また, ニホンジカの食害による減少も危惧される。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変, 植生遷移などの環境悪化が脅威となる。</p> <p>長期栽培は困難。クゲヌマランでは自生地播種の試験が行われている。</p>
特記事項	—
産地情報	<p>広島市, 呉市, 福山市, 府中市, 庄原市, 廿日市市, 熊野町, 安芸太田町, 北広島町, 大崎上島町, 神石高原町</p>

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

セッコク 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-c

Dendrobium moniliforme (L.) Sw.

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州から琉球（トカラ列島以北）、朝鮮半島南部、台湾、中国からヒマラヤに分布し、暖温帯の樹上に着生または岩上に生育する多年草。</p> <p>【形態】根茎は短く、直立する茎を叢生する。茎の高さは5～25 cm、多肉で円柱形、落葉したものは節が目立つ。葉は披針形で光沢があり数個が互生する。花は5～6月、普通白色で、葉が落ちた前年の茎の上部の節に1～2個つく。花色には桃色や淡黄色などの変異がある。</p> <p>【近似種との区別】双眼鏡で確認する場合、小型のササ類やイネ科植物と紛らわしい場合がある。</p>
生息・生育状況	ブナ帯を除いて広い範囲に分布する。急峻な岩場や樹上に着生している個体は変化ないと思われる。アカマツ林内にある岩場などに多く生育していた個体は、アカマツの枯死に伴う環境変化や乱獲の影響で減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育環境の悪化や過度の採取が大きな脅威となっている。栽培は容易だが、栽培品を安易に植え戻さない。
特記事項	—
産地情報	広島市、呉市、府中市、三次市、庄原市、大竹市、廿日市市、府中町、安芸太田町、世羅町、神石高原町

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ミズトンボ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Habenaria sagittifera Rchb.f.

キジカクシ目 ラン科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】北海道南西部、本州、四国、九州と中国大陸中部に分布し、日あたりのよい湿地に生育する多年草。</p> <p>【形態】茎は高さ40～70 cmになり、葉は線形で長さ5～20 cm、茎の下方に数個が互生する。7～9月、大きさ約1 cmで淡緑色の花を総状に多数つける。</p> <p>【近似種との区別】サギソウとは花の色、形で明瞭に区別できる。オオミズトンボは花に白色の花被片があり、花径約1.5 cmと大きい。</p>
生息・生育状況	沿岸部から中国山地にかけ、県内では広く分布している。都市近郊では湿地の消滅によって生育地が減少している。残された自生地でも、湿地の陸地化などの環境悪化や過度の採取により減少している場所がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変、植生遷移などの環境悪化が大きな脅威となる。長期間の栽培の可否は不明。
特記事項	—
産地情報	広島市、呉市、三原市、福山市、府中市、三次市、庄原市、東広島市、廿日市市、府中町、安芸太田町、北広島町

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編)2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

オオヤマサギソウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Platanthera sachalinensis F.Schmidt

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】南千島、樺太、北海道から九州、台湾に分布し、亜寒帯から冷温帯の樹林下や林縁、湿地などに生育する多年草。</p> <p>【形態】茎は高さ 40～60 cm になり、低い稜がある。最下部の 2 葉が大きく倒卵状長楕円形で先は円頭、長さは 10～20 cm。花は 7～8 月頃、多数が総状につく。白色に近い淡緑色で、長さ 5～7 mm の唇弁が下垂し、距は長さ 15～20 mm あって子房に沿って伸びる。</p> <p>【近似種との区別】トンボソウはより湿潤な環境に生えて小さく、花の側萼片の形や唇弁、距の長さが異なる。</p>
生息・生育状況	中国山地のブナ帯域にある夏緑広葉樹林やスギ人工林に生えるが、個体数が少ない。植林地の伐採などで生育地が減少しているほか、登山道沿いなどでも減少している場所がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変、森林伐採などの環境悪化が大きな脅威となる。栽培保存の可否については不明。
特記事項	—
産地情報	広島市、庄原市、廿日市市、安芸太田町、北広島町

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

コバノトンボソウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Platanthera tipuloides (L.f.) Lindl. subsp. *nipponica* (Makino) Murata

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】北海道・本州・四国・九州に分布し、日あたりのよい湿地や湿った草原に生える多年草。</p> <p>【形態】茎は直立して細く、高さ 20～40 cm、下部に長さ 3～7 cm の葉を 1 個つける。6～8 月、茎の上部に黄緑色の花を数個、一方向にまばらにつける。距は長さ 12～18 mm あって、後方に跳ね上がる。</p> <p>【近似種との区別】ヤマサギソウやノヤマトンボ(オオパノトンボソウ)とは、葉の大きさや数、花の大きさと付き方が異なる。</p>
生息・生育状況	沿岸部山地から中国山地にかけて広く分布し、明るい湿地に生育する。湿地の減少や環境悪化により生育数が減少している場所がある。また、ニホンジカによる食害もある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変、植生遷移などの環境悪化、イノシシによる掘り返しやニホンジカの食害などが脅威となる。栽培保存や移植については不明。
特記事項	—
産地情報	尾道市、福山市、府中市、三次市、庄原市、東広島市、廿日市市、安芸高田市、熊野町、安芸太田町、北広島町、世羅町、神石高原町

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 178-231. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

クモラン 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Taeniophyllum glandulosum Blume

キジカクシ目 ラン科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】東北南部以南の本州，四国，九州，琉球，朝鮮半島南部，台湾，中国，熱帯アジアからオセアニアに分布し，暖温帯から熱帯の樹木の幹や枝葉に着生する。</p> <p>【形態】茎はごく短く葉はない。根は長さ2～10 cm，扁平で灰緑色（クロロフィルを含む），放射状に束生する。6～7月，約1 cmの花茎を1～5本出し，淡緑色の花を1～3個ずつつける。</p> <p>【近似種との区別】近似種はない。</p>
生息・生育状況	<p>県西部の沿岸部から内陸部にかけて分布し，スギやツガなどの針葉樹やカエデなどの落葉広葉樹に着生している。今回，東部でも自生を確認した。発見されにくい種であるが，県内では生育個体がもともと少ないと考えられる。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の環境変化を伴う工事および着生木の伐採が脅威となる。継続的な栽培はきわめて困難。</p>
特記事項	—
産地情報	広島市，廿日市市，安芸太田町

遊川知久 2015. ラン科. 改訂新版 日本の野生植物 1(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p.178-231.平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編)2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

ヒメニラ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Allium monanthum Maxim.

キジカクシ目 ヒガンバナ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】落葉樹林下に生える繊細な多年生の春植物。広島県の産地は本州の西限である。</p> <p>【分布】北海道，本州，四国，朝鮮半島，中国大陸（東北部）・ウスリーに分布する。</p> <p>【形態】鱗茎は卵円形，花茎は6～10 cmで細かくて無毛。葉は1～2個出て線形，長さ10～20 cm，7～11脈がある。花期は3～4月，雌雄異株。茎の頂に1～2個上向きに咲く。花被片は6個，長楕円形で長さ4～5 mm，白色または微紅色。5月を過ぎると地上部は見えなくなる。</p> <p>【近似種との区別】ヤマラッキョウやノビルは花序に多数の花がつく。また，アマナやキバナアマナは花茎に葉がつくことから区分できる。</p>
生息・生育状況	<p>典型的な春植物である，落葉樹林下や林縁部に生育する。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採，草地開発，ダム建設，土地造成，道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p> <p>灰塚ダムの建設によって，自生地の一部が水没した。</p>
特記事項	三次市天然記念物（三良坂町内全域）
産地情報	三次市（三良坂），庄原市（総領），安芸高田市（八千代），北広島町（千代田）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

河野昭一(監修)2004. 植物生活史図鑑 I 春の植物 1. 111 pp. 北海道大学図書刊行会, 札幌.

(吉野由紀夫)

マイヅルソウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Maianthemum dilatatum (Alph.Wood) A.Nelson et J.F.Macbr.

キジカクシ目 クサスギカズラ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】北海道, 本州, 四国, 九州, 朝鮮半島, シベリア, 北アメリカと北半球北部に広く分布し, 県内ではブナ林域の山の山頂部付近に隔離分布するユリ科の多年草。</p> <p>【形態】地下茎は長く横にはう。茎は高さ 8~25 cm, 基部は膜質の葉鞘で包まれ, 2葉をつける。葉は卵心形で長さ 3~7 cm, 基部は深い心形で先はとがる。花期は 5~7月, 20個ほどつき, 白色で花被片は 4個, 楕円形で長さ 2 mm。液果は球形で径 5~7 mm, 赤色に熟する。</p> <p>【近似種との区別】ヒメマイヅルソウは葉の裏面や茎の上部, 花序に柱状の突起毛が多いので区分される。広島県には自生していない。</p>
生息・生育状況	<p>県北のブナ林が発達する海拔 1000 m 以上の山の山頂付近で, ブナ林の林床や林縁部に隔離分布する。しかし, 生育適地の森林が荒廃しつつあり, 生育地の消失・縮小が起きている。下記の産地のうち, 神石町は過去の記録である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>局限, 孤立, 分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。森林の伐採, 林道の建設, 遷移進行や植生の変化などによる生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。また, 乱獲により個体数が激減している。採取の禁止および生育地の環境変化を伴う工事を規制することが必要である。栽培は可能であるが, 増殖は困難。</p>
特記事項	<p>過去の神石町の産地は検討する必要がある。</p>
産地情報	<p>庄原市 (西城, 東城, 高野, 比和), 廿日市市 (吉和), 北広島町 (芸北)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

浜田展也・武内一恵(監修・解説)・小池周司(写真)2011. 広島県の山野草(夏編). 379 pp. 南々社, 広島.

(松井健一・吉野由紀夫)

ミクリ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Sparganium erectum L. var. *erectum*

イネ目 ガマ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】温帯に広く分布する抽水植物で, 湖沼, ため池, 河川などに群生する。集合果がクリのいがに似ていることから名付けられた。</p> <p>【分布】北海道, 本州, 四国, 九州, 北半球に広く分布し, オーストラリアにも分布する。</p> <p>【形態】水底から立ち上がり, 高さ 50~100 cm になる。地下茎は横にはい, 先に新しい株を作る。葉は線形で, 直立して茎より長く, 幅 8~15 mm, 裏面中央に稜がある。花期は 6~8月, 茎の上部の葉腋から柄を出し, 枝の下部に 1~3 個の無柄の雌性頭花, 上部に多数の雄性頭花をつける。果実は稜がある卵形で硬い。</p> <p>【近似種との区別】花柱の先の片側につく柱頭は糸状で長さ 3~6 mm と長いのが特徴で, 他のミクリ属植物とは区分される。また, ヤマトミクリは花茎が分岐しない。</p>
生息・生育状況	<p>県内のため池や水田の溝, 河川などに生育するが, 個体数は多くない。広島県内には比較的広い範囲に分布するようであるが, よく判っていない。かつて安佐南区の古川には多量に生育していたが, 河川改修により見られなくなった。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変 (湖沼開発, 河川開発, 土地造成, 道路工事) 生育地の環境変化 (水質汚濁, 自然遷移)</p>
特記事項	<p>—</p>
産地情報	<p>三次市 (三和), 大崎上島町 (大崎)</p>

下田路子 1983. 広島大学統合移転地およびその周辺部に分布するため池の水草. 植物地理・分類研究, 31(1): 46-57.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(日朝直樹・吉野由紀夫)

ツクシクロイヌノヒゲ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Eriocaulon alpestre Hook.f. et Thomson ex Körn. var. *alpestre*

イネ目 ホシクサ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】湿地やため池の泥地に生育する一年生草本。</p> <p>【分布】本州（中国地方）・四国・九州に分布する。</p> <p>【形態】葉は長さ 10～18 cm，基部の幅は 3～6 mm，秋に葉よりやや長い花茎をつける。頭花は倒円錐状で径 4～5 mm，総苞片は長楕円状。長さ 2.5 mm で頭花より少し短い。花床に毛がない。花弁はまったく無毛。種子は表面に細鉤状毛がある。</p> <p>【近似種との区別】クロイヌノヒゲに比べ，植物体はやや大きく，頭花もやや大きく，多数花からなり，花床に毛がなく，雌花の花弁の内面に毛がない。</p>
生息・生育状況	吉備高原面のため池の干上がった部分にまれに生育する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（湖沼開発，土地造成，道路工事） 生育地の環境変化（水質汚濁，農薬汚染，自然遷移）
特記事項	分類の困難な仲間である。
産地情報	東広島市（西条，八本松，黒瀬，豊栄），安芸高田市（吉田，美土里，高宮）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.
下田路子 2020. 広島県西条盆地におけるセンニンモの新産地. 水草研究会誌, 109: 23-26.

(吉野由紀夫)

アキイトスゲ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Carex kamagariensis K.Okamoto

イネ目 カヤツリグサ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】Okamoto(1965)によって安芸郡蒲刈町(現: 呉市)から記載された小形の多年草。日あたりのよい道沿いに生育する。</p> <p>【分布】本州（広島）・四国（愛媛）・九州（佐賀・長崎）・朝鮮半島南部に分布する。</p> <p>【形態】密に叢生し，稈は高さ 20～35 cm，葉は幅 1.5～3 mm。小穂は 3～4 個，頂小穂は雄性で線形，長さ 1～2.5 mm。側小穂は雌性で線状長楕円形，長さ 0.5～2.5 cm。雌鱗片は倒卵形で長さ 2～2.5 mm，雄鱗片は長楕円形で長さ 2.5～4.5 mm。果胞は卵形紡錘形で密に短毛があり，長さ 2～3 mm。柱頭は 3。</p> <p>【近似種との区別】オオイトスゲと近縁であるが，アキイトスゲは根茎は短く密に叢生するが，オオイトスゲはまばらである。</p>
生息・生育状況	沿岸部のやや湿った日あたりのよい山道沿いに生育する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（森林伐採，土地造成，道路工事） 生育地の環境変化（水質汚濁，自然遷移）
特記事項	Okamoto (1965)によって新種として記載された。基準標本の産地は安芸郡蒲刈町で海拔は 200 m である。
産地情報	呉市（蒲刈，豊浜，豊），三原市，尾道市（因島），福山市（福山，内海），大崎上島町

Okamoto K. 1965. Taxonomic study of the Carices in the western Honsyu of Japan. 岡山理科大学紀要, 1: 1-105.

すげの会(著)・正木智美(編)2018. 日本産スゲ属植物分布図集. 766 pp. すげの会, 岡山.

(吉野由紀夫)

フサスゲ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Carex metallica H.Lév.

イネ目 カヤツリグサ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】沿海地の林内や草地に生えるスゲ属の多年草。</p> <p>【分布】本州（静岡県以西）・四国・九州・南西諸島・台湾・朝鮮半島・中国大陸南部に分布する。</p> <p>【形態】根茎は密に叢生し、基部の鞘は暗褐色、後に繊維状に細裂する。葉はやや硬く幅3~6 mm。花茎は30~60 cm、果胞が熟す頃には先が垂れている。頂小穂は雌雄性ときに雄性、側小穂は雌性または基部に短い雄性をつけ、長さ2~5 cm、幅約7 mm。先は長い嘴となり、細脈があり、光沢があつて無毛。柱頭は3岐。</p> <p>【近似種との区別】フサスゲは大株で、小穂は房状となり光沢を持ち、上部は點頭することで区別される。</p>
生息・生育状況	沿岸部や島の林縁部に生育している。個体数は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、河川開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（水質汚濁、自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	—
産地情報	呉市（安浦）、東広島市（安芸津）

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

すげの会(著)・正木智美(編) 2018. 日本産スゲ属植物分布図集. 766 pp. すげの会, 岡山.

(吉野由紀夫)

サワヒメスゲ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Carex mira Kük.

イネ目 カヤツリグサ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】本州（静岡県以西）、四国、九州（宮崎県）、朝鮮半島に分布し、おもに溪畔に生育する多年草。</p> <p>【形態】根茎は密に叢生し、匍枝はない。稈は高さ15~40 cm、葉は幅約2 mm、初め茎より短く、花後伸長する。基部の鞘は黄褐色。小穂は2~4個が接続してつく。頂小穂は雄性、長さ15~20 mm、黒褐色で、広線形。他は雌性で柄がない。果胞は卵状紡錘型で、黒褐色。背面の円い3稜形。</p> <p>【近似種との区別】近縁のヒメスゲは山地の岩場や草地に生え、基部の鞘が濃赤色を帯び、すこし糸網があることで区分される。</p>
生息・生育状況	太田川流域の川岸や溪谷内の岩上に生える。また、三次市ではため池の土手に生育している。河川の自生地は洪水時には水没する環境である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河川工事など、改変を伴う開発工事が大きな脅威である。栽培は可能。
特記事項	吉川純幹(1960)の日本スゲ属植物図譜第3巻に書かれているサワヒメスゲは安佐北区三入で採集されたものである。岡山理科大学の星野卓二博士の私信によれば、きわめて特徴のある種で、貴重な存在であるという。
産地情報	広島市、呉市（川尻）、三次市、安芸太田町、北広島町

一橋賢三・世羅徹哉 2014. 広島県におけるスゲ属植物(カヤツリグサ科)の分布. 広島市植物公園紀要, 32: 53-102.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉・吉野由紀夫)

シオクグ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Carex scabrifolia Steud.

イネ目 カヤツリグサ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】 海岸の塩水の出入りする湿地に生育する多年草。</p> <p>【分布】 北海道から琉球, 朝鮮半島, 中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】 地下茎があり, 葉は少数で細く, 幅 1.5~2 mm, やや硬い。茎は高さ 30~50 cm, やや細いが丈夫で, 基部の鞘は葉身がなく, 暗赤紫色の部分がある。花期は 5~7 月, 小穂は 3~5 個, 上部 2~4 個は雄性で線形, 下方の 1~2 個は雌性で, 長楕円形, 長さ 1~2 cm, 鱗片はさび色で先がとがる。果胞は楕円形。</p> <p>【近似種との区別】 海岸の湿地に生育するスゲ属は少なく, オオクグは葉が幅 4~10 mm あることで区別できる。</p>
生息・生育状況	河川の干潮部に多く見られる。河川改修等により減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変 (海浜開発, 河川開発, 土地造成など) 生育環境の変化 (水質汚濁, 自然遷移)
特記事項	過去の埋め立てによる生育地の減少程度が不明なため基準の選定が困難。
産地情報	広島市 (南区, 西区, 安佐南区), 呉市 (呉, 下蒲刈, 安浦), 竹原市, 三原市, 福山市, 大竹市, 廿日市市 (廿日市, 宮島)

すげの会(著)・正木智美(編) 2018. 日本産スゲ属植物分布図集. 766 pp. すげの会, 岡山.

(久藤広志・吉野由紀夫)

チャボイ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Eleocharis parvula (Roem. et Schult.) Link ex Bluff, Nees et Schauer

イネ目 カヤツリグサ科

環境省: VU

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】 海岸に近い湖沼や河川, 湿地などに生育する多年生の抽水から湿生植物。</p> <p>【分布】 本州, 四国, 九州, ユーラシア大陸, アフリカ北部, 南北アメリカ大陸に分布する。</p> <p>【形態】 細い地下茎が匍匐し, 全体軟弱で桿もきわめて細い。稈の高さ 3~7 cm。穂は卵形または長楕円形で, 扁平, 長さ約 3 mm。果実は倒卵形, 平滑。刺針は 4 個, 瘦果とほぼ同じ長さ。秋になると, 地下茎の先に小さな塊茎をつける。</p> <p>【近似種との区別】 マツバイは淡水の環境に生育し, やや丈が高く塊茎をつけない。</p>
生息・生育状況	塩性湿地で, 満潮時には海水の出入りし, 泥が堆積して浅くなっている所である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変 (海浜開発, 河川開発, 土地造成など) 生育環境の変化 (水質汚濁, 自然遷移)
特記事項	県内では, 2008 年に初めて発見された。本州, 四国の各地でも発見されつつある。
産地情報	東広島市 (安芸津), 廿日市市 (宮島)

久保晴盛・武内一恵・向井誠二・坪田博美 2010. チャボイが広島県宮島に産する. 宮島自然植物実験所ニュースレター, 15: 10-11.

中西弘樹 2017. 日本の海岸植物図鑑. 271 pp. トンボ出版, 大阪.

(久藤広志・松井健一)

ネビキグサ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Machaerina rubiginosa (Sol. ex G.Forst.) T.Koyama

イネ目 カヤツリグサ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】日あたりのよい湿地に生育する多年草で、本州（東海道以西）、九州、琉球、熱帯アジアに分布する。</p> <p>【形態】太く長い地下茎があり、桿は円柱形で高さ 30~90 cm。葉は桿の基部から叢生して円柱形、桿より低く、やや粉白色を帯びる。葉鞘はやや長く、多くは根生して 2 列性をなし、茎状をした上半部は円柱形またはやや 3 稜形で平滑。花期は 8~10 月、桿の上部に 2~6 個の散房花序を生ずる。小穂群は長さ 1~1.5 cm、雄蕊は 3、花柱は上部が長く 3 裂する。果は長さ 3 mm、黒で鈍い 3 稜と小さいしわがあり、嘴は短い。柱頭は 3。</p> <p>【近縁種との区別】ヒトモトススキははるかに大きく多数の散房花序が非常に多数の小穂をつける。</p>
生息・生育状況	<p>島嶼部の日あたりのよい湿地に生育しているが、自生地は少ない。江田島の自生地は個体数が多いが、他の自生地は個体数が少ない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと個体数が少ない。開発など土地利用の変化にともなう生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。遷移進行や植生の変化による生育地の環境変化が懸念される。生育する湿地の保全が必要である。</p>
特記事項	<p>過去に生育の記録がなかったが、この 20 年くらいでいくつかの自生地が見つかり、選定された。</p>
産地情報	<p>広島市（南区）、江田島市（大柿）</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

広島市環境局環境企画課(編) 2000. 広島市の生物—まもりたい生命の営み—. 307 pp. 広島市環境局環境企画課, 広島.

(松井健一)

ケシンジュガヤ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Scleria rugosa R.Br. var. *rugosa*

イネ目 カヤツリグサ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】砂礫質土に生育する一年草で、本州関東以西、四国、九州、琉球から台湾、マレーシア、インド、オーストラリアまで分布する。</p> <p>【形態】茎は根元から斜めに伸びて叢生し、高さ 10~20 cm。全体に開出する白毛をつける。葉身は線形で長さ 7~13 cm、先は急に短く尖り、葉鞘は節間より短くややゆるく茎を抱く。葉舌は半円形で縁毛がある。花期は 7~10 月、花序は各桿に 2~3 個頂生および腋生し、長さ 1~1.5 cm で、やや少数の花をつける。鱗片は三角状卵形で先は尖り、果実は球形で灰白色、径 1.5~2 mm。</p> <p>【近縁種との区別】マネキシンジュガヤは葉や茎に毛がない。コキシンジュガヤは葉鞘と桿に翼がある。</p>
生息・生育状況	<p>貧栄養で泥土質または砂礫質土の湿地に生育する。安佐北区の産地は小規模な湿地できわめて小さい個体群であるため、遷移の進行やイノシシの掘り返しにより、自生地が消滅する危険がある。一方、東広島市では多数生育していることが確認された。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。小規模な湿地では、周囲から遷移が進行し、低木が侵入しつつあるため、生育環境の悪化が懸念される。湿原にイノシシによる掘り返しがあり、こうした攪乱による個体の消失が懸念される。生育する湿地の保全が必要である。イノシシ侵入の対策も必要。</p>
特記事項	<p>熊野町の産地（ハグイ原）は標本が確認できなかった。小形で目立たない種であるため、今後、新産地が見つかる可能性がある。</p>
産地情報	<p>広島市（安佐北区）、東広島市（西条）、熊野町</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

下田路子・鈴木兵二 1979. 西条盆地(広島県)の湿地植生. *Vegetation und Landschaft Japans. Bull. Yokohama Phytosoc. Soc. Japan*, 16: 315-323.

(松井健一)

ツクシガヤ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Chikusichloa aquatica Koidz.

イネ目 イネ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】国内に隔離分布し、水湿地にまれに生えるイネ科の多年草。</p> <p>【分布】本州（山形、福井、兵庫、奈良、広島）・九州（福岡、佐賀、長崎、熊本、鹿児島）の各県のごく限られた地域に分布する。中国大陸にも見られる。</p> <p>【形態】地下茎は水中にあり短く斜上、稈は高さ 80～120 cm、葉は長さ 50 cm ほど、幅 8～12 mm くらい。花期は 8～10 月、葉序は直立、大型の円錐、長さ 40～50 cm、枝は多数、細く、分岐する。小穂は単生、長さ 3 mm、ざらつく。芒は長さ 5～6 mm。小花の基部は伸長して柄状の基盤となり、その基部は節をへて小柄につながる。そのため芒の途中で小穂があるような印象を受ける。</p> <p>【近似種との区別】同じ属は、国内には沖縄県西表島にイリオモテガヤが分布している。</p>
生息・生育状況	河川のゆるやかな流れで、川底がおもに礫と砂質からなる水辺に生育する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（河川開発、土地造成）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	生育が確認されている県の多くでは、絶滅危惧種とされている。山形県の川西町の黒川流域の自生地は県の天然記念物として保護されている。
産地情報	三次市

長田武正 1989. 日本イネ科植物図譜. 759 pp. 平凡社, 東京.

伊藤拓夫・笠松光明・池田香奈子・三宅昭仁・服部 保 2007. 武庫川上流におけるツクシガヤ個体群の生育環境. 人と自然, 17: 43-51. (吉野由紀夫)

イトズメガヤ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Eragrostis brownii (Kunth) Nees

イネ目 イネ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】暖地の湿った山地に生える多年草。中国地方では限られた地域の沿岸部で確認されている。</p> <p>【分布】本州（中部以西）・四国・九州・琉球・小笠原に生育し、中国大陸中南部・台湾・インドシナ・インドに分布する。</p> <p>【形態】カゼクサにやや似ているが、やや細くて硬く、根の基部には翌年の硬い新芽がある。高さ 30～60 cm。葉は細い線形で長さ 10～22 cm、幅は 1～2.5 mm。先は鋭く尖る。花期は 8～10 月。円錐花序は長さ 10～20 cm で、広い卵形。花序の枝は単生または双生。基部にわずかの毛がある。小穂は単生し、側生のものも短い柄を有し線形。長さ 6～10 mm。幅 1.7～2 mm。15～25 の花をつける。</p> <p>【近似種との区別】カゼクサは花序の枝に環状に取り巻く腺がある。ズメガヤやコスズメガヤは花序の枝は双生から輪生である。</p>
生息・生育状況	日あたりのいい岩場の湿った間隙に生育している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p>
特記事項	日あたりのいい岩場の湿った間隙に生育している。
産地情報	広島市（南区、西区）

吉野由紀夫・関 太郎 2009. 広島市似島で確認された湿地植生と注目すべき種. 比婆科学, 232: 9-14.

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

イワタケソウ 準絶滅危惧(NT) NT-a

Hystrix japonica (Hack.) Ohwi

イネ目 イネ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】中部地方以西の本州から九州に分布し、山地の樹林下にまれに生える。</p> <p>【形態】ごく短い根茎があり、稈の高さは60~80 cm、葉身は平らで長さ7~20 cm、幅8~15 mm、基部でよじれて表裏が逆転する。花期は6~7月。穂状花序は長さ10~15 cmで、軸には微細な毛があり、各節に1小花からなる小穂を1個ずつつける。護穎は背面に硬い毛があつてざらつき、先端には長さ10~25 mmの芒がある。</p> <p>【近似種との区別】アズマガヤに似るが、小穂は各節に1個で、花序軸の毛が微細なことで区別できる。コウヤザサには小さいが針状ではない包穎が必ず1対あることで区別される。</p>
生息・生育状況	夏緑広葉樹林の谷沿いや、岩が多い斜面の明るい林床などに生える。県の北西部、東部、北東部に自生記録があるが近年の確認例はほとんどない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変、森林伐採などが脅威である。栽培の可否は不明。
特記事項	最近の研究により、学名が変更されている。図鑑によっては、アズマガヤの亜種としている。
産地情報	庄原市、大竹市、廿日市市、安芸太田町、神石高原町

茨木 靖・木場英久・佐藤広行・米倉浩司 2016. イネ科. 改訂新版 日本の野生植物 2(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 23-99. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

トウサクサ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Lophatherum sinense Rendle

イネ目 イネ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州（北陸，近畿，中国地方），四国，九州と中国（中部）分布し、林内に生える多年草。</p> <p>【形態】稈は高さ60~80 cmになり、広披針形の葉を少数つける。花期は8~10月、小穂は明らかに扁平。</p> <p>【近似種との区別】サクサは小穂が披針形で扁平にならないことで区別される。</p>
生息・生育状況	広島市湯来の自生地はスギの人工林下で県道工事のため改変された可能性が高いが、工事中で未調査。廿日市の1か所は現状不明。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の可変、樹木の伐採などが大きな脅威となる。栽培については不明。
特記事項	新たな産地が発見されているが、既知の自生地が減少しているなど、絶滅危惧に移行しやすい状況であることから準絶滅危惧とした。
産地情報	広島市、廿日市市

茨木 靖・木場英久・佐藤広行・米倉浩司 2016. イネ科. 改訂新版 日本の野生植物 2(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 23-99. 平凡社, 東京.

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

(世羅徹哉)

アイアシ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Phacelurus latifolius (Steud.) Ohwi

イネ目 イネ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】 海岸や砂浜の湿地に生える多年草。</p> <p>【分布】 北海道から九州, 琉球, 東アジアに分布する。</p> <p>【形態】 根茎を伸ばして繁殖し, 茎は太く硬い。高さ 0.8~1.2 m。葉は厚く, 長さ 20~40 cm, 幅 1~4 cm の広線形。花期は 6~10 月, 花序は長さ 10~25 cm で, 少し粉白色または汚紫色を帯びる。花序分枝上の各節に小穂 2 個ずつ付ける。小穂 1 個は無柄, 他は太い柄あり, 集まって偏平な棒状となる。芒はない。</p> <p>【近似種との区別】 カモノハシの花穂は直立し, 多くは 2 分枝するので区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>広島市西区の井口は埋め立てによって消滅した。廿日市市の生育地は, 満潮時に海水の侵入する水路の石垣の間に生育している。倉橋島では, 大きな群落が生育している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変 (海浜開発, 河川開発, 土地造成など)</p> <p>生育環境の変化 (自然遷移)</p>
特記事項	<p>県内の島嶼部の調査はまだ不十分である。今後新たな産地が見つかる可能性がある。</p>
産地情報	<p>広島市 (西区), 呉市 (倉橋), 廿日市市</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

久藤広志 2017. 呉市の野生植物(1)ーオオバヤドリギ・アイアシー. げいなんの自然, 19: 58-59.

(久藤広志・吉野由紀夫)

サイヨウザサ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Sasa stenophylla Koidz. subsp. *stenophylla*

イネ目 イネ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】 林縁などの斜面にごくまれに見られる, 小型のササ。</p> <p>【分布】 本州西南部, 四国, 九州に分布する。</p> <p>【形態】 稈は高さ 50~80 cm, 径 2~3 mm。稈の上部や基部から枝分かれする。稈, 稈鞘, 葉鞘は無毛であるが, まれに節に毛があることがある。葉は枝の先端に 2~3 枚つき線状披針形で, 長さ 10~20 cm, 幅は 1.5~2 cm, 両面無毛。肩毛はない。</p> <p>【近似種との区別】 イナコスズやセトウチコスズとは節以外に毛がないことで区別される。</p>
生息・生育状況	<p>県内南部にごくまれに見られる。常緑広葉樹林縁の斜面に小群落をつくる。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変 (森林伐採, 土地造成, 道路工事)</p> <p>生育環境の変化 (自然遷移)</p> <p>道路沿いに生育しているため, 草刈りによって刈り取られる可能性がある。</p>
特記事項	<p>道路沿いの斜面林縁などに見られるため, 雑草として除去されるおそれ強い。除草剤の散布や下刈り, 道路工事の際には留意することが必要。</p>
産地情報	<p>呉市 (安浦), 東広島市 (安芸津)</p>

久藤広志 2015. 広島県産(南部沿岸域・島しょ部)ササ類の紹介 III. ーササ属とスズサ属植物を中心にー. げいなんの自然, 17: 18-24.

小林幹夫 2017. 日本のタケ亜科植物. 435 pp. 北隆館, 東京.

(久藤広志・吉野由紀夫)

アシカガコスズ(イナコスズ) 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Sasa tsukubensis Nakai subsp. *pubifolia* (Koidz.) Sad.Suzuki

イネ目 イネ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】林縁などの斜面にまれに見られる, 小型のササ。</p> <p>【分布】関東以西の本州太平洋側, 四国, 九州北部に分布する。</p> <p>【形態】稈は高さ 40~70 cm, 径 1~2 mm。稈の上部から基部で枝分かかれする。稈鞘, 葉鞘は無毛であるが, まれに上方の節に毛があることがある。節間は無毛または逆行細毛がある。葉は枝の先端に 2~3 枚つき線状披針形で, 長さ 9~18 cm, 幅は 1.5~2.5 cm, 裏面に軟毛がある。肩毛はない。</p> <p>【近似種との区別】サイヨウザサは節以外に毛がなく, セトウチコスズは稈鞘に逆行の細毛があり葉裏には毛がないことで区別される。</p>
生息・生育状況	県内では南部にごくまれに見られる。常緑広葉樹林縁の斜面に小群落をつくる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変 (森林伐採, 土地造成, 道路工事)</p> <p>生育環境の変化 (自然遷移)</p> <p>道路沿いに生育しているため, 草刈りによって刈り取られる可能性がある。</p>
特記事項	宮島では近年, 減少しているようである
産地情報	呉市, 三原市, 大竹市, 廿日市市 (宮島)

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(久藤広志・吉野由紀夫)

ヒロハノハネガヤ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Stipa coreana Honda var. *japonica* (Hack.) Y.N.Lee

イネ目 イネ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】北海道から九州に分布し, 山地の樹林下や草地に生えるまれな多年草。</p> <p>【形態】稈の高さは 60~100 cm, 葉身は平らで長さ 10~30 cm, 幅 7~15 mm, 裏面は微毛があつて灰色を帯びる。花期は 8~9 月。円錐状花序だが枝も小穂も花序軸に圧着して穂状花序に見える。小穂は長さ 12~15 mm の 1 小花からなり, 包穎は小穂と同大, 薄い紙質, 淡緑色, 縦方向の 5~7 脈が横方向の細脈でつながっている。護穎の外面には軟毛があり, 先端には長さ 2~3 cm の太い芒がある。</p> <p>【近似種との区別】ハネガヤとは, 花序が細い穂状に見える点で区別できる。</p>
生息・生育状況	中間樹林帯の明るい林床などに生える。県の東部と西部に数か所の自生地が確認されているが生育個体は少ない。安芸太田町の植林地では樹木が大きくなって環境が変化し, 生育数が減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変 (森林伐採, 土地造成, 道路工事), 生育地の環境変化 (自然遷移) が脅威となる。
特記事項	最近の図鑑では学名が変更されている。
産地情報	広島市, 庄原市, 安芸太田町

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編)2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

茨木 靖・木場英久・佐藤広行・米倉浩司 2016. イネ科. 改訂新版 日本の野生植物 2(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 23-99. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

シマキケマン 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Corydalis balansae Prain

キンボウゲ目 ケシ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】四国、九州から琉球、台湾、中国大陸（南部）に分布する越年草。四国で生育が確認されたのは比較的最近である。四国、九州では絶滅危惧種に選定している県もある。</p> <p>【形態】全草無毛で帯白色。茎は直立し、高さ 15~40 cm になる。葉は 2 回羽状深裂して長さ 8~20 cm の広卵形。茎の上部の葉に対生して総状花序を出し、淡黄色の花をやや密につける。蒴果は長さ 3.5~4.5 cm、幅 2.5~3 mm の広線形で湾曲せず、くびれもない。種子の表面には多数の凹点がある。</p> <p>【近似種との区別】海岸に生えること、花色が淡く蒴果がくびれない広線形であることで区別される。</p>
生息・生育状況	<p>海岸にある遊歩道に面した常緑樹下の岩場に数本が生育しているのが、2004 年ころから知られていた。その後の調査では、生育数に増減があるものと同じ場所で生育が確認されている。中国地方では唯一の生育地。年によって発生数が異なる。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>遊歩道工事など、生育地の環境変化を伴う工事などが脅威となる。歩道に面しているため、除草や清掃作業など、人の立ち入りによって生育が阻害される可能性がある。</p>
特記事項	<p>生育地の状況から一時的な自生の可能性もあるが、愛媛県など西日本では絶滅危惧種に選定している県も多い。自生地、個体数とも少なく、脆弱な生育環境なので準絶滅危惧とした。</p>
産地情報	<p>広島市、呉市（音戸）</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

福原達人 2016. ケシ科. 改訂新版 日本の野生植物 2(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p.103-108. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ホザキケマン 準絶滅危惧(NT) NT-b

Corydalis racemosa (Thunb.) Pers.

キンボウゲ目 ケシ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】四国、九州から台湾、中国に分布し、道端や石垣などに生育する越年草。</p> <p>【形態】全草無毛で柔らかい。茎は分枝しながら広がり、先が立ちあがって花茎の先端までの高さが 20~60 cm になる。葉は 2 回羽状深裂して長さ 5~10 cm、幅 3~5 cm。花期は長さ 3~5 月、長さ 5~10 cm の総状花序に淡黄色の花をまばらにつける。蒴果は長さ 2~4.5 cm、線形で屈曲しない。種子に円錐形の疣がある。</p> <p>【近似種との区別】茎が分枝しながら広がり、花が長さ 0.6~0.7 cm と小さいこと、種子にいぼ状突起があることなどで区別される。</p>
生息・生育状況	<p>常緑樹林下の狭い範囲に生育している。中国地方では唯一の生育地と思われる。ごみの不法投棄などによって環境が悪化している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>県道の拡幅工事などで生育地が改変されることが脅威となる。森林、とくに林床の保全。</p>
特記事項	<p>県内では比較的最近発見された種であり、自生地が車道の近くなので一時的な自生の可能性もあるなど、県内の生育状況が十分解明されているとは言えないが、全国的に希少な種で、県内の分布は貴重である。</p>
産地情報	<p>呉市</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

福原達人 2016. ケシ科. 改訂新版 日本の野生植物 2(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p.103-108. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ヤマブキソウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Hylomecon japonicum (Thunb.) Prantl

キンボウゲ目 ケシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】 湿润肥沃な落葉樹林内に群生する多年草。</p> <p>【分布】 本州, 四国, 九州, 中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】 根出葉は長い柄があり, 羽状複葉で, 小葉は 5~7 個短い柄がつき, 広卵形または楕円形で切れ込みと細かい鋸歯がある。長さ 1.5~5 cm, 幅 1.2~3 cm。花茎は高さ 25~40 cm, 分枝せず, 上部に 3 個の小葉に分かれた 2~3 個の莖葉をつける。花期は 4~6 月, 上部の葉腋に 1~2 個つける。花卉は黄色で径 3~4 cm, さく果は細長く長さ 3~5 cm。</p> <p>【近似種との区別】 クサノオウは茎の基部から数個の葉をつけ分枝する。また, 花は散形花序で数花つけることから区分できる。</p>
生息・生育状況	<p>県東部のおもに石灰岩地に生育する。花が美しいため, 採取されることが多い。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変 (石灰岩採掘, 森林伐採, 土地造成, 道路工事)</p> <p>生育地の環境変化 (自然遷移)</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	—
産地情報	<p>庄原市 (東城), 神石高原町</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編) 2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(日朝直樹・吉野由紀夫)

スズフリイカリソウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Epimedium x sasakii F.Maek.

キンボウゲ目 メギ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】 森林の林床に生える多年草。</p> <p>【分布】 中国地方ではイカリソウ属が複雑な種分化を起こしており, とくに広島県では山陰地方から南下してきたトキワイカリソウ (花が大型で紅紫色, 距があり, 葉は 2 回 3 出) と瀬戸内海沿岸部から北上したバイカイカリソウ (花が小型で白色, 距がなく, 葉は 2 回 2 出) の雑種群が, 広島県三次盆地を中心に庄原市から東広島市にかけて形成されている。</p> <p>【形態】 地下茎は太く, 細い根が多い。根出葉は常緑で, 葉柄を含めて長さ 15~40 cm くらいになり, 一般に 2 回 3 出と 2 出が混在し, 小葉の数は 5~8 枚で, 4 枚や 9 枚になることは少ない。花は 4 月下旬から 5 月上旬。花色は白色から淡紅色を経て濃紅色まで変化している。花形も距がなくして小型のものから, 距が発達して大型のものまで連続的に変化している。</p> <p>【近似種との区別】 中国山地の北東部には, 葉が 2 回 3 出で花色が紅色, 距があるトキワイカリソウが分布しており, 小葉の数で区別される。県東部には, 葉が 2 回 2 出で花色が白色, 距のないオオバイカイカリソウが分布している。西条盆地から沿岸部にかけて, これによく似て, 小葉が丸みを帯び, 縁に刺毛のないバイカイカリソウが見られる。県西部には, 葉が 2 回 3 出と 2 出が混在し, 葉裏は白っぽく, 花は紅色で, 距のあるウラジロイカリソウが分布している。</p>
生息・生育状況	<p>三次盆地では, 各地の林縁や林床に普通に見られ, 群生することもある。アカマツ林やコナラ林など明るい二次林に多い。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変 (森林伐採, 河川開発, 土地造成, 道路工事)</p> <p>生育地の環境変化 (管理放棄, 自然遷移)</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>県内のイカリソウの仲間には, 種分化や植物地理学の見地からきわめて興味深いものである。薬用植物としても利用される。</p>
産地情報	<p>三次市 (三次, 吉舎, 三良坂, 三和), 庄原市 (庄原, 口和), 東広島市 (福富, 豊栄), 安芸高田市 (甲田, 向原), 神石高原町 (神石)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

半田信司・関 太郎・向井誠二・坪田博美 2008. 宮島におけるイカリソウ属の一種 *Epimedium* sp. の再確認. *Hikobia*, 15: 225-230.

(吉野由紀夫)

サンヨウブシ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Aconitum sanyoense Nakai

キンポウゲ目 キンポウゲ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】山地の落葉樹林などに生育しているトリカブト属の1種である。</p> <p>【分布】本州（関東地方以西）、四国のおもに落葉樹林の林縁部に生じる。日本の固有種。</p> <p>【形態】高さ80~100cmに達する大型の多年草本で、地下に塊茎がある。葉や茎にまったく毛がない。とくに花柄に毛がないことが特徴である。葉は掌状に5深裂し、幅は15~20cmある。花は紫色で、上がく片は烏帽子状、花弁は2枚で上がく片に包まれる。</p> <p>【近似種との区別】広島県のトリカブト属は2種しかなく、サンヨウブシとタンナトリカブトである。サンヨウブシは大型で高さが1m以上になるが、タンナトリカブトは0.5~1mである。タンナトリカブトは茎や葉に毛があり、とくに花柄には曲がった毛がある。</p>
生息・生育状況	<p>自然度の高いブナ林のやや湿った林床や林縁部に群生している。タンナトリカブトは明るい草原に生育することが多いが、サンヨウブシは暗い林下に生育している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	—
産地情報	<p>庄原市（東城、高野）、廿日市市（吉和）、北広島町（芸北）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

北広島町生物多様性専門員会議(編)2014. 北広島町の自然—北広島町自然学術調査報告書—. 700 pp. 北広島町教育委員会, 北広島町.
(吉野由紀夫)

ミチノクフクジュソウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Adonis multiflora Nishikawa et Koji Ito

キンポウゲ目 キンポウゲ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】早春、黄色の比較的大きい花を開く草本。</p> <p>【分布】本州・九州に分布する。広島県では県北西部の石灰岩地域に見られる。</p> <p>【形態】多年草。根茎は太く、多数の根を出す。3~4月、十分開いていない葉をつけた茎が伸び、その先に通常1個のつやのある黄色の花をつける。がく片と花弁はほぼ同長である。その後、茎が伸びてニンジンに似た葉を広げるが、夏になると枯れてしまう。広島県のフクジュソウは、1本の茎に2~5個の花をつけ、花弁ががく片より長いミチノクフクジュソウと考えられる。</p> <p>【近似種との区別】フクジュソウの萼片は花弁と同じか、花弁よりやや短い。ミチノクフクジュソウの萼片は花弁より明らかに短い。花弁の長さの半分かそれよりわずかに長いくらい。</p>
生息・生育状況	<p>東北部の主として石灰岩域に見られるが、乱獲のため激減した。しかし、一部ではかなり多く群生しているところがある。生育地は国定公園内および境界付近にある。溪流辺などの湿った落葉広葉樹林内や林縁に生える。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、河川開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（水質汚濁、自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>正月用の鉢植飾り花として、昔から珍重されている。園芸品種もある。庄原市総領ではハイキングコースにフクジュソウを植えている。自生種との間に遺伝子交雑が起こる可能性があり、管理には細心の注意が必要である。</p>
産地情報	<p>県北東部</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

アズマイチゲ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Anemone raddeana Regel

キンボウゲ目 キンボウゲ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】九州より北海道、樺太、ウスリー地方にかけて分布する。早春の落葉広葉樹林の林床を彩る植物の一つである。</p> <p>【形態】ブナ帯下部の林縁に生える多年草。花茎は高さ 15~20 cm。植物体は白っぽく、花のすぐ下にある総苞葉の柄は短い。花弁状の白色のがく片は、8~13 枚あり、頂生した花は上を向いて開く。葉や茎は初夏には枯れる。</p> <p>【近似種との区別】キクザキイチゲの総苞葉の小葉は深く切れ込み、柄の基部は広がって翼状になるが、アズマイチゲの小葉は深く切れ込むことはなく、柄の基部は広がらない。</p>
生息・生育状況	<p>県内では落葉広葉樹林の林縁部に点々と分布している。海拔 250~350 m, コナラ, クヌギ, アベマキなどのよく手入れされた落葉広葉樹林の林縁部より林内にかけて生育しているが、生育地も個体数も少ない。生育環境の悪化により生育地の消失・縮小が起きており、個体数が減少しつつある。下記の産地のうち、安佐北区、千代田、吉舎、東城は過去の記録である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>利用放棄を主要因とする二次林や二次草地の変容、遷移進行や植生の変化などによる生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。盗掘による個体数減少の危険もある。適当に上層の樹木や草本の伐開をして、生育地の周辺をかなり広く保全すること、草地では草刈りなどの管理が必要である。生育地の環境変化を伴う工事の規制、採取の禁止、マスコミ報道の自粛も必要である。栽培はきわめて困難。</p>
特記事項	<p>県下の生育地となる落葉広葉樹林の里山が荒廃し、手入れが行われなくなったことと、乱獲が減少を早めている。総領町とその付近では採取圧は減少したが、戸河内町の自生地では花が減っている。セツブンソウとともに保全活動が行われて減少要因が減ったことから、2011 年よりランクを下げている。三次市天然記念物（三良坂町内全域）</p>
産地情報	<p>広島市（安佐北区）、三次市（吉舎、三良坂）、庄原市（総領、東城）、安芸太田町（戸河内）、北広島町（千代田）、神石高原町（神石）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編)2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(松井健一・吉野由紀夫)

エンコウソウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Caltha palustris L. sensu lato

キンボウゲ目 キンボウゲ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】北海道、本州、九州、朝鮮半島、中国、千島列島からサハリンに分布するとされ、流れの緩やかな川沿いや池、湿地に生える多年草。</p> <p>【形態】根生葉は3~4 個、長柄があり、葉身は長さ幅ともに6~12 cm の腎形または扇形。花茎は1~2 本出て長さ15~30 cm で斜上するか、または40~80 cm に達して横に這い、先端部が上向して先に1~2 花をつける。花期は4~6 月、茎頂に2 個の花をつける。萼片は黄色で5~8 個。花弁はない。</p> <p>【近似種との区別】エゾノリュウキンカは葉が長さ20 cm と大きく、葉柄には張り出した翼がある。</p>
生息・生育状況	<p>吉備高原面から中国山地の湿原に生えるがまれである。生活史の一部または全部で脆弱な環境を必要とする。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変や植生遷移、水質汚濁などが脅威となる。栽培は可能。</p>
特記事項	<p>エゾノリュウキンカは吾妻山のため池に植えられたことがあるので注意が必要。県内には、花茎が短く斜上する基本変種のリュウキンカと、花茎が長く横走する変種エンコウソウが自生している。ここでは、北村・村田(1964)の見解に従い、両変種を区別せず広義のエンコウソウとした。</p>
産地情報	<p>広島市、福山市、三次市、庄原市、北広島町、世羅町、神石高原町</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編)2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3 版)ーレッドデータブックひろしま2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

門田裕一・西川恒彦 2016. キンボウゲ科. 改訂新版 日本の野生植物 2(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p.119-170. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉・吉野由紀夫)

タカネハンショウヅル 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Clematis lasianдра Maxim.

キンポウゲ目 キンポウゲ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】山間部の低地の日当りのよい林縁などに生育するつる性低木。</p> <p>【分布】本州（近畿地方以西）・四国・九州・中国大陸・台湾に分布する。</p> <p>【形態】山間部の低地の日あたりのよい林縁部に生育するつる性低木。葉は2回3出複葉で小葉は卵形～卵状披針形で先は鋭くとがる。花期は9～10月で、その年に伸びた枝の葉腋より集散状の花序を出す。花は3個で鐘状で下を向いて開く。萼片は4枚で花弁状になり長楕円形で淡紅紫色、先は少しそる。</p> <p>【近似種との区別】トリガタハンショウヅルは萼片が淡黄白色で、花期が春から初夏なので区別できる。</p>
生息・生育状況	広島県では石灰岩あるいは古生層地域にのみ自生が知られている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採，土地造成，道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	—
産地情報	福山市，庄原市（西城，東城）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

カザグルマ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Clematis patens C.Morren et Decne.

キンポウゲ目 キンポウゲ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】落葉性のつる植物。花期は5～6月。</p> <p>【分布】本州，四国，九州，朝鮮半島，中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】茎は褐色で木化する。葉は，3～5枚の小葉よりなる羽状複葉。新枝の先に径7～12cmの花をつける。がく片は，8枚あり淡紫色または白色を呈する。その花が風車のように見えるので，この名がついている。</p> <p>【近似種との区別】中国原産の鉄線（テッセン）は，がく片が6枚，カザグルマは，8枚である。また，ヨーロッパにおいてテッセンとカザグルマなどを交配して品種改良されたクレマチスは，園芸品種として栽培されている。</p>
生息・生育状況	道路，鉄道線路，川岸，水田などに面した林縁部に生育している。林内に生育しないため，花期には人の目につきやすい。県内では，吉備高原面を中心に広く分布しているが，個体数は少ない。林縁部のマント群落を構成する中の1種であるため，生育する林縁部の環境を保全し続けなくてはならない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採，土地造成，道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p> <p>広島市安佐北区のいくつかの生育地では消滅したようである。</p>
特記事項	栽培，増殖は可能である。日本列島に自生する植物の中で，もっとも美しい花を咲かせる種であると評価されている。地域の個体群の遺伝的多様性を保全する必要があり，他の地域の個体群を導入してはいけない。
産地情報	広島市（安佐北区），三原市（久井），府中市（上下），三次市，庄原市，東広島市（福富），安芸高田市（向原），北広島町（豊平），世羅町（世羅，甲山）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(日朝直樹・吉野由紀夫)

トリガタハンショウヅル 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Clematis tosaensis Makino

キンボウゲ目 キンボウゲ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】 林縁や林内に生える落葉性、木本性のつる植物</p> <p>【分布】 本州・四国・九州に分布する。日本の固有種。</p> <p>【形態】 落葉性、木本性のつる植物。葉は互生し、三出複葉。小葉は長さ3~4cm。花は4~5月上旬に開花。花柄は葉よりも短い。花弁はなく、がく片が4枚で、淡黄白色、花弁のように見える。先はとがって丸くなり、外面全体に白毛がる。</p> <p>【近似種との区別】 ハンショウヅルの花色は暗赤紫色で、花があれば容易に区別できる。葉だけでは区別が困難である。</p>
生息・生育状況	<p>広島県東部の庄原市（東城）、神石高原町（神石、油木）、福山市などの石灰岩地帯に分布している。廿日市市（大野）では花崗岩域に生育している。この自生地は県内では特異的なものである。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（石灰採掘、森林伐採、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（水質汚濁、自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>生育地は国定公園や県立自然公園に属しているが、歩道の改修工事などで、石灰岩が削られると危険である。</p>
産地情報	<p>福山市、庄原市（東城）、廿日市市（大野、佐伯）、神石高原町（油木、神石）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

シロバナハンショウヅル 準絶滅危惧(NT) NT-b

Clematis williamsii A.Gray

キンボウゲ目 キンボウゲ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】 本州（関東から近畿の太平洋側）、四国、九州に分布し、林縁部に生える木性のつる植物。石灰岩地に生育する傾向がある。</p> <p>【形態】 葉は、1回3出複葉。小葉は卵形で少数の粗い鋸歯があり3中裂から浅裂することがある。花期は4~5月、新枝基部の葉腋から集散状花序を出し、1~2花をつける。花は白色、径2~3cm、広鐘形で下向きに咲く。雄蕊は無毛。</p> <p>【近似種との区別】 トリガタハンショウヅルは花が細長い鐘形、先端部は広がって反曲し、雄蕊が有毛である。</p>
生息・生育状況	<p>県内では、一部が石灰岩でできた3島で自生が確認されている。自生場所は道路に面した明るい林縁や林内で、石灰岩地とは限らない。林内のものは花付きが悪い。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>道路の拡幅工事など、自生地の改変が脅威となる。栽培、増殖は容易。</p>
特記事項	<p>今回調査で新産地が確認されたがいずれの自生地でも生育個体数は少ない。生育環境が限られており、分布域が狭く、採集される可能性もあることから選定した。</p> <p>石灰岩地のある呉市の島嶼部でも自生している可能性がある。</p>
産地情報	<p>尾道市、大崎上島町</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編)2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

門田裕一・西川恒彦 2016. キンボウゲ科. 改訂新版 日本の野生植物 2(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 119-170. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

セツブンソウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Eranthis pinnatifida Maxim.

キンボウゲ目 キンボウゲ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】内陸部の山麓林縁部や人家周辺の草地に群生する多年草。</p> <p>【分布】関東以西に分布し、本県の産地はほぼ南限に当たる。日本固有種で、全国的に個体数が減少しつつある希少種である。乱獲の恐れが大きい。</p> <p>【形態】多年草。早春、いくつかの裂片に切れこんだ五角状の葉身と長い柄の根生葉が数枚生じ、5~15 cm の、途中に茎葉が輪生状についている花茎を伸ばし、径 2 cm 内外の白花を一つずつつける。夏になると地上部は枯れてしまう。</p> <p>【近似種との区別】根生葉、茎葉の形が似ているニリンソウは花期が遅く(4~5月)、1茎に普通2~3枚花をつけ、花柄が長い。</p>
生息・生育状況	<p>県東部の山麓林縁部、一般に人家付近やスギ植林、墓地の周辺に群生している。早春に開花し、夏に林冠上層部に葉が茂って林床が暗くなると休眠状態になる、代表的な春植物(スプリング・エフェメラル)。礫が多い所に生える。石灰岩地を好む傾向がある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変(森林伐採、草地開発、土地造成、道路工事)</p> <p>生育環境の変化(自然遷移、樹林化など)</p> <p>園芸採取</p> <p>定期的に低木類の除去や除草を行う必要がある。</p> <p>人気のある花で、保護区以外では盗掘される恐れが高い。</p>
特記事項	<p>三次市(三良坂)や庄原市(総領)では、地元住民が保護している。三次市天然記念物(三良坂町内全域)、庄原市天然記念物(総領町)</p>
産地情報	<p>福山市(福山, 新市), 府中市, 三次市(吉舎, 三良坂, 三和), 庄原市(総領, 高野), 神石高原町(油木, 神石)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(久藤広志・吉野由紀夫)

バイカモ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Ranunculus nipponicus Nakai var. *submersus* H.Hara

キンボウゲ目 キンボウゲ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】河川、水路、湧水池などの冷たい流水中に生える常緑の沈水性の多年草。</p> <p>【分布】北海道と本州に分布する。広島県が分布の南西限。日本の固有種。</p> <p>【形態】流水中に生え、茎は長さ1~2 m。葉は糸状に細かくさけ、房状になる。花期は6~8月で、花柄は長さ10 cm くらい。径1.5 cm ほどの白い花が水上または水中で咲く。名前は花の形による。</p> <p>【近似種との区別】ヒメバイカモの花柄は3 cm をこえない。また、ため池などの止水域に生育する。ヒルゼンバイカモは葉柄の長さが3 cm、葉全体の長さは8 cm になる。バイカモは葉柄が2 cm 以下、葉全体の長さが3~7 cm である。</p>
生息・生育状況	<p>山間部の上流域や湧水池などの冷水域で水流中に繁茂する。広島県では北東部の山間部に生育する。生育地点は限られているが、個体数は割合多いようである。庄原市川西では農業基盤整備によって絶滅。庄原市東城町帝釈宇山では水路の改修で絶滅し、帝釈未渡より移植したものが生育している。庄原市西城町中野では国道の拡幅によって個体数が激減した。また、東城町禅仏寺谷の湧水池の産地は工事により消滅した。現状は不明である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変(護岸工事、河川開発、土地造成、道路工事)</p> <p>生育地の環境変化(水質汚濁、富栄養化、自然遷移)</p>
特記事項	<p>一部の地域では食用にしている。日本固有種であり、広島県は本種の分布の南西限であり、貴重なものといえる。水路の雑草であるため、保護には地域住民の理解が必要。</p> <p>2018年11月に岡山県の研究者と上帝釈のバイカモを調査した時、ヒルゼンバイカモ(var. <i>okayamensis</i> Wiegleb)ではないかとの指摘を受けた。県内における両者の関係を調査する必要がある。</p>
産地情報	<p>府中市(上下), 庄原市(庄原, 西城, 東城, 高野), 神石高原町(油木, 神石)</p>

角野康郎 1994. 日本水草図鑑. 179 pp. 文一総合出版, 東京.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

マンセンカラマツ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Thalictrum aquilegifolium L. var. *sibiricum* Regel et Tiling

キンボウゲ目 キンボウゲ科

環境省: EN

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州（日本海側）、四国、九州と朝鮮半島、中国大陸（東北部）、シベリアに分布し、海岸から山地の草原や林縁に生える多年草。高山には生育しない。</p> <p>【形態】カラマツソウによく似てより大きくなり、全体無毛。花期は県内の場合5～6月。そう果は3～8個、倒卵形で先端部は切形または微凹形。</p> <p>【近似種との区別】カラマツソウはそう果の先端が円頭形またはやや鋭頭形で10個以上つく。</p>
生息・生育状況	<p>県中部と北部の2か所で自生が確認されている。生育地は林縁部から河川敷や水田に至る草地で、数十からおよそ100個体が群生している。三次市の自生地は他の草本類が旺盛になるなど環境が変化しているため個体数が減少傾向にある。東広島市の自生地では草地として管理されており、やや増えている。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>道路の拡幅、川土手の改修など大規模な土地改変や、管理放棄による植生変化が脅威となる。栽培は可能。</p>
特記事項	—
産地情報	<p>呉市（川尻）、三次市、東広島市</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

門田裕一・西川恒彦 2016. キンボウゲ科. 改訂新版 日本の野生植物2(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 119-170. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

フッキソウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Pachysandra terminalis Siebold et Zucc.

ツゲ目 ツゲ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】葉が茎の上部に集まってつく草本状の常緑小低木で、公園の下草としてよく利用されている。</p> <p>【分布】北海道・本州・四国・九州・中国大陸に分布する。県内では東北部の主として石灰岩域に自生しているが、まれである。掘り取られる恐れが大きい。</p> <p>【形態】草本状の常緑小低木。茎は緑色で、基部は地をはい、先は立って高さ20～30 cmになる。葉は倒卵状へら形で、上縁にあらい鋸歯があり、互生するが、茎頂に集まってつく。3～5月、茎の先に花が穂になって咲く。異性花で、雌花は下方につき、数が少ない。</p> <p>【近似種との区別】近似種はない。</p>
生息・生育状況	<p>広島県では希産種である。東北部の主として石灰岩地域にまれにあり、所によってはかなり群生している。産地は国定公園内にある。山地の落葉広葉樹林内で、適潤の深い土壌の所に生える。時に、溪谷で林縁の河原にも見られる。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事） 生育地の環境変化（自然遷移） 園芸採取</p>
特記事項	<p>栽培は容易。公園や街路沿い緑地の下草としてよく植えられている。</p>
産地情報	<p>庄原市（東城）、廿日市市（吉和）、神石高原町（神石）</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

ヤマシャクヤク 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Paeonia japonica (Makino) Miyabe et Tatew.

ユキノシタ目 ボタン科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】5月頃、白色の美しい花をつける草本。山地の林内にまれに見られるが、観賞価値が高いため、掘り取られる恐れが大きい。</p> <p>【分布】北海道・本州・四国・九州・朝鮮半島に分布する。</p> <p>【形態】多年草。茎は高さ30~40cmになり、葉は2回3出複葉で、両面に毛がない。5月末頃、茎の先に径4~5cmで白色の美しい花を1つつける。がく片は3個で、花弁は普通5個。雌しべは数個あり、柱頭は短く、すこし外に曲がる。</p> <p>【近似種との区別】近縁のベニバナヤマシャクヤクは葉の裏面にふつう毛がある。花弁が淡紅色、花柱はやや長く、強く外に曲がる。</p>
生息・生育状況	<p>山地の林内に点在。時に何本か集まって生えていることもある。山地の落葉広葉樹林、スギ植林で、溪側など、適潤な林床に生える。石灰岩地や中・古生層の地質を好む。栽培のため採取されることが多く、各地で減少している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事）</p> <p>生育環境の変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取（ボタンの台木用に採取されることもある）</p>
特記事項	<p>戦後伐採されたブナ帯の樹林域に二次林が復活しつつあり、その林床部が生育適地となりつつある。</p>
産地情報	<p>庄原市（西城，東城，口和），廿日市市（吉和），安芸太田町（戸河内）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(日朝直樹・吉野由紀夫)

マルバノキ(ベニマンサク) 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Disanthus cercidifolius Maxim.

ユキノシタ目 マンサク科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】日あたりのよい山地の谷筋や湖畔に生育する落葉低木。</p> <p>【分布】本州（中部地方南西部・滋賀県・岡山県・広島県）と四国（高知県）の一部に隔離分布する。中国大陸中部に近縁種（本種の亜種）がある。</p> <p>【形態】高さ1~3mの落葉低木。葉は丸い心臓形で全縁、マメ科のハナズオウに極似する。晩秋、美しく紅葉するが、同じ頃短い枝に星形をした暗紫色の花が二つずつ背中合わせに咲く。</p> <p>【近似種との区別】花がない時は区別しにくい。マメ科のハナズオウでは、葉の裏面が黄白緑色（ベニマンサクは帯白緑色）、葉柄の両端がふくらみ、中央部が細い。</p>
生息・生育状況	<p>廿日市市大野町渡ノ瀬貯水池付近から佐伯町友田にかけての山地の谷筋や湖畔に生育し、個体数はかなり多い。産地は市有林内にある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、草地開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育環境の変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>1931年に広島山岳会会員であった平川一秋氏によって発見された。</p> <p>広島県は1937（昭和12）年に自生地を天然記念物に指定しているが、その後、渡ノ瀬ダムの建設などにより、指定地の範囲がわからなくなっている。</p>
産地情報	<p>廿日市市（大野，佐伯）</p>

関 太郎(編)1997(2002). ベにまんさくー総合学術調査報告ー. 84 pp. 大野町教育委員会, 大野町.

(久藤広志・吉野由紀夫)

ザリコミ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Ribes maximowiczianum Kom.

ユキノシタ目 スグリ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】 温帯上部から亜高山帯にかけて分布する落葉低木。個体数は少ない。</p> <p>【分布】 本州（東北地方南部から中国地方）・四国・朝鮮半島・中国大陸（東北部）に分布する。広島県は本州における分布の西限である。</p> <p>【形態】 落葉低木。幹は下部からよく分枝し、高さ 2 m になる。葉には長さ 7~10 mm で腺毛のある柄があり、葉身は三角状卵形。掌状に中裂する。径 2.5~5 cm。花期は 5 月。雌雄異株。花序は総状。液果は赤く熟する。</p> <p>【近似種との区別】 ヤシヤビシヤクの葉の頂裂片の先は三角形状でとがるが、ヤブサンザシは葉の先が円みをおびる。</p>
生息・生育状況	県内では北東部と北西部のブナ林域に隔離的に分布している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採，土地造成，道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	確認事例がきわめて少ない。
産地情報	県北部

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

ツルネコノメソウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Chrysosplenium flagelliferum F.Schmidt

ユキノシタ目 ユキノシタ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】 ブナ林域の林下や林縁の沢沿いの湿地に生える。中国地方ではきわめて少ない。中国地方では島根，岡山，広島，山口の各県に分布する多年草。</p> <p>【分布】 北海道，本州（近畿以北），四国，アムール，ウスリー，中国大陸（東北部），朝鮮半島，樺太，千島に分布する。</p> <p>【形態】 花時には通常根出葉はなく，花茎は高さ 6~10 cm，茎葉は小さく幅 4~10 mm，やや扇状で 5~7 個の鋸歯がある。花後基部から長いつるを出し，径 2~5 cm の大きな丸い葉をつける。花期は 4~5 月，花は黄緑色で径 3~6 mm。がく裂片は平開して鈍頭。雄ずいは 8 本。種子は平滑で微細な乳頭状凸起がある。</p> <p>【近似種との区別】 走出枝は地上性で長く伸び，葉をつけることから，ヤマネコノメソウやタチネコノメソウと区分される。</p>
生息・生育状況	ブナ林域の谷筋の湿った岩場に成育している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採，河川開発，土地造成，道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p>
特記事項	福山市については，現状不明である。
産地情報	福山市（福山，新市），三次市（君田），庄原市（高野），安芸太田町（戸河内）

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

タカネマンネングサ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Sedum tricarpum Makino

ユキノシタ目 ベンケイソウ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】近畿以西の本州，四国，九州に分布し，山地の岩上に生える多年草。</p> <p>【形態】冬季は直径3 cmほどのロゼットで，春から数本の茎を出す。茎は高さ10～25 cm，さじ形または倒披針形の葉を互生する。花期は5～6月で集散状の大きな花序に黄色の花を多数つける。雄蕊は花弁より短く，心皮の数は3まれに4。</p> <p>【近似種との区別】マルバマンネングサは葉が対生し，心皮が5個あることで区別する。</p>
生息・生育状況	<p>2か所で自生の記録があるが，庄原市の現状は不明。広島市と廿日市市の自生地は両市にまたがる同じ場所で，標高1,000 mの山頂部にある岩場に生育しているほか，頂上から少し下った樹林下の岩場にも自生が見られる。山頂部の自生株はよく開花しているが，登山者の増加に伴って踏みつけられる場所が増えている。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>大規模な改変の可能性は低い場所であるが，山火事や人の立ち入りによる環境の悪化が脅威となる可能性がある。</p>
特記事項	—
産地情報	<p>広島市，庄原市，廿日市市</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

大場秀章 2016. ベンケイソウ科. 改訂新版 日本の野生植物 2(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 215-229. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

オグラノフサモ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Myriophyllum oguraense Miki

ユキノシタ目 アリトウグサ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】湖沼，ため池，河川などに生育する多年生の沈水植物。</p> <p>【分布】本州・四国・九州・中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】葉は4～5輪生で羽状葉の全長は2～4 cm，各羽片の長さは5～20 mm，花期は7～9月，気中葉のある花序を水面上に出し，上に雄花，下に雌花をつける。雄花は花弁が4枚，雌花は筒状の萼筒の先に4個の柱頭がつく。秋に茎の頂端または側枝の先端の茎の周りに葉が密生した殖芽を形成する。殖芽は長さ2.5～8 cm。中栄養からやや富栄養でアルカリ性の水域に多い。</p> <p>【近似種との区別】近縁のフサモは殖芽が長さ1.5～3 cmで太い棍棒状でオグラノフサモに比べ小さい。フサモは腐植栄養から貧栄養で酸性の水域に多い。</p>
生息・生育状況	<p>西条盆地と黒瀬町のため池に生育している。東広島市の発展にともない，生育環境が悪化している。また，生育地のため池が埋め立てられたこともある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（河川開発，土地造成，道路工事） 生育地の環境変化（水質汚濁，自然遷移）</p>
特記事項	<p>東広島市は広島大学の移転後，農村環境から都市環境へと大きく変化した。本種の生育地であるため池の環境も大きく変化している。</p>
産地情報	<p>東広島市（西条，八本松，志和，高屋，黒瀬）</p>

黒瀬町史編さん委員会(編) 2003. 黒瀬町史 環境・生活編. 772 pp. 黒瀬町.

(吉野由紀夫)

タチモ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Myriophyllum ussuriense (Regel) Maxim.

ユキノシタ目 アリトウグサ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】 貧栄養の湖沼やため池の浅水中または水辺に生育する多年生の沈水から抽水から湿生植物。水中と陸上で顕著は異形葉を示す。</p> <p>【分布】 北海道・本州・四国・九州・中国大陸・ロシア東部・北アメリカに分布する。</p> <p>【形態】 水中では茎の長さ 20~60 cm, 陸生形は高さ 5~15 cm, 葉は下部は対生, 上部は 3~4 輪生。沈水葉は羽状に細裂。全長 15~25 mm。幅は 1 cm 以内。裂片は短い。水面上に抽水する気中葉と陸生形は線形または羽状で長さ 4~10 mm。花期は 6~9 月, 雌雄異株で, 花は気中葉の葉腋につく。雄花は花弁が 4 枚で淡紅色。雌花は短い筒状の萼筒の先に白毛の密生した 4 個の柱頭がある。</p> <p>【近似種との区別】 近縁のフサモは雌雄同株。茎は枝をわけ, 葉は広く, 卵形から広卵形で幅 1 cm 以上あり, 裂片は長い。</p>
生息・生育状況	農村部の比較的きれいなため池に生育するが, 環境変化に敏感で, 近年広島県下でも減少しつつある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変 (湖沼開発, 土地造成, 道路工事)</p> <p>生育地の環境変化 (豊栄養化, 農薬汚染, ため池の管理放棄)</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	池の水質を変化させない。
産地情報	府中市, 三次市 (三次, 三和), 庄原市, 東広島市 (西条, 八本松, 豊栄), 安芸高田市 (吉田), 府中町, 世羅町 (世羅西)

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

タヌキマメ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Crotalaria sessiliflora L.

マメ目 マメ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】 平地や丘陵の草地に生育する一年草。かつては普通に見られたが, 近年しだいに減少している。</p> <p>【分布】 本州 (東北地方南部以西)・四国・九州・琉球・朝鮮半島・中国大陸・東南アジア・インドに分布する。</p> <p>【形態】 高さ 20~70 cm, 全体に褐色の長毛がある。葉は広線形で互生し, 長さ 2.5~10 cm, 幅 4~8 mm 下面は圧毛がある。花期は 7~9 月, 茎の先に穂を作り, 青紫色の花を 2~20 個つける。がくは大きく 2 深裂し, さらに上側は 2 裂, 下側は 3 裂する。全体が密に褐色の長毛に被われる。</p> <p>【近似種との区別】 花と果実で確認すれば, 類似した種がないので間違えることはない。</p>
生息・生育状況	耕作地と里山の境界付近の草地に生育する。かつては身近な植物であったが, 近年減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変 (草地開発, 河川開発, 土地造成, 道路工事)</p> <p>生育地の環境変化 (草地の利用放棄)</p> <p>従来の里山利用 (薪炭林としての利用, 腐葉土・落ち葉の採取, 放牧, 草刈など) が行われなくなり, 生育に適した環境が減少したと思われる。</p>
特記事項	シカの生息地域では食害により減少していると考えられる。 前川(1943)は本種を史前帰化植物としている。
産地情報	広島市 (東区, 安佐南区, 安佐北区), 福山市 (福山, 新市), 三次市, 庄原市 (庄原, 東城), 東広島市, 安芸高田市 (吉田, 八千代)

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

前川文夫 1943. 史前帰化植物について. 植物分類, 地理, 13: 274-279.

(吉野由紀夫)

レンリソウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Lathyrus quinquenervius (Miq.) Litv.

マメ目 マメ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】 湿った草地に生える多年草。県北東部の丘陵地に生育する。個体数は少ない。</p> <p>【分布】 本州・九州・朝鮮半島・中国大陸・シベリア東部・アムール・ウスリーに分布する。</p> <p>【形態】 直立し高さは 80 cm になる。茎は 3 稜形で、幅 1~2 mm の 2 枚の翼がある。小葉は 2~6 枚、狭長楕円形で、長さ 5~10 cm、幅 4~7 mm、巻きひげは分枝しない。托葉は基部に大小に 2 裂する。花期は 5~7 月、花は紫色で長さ 1.5~2 cm、葉腋から出た長い柄の先に 4~8 個つく。豆果は広線形、長さ 3~4.5 cm、幅 0.5 cm。</p> <p>【近似種との区別】 エゾノレンリソウは巻きひげが分枝する。イタチササゲやハマエンドウは茎に翼がないことから区分される。</p>
生息・生育状況	耕作地と里山の境界付近の草地に生育する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（草地開発、河川開発、土地造成、道路工事） 生育地の環境変化（草地の利用放棄、自然遷移）
特記事項	中国地方で報告されているのは広島県のみである。
産地情報	庄原市（庄原、東城）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

ツルフジバカマ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Vicia amoena Fisch. ex Ser.

マメ目 マメ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】 山野に生える多年生のつる植物。中国山地の東部にまれに分布する。</p> <p>【分布】 北海道・本州・四国・九州・千島・朝鮮半島・中国大陸・シベリアに分布する。</p> <p>【形態】 多年生のつる植物。茎はつる状に伸び、長さ 2 m に達する。葉は 5~8 対の小葉からなる偶数羽状複葉。葉軸の先端は分岐する巻きひげとなる。花期は 8~10 月、葉腋から伸びる総状花序に、長さ 12~15 mm の紅紫色の花を一方に偏って密につける。花冠は旗弁、翼弁、竜骨弁からなる蝶形。</p> <p>【近似種との区別】 オオバクサフジは小葉が 2~5 対、クサフジは小葉が 9~10 対あることから区別される。</p>
生息・生育状況	耕作地と里山の境界付近の草地に生育する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（草地開発、河川開発、土地造成、道路工事） 生育地の環境変化（草地の利用放棄、自然遷移）
特記事項	広島市でも報告されているが、逸出の可能性はある。
産地情報	三次市（君田）、庄原市（東城、高野、比和）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編) 2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(吉野由紀夫)

エビラフジ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Vicia venosa (Willd.) Maxim. subsp. *cuspidata* (Maxim.) Y.Endo et H.Ohashi var. *cuspidata*

マメ目 マメ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】山地の溪側などに生育する多年草。</p> <p>【分布】本州（福島県以南）・九州に不連続に分布し、朝鮮半島にも見られる。</p> <p>【形態】直立または斜立し、高さ 80~100 cm になる。葉は 8~12 枚の小葉をほぼ対生し、巻きひげはほとんど発達しない。小葉は狭卵形から卵形、先端は長くとがり、長さ 3~7 cm、幅 10~25 mm。花期は 6~9 月。花は紅紫色または青紫色、長さ 12~15 mm で腋生の総状花序の一方に偏ってつく。花序はふつう 5~50 mm。</p> <p>【近似種との区別】オオバクサフジやクサフジはつる状または匍匐性で巻きひげがよく発達する。ナンテンハギは小葉が 4 枚、ヨツバハギは小葉が 4~8 枚である。</p>
生息・生育状況	東部の吉備高原面の山地の溪側などにまれに生育する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（森林伐採、河川開発、土地造成、道路工事） 生育地の環境変化（自然遷移）
特記事項	狩山(2003)は岡山県でヒメヨツバハギ(<i>ssp. cuspidata</i> var. <i>cuspidata</i> f. <i>minor</i>)を報告している。江塚・松本(1985)は福山市からヒメヨツバハギを報告している。広島県のエビラフジは、分類学的な再検討が必要と思われる。
産地情報	府中市（上下）、三次市（君田）、庄原市（庄原、口和）、東広島市（福富）、世羅町（世羅西）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

江塚昭典・松本和夫 1985. 福山市周辺の植物相. 中国農事試験場報告 E, 23: 1-107. (ヒメヨツバハギ)

(吉野由紀夫)

ヒメヘビイチゴ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Potentilla centigrana Maxim.

バラ目 バラ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】山地の日陰の環境に生える小型の多年草。中国地方では岡山、広島に産する。</p> <p>【分布】北海道・本州・四国に分布し、ウスリー、朝鮮半島、中国大陸（黒龍江省、吉林省、遼寧省、陝西省、内モンゴ省、四川省、雲南省）にかけて分布する。</p> <p>【形態】茎はつるになり、長く伸びて地をはい、分枝し、葉を互生する。小葉は 3 個、倒卵形で、長さ 1~3 cm。薄く、鋸葉縁で裏面は粉白を帯びる。花期は 7~10 月。花は頂生し、1 個ずつ葉と向き合っ</p> <p>てつく、径約 7 mm で、黄色。そう果は広卵形ですこし縦じわがある。</p> <p>【近似種との区別】県内のキジムシロ属の他種は、花が直立した茎に集散形の花序を作ることによって区分される。</p>
生息・生育状況	ハンノキ林の林床や溪谷の湿った林内に生育する。2004 年に確実な産地が確認された。広島県は本種の分布の西限と思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事） 生育地の環境変化（自然遷移）
特記事項	保育社の原色日本植物図鑑草本編Ⅱや平凡社の日本の野生植物Ⅱ離弁花類などは、九州、琉球にも分布するとあるが、九州以南には分布しない。基準標本のラベルの産地が琉球となっていたことから、誤解されたものと考えられる。
産地情報	安芸太田町（戸河内）、北広島町（芸北）

池田 博・吉野由紀夫 2005. ヒメヘビイチゴ (*Potentilla centigrana* Maxim.) の新産と日本における分布. 植物地理・分類, 53(1): 75-82.

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

カワラサイコ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Potentilla chinensis Ser.

バラ目 バラ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】河原や海岸の砂地などの日あたりのよい乾燥地に生える多年草で、北海道南部、本州、四国、九州、朝鮮半島、中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】茎は地を這って先が立ち上がり、高さ 30~70 cm で長い毛が多い。葉は互生、奇数羽状複葉で 15~29 小葉があり、小葉間に小裂片がある。小葉は倒披針形で長さ 2~5 cm, 羽状に深く切れ込み、表面無毛、裏面は絹毛密生して白色。花は 6~8 月、茎の先が多く分枝して多数の花をつける。花は黄色で直径 10~15 mm, がくと花弁は各 5 枚、がくの外に 5 枚の披針形の副がく片がある。</p> <p>【近縁種との区別】外来種のおキジムシロは茎に毛が少なく、小葉は中裂。</p>
生息・生育状況	河原や海浜などの砂質草地に生育する。河川改修などにより生育地の多くが破壊され、過去に記録のあった生育地の大半は現状不明である。現在は低地の川沿いにわずかししか見られない。下記の産地のうち、安佐南区以外は過去の記録である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の消失・縮小や環境の質的劣化により、個体数の減少が著しい。今後も河川改修や河岸の開発、および、河原や沿海地の管理放棄などにより、生育環境が悪化や生育地の消失・縮小が起こる可能性がある。生育地の環境変化を伴う工事を規制する。河川改修にあたっては植物調査を行い、生育が確認された場合には生育環境を保全すべきである。
特記事項	高木リストには、産地として以下の記録がある。広谷村、竹原市、本郷、大崎南、河内、西区、東区、大竹。
産地情報	広島市 (中区, 安佐南区), 福山市 (福山), 府中市 (府中), 廿日市市 (大野, 宮島)

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(松井健一)

シモツケ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Spiraea japonica L.f. var. *japonica*

バラ目 バラ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】山地の日あたりのよい岩礫地や草原に生える落葉低木。</p> <p>【分布】本州・四国・九州・朝鮮半島・中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】茎は叢生し、下からよく分枝し、高さ 20~100 cm, 若枝はほぼ円柱状で軟毛がある。葉は披針形から卵形、鋭尖頭、基部は円形からくさび形。長さ 1~8 cm, まばらに鋸歯がある。両面に短毛が多いかまたは無毛、ときに裏面は粉白色、葉脈は表面に凹み、裏面に凸出する。花期は 6~8 月、枝の先に複散状花序につく。花弁は 5, 紅色から淡紅色。変異がはなはだしい。</p> <p>【近似種との区別】イワガサやイブキシモツケの花序は分枝せず、単純な散房状または散状の総状花序となる。また花は白色である。</p>
生息・生育状況	県西部の太田川川岸と県東部の中国山地尾根筋の岩場に分布している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変 (森林伐採, 河川開発, 土地造成, 道路工事) 生育地の環境変化 (水質汚濁, 自然遷移) 園芸採取
特記事項	庭木として植えられるため、都市近郊の産地はそれらの逸出品の可能性はある。
産地情報	広島市 (東区, 安佐北区, 佐伯区), 呉市 (呉, 音戸), 福山市, 三次市 (作木), 庄原市 (西城, 東城, 比和), 安芸太田町 (加計, 戸河内)

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

キビノクロウメドキ 準絶滅危惧(NT) NT-a

Rhamnus yoshinoi Makino

バラ目 クロウメドキ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】本州（岡山県西部と広島県東部）、四国、九州、朝鮮半島、中国大陸（東北部）に分布し、石灰岩地帯に生育する落葉低木。</p> <p>【形態】落葉低木または小高木で、枝は無毛、紫褐色を帯び、光沢があり、長枝の先は刺になる。葉は長枝のものは互生し、短枝のものは先端に束生し、幅の広いひし形で、長さ3~8 cm、幅2~4 cm。下面の脈に毛がある。花は5月、雌雄異株で長枝の基部や短枝に腋生し、黄緑色、4数性。花柄は長く、雌花では9~13 mmある。</p> <p>【近似種との区別】クロウメドキも、しばしば、石灰岩地帯に生育するが、この枝は灰白色、長枝の葉はやや対生し、がく片は短く約2 mm、雌花の花柄は4~6 mm。</p>
生息・生育状況	県東部の石灰岩地帯の岩峰にまれに生育。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の大部分は国定公園内であるが、生育地の改変を伴うような工事が脅威となる。栽培については不明。
特記事項	本種を含め、クロウメドキ類はベニモンカラスシジミの食樹であり、幼虫飼育のため伐採されたり採取されることがある。 大陸系で、いわゆる「阿哲要素」の代表的な植物で、植物地理学上から貴重な種である。
産地情報	福山市、三次市、庄原市、神石高原町

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

五百川 裕 2016. クロウメドキ科. 改訂新版 日本の野生植物 2(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 317-324. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉・吉野由紀夫)

カラハナソウ 準絶滅危惧(NT) NT-a

Humulus lupulus L. var. *cordifolius* (Miq.) Maxim. ex Franch. et Sav.

バラ目 アサ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】北海道、本州（おもに中部以北）、中国（北部）に分布し、山地に生えるつる草で、雌雄異株の夏緑性多年草。</p> <p>【形態】茎には下向きの刺毛があり、葉は対生する。葉身は卵円形または3~5中裂。花期は8~9月、雌花序は卵円形の球花状で下垂する。</p> <p>【近似種との区別】カナムグラは、一年草で葉が5~7深裂して鋸歯が低く、雌花の苞は果時には紫色になって反り返る。</p>
生息・生育状況	県の中中部と北東部に自生地がある。車道に面した林縁部やのり面に生育しているが確認されている自生地、個体数ともにわずかである。
存在を脅かす要因・保全の留意点	道路の拡幅工事や除草作業の影響が脅威となる。
特記事項	以前はクワ科に分類されていたが、最近の研究の結果アサ科に分類されている。
産地情報	庄原市、安芸高田市

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

寺林 進 2016. アサ科. 改訂新版 日本の野生植物 2(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 328-331. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ツルマオ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Gonostegia hirta (Blume) Miq.

バラ目 イラクサ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】東南アジアに広く分布する熱帯系の草本。広島の産地は分布の北限にあたり、貴重な存在である。</p> <p>【分布】本州（静岡県・紀伊半島・中国地方の一部）・屋久島・種子島から琉球・中国大陸（中南部）・台湾・東南アジア・インドに分布する。</p> <p>【形態】つる性の多年草。茎はまばらに分枝し、披針形で長さ3~10 cmの葉が対生する。葉は3脈が明瞭。9~10月、葉腋に花が球状に集まって咲く。異性花。果実は黒く熟する。</p> <p>【近似種との区別】近似種なし。</p>
生息・生育状況	<p>広島市の一部の山麓路傍、川の堤防に見られるが消長が著しい。呉からも報告されている。日当りのよい路傍で局地的に温暖な所に生育する。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（草地開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（踏み付け、管理放棄）</p>
特記事項	<p>江の川下流部（三次から作木）にはかなりの個体数が生育している。</p> <p>沖縄県では路傍に普通の雑草である。</p> <p>吉野ほか(2007)は外来種としている。</p>
産地情報	<p>広島市（西区）、呉市、三次市（三次、作木）、庄原市（高野）</p>

吉野由紀夫・太刀掛 優・関 太郎 2007. 広島県における外来植物の現状とその問題点. 比婆科学, 224: 1-18+1 pl.

国土交通省中国地方整備局 三次河川国道事務所・浜田河川国道事務所(編) 2007. 江の川いきもの事典. 128 pp. 国土交通省中国地方整備局 三次河川国道事務所・浜田河川国道事務所, 広島県・島根県.

(吉野由紀夫)

キミズ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Pellionia scabra Benth.

バラ目 イラクサ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】常緑樹林下の陰湿地に生える半低木で、関東以西の本州、四国、九州、沖縄、中国大陸南部に分布する。</p> <p>【形態】茎は円柱形で高さ20~40 cm、短毛が密生する。葉は互生し、葉柄はごく短く、葉身は歪んだ卵状皮針形で長さ5~9 cm、先は尾状、基部は楔形、中部より上に低い鋸歯がある。表面に粗毛あってざらつき、裏面脈上に微毛がある。線形の托葉をもつ。雌雄同株で、花期は4~5月、葉腋に短い球状の集散花序をつける。雄花と雌花は別々につく。果実は褐色、楕円形で径0.8 mm。</p> <p>【近縁種との区別】キミズモドキは葉の表面が無毛で中国地方には産しない。</p>
生息・生育状況	<p>林床の陰湿な環境に生育する。県内では、沿岸部の2か所の溪谷に少数が生育しているが、いずれも孤立した小さな個体群である。そのうち1か所は宅地に近く、開発により生育地が影響を受ける危険がある。下記の産地のうち、新市と佐伯区湯来町（?恵下山）は過去の記録である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと個体数が少ない。生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。森林伐採や造成工事などによる生育地の消失・縮小の可能性がある。生育地の保全。生育地の環境変化を伴う工事を規制する必要がある。</p>
特記事項	<p>広島県は本種の分布北限域にあたる。</p> <p>過去の記録で、藤尾（新市町）、恵下山は高木リストによる。</p>
産地情報	<p>広島市（西区、佐伯区）、福山市（新市）、大竹市</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

浜田展也・武内一恵・小池周司 2011. 広島山野草 春編. 367pp. 南々社, 広島.

(松井健一)

ミヤコミズ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Pilea kiotensis Ohwi

バラ目 イラクサ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】山地の湿ったところに生育する多汁質軟弱な一年草で、近畿以西の本州、九州北部に分布する。</p> <p>【形態】茎は無毛、下部で分枝して高さ 20~40 cm。葉は卵形か狭卵形で長さ 3~12 cm、基部は楔形で先は尾状に尖る。両面に毛を散生、まばらに鋸歯がある。葉柄は葉身より短い。雌雄同株で秋に葉腋に集散花序をつける。花序柄に乳頭状短毛がある。雌花と雄花は別の花序をなすか時に混生する。花被片は雄花で 4、雌花で 5、果実より少し短く楕円形。果実は扁平な広卵形で長さ約 1 mm。</p> <p>【近縁種との区別】コミヤマミズは葉の先が尾状に長く、雌花被片は 3 個である。</p>
生息・生育状況	<p>谷沿いの二次林、スギ植林とその林縁の湿った土または岩上や、耕作地の湿り気のあるところに生育している。確認された生育地はいずれも堆積岩地の古生層または中生層にある。1 か所を除き、個体数は数十個体程度で多くない。蒲刈町の生育地は、発見時点での記録では生育範囲が広く、個体数が多い。ただし、安佐北区と蒲刈町のいずれの産地でも、最近では情報がない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと産地や個体数が少ない。森林伐採や造成工事、および管理放棄などによる環境の変化によって、生育地の消失・縮小の可能性がある。生育地の保全や、生育地の環境変化を伴う工事を規制する必要がある。</p>
特記事項	<p>もともと県内では記録がなかったが、最近になって、いくつかの産地が発見された。高杉(2010)によれば、本種は葉の裏面が赤みを帯び、茎も赤紫色であるという。</p>
産地情報	<p>広島市 (安佐北区)、呉市 (蒲刈)、福山市 (福山)</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

高杉茂雄 2010. 広島県におけるミヤコミズの分布について. 比婆科学, 233: 67-68.

(松井健一)

イワタイゲキ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Euphorbia jolkinii Boiss.

キントランオ目 トウダイグサ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】海岸の岩地や砂浜に生える多年草。瀬戸内海では自然海岸、とくに砂浜が少なくなるにつれ激減した。</p> <p>【分布】本州 (伊豆半島以西)・四国・九州・琉球列島・朝鮮半島南部・台湾に分布する。</p> <p>【形態】根は太く直根性で、茎は多数群がってつき、高さ 40~80 cm。葉は多数で密に互生し、長さ 5~8 cm、幅 6~15 mm、全縁、先端はまるく、基部はしだいに狭まる。植物体を傷つけると乳汁が出る。花は 4 月下旬から 5 月上旬に咲き、総苞葉は鮮黄色、長さ 7~20 mm。果実は 7 月上旬に熟し、種子は球状で平滑。地上部は夏に枯れ、9 月に発芽して冬に成長する。</p> <p>【近似種との区別】タカトウダイやナツトウダイは山地の森林中に生育し、総苞葉は緑色から淡黄色である。</p>
生息・生育状況	<p>宮島では海岸砂浜に生育しているが、あまり多くない。種子による発芽はあまり観察されず、夏期に地下部が波で運ばれて、砂浜に打ち上げられて分布することが多いようである。台風シーズンに、地上部が枯れ地下部が残っているという繁殖戦略はうまく適応している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変 (海岸開発, 土地造成, 道路工事) 園芸採取</p>
特記事項	<p>中国新聞に友谷氏がミヤジマタイゲキとしてカラー写真を掲載したのは、イワタイゲキである。ミヤジマタイゲキはナツトウダイの変種で、原記載以来、報告はない。</p>
産地情報	<p>呉市 (倉橋)、福山市、廿日市市 (宮島)、江田島市 (沖美)</p>

関 太郎・中西弘樹・鈴木兵二・堀川芳雄 1975. 厳島(宮島)の維管束植物. 厳島の自然—総合学術研究報告—(天然記念物彌山原始林・特別名勝厳島緊急調査委員会, 編), p. 221-332. 宮島町.

(吉野由紀夫)

ダイセンキスミレ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Viola brevistipulata (Fr.et Sav.) W.Becker var. *minor* Nakai

キントラノオ目 スミレ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】日本海側の多雪地方に分布する多年草。春先、黄色い花をつける。</p> <p>【分布】中国地方の大山，蒜山，そして本県北部の山地に分布している。</p> <p>【形態】花は黄色で，唇弁と側弁に紫褐色の条が入っている。茎は紅紫色を帯び，地下茎は短く，根は太い。</p> <p>【近似種との区別】オオバキスミレに比べて草丈が3分の1くらい（草丈10cm）しかなく，茎は紅紫色を帯びる。地下茎は短く，点々と生育する。</p>
生息・生育状況	<p>県北部の海拔1000m以上の尾根筋の日あたりのよい路傍に生育している。早春，ブナが芽ぶく前に黄色の美しい花を咲かせる。産地は国定公園内にある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（草地開発，土地造成，道路工事）</p> <p>生育環境の変化（踏みつけ，自然遷移）</p> <p>園芸採取</p> <p>生育地のほぼ全域が国定公園の中にあり，山野草の採取は禁じられているが，黄色のスミレは，美しいので盗掘されやすい。また，登山道に沿った尾根筋の裸地が生育適地になるだけに，踏みつけ，登山道整備により，また放牧停止などの原因によりササや樹木が繁茂し登山道を覆い消滅する危険性もある。</p>
特記事項	—
産地情報	庄原市（西城，東城，高野，比和）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(日朝直樹・吉野由紀夫)

アソヒカゲスミレ 準絶滅危惧(NT) NT-a

Viola yezoensis Maxim. var. *asoana* E.Hama

キントラノオ目 スミレ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】ヒカゲスミレの変種で，熊本県と広島県に分布する。低山の夏緑広葉樹林の林床や林縁または草地に生える多年草。</p> <p>【形態】地下茎は細く短い，地下匍枝を出して子株をつけることもある。全体に粗い毛がある。葉は平開し，質が薄く，長卵形だが中央部がくびれて耳部が発達したひょうたん型になり，基部は深い心形，先端は鈍頭，褐色がかかった緑色で，しばしば銅さび色を帯びる。花は白色で花弁の長さは10~14mm，すべてに紫条がある。</p> <p>【近似種との区別】ひょうたん型の葉で他種と区別する。</p>
生息・生育状況	<p>県中部から東部に分布し，夏緑広葉樹林内の路傍や林縁部に生育するが自生地，個体数ともに少ない。すでに開発によって消滅した自生地があるほか，残された場所でも個体数が減少している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変，乱獲などが脅威となる。</p> <p>栽培や移植は可能。</p>
特記事項	三次市天然記念物（三良坂町内全域）
産地情報	三次市，庄原市，神石高原町

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編)2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

門田裕一 2016. スミレ科. 改訂新版 日本の野生植物3(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 209-227. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ダイセンオトギリ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Hypericum asahinae Makino

キントラノオ目 オトギリソウ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】ブナ帯からハイマツ帯の礫地や岩場に生える多年草。日本の固有種。</p> <p>【分布】本州中部山地より中国山地にかけての日本海沿いの高山に分布している。広島県は分布域の西限にあり、植物地理学上きわめて重要である。</p> <p>【形態】木質化した地下茎より高さ 20 cm 位の茎がそう生ずる。葉は卵状楕円形または長楕円形で基部は茎を抱く。がくは線形で先は尖り、黒点または黒線がはいる。花弁は黄色で紅色のぼかしがあり、黒点または黒線が入り、腺点はない。</p> <p>【近似種との区別】イワオトギリのがくは、幅が広く、その先端は鈍頭であるが、ダイセンオトギリは、がくの幅が狭くとがっている。</p>
生息・生育状況	<p>草原の岩場、裸地に生える。鳥取県の大山で発見されたが、これより西の地域の生育地は貴重である。産地はおもに国定公園内にある。個体数は少ない。生育適地の限界にあたるだけに、現在の環境が変わると絶滅の恐れがある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（草地開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（踏み付け、自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>花が美しいために、採取される恐れがある。</p>
産地情報	<p>庄原市（西城，東城，比和），廿日市市（佐伯，吉和），安芸太田町（戸河内），北広島町（芸北）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

イヨフウロ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Geranium shikokianum Matsum. var. *shikokianum*

フウロソウ目 フウロソウ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】山の草地に生える多年草。</p> <p>【分布】本州（東海地方以西），四国，九州に分布する。</p> <p>【形態】草丈は 30~70 cm，茎や葉柄には下向きの開出毛がある。葉は葉柄があり，5 中から深裂し，幅 4~8cm，托葉は合生し，褐色膜質。7~9 月に紅紫色の花を咲かせる。花弁は 5 枚，基部のふちだけに白毛がある。がくには，開出毛がある。</p> <p>【近似種との区別】ビッチュウフウロの花弁には，濃色の脈が目立ち，托葉は草質で小さいが，イヨフウロの花弁の脈は目立たず，托葉は褐色をした膜質である点で区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>県北東部の山頂付近の日あたりのよい，やや乾燥した草原に生育している。とくに，登山者が通る路傍によく見られる。産地は国定公園内にある。福山市（新市）では最近確認されていない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（草地開発，河川開発，土地造成，道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（草地の利用放棄，自然遷移）</p> <p>園芸採取</p> <p>中国山地では放牧や採草が行われなくなったため，草原が樹林化しつつある。そのため，生育環境が悪化しつつある。</p>
特記事項	<p>北広島町の産地については検討が必要である。</p>
産地情報	<p>福山市（新市），庄原市（西城，東城，高野，比和），北広島町（芸北）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

ミズマツバ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Rotala mexicana Cham. et Schldtl.

フトモモ目 ミソハギ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】水田や湿地に生える小さい一年草。</p> <p>【分布】本州（中南部）・四国・九州・琉球・朝鮮半島・中国大陸・フィリピン・インド・中央アジア・アフリカなどに広く分布する。</p> <p>【形態】茎は基部がはい、分枝して、高さ3~10 cm、葉は3~4枚輪生し、線形から長披針形。長さ6~11 mm、幅1~2 mm。花は8~10月頃で、葉腋に単生し、淡紅色。</p> <p>【近似種との区別】同属のキカシグサやミズキカシグサは葉が対生である。ミズスギナは葉が5~12輪生する。</p>
生息・生育状況	水田や湿地に生えるが、湿地の開発や農薬によってきわめて少なくなった。農薬使用量の少ない古いタイプの水田などに見られる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（湿地開発、湖沼開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（富栄養化、農薬汚染、自然遷移）</p> <p>休耕田の増加と管理放棄によって生育環境が悪化している。</p>
特記事項	広島市（安佐南区古川）の産地は区画整理などにより消滅したようである。
産地情報	広島市（安佐南区、佐伯区）、三次市（三次、三良坂）、庄原市（西城、高野）、東広島市、廿日市市、安芸高田市（高宮）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

テツカエデ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Acer nipponicum H.Hara subsp. *nipponicum* var. *nipponicum*

ムクロジ目 ムクロジ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】日本固有のカエデの仲間で、中国山地の谷筋にまれに自生する。</p> <p>【分布】本州（岩手県・秋田県以南）・四国・九州に自生する。</p> <p>【形態】雌雄同株の温帯に生える落葉高木で、ウリハダカエデに似る。樹高は15 m前後になる。葉は五角形で3~5に浅裂し、基部は浅心形から切形、長さ6~15 cm、幅5~16 cmになる。花期は7~8月、花序は長さ10~20 cmで垂れ下がる。</p> <p>【近似種との区別】ウリハダカエデによく似るが、葉上面に細かいしわがあり、下面の脈上に毛があることで区別できる。</p>
生息・生育状況	中国山地の谷筋を中心にきわめてまれに生育。県内の生育状況についてはよく分かっていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事）
特記事項	県内ではウリハダカエデと混同している可能性がある。
産地情報	広島市（佐伯区）、廿日市市（吉和）、安芸太田町（戸河内）

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

カラスシキミ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Daphne miyabeana Makino

アオイ目 ジンチョウゲ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】 やや高地の山林中に生育する落葉低木。広島県では北西部のブナ林域に生育する。</p> <p>【分布】 北海道・本州（中国山地の日本海側まで）に分布する。広島県が分布の西限。日本の固有種。</p> <p>【形態】 高さ約 1 m の常緑小低木で、枝はまばら。葉は互生し、薄い革質、表面に光沢があり、倒披針形で基部は長いくさび形。長さ 4~12 cm, 幅 1~2.5 cm。雌雄異株。花期は 6 月頃、今年枝の先に短い総状花序をつける。花は白色。7~8 月頃、径約 8 mm の球状楕円形の液果が赤く熟する。</p> <p>【近似種との区別】 同属のオニシバリは夏に落葉し、葉は薄い。花は淡黄緑色。コショウノキは花期が早春で、花はやや大きい。ミヤマシキミにも似るが、ミヤマシキミの葉には油点がある。</p>
生息・生育状況	県北部のブナ林域にわずかに生育する。いずれの生育地でも個体数は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事） 生育地の環境変化（自然遷移）
特記事項	井波(1990)の広島県植物図選Ⅴに記されている。
産地情報	庄原市（西城），廿日市市（吉和），安芸太田町（戸河内），北広島町（芸北，大朝）

井波一雄 1990. 広島県植物図選Ⅴ. 100 pls.+37 pp. 博新館, 広島.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

オニシバリ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Daphne pseudomezereum A.Gray

アオイ目 ジンチョウゲ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】 雌雄異株の落葉低木。葉が枝先に集まってつく。</p> <p>【分布】 本州（福島県以西の太平洋側）・九州（中部まで）の暖温帯と朝鮮の済州島に分布する。</p> <p>【形態】 茎は高さ 1~1.5 m。樹皮が丈夫で折りにくい。葉は長楕円形で互生。枝の先で束状に集まる。夏、落葉するのでナツボウズの別名がある。2~4 月、淡黄緑色の花（がくのみ）が枝端に 2~10 個集まって咲く。果実は楕円形で赤く熟する。</p> <p>【近似種との区別】 ミツマタが似ているが、より大型であり、同属のコショウノキは葉が常緑で、花の数が少ない。</p>
生息・生育状況	県内では限られた地域にわずかに見られる希産種である。産地はおもに国定公園内にある。山地の林内や林縁の岩礫地に生える。石灰岩地を好む。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（石灰採掘、森林伐採、土地造成、道路工事） 生育地の環境変化（自然遷移）
特記事項	—
産地情報	福山市（福山），庄原市（東城，高野），神石高原町（神石）

広島県東城町植物誌編纂委員会(編) 2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(吉野由紀夫)

ハマサジ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Limonium tetragonum (Thunb.) Bullock

ナデシコ目 イソマツ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】海岸の砂地に生育する越年草。</p> <p>【分布】本州（宮城県以南の太平洋側）、四国、九州、朝鮮半島、中国大陸(東北部)に分布する。</p> <p>【形態】葉は根ぎわに群生し、厚くなめらかで長楕円状へら形、下部はしだいに狭まって柄状となり、長さ8~17 cm、幅1.5~3 cm。花期は9~11月、高さ30~50 cmの花茎を伸ばし、多数の小穂からなり円錐状の花序を作る。ハマサジの名は海岸に生え、その葉がさじ形なのでいう。</p> <p>【近似種との区別】類似した環境に生育するフクドはキク科で葉が細裂することから区分できる。</p>
生息・生育状況	満潮時に海水がはいる海岸付近の河川や塩湿地に生育している。いずれの地点でも個体数は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（海浜開発、河川開発、土地造成など）</p> <p>生育環境の変化（水質汚濁、自然遷移）</p> <p>廿日市市宮島の多々良湯や呉市倉橋町長谷などの塩湿地はその大部分が埋め立てられた。</p>
特記事項	<p>瀬戸内海では埋立などにより、生育地が著しく減少している。</p> <p>過去の埋立てによる生育地の減少量が評価できないため、ランク付けが困難。</p>
産地情報	広島市（中区、西区）、呉市（倉橋、下蒲刈、安浦）、竹原市、三原市、尾道市、福山市、東広島市（安芸津）、廿日市市（廿日市、大野、宮島）、江田島市（大柿）

鈴木兵二・中野武登 1976. 油汚染と塩沼地植生. 瀬戸内海の油汚染(津田覚, 編), p. 199-220. 大日本図書, 東京.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(久藤広志・吉野由紀夫)

ヌカボタデ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Persicaria taquetii (H.Lév.) Koidz.

ナデシコ目 タデ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】湿地に生える1年草。県内ではこれまでにいくつかの地点で報告されているが、近年ほとんど報告がない。</p> <p>【分布】本州・四国・九州・朝鮮半島に分布する。</p> <p>【形態】茎の下部は地をはい、節から根を出し、多くの枝を分ける。上部は直立し、高さ20~40 cm、まばらに毛がある。葉は薄く狭披針形、基部はくさび形。長さ4~6 cm、両面に毛がある。葉の裏面に腺点はない。托葉鞘は筒状で同じ長さの縁毛がある。花期は9~11月、花は枝の先にまばらに穂状につく。花被は紅色、長さ1.5 mm。果実は3稜形、黒褐色、光沢があり、長さ1.5 mm。</p> <p>【近似種との区別】ハナタデやイヌタデは葉が卵形~披針形。ヤナギヌカボは葉の裏面に腺点があることから区別される。</p>
生息・生育状況	湿地や水田・水路などに生育する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（湿地開発、河川開発、耕地整理、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（水質汚濁、富栄養化、自然遷移）</p>
特記事項	熊野町の自生地では生育を確認できなかった。近年県内から報告がきわめて少ない。
産地情報	広島市（安佐北区）、呉市、三次市、庄原市、廿日市市（吉和、宮島）、熊野町、神石高原町（豊松）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

マツナ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Suaeda glauca (Bunge) Bunge

ナデシコ目 ヒユ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: DD

概要	<p>【摘要】 塩湿地や砂浜に生育する一年草。</p> <p>【分布】 本州（関東地方以西）、四国、九州、朝鮮半島、中国大陸、モンゴル、ウズリー、シベリア東部に分布する。</p> <p>【形態】 茎は直立し高さ 40～80 cm、分枝が多い。葉は密に互生し、線形で無柄、長さ 1～3 cm、幅 0.5～1 mm、乾くと黒くなる。花は 8～10 月で、ゆるい円錐花序にまばらにつく。上部の葉には柄があって、その柄から 1～3 個の斑が出る。ずっと上の枝では葉がない。</p> <p>【近似種との区別】 同属のハママツナなどは葉が無柄である。</p>
生息・生育状況	<p>島嶼部の塩湿地に塩生植物に交じって生育する。海岸線の改修工事などにより生育地が減少している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（海岸開発、河川開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（水質汚濁、自然遷移）</p>
特記事項	<p>広島県では海浜部の改変が著しい。古い時代は環境調査がないまま、埋め立て等が行われたので、評価が困難である。</p>
産地情報	<p>呉市（倉橋、下蒲刈）、三原市、福山市（内海）、大崎上島町（東野）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

マルミノヤマゴボウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Phytolacca japonica Makino

ナデシコ目 ヤマゴボウ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】 自然度の高い渓谷林の林床にまれに生育する多年草。</p> <p>【分布】 関東以西の本州、四国、九州、台湾に分布する。</p> <p>【形態】 茎は太く高さ 1 m 以上になる。葉は無毛で柄は長さ 1.5～3 cm、葉身は長さ 15～30 cm、幅 5～10 cm、先はやや尾状にとがる。花期は 6～9 月、直立した総状花序を作って開き、径約 8mm で淡紅色を帯びる。果実は球状で黒紫色に熟する。</p> <p>【近似種との区別】 帰化植物のヨウシュヤマゴボウの花序は長い柄があり、果時には下垂する。ヤマゴボウは葉は鈍頭で、種子は平滑である。</p>
生息・生育状況	<p>吉備高原面から中国山地の人為的な影響のない自然林の陰湿な渓谷にきわめてまれに生育する。島嶼部では宮島から知られている。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p>
特記事項	<p>シカによる食害が憂慮される。近年、あまり報告がない。</p>
産地情報	<p>広島市（安佐南区、安佐北区、安芸区、佐伯区）、福山市（福山、新市）、三次市（君田）、庄原市（総領、高野、比和）、廿日市市（宮島）、神石高原町（油木、神石、豊松）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

シロバイ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Symplocos lancifolia Siebold et Zucc.

ツツジ目 ハイノキ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】低地から山地にかけて生える常緑広葉樹。県内ではおもに暖地の社叢に生える小高木である。</p> <p>【分布】本州（近畿以西）、四国、九州、台湾、中国大陸南部に分布する。</p> <p>【形態】常緑の小高木で、細い小枝には密に淡褐色の毛があり、若枝には斜上毛がある。夏に白色の花を咲かせる。花びらより雄しべの方が長く、白い毛玉のように見える。台湾・中国大陸（南部）にも分布する。</p> <p>【近似種との区別】カンザブrouノキは葉が大きく、花序は基部で分枝するが、シロバイは、花序は長さ3 cm 以下で分枝しない。コジイにも似ているが、本種に若枝に赤褐色の斜上毛があるので識別できる。</p>
生息・生育状況	<p>宮島ではアカマツクロバイ群集の谷に生育している。広島市域の生育地は、本種の分布上の北限に近く、貴重なものである。県下に生育する個体数は、きわめて少ない。コジイ、クロキ、タブノキなどが繁茂する常緑広葉樹林の中に生えており、単木で生えていることはない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事）</p> <p>今回は次のように記述した：最近の公共事業ではまれに社叢が除かれることがある。社叢などその地域の自然植生を残している環境を、計画的に保全することが重要である。</p>
特記事項	<p>広島市（安佐南区）の社叢は2014年の水害復旧関連の道路工事により、一部が削られることになった。本種の生育環境の悪化が憂慮される。</p>
産地情報	<p>広島市（東区、安佐南区、安佐北区）、呉市、廿日市市（宮島）</p>

広島市教育委員会(編) 1988. 広島市の文化財第 39 集 広島市の動植物－広島市稀少生物調査報告－. 264 pp. 広島市教育委員会, 広島.

(吉野由紀夫)

カンザブrouノキ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Symplocos theophrastifolia Siebold et Zucc.

ツツジ目 ハイノキ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州（静岡県以西）、四国、九州の低地から山地にかけて生える常緑広葉樹。暖地に生える常緑小高木である。</p> <p>【形態】常緑の小高木で、若枝は帯褐色。葉は革質で上面に光沢がある。葉柄は長さ7～13 mm。葉は長楕円形で、長さ10～16 cm、幅3～6 cm、低い鋸歯があつて両端が尖る。下面は淡緑色で中筋は隆起する。花期は8～9月、花序は穂状で上部の葉腋に出る。基部で分枝し、長さが1～3 cmある。花は白色で、径7～8 mm。果実は壺状球形で径約5 mm、暗紫色になる。琉球・台湾・中国大陸南部に分布する。</p> <p>【近似種との区別】ミミズバイは、花序が短縮し団集状、葉も幅がせまいので識別できる。</p>
生息・生育状況	<p>常緑樹林内に生育する。宮島では低海拔地に比較的多く見られるが、本土側ではわずかな社叢に生育しているのみで、いずれも孤立したきわめて小さい個体群である。道路工事などにともない、その生育もおびやかされている。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>宮島以外ではもともと個体数がきわめて少なく、孤立して個体群がきわめて小さい。開発行為や森林伐採などによる生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。森林、とくに林床の保全や、採取の禁止、生育地の環境変化を伴う工事を制限する必要がある。栽培は容易。</p>
特記事項	<p>大竹市黒川の自生地は、山陽自動車道の建設によって生育地である神社が移転され、社叢が消滅した。</p>
産地情報	<p>呉市（呉、蒲刈、安浦）、大竹市、廿日市市（宮島）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

関 太郎・中西弘樹・鈴木兵二・堀川芳雄 1975. 厳島(宮島)の維管束植物. 厳島の自然－総合学術研究報告－(天然記念物彌山原始林・特別名勝厳島緊急調査委員会, 編), p. 221-332. 宮島町.

(松井健一・吉野由紀夫)

ウラジロハナヒリノキ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Eubotryoides grayana (Maxim.) H.Hara var. *hypoleuca* (Nakai) H.Hara

ツツジ目 ツツジ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】本州の高山に生える落葉低木。この仲間には多くの変種がある。</p> <p>【分布】山形県以西、鳥取県大山までの日本海側の山地に分布するとされているが、広島県北部山地の頂上付近にも生えている。本県の生育地が分布の西限になる。</p> <p>【形態】高さは0.5~1.3 m。若枝はやや扁平で、卵状楕円形の葉は互生し、その裏側は白色を帯びている。6月になると新枝の先に壺形の花を多数咲かせる。</p> <p>【近似種との区別】エゾウラジロハナヒリノキの方が葉が大きい。県内にはない。</p>
生息・生育状況	<p>中国山地、西中国山地の1,000 mを越える山稜の尾根筋の低木林にややまれに分布する。県内の生育地は、登山道に面しているが、目立たない低木であり、とくに採取などによる危機はない。産地は国定公園内にある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p> <p>山頂部の登山道などの改修工事を行なうとき、本種の生育域に注意する必要がある。</p>
特記事項	<p>ハナヒリノキの変種として、山形県を境にして北にエゾウラジロハナヒリノキ、南西にウラジロハナヒリノキが分布している。そして、広島県が本種の分布上の西限にあたる。</p>
産地情報	<p>庄原市（西城、東城、比和）、北広島町（芸北）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

西岡秀樹・中村慎吾(編)2018. 広島県庄原市比和町吾妻山植物誌. 156 pp. 庄原市立比和自然科学博物館, 庄原.

(吉野由紀夫)

ゲンカイツツジ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Rhododendron mucronulatum Turcz. var. *ciliatum* Nakai

ツツジ目 ツツジ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】典型的な大陸系要素の落葉低木で、中国大陸北東部から朝鮮半島を経て九州北部、中国地方西部、四国北部に分布する。3~4月に紅紫色の径3~4 cmの花を多数つける。</p> <p>【形態】落葉低木で高さ1~2 mになる。葉は花後につき、互生、長さ2~6 cm、幅1.5~2.5 cmで、両面に円形の鱗状の毛がある。花期は3~4月で、花冠は紅紫色、径3~4 cmで漏斗状に開く。雄しべは10本、母種のカラムラサキツツジは枝や葉に軟毛がほとんどない。</p> <p>【近似種との区別】ヒカゲツツジは常緑で花は淡黄色。エゾムラサキツツジは北海道に分布し、花時にも葉が数枚残る。</p>
生息・生育状況	<p>広島県やその近県にのみ分布する種で、二次林、アカマツ自然林や露岩地の低木林に生育する。広島県では自生地が多く、岩峰や尾根筋の樹高の低いアカマツ林下に群生する。アラカシなどの常緑樹が生える立地や沿岸部のウラジロが繁茂する地点では、生育は貧弱である。貧栄養な立地に限られる。下記の産地のうち、甲山町と能美は過去の記録である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>森林の伐採や道路の建設、常緑樹林化による生育環境の悪化、個体数の減少や個体群の縮小が著しい。登山道や林道の整備の時に、群生地が破壊される恐れがある。また盗掘の恐れがある。生育地、とくに岩場の保全が必要である。栽培は可能。マスコミ報道は自粛が望まれる。</p>
特記事項	<p>筒賀村の立岩山の1,135 m地点で確認した。県内ではもっとも海拔の高い生育地と考えられる。江田島市天然記念物（古鷹山一帯）</p>
産地情報	<p>広島市（南区、安芸区、佐伯区）、呉市（倉橋）、竹原市、三原市（三原、大和）、庄原市（庄原、東城）、大竹市、廿日市市（佐伯、吉和、宮島）、江田島市（江田島、能美）、海田町、安芸太田町（加計、筒賀、戸河内）、北広島町（千代田）、世羅町（世羅、甲山）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

吉野由紀夫・井上尚子 2002. 湯ノ山溪谷(広島県)の森林植生—岩峰と山腹斜面に発達するアカマツ群落とマツの枯死状況—. 広島市植物公園紀要, 21: 31-41.

(松井健一・吉野由紀夫)

ナガバジュズネノキ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Dammacanthus giganteus (Makino) Nakai

リンドウ目 アカネ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】 林内にまばらに生え、高さ 1.5 m 内外になる。托葉の内側に短い刺がある。</p> <p>【分布】 本州（愛知県以西）・四国・九州に分布する常緑低木である。広島県では南部の低山にまれに分布する。</p> <p>【形態】 高さ 1.5 m 内外、根は丈夫でしばしばじゅず状にふくらむ。葉は対生で長楕円状披針形、長さ 7～13 cm、幅 2～5 cm。花は 5 月頃、対生した葉のわきに 2 個ずつつく。果実は、球形、紅熟する。</p> <p>【近似種との区別】 刺針はほとんどないか、きわめて短い。また、葉が大きいことからアウドウシヤニセジュズネノキと区別される。</p>
生息・生育状況	県内では沿岸部からやや内陸の常緑広葉樹林の林内に生育する。個体数は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p>
特記事項	—
産地情報	広島市（安佐北区、佐伯区）、三原市（本郷）、東広島市（河内）

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

イヌセンブリ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Swertia tosaensis Makino

リンドウ目 リンドウ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】 本州から九州、朝鮮半島、中国大陸に分布し、山野の湿地に生育する一年生草本、越年生草本。全草に苦味がない。</p> <p>【形態】 茎はしばしば基部から分枝し、高さ 5～30 cm。茎葉は倒披針形で長さ 2～5 cm で先は鈍い。花期は 10～11 月、花は径 15 mm、狭い円錐状につく。がく裂片は披針形。花冠は白色で淡紫色の条があり、5 深裂し、裂片は披針形で長さ 8～11 mm。</p> <p>【近似種との区別】 センブリやムラサキセンブリは葉が線形から披針形で先が尖ることから区別できる。また全草に苦味がある。</p>
生息・生育状況	おもに吉備高原面に分布し、やや湿った草地やため池の干上がった所、堰堤やその斜面などに生育している。広島県では各地に見られ、産地や個体数は比較的多いが、個々の自生地は狭い所が多く、その一つ一つは環境悪化にさらされやすい。下記の産地のうち、呉市、福山市、府中市、庄原市、神石は過去の記録である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	個々の個体群がきわめて小さく、孤立していて、消滅しやすい分布特性をもつ。道路の改修や管理放棄など、土地利用の変化にともなう生育環境の質的劣化にさらされやすい。湿地と水質の保全、生育地の埋め立てを禁止し、集水域を含めた湿原の周辺環境と水質の変化を及ぼす行為を規制する、などの対策が必要である。栽培は可能。
特記事項	宮島では絶滅したようである。
産地情報	呉市（呉）、福山市（神辺、新市）、府中市、三次市（三次、三良坂）、庄原市（西城、東城）、東広島市（西条、八本松、黒瀬）、廿日市市（宮島）、安芸高田市（高宮、向原）、北広島町（豊平）、世羅町（甲山、世羅西）、神石高原町（神石）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

世羅台地の自然編集委員会(編)2001. 世羅台地の自然－生物編・目録－. 144 pp. 世羅台地の自然発刊連絡会(甲山・世羅・世羅西町教育委員会), 世羅町.

(松井健一・吉野由紀夫)

ホウライカズラ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Gardneria nutans Siebold et Zucc.

リンドウ目 マチン科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】本州（千葉県以西）、四国、九州、琉球列島に分布し、常緑広葉樹林に生育している。</p> <p>【形態】常緑の大木性つる植物で、葉は卵形、濃緑色で光沢があり、長さ5~15 cm、幅2~4 cm、先端は鋭く尖り、全縁。花は7月、葉腋からふつう1個つけ垂れ下がる。花冠は白色で、5裂し、内面に毛がある。雄しべの下部に毛がある。果実は球形で、冬期に赤熟する。</p> <p>【近似種との区別】同属のチトセカズラは花が数個~10個つき、橙黄色で、葉の幅が狭い。サカキカズラ（キョウチクトウ科）は花がないと似ているが、茎を切ると乳液が出ることと、ホウライカズラの葉の裏には黒い点（菌類の寄生か）があることで、区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>樹林内あるいは林縁部にまれに生育する。宮島にある南方系植物の代表的なものである。宮島では数か所に知られているが、いずれも個体数が少ない。蒲刈町と倉橋町は、それぞれ1か所しかなく、きわめてまれである。アカマツ二次林で、常緑広葉樹の多い林分に生育している。下記の産地のうち、これら以外は過去の記録である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと個体群がきわめて小さく孤立しており、分布限界であるなど消滅しやすい分布特性をもつ。道路改修や、土地利用の変化にともなう生育環境の質的劣化にさらされやすい。伐採の規制や森林の保全が必要である。栽培については不明。</p>
特記事項	<p>九州や四国の南部ではまれではないが、中国地方ではきわめてまれである。県東部の自生地については、最近生育が確認されていない。</p> <p>琉球産をリュウキュウホウライカズラ <i>G. liukiensis</i> とし独立種とする考えもある。</p>
産地情報	<p>呉市（倉橋、蒲刈）、福山市（新市）、廿日市市（宮島）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

関 太郎・中西弘樹・鈴木兵二・堀川芳雄 1975. 厳島(宮島)の維管束植物. 厳島の自然—総合学術研究報告—(天然記念物彌山原始林・特別名勝厳島緊急調査委員会, 編), p. 221-332. 宮島町.

(松井健一・吉野由紀夫)

サカキカズラ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Anodendron affine (Hook. et Arn.) Druce

リンドウ目 キョウチクトウ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】暖地の常緑広葉樹林に生える常緑の木本性つる植物。</p> <p>【形態】太いつるでは直径10 cm以上になる。枝は暗紫色を帯び、切ると白い乳液を出す。葉は対生、革質で狭長楕円形、全縁、長さ5~10 cm、幅1~2.5 cm、先端は鋭く尖る。基部は5~10 mmの葉柄がある。上面は暗緑色で光沢がある。花期は4~6月、円錐状の花序で、径8~10 mmで淡黄色の花を多数つける。果実は角状の袋果で硬く、長さ約10 cm。2個熟した時は水平に開出する。種子には先に長さ3 cm程度の冠毛がある。本州（千葉県以西）、四国、九州、琉球・台湾・中国大陸に分布する。</p> <p>【近似種との区別】ホウライカズラやチトセカウラは枝を切っても乳液が出ない。</p>
生息・生育状況	<p>樹林内あるいは林縁部に生育する。宮島にある南方系植物の代表的なものである。宮島では個体数も多いが、それ以外では自生地はほとんどなく、倉橋町の産地は1か所で、きわめてまれである。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと個体群がきわめて小さく、孤立しており、分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。道路の改修などや、土地利用の変化にともなう生息・生育環境の質的劣化を受けやすい。森林、とくに林縁部の保全や、採取の禁止、生育地の環境変化を伴う工事を制限する、などの対策が必要である。栽培については不明。</p>
特記事項	<p>九州や四国の南部ではまれではないが、中国地方ではきわめてまれである。</p>
産地情報	<p>呉市（倉橋）、廿日市市（宮島）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

関 太郎・中西弘樹・鈴木兵二・堀川芳雄 1975. 厳島(宮島)の維管束植物. 厳島の自然—総合学術研究報告—(天然記念物彌山原始林・特別名勝厳島緊急調査委員会, 編), p. 221-332. 宮島町.

(松井健一・吉野由紀夫)

フナバラソウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Vincetoxicum atratum (Bunge) C.Morren et Decne.

リンドウ目 キョウチクトウ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】山野の草地に生育するややまれな多年生草本。</p> <p>【分布】北海道・本州・四国・九州・朝鮮半島・中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】全体に密に軟毛があり、茎は直立して高さ40~80 cm。葉は楕円形から卵形で、10 mm程度の柄があり、長さ6~10 cm、幅3~6 cm。花期は5~6月、花序はごく短い総花柄があり、やや密に花をつける。花冠は濃褐紫色で、径12~14 mm。袋果は広披針形で細毛があり長さ5~8 cm。</p> <p>【近似種との区別】ツクシガシワは茎がつるになることから区分される。近年道路と河岸のり面吹きつけに見られるヒゴビヤクゼンには葉にほとんど柄がなく、基部は茎を抱くことから区分できる。</p>
生息・生育状況	<p>山地のやや乾いた草原に生える。かつての採草地が植林されたり、遷移によって森林に変化しつつあるので、草地が減少し、生育地が減っている。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（草地開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（草地の管理放棄、自然遷移）</p>
特記事項	<p>シカによる食害が憂慮されるが、不明である。</p>
産地情報	<p>広島市（安佐南区、佐伯区）、呉市（川尻）、福山市（新市）、庄原市（東城）、大竹市、廿日市市、北広島町（芸北）、世羅町（世羅西）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

北広島町生物多様性専門員会議(編)2014. 北広島町の自然—北広島町自然学術調査報告書—. 700 pp. 北広島町教育委員会, 北広島町.
(吉野由紀夫)

スズサイコ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Vincetoxicum pycnostelma Kitag.

リンドウ目 キョウチクトウ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】やや乾いた草地に生育する多年生草本。</p> <p>【分布】北海道・本州・四国・九州・朝鮮半島・中国大陸などに分布する。</p> <p>【形態】茎は細く、直立して高さ40~100 cm、葉は線状披針形でほとんど柄がない。長さ6~13 cm、幅4~15 mm、花期は7~8月、花序は茎の先や上部の葉腋から出て、長さ2~3 cmの柄に集散状にまばらに花をつける。花冠は黄褐色、裂片は長さ7~8 mm、袋果は細長い披針形で長さ5~8 cm。</p> <p>【近似種との区別】茎がつるとならないこと、葉が線状披針形であることから同属の他種と区分できる。</p>
生息・生育状況	<p>山地のやや乾いた草原に生える。草地が減少しているため、生育地が減っている。</p> <p>県内各地から報告されているが、現状が不明な産地が多い。世羅町の黒川明神山では絶滅したようである。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（草地開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（草地の利用放棄、自然遷移）</p>
特記事項	<p>世羅ほか(2010)ではヒロハスズサイコ(var. <i>latifolia</i>)を東城町から記録している。</p> <p>シカによる食害が憂慮されるが、不明である。</p>
産地情報	<p>広島市（西区、安佐南区、安佐北区、佐伯区）、呉市（呉、川尻）、三原市（三原、久井）、尾道市、三次市（甲奴、三良坂）、庄原市（総領、東城、口和、高野、比和）、東広島市（西条、八本松、黒瀬、福富）、北広島町（芸北）、世羅町（甲山、世羅西）、神石高原町（神石）</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

ヤマトレンギョウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Forsythia japonica Makino

シソ目 モクセイ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】落葉低木で、春、黄色の花を開く。主として県北東部の石灰岩地や中・古生層地域の岩壁、岩錐、岩海などに生育する。</p> <p>【分布】中国地方（広島県と岡山県）に自生する日本固有の種。生育地の破壊を受けることは少ないと思われるが、掘り取られる恐れはある。</p> <p>【形態】雌雄異株の落葉低木。高さは1~2.5 m。枝は灰黄褐色で、2条の溝がある。長さ7~12 cmで広卵形の葉が互生。4月上旬、濃黄色の花が咲く。花冠は4裂する。果実は長さ1 cm内外の広卵形で、先がくちばし状に尖る。</p> <p>【近似種との区別】中国原産のレンギョウでは、枝の髓が中空（ヤマトレンギョウでは、はしご状）、葉はしばしば3小葉に分かれ、花柄が長い。ショウドシマレンギョウは葉の鋸歯が目立たず、花は帯緑黄色である。</p>
生息・生育状況	<p>植生が発達しにくい岩場に生えている。栽培すれば、普通の土壌にもよく育つ。庄原市（東城）では国定公園、福山市では県立自然公園内に産地がある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（石灰採掘、ダム建設、土地造成、道路工事） 園芸採取</p>
特記事項	<p>挿し木でよく増殖する。小豆島に変種のショウドシマレンギョウが分布する。朝鮮半島や中国大陸に類縁種があり、植物分類・地理学上貴重な植物である。</p>
産地情報	<p>呉市（倉橋）、福山市（福山、新市）、三次市（三良坂）、庄原市（西城、東城）、安芸高田市（高宮、甲田）、世羅町（甲山）、神石高原町（油木、神石、三和）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編) 2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(吉野由紀夫)

サイゴクイボタ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Ligustrum ibota Siebold

シソ目 モクセイ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】兵庫県以西の本州と九州の中北部に分布し、山地に生える落葉低木。</p> <p>【形態】高さ2~5 mになり、枝は細い。葉は薄く、外見はひし形に近く、先がとがる。花期は5~6月、枝先に1~数個の白色花をつける。</p> <p>【近似種との区別】県内に分布するイボタノキやミヤマイボタとは葉の形、花の数、花冠裂片の大きさなどで区別する。</p>
生息・生育状況	<p>東部と西部の溪谷内や大河川沿いの岩礫地に生育している。このうち帝釈の現状は不明。安芸太田町には自生地が数か所あり、個体数の増減はないと思われる。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>森林の伐採や土地の改変が脅威となる。 栽培は可能と思われる。</p>
特記事項	<p>安芸太田町内で新たな自生地が見つかったこと、自生地の一部は保護区域内にあり、直ちに伐採などの脅威にさらされる可能性が低いことなどがわかったため、準絶滅危惧とした。</p>
産地情報	<p>庄原市、安芸太田町</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

能城修一 2017. モクセイ科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 59-66. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

マルバノサウトウガラシ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Deinostema adenocaulum (Maxim.) T.Yamaz.

シソ目 オオバコ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】水田や湿地に生育する小型の一年生草本。</p> <p>【分布】本州・四国・九州・朝鮮半島南部に分布する。</p> <p>【形態】茎は直立し軟弱で高さ 10~18 cm, 葉は卵形で長さ 5~8 mm, 幅 3~6 mm。花期は 7~9 月, 上部の葉腋から長さ 1 cm 程度の柄が出る。がくは 3~4 mm で基部まで 5 裂する。花冠は 2 唇形で長さ 4 mm。さく果は円形でがくより短い。</p> <p>【近似種との区別】サウトウガラシは葉が広線形から線状披針形で先は鋭くとがることから区別できる。アゼトウガラシやスズメノトウガラシは葉に鋸歯があることから区別できる。</p>
生息・生育状況	従来は県北からしか報告がなかった。最近県中部や南部で生育が確認された。庄原市(西城)の道後山高原クロカンパークの調整池の水際には比較的多数の個体が生育している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変(湿地開発, 河川開発, 土地造成, 道路工事) 生育地の環境変化(農薬汚染, 水質汚濁, 自然遷移)
特記事項	—
産地情報	広島市(安佐北区, 佐伯区), 庄原市(西城, 東城, 口和, 高野, 比和)

江塚昭典・松本和夫 1985. 福山市周辺の植物相. 中国農事試験場報告 E, 23: 1-107.

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

ツクバキンモンソウ 準絶滅危惧(NT) NT-a

Ajuga yesoensis Maxim. ex Franch. et Sav. var. *tsukubana* Nakai

シソ目 シソ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州(岩手県南部以南)の太平洋側, 四国, 九州に分布し, 山地の林床に生える多年草。</p> <p>【形態】茎は叢生して高さ 5~15 cm になり, 基部に鱗片状葉が 2~3 対ある。普通葉は長楕円形から広卵形で数対ある。花期は 4~5 月, 葉腋に 2~6 個ずつつき, 淡紅色。筒部の長さは約 10 mm, 下唇は大きく 3 裂し, 上唇は約 1 mm の半円形。</p> <p>【近似種との区別】ニシキゴロモはよく似ているが, 上唇が 2~3 mm と長く 2 裂することで区別される。</p>
生息・生育状況	県内で確認されている自生地は 1 か所。2006 年に林縁部で発見された。もともと個体数は少なく, さらに踏みつけなどの影響を受けて減少している場所もある。また, 自生地付近では近年ニホンジカの生息数が増加しており, 食害が危惧される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変, 踏み付けなどの環境悪化, ニホンジカによる食害が脅威となる。
特記事項	今回の調査では新たな自生地は見つからなかった。唯一の自生地では, 徐々に生育数が減少している。また, 周辺に生息するニホンジカの影響も危惧される状況であることから, 準絶滅危惧とした。
産地情報	三次市

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

米倉浩司 2017. シソ科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 101-143. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

トサムラサキ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Callicarpa shikokiana Makino

シソ目 シソ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】県内では宮島にのみ生育する落葉低木で、果実は紫色に熟し美しい。本州、四国、九州に分布する。</p> <p>【形態】落葉低木で、小枝は円筒形。葉は対生し、長楕円形で長さ4~12 cm、幅1~3 cm、両面に淡黄色の腺点があり、脈上には短毛がある。縁は粗鋸歯で、先が尾状に鋭尖する。花期は6~9月、集散花序を腋生し、長さ1~2 cmの柄がある。花は淡紅紫色で、多数つける。果実は球形で、紫色に熟し径2 mm、美しい。</p> <p>【近似種との区別】ムラサキシキブやコムラサキは葉に腺点がなく、先が尾状に伸びないことから区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>広島県では宮島にしか知られていない。宮島では谷筋のやや湿った所の常緑広葉樹二次林(低木林)や林縁に生育し、個体数も多い。産地が国立公園内であるので、保護された環境である。ただし、孤立した個体群であり、実生がシカに食べられている可能性もある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>分布限界にあつて孤立した個体群で、消滅しやすい分布特性をもつ。国立公園内であっても森林伐採されることがあり、土地利用の変化にともなう生育環境の質的劣化や土砂崩壊、遷移の進行や植生の変化による個体数減少の危険がある。採取の禁止や、森林、とくに林床の保全など、周辺地域を含めた生育地の環境変化を伴う工事を規制する必要がある。栽培は可能。</p>
特記事項	<p>宮島では実生や幼個体がほとんど見られない。シカに食べられている可能性が高い。</p>
産地情報	<p>廿日市市(宮島)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

関 太郎・中弘樹・鈴木兵二・堀川芳雄 1975. 厳島(宮島)の維管束植物. 厳島の自然—総合学術研究報告—(天然記念物彌山原始林・特別名勝厳島緊急調査委員会, 編), p. 221-332. 宮島町.

(松井健一・吉野由紀夫)

ジャコウソウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Chelonopsis moschata Miq.

シソ目 シソ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】溪谷にまれに生育する多年生草本。花が美しいことから、よく盗掘される。</p> <p>【分布】北海道・本州・四国・九州に分布する。日本の固有種。</p> <p>【形態】茎は方形で高さ60~100 cm、分枝しない。葉は狭倒卵形で、先は長く鋭くとがり、縁に鋸歯がある。長さ10~20 cm、幅3~10 cm、基部は耳状心形で短い柄がある。花期は8~9月、葉腋から出た短い(2~15 mm)花柄の先に1~3個つく。がくは鐘形で、花は淡紅色、長さ4~4.5 cm、開口部はやや白い。</p> <p>【近似種との区別】タニジャコウソウは花柄の長さが3~4 cmで、葉柄より著しく長いので区別できる。広島県からはまだ報告がない。</p>
生息・生育状況	<p>中国山地の溪谷にまれに分布する。個体数は多くない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変(森林伐採, 土地造成, 道路工事)</p> <p>生育地の環境変化(自然遷移)</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>自生地を公表すると採取される恐れがあるので、報道は注意が必要。</p>
産地情報	<p>広島市(佐伯区), 三次市(君田), 庄原市(東城, 口和, 高野, 比和), 廿日市市(吉和), 安芸太田町(筒賀, 戸河内)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編)2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(吉野由紀夫)

マネキグサ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Loxocalyx ambiguus (Makino) Makino

シソ目 シソ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】 山の木陰に生育する多年生草本。県東部の溪谷にまれに分布する。</p> <p>【分布】 本州（神奈川県以西）・四国・九州に分布する。日本の固有種。</p> <p>【形態】 茎は方形で分枝し、高さ 40~90 cm、稜には下向きの白毛がある。葉は対生し、長さ 1~3 cm の柄があり、葉身卵円形で長さ 3~7 cm、幅 2~6.5 cm、あらくて大きな鋸歯がある。花期は 8~9 月、花は葉腋に 1~3 個ずつつき、暗紅紫色で長さ 18~20 mm。</p> <p>【近似種との区別】 メハジキは茎葉が 3 全から深裂する。キセワタは葉が卵形であらい毛があることから区分できる。</p>
生息・生育状況	おもに県東部の溪谷部にまれに分布し、とくに石灰岩地帯に生育している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	—
産地情報	広島市（佐伯区）、福山市（福山、新市）、三次市、庄原市（庄原、東城）、神石高原町（油木、神石、豊松）

世羅徹哉・井上尚子・武内一恵・富沢由美子・吉野由紀夫 2007. 湯来町の維管束植物. 広島市植物公園紀要, 24・25: 15-81.

加藤雅啓・海老原 淳(編) 2011. 日本の固有植物. 503 pp. 東海大学出版会, 秦野.

(吉野由紀夫)

ミゾコウジュ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Salvia plebeia R.Br.

シソ目 シソ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】 熱帯より暖帯にかけて分布する草本である。湿った草地や畔に生える。</p> <p>【分布】 本州・四国・九州・琉球・東アジア・マレーシア・インドと広く分布する。</p> <p>【形態】 茎は直立して高さ 30~70 cm、四角形で分枝し、下向きの毛がある。越冬した大形ロゼット状の根生葉は、5 月の花期になると枯れる。8~10 cm にのびた花穂に淡紫色の花を段状に咲かせる。</p> <p>【近似種との区別】 ハルノタムラソウ、ナツノタムラソウなどの葉は羽状であるが、ミゾコウジュの葉は、長楕円形で分裂しない。</p>
生息・生育状況	日本ではやや湿った道端に生える越冬草であるが、近年、県内ではあまり見かけない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（草地開発、河川開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（農薬汚染、自然遷移）</p>
特記事項	除草剤も散布など、種を選ばず水田、畑、路傍の雑草を駆除する農法により、多くの動植物が消滅している。水田、畑、路傍など長い間人類と共存してきた人里の生態系が変貌しつつある。
産地情報	広島市（東区、安佐北区）、呉市（呉、音戸、倉橋、安浦）、三原市、尾道市（瀬戸田）、福山市、北広島町（芸北）、大崎上島町（大崎）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(吉野由紀夫)

ナミキソウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Scutellaria strigillosa Hemsl.

シソ目 シソ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】 海岸近くの乾いた草地に生える多年草。</p> <p>【分布】 北海道, 本州, 四国, 九州, 朝鮮半島, 中国大陸 (東北部), 千島列島, サハリンに分布する。南西日本では絶滅に瀕している自治体が多い。</p> <p>【形態】 茎の下部は分枝しながら匍匐して広がり, 送出枝もある。立ち上がる茎は高さ 15~50 cm になり, 楕円形で先端が丸い葉を対生する。茎, 葉は有毛, 葉の裏面には腺点が散生する。花期は 7~9 月で青色花を茎頂や葉腋につける。</p> <p>【近似種との区別】 茎の分枝が少なく, 葉が披針形を帯びて先端が尖るエゾナミキソウが本州北部と北海道に分布する。</p>
生息・生育状況	<p>海岸の波打ち際や乾燥した草地に生える。これまで二か所で生育が記録されているが, 近年確認されていない。干拓などの工事が行われれば消滅する危険がある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変 (草地開発, 海浜開発, 河川開発, 土地造成など)</p> <p>生育環境の変化 (自然遷移)</p>
特記事項	—
産地情報	<p>呉市 (安浦), 廿日市市 (宮島)</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

ひろしま自然の会(編) 2015. レッドデータブックくれ. 95 pp. くれ環境市民の会, 呉.

(久藤広志・世羅徹哉)

スズメハコベ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Microcarpaea minima (K.D. Koenig ex Retz.) Merr.

シソ目 ハエドクソウ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】 本州から琉球, 朝鮮半島から東南アジアやインド, オーストラリアなどに広く分布し, 水田や湿地に生える一年草。全国的に減少している。</p> <p>【形態】 茎は細く無毛で, 長さ 20 cm ほどに伸び, 多数分枝して地表を匍匐する。節ごとに細根を出し, 広線形から狭楕円形の葉を対生する。花期は 7~10 月, 葉腋に長さ 2 mm ほどの淡紅色の花をつける。</p> <p>【近似種との区別】 アワゴケやミズハコベは葉が卵円形で花被がない。</p>
生息・生育状況	<p>県の北部や南西部で生育が確認されている。減水期のダム湖に現れる干潟や刈り取り前後の水田で見られる。年によって生育数が異なる。戸河内の記録は標本が確認されていない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>埋め立てや圃場整備などの改変, 除草剤の多使用, 水田の耕作放棄などが脅威となる。</p>
特記事項	—
産地情報	<p>広島市, 庄原市, 廿日市市</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

遠藤泰彦 2017. ハエドクソウ科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 146-147. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

クチナシグサ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Monochasma shearerii (S.Moore) Maxim.

ハマウツボ目 ハマウツボ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州（関東，東海，中国地方），四国の瀬戸内側，九州北部，朝鮮半島南西部，中国中部に分布し，低地の降水量が少ない地域の落葉樹林などに生える越年草。</p> <p>【形態】茎は地面を這って分枝し，長さ 60 cm になり，曲がった毛がまばらに生える。枝の上部は立ちあがって線形の葉を対生し，葉腋に淡紅紫色の花を 1 個つける。がくは果期に大きくなり，裂片は線形。果実の形がクチナシの実に似る。</p> <p>【近似種との区別】茎葉に白色綿毛があり，花が大きい点で本種から区別されるウスユキクチナシグサがあるが，中国地方には分布しない。</p>
生息・生育状況	夏緑広葉樹の二次林など比較的乾燥した明るい林床や林縁部に生える。これまで県西部から中部にかけて数か所の自生地が記録されているが，現状が不明の場所が多い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変，植生遷移，樹木の伐採などの環境変化が脅威となる。栽培や移植は困難と思われる。
特記事項	県内広く生育記録があるが，現在確認されている場所は少ない。自生地は林縁部で工事などの影響を受けやすいことが多いので，カテゴリー変さらにもとない，準絶滅危惧とした。
産地情報	広島市，呉市，三原市，尾道市，福山市，三次市，大竹市，世羅町

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

藤井紀之 2017. ハマウツボ科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 149-162. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ハマウツボ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Orobanche coerulescens Stephan ex Willd.

シソ目 ハマウツボ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】海岸や河原の砂地で，ヨモギ属，とくにカワラヨモギの根などに寄生する一年草で，日本全国，中国大陸から東ヨーロッパにかけて分布する。</p> <p>【形態】植物体全体に長い白軟毛があり，茎は黄褐色で太い円柱形，分枝せず直立花穂とともに高さ 10 ~35 cm. 太く肥厚した根茎が肉質のひげ根を出して宿主の根につく。葉は黄褐色の膜質鱗片状で，狭卵形または披針形。花期は 5~7 月，花穂は全長の 1/2~1/3 をしめ，花は筒型で淡紫色。果実は狭楕円形で長さ約 1 cm.</p> <p>【近縁種との区別】オカウツボは花序に毛が少なく，オトコヨモギに寄生する。</p>
生息・生育状況	海浜域や河原の砂質草地に生育する。過去に記録された産地は多いが，現状は不明である。多くの産地では絶滅したと思われる。下記の産地のうち，三原市以外は過去の記録である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	もともと個体数が少ない。河川の改修や海浜の開発行為などにより，生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。生育地の環境変化を伴う工事を規制する必要がある。河川改修や海浜の開発にあたっては植物調査を行い，生育が確認された場合には生育環境を保全すべきである。
特記事項	Honda(1932)が広島市温品から記載したヒロシマウツボは本種である。 下記の産地のうち，竹原，安芸区，能美，海田は，高木リストによる。
産地情報	広島市（南区，安芸区），呉市（呉，倉橋，豊），竹原市，三原市，福山市（新市），江田島市（能美），海田町

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

浜田展也・武内一恵・小池周司 2011. 広島の山野草 春編. 367pp. 南々社, 広島.

(松井健一)

キヨスミウツボ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Phacellanthus tubiflorus Siebold et Zucc.

シソ目 ハマウツボ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】山地の木陰に生育する小さな寄生植物。カシ類, アジサイ類などの木の根に寄生する。</p> <p>【分布】北海道・本州・四国・九州・朝鮮半島・中国大陸(東北部)・ウスリー・サハリンなどに分布する。</p> <p>【形態】短い根茎から多くの茎が分かれて直立し, 全体に黄白色。茎は高さ5~10 cm, 鱗片葉は直立してつく。花期は5~7月, 白色で長さ2.5~3 cm。</p> <p>【近似種との区別】ヤマウツボは白色で, やや褐紫色を帯び, 花茎は高さ30 cm前後になることから区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>広島県ではおもに吉備高原面の溪谷や山地にきわめてまれに分布し, 陰湿な林下に生育する。植物体が小さく, 落ち葉などに覆われるため見つけにくい。寄生植物であるため栽培は不可能。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変(森林伐採, 土地造成, 道路工事)</p> <p>生育地の環境変化(自然遷移)</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>農家が落葉落枝を採取する習慣がなくなり, 土壌層が豊富になってきた。今後, 腐生植物や寄生植物が増える可能性がある。</p>
産地情報	<p>広島市(佐伯区), 庄原市(総領, 西城, 東城), 廿日市市(廿日市, 佐伯, 吉和), 神石高原町(神石)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

オオヒキヨモギ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Siphonostegia laeta S.Moore

シソ目 ハマウツボ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】低山の日あたりのよい草地に生える半寄生の一年生草本。</p> <p>【分布】本州(関東地方以西)・四国の瀬戸内海などの雨の少ない地域に分布する。中国大陸(中南部)にも分布している。</p> <p>【形態】茎は斜上して高さ30~70 cm, 葉とともに腺毛が密に生える。葉は茎の下部では対生し, 上部では互生し, 羽状に深く裂ける。長さ1.5~3 cm, 幅1.2~2 cm。花期は8~9月, 上部の葉腋ごとに1花をつける。花冠は灰黄色で長さ2.8 cm, 上唇は先が狭まらず切形で, 2裂しない。</p> <p>【近似種との区別】ヒキヨモギは全体にやや密に腺のない短毛が生える。花冠は鮮黄色, 上唇の先は細くなる点で区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>日あたりのよい草地に生育する。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変(草地開発, 土地造成, 道路工事)</p> <p>生育地の環境変化(草地の管理放棄, 自然遷移)</p>
特記事項	<p>江田島市(大柿)の海岸ではハマゴウに寄生している。従来の種とは異なるような形質が見られる。分類学的な検討が必要であろう。</p>
産地情報	<p>呉市(安浦), 竹原市, 三原市, 東広島市(西条, 八本松, 河内), 廿日市市(大野), 江田島市(大柿), 世羅町(甲山), 神石高原町(豊松)</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

浜田展也・武内一恵(監修・解説)・小池周司(写真)2011. 広島の山野草(夏編). 379 pp. 南々社, 広島.

(吉野由紀夫)

ミカワタヌキモ(イトタヌキモ) 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Utricularia exoleta R.Br.

シソ目 タヌキモ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】湿地の水たまりに生育する沈水生の水草で、食虫植物。</p> <p>【分布】本州、九州、台湾、インド、オーストラリア、アフリカに分布する。</p> <p>【形態】茎は糸状で泥土の上をはい先はうず巻状に巻く。葉はまばらに生じ、ごく小形で1~3回分裂し、細くて微歯があり、まばらに捕虫のうをつける。花期は8~9月で花茎は高さ5~8 cm、花は径5~6 mm。</p> <p>【近似種との区別】ヒメタヌキモの水中葉は5~10個の裂片に分かれ、全縁であることから区別される。</p>
生息・生育状況	<p>湿原中の水たまりや水路に生育する。広島県では限られた地点から報告されており、個体数は少ない。県内での詳しい調査が必要である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（湖沼開発、湿地開発、ため池の埋立、土地造成など）</p> <p>生育環境の変化（水質汚濁、富栄養化、ため池の管理放棄）</p>
特記事項	<p>広島県や岡山県では湿地に外国産の食虫植物が植えられているのが報告されており、岡山県では除去作業が行われている。貴重な種が生息・生育する湿原生態系の破壊につながる悪質な行為である。</p>
産地情報	<p>三原市（大和）、東広島市、世羅町（甲山）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

世羅台地の自然編集委員会(編)2001. 世羅台地の自然-生物編-. 269 pp. 世羅台地の自然発刊連絡会(甲山・世羅・世羅西町教育委員会), 世羅町.

(久藤広志・吉野由紀夫)

コタヌキモ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Utricularia intermedia Heyne

シソ目 タヌキモ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】湿地の水たまりに生育する北方系の沈水生の多年草。食虫植物。</p> <p>【分布】本州（広島県以北）・北海道・千島列島・朝鮮半島から北半球に広く分布する。</p> <p>【形態】茎は長さ20 cmほどで、まばらに分布する。葉は互生し、2~5回3出状に分裂し、長さ4~15 mm、花期は6~9月で、花茎は長さ8~20 cm。花弁は黄色で径10~15 mm。</p> <p>【近似種との区別】タヌキモは葉の長さが2 cm以上になるが、コタヌキモとヒメタヌキモは2 cm以下である。また、ヒメタヌキモの水中葉は捕虫囊をつけるが、コタヌキモは捕虫囊をつけないで、根状の枝に捕虫囊が集まってつく。</p>
生息・生育状況	<p>広島県内では、アカマツ林に囲まれた湿原中の水たまりや水路内に多く生育する。オオミズゴケよりも過湿な所に群生するコアナミズゴケとしばしば混生している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（湖沼開発、湿地開発、ため池の埋立、土地造成など）</p> <p>生育環境の変化（水質汚濁、富栄養化、ため池の管理放棄）</p>
特記事項	<p>広島県の産地は分布の南西限地域にあたり、植物地理学上、貴重な存在である。</p>
産地情報	<p>呉市、三原市（大和）、東広島市（豊栄）、世羅町（世羅、甲山、世羅西）</p>

下田路子・実光紀之・吉野由紀夫 1989. 分布上興味深い広島県世羅台地の湿原植物-ミカワシオガマの新産地など-. 植物地理・分類研究, 37: 9-14.

(久藤広志・吉野由紀夫)

ヒメモチ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Ilex leuoclada (Maxim.) Makino

モチノキ目 モチノキ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】日本固有種で北海道南部, 本州に分布し, おもに雪の多い日本海側に見られる。ブナ林域の林床に生育する常緑低木で, 下部は匍匐する。花は5~6月で, 葉腋に束生する。果実は径1cmで赤熟。</p> <p>【形態】常緑の小低木で, 高さは1mほど。あまり分枝せず, 下部は匍匐する。葉は長さ6~13cmで, 幅2~3.5cm。花期は5~6月, 雌雄異株で1~数個束生する。果実は球形で径1cm, 赤く熟する。</p> <p>【近似種との区別】同属のクロソゴは葉が2~4cmと小さい。また, ソゴやモチノキは直立し, 高木となる。ブナ林域にも多いミカン科のツルシキミは葉に油点があり, 枝の先に円錐花序をつける。</p>
生息・生育状況	<p>広島県では中国山地のブナ帯の上部に限られる。産地はおもに国定公園内にある。ブナ帯のよく発達した落葉広葉樹林下に生育する。林床にササ類が密生する立地では少ない。また, 若い林分には見られないようである。ブナ林域の伐採により生育地が減少した。</p> <p>下記の産地のうち, 芸北町, 戸河内町, 大朝町は過去の記録である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと個体数が少ない。おもにブナ帯の森林伐採による生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。森林を保全し, 生育地の環境変化を伴う工事を制限することが必要である。</p>
特記事項	<p>君田村の神之瀬峡では海拔400m付近にも生育している。</p>
産地情報	<p>三次市(君田), 庄原市(西城, 高野, 比和), 安芸太田町(戸河内), 北広島町(芸北, 大朝)</p>

渡辺泰邦・桑田健吾・桑田武子・浜田展也・西岡秀樹 1998. 広島県高野町の種子植物. 広島県高野町の自然誌(比婆科学教育振興会, 編), p. 23-134. 高野町・高野町教育委員会, 高野町.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(松井健一・吉野由紀夫)

ミヤマウメモドキ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Ilex nipponica Makino

モチノキ目 モチノキ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】広島県では吉備高原面の湿原に生育する落葉低木。</p> <p>【分布】本州(東北地方から中国地方)に分布する。日本の固有種。</p> <p>【形態】山地の湿原に生える落葉低木で, 葉柄は長さ5~11mm, 葉身は倒披針状楕円形, 中部から上の部分の幅が広がる。葉の上面はややしわがあつて色が濃い。花期は6月, 新枝の葉腋に花序軸を伸ばし, 散形状に花をつける。雌雄異株で雌花序は2~4花をつける。花弁は白色。果実は球形で径約6mm, 赤く熟する。</p> <p>【近似種との区別】類似するウメモドキは葉の中部またはその下の部分の幅が広いことから区分できる。</p>
生息・生育状況	<p>広島県では吉備高原から中国山地の湿原にまれに分布する。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変(湿地開発, 土地造成, 道路工事)</p> <p>生育地の環境変化(自然遷移)</p>
特記事項	<p>従来, 広島県から湿地でウメモドキと報告されたものは再検討を要する。</p>
産地情報	<p>三原市(大和), 東広島市(福富, 河内), 北広島町(芸北, 大朝, 豊平)</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

加藤雅啓・海老原 淳(編) 2011. 日本の固有植物. 503 pp. 東海大学出版会, 秦野.

(吉野由紀夫)

フクシマシヤジン 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Adenophora divaricata Franch. et Sav.

キク目 キキョウ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州（中北部と中国地方）、四国と朝鮮半島、中国大陸（北部、東部）に分布し、山地のやや乾いた斜面や草地などに生える多年草。</p> <p>【形態】茎は高さ 40～100 cm になり、毛の状態は様々。葉は輪生、対生または互生することもある。花序の枝は横に張り出し、まばらな円錐花序をつくる。花期は 8～9 月、がく片は披針形で全縁、花冠はやや開いた釣鐘型で淡紫色または白色。</p> <p>【近似種との区別】ツリガネニンジンやサイヨウシヤジンはがく片が線形で鋸歯縁になる点で区別する。</p>
生息・生育状況	<p>県の中中部や北部で生育が確認されているが、分布は断続的で自生地、個体数ともに少ない。山地の斜面や林縁部にある草地に生え、ツリガネニンジンと隣接している自生地もあるが開花期が早い。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変や林縁部の除草作業、草地の森林化などが脅威となる。栽培は可能。</p>
特記事項	—
産地情報	庄原市、東広島市

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

岡崎純子 2017. キキョウ科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 186-194. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

シデシヤジン 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Asyneuma japonicum (Miq.) Briq.

キク目 キキョウ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】山地に生える多年生草本で、県内ではおもに石灰岩地帯に生育する。</p> <p>【分布】本州、九州、朝鮮半島、中国大陸（東北部）、アムール、ウスリーに分布する。</p> <p>【形態】茎は直立し、高さ 50～100 cm。縦の隆起線がある。下部の茎葉には柄があるが、上部ではない。葉身は卵形から長楕円形、基部はくさび形、長さ 5～10 cm。花期は 7～8 月、茎頂と上部の葉腋に総状花序がつく。がく筒は短く、がく裂片は線形。花冠は青紫色で基部まで 5 裂し、裂片は線形で長さ 1～1.2 cm、やや反曲する。</p> <p>【近似種との区別】ツリガネニンジンは花冠が鐘形になることで区分される。</p>
生息・生育状況	<p>県東部の吉備高原面から中国山地にかけてまれに分布する。とくに石灰岩地帯の林縁などに生育する。個体数は少ない。県西部には見られないようである。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、河川開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	—
産地情報	庄原市（西城、東城、高野、比和）、神石高原町（油木、神石、豊松）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編) 2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(吉野由紀夫)

アサザ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Nymphoides peltata (S.G.Gmel.) Kuntze

キク目 ミツガシワ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: DD

概要	<p>【摘要】各地の湖沼、ため池などに生育する浮葉性の多年生水草。夏から秋にかけて黄色い花をつける。</p> <p>【分布】本州から九州、朝鮮半島、中国大陸からユーラシアに分布する。</p> <p>【形態】根茎は泥の中を長くはい、太く長い茎を出す。葉はハートの形で径5~10 cm、縁に波状歯牙がある。花期は6~8月、花柄は3~12 cm、花冠は径3~4 cm、黄色で5深裂する。</p> <p>【近似種との区別】同属のガガブタやヒメシロアサザは花冠が白色であることで区別される。</p>
生息・生育状況	<p>ジュンサイ、ヒシ、フサモなどが生育する貧栄養から中栄養のため池やワンドに生育する。廿日市市（大野）のベニマンサク湖の人工の池やせら夢公園では植栽されている。北広島町は1950年代に総合学術調査が行われたが、確認されていない。移植された可能性が高い。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（湖沼開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（富栄養化、農薬汚染、ため池の管理放棄、自然遷移）</p> <p>園芸採取</p>
特記事項	<p>栽培は可能である。池沼の埋立てや水質の汚染により全国的に減少している。利根川流域の霞ヶ浦でのアサザプロジェクトにより、湖沼保全のシンボルとなっている。</p>
産地情報	<p>三次市（三良坂）、東広島市、廿日市市（廿日市、大野）、安芸高田市（吉田）、北広島町（芸北）、世羅町（世羅西）</p>

角野康郎 1994. 日本水草図鑑. 179 pp. 文一総合出版, 東京.

東広島市自然研究会（編） 1998. 東ひろしまの自然. 55 pp. 東広島市自然研究会事務局, 広島県.

（吉野由紀夫）

ホソバノヤマハハコ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Anaphalis margaritacea (L.) Benth. et Hook.f. var. *angustifolia* (Franch. et Sav.) Hayata

キク目 キク科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】福井県と愛知県以西の本州、四国、九州に分布し、中国山地の高所の風衝草原にまれに生育する多年生草本。</p> <p>【形態】高さ30 cmほどになり、茎は叢生するが、中部では枝分かれしない。葉は互生し、幅2~6 mm。夏期は8~9月で、枝の先に多数の頭花を散房状につける。白い花びらのように見えるのは総苞片で、茶色いのが頭花である。</p> <p>【近似種との区別】ヤマハハコよりやや小型であり、ヤマハハコは長野、石川県以北に分布する。カワラハハコは葉の幅が1~2 mmと狭く、川原の砂地に生え、茎は多く分枝することで区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>中国山地の山頂付近に隔離的に分布する。生育地はおもに国定公園内にある。個体数が少なく貴重である。下記の産地のうち、東城町以外は過去の記録である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと個体群がきわめて小さい。土地利用の変化にともなう生育環境の質的劣化、遷移進行や植生の変化などにより、個体数の減少や個体群の縮小が著しい。生育地のとくに草原を保全し、生育地の環境変化を伴う工事を規制する必要がある。低地での栽培は困難。</p>
特記事項	<p>近年、ヤマハハコが法面の緑化に使われることがあり、自然分布とは異なる地点に見られることがあり要注意。広島市や廿日市市の産地報告については検討が必要である。1990年代には温井ダムの法面に本種が植栽されていた。</p>
産地情報	<p>広島市（西区）、福山市（新市）、庄原市（西城、東城、比和）、廿日市市（佐伯、吉和）、安芸太田町（戸河内）、北広島町（芸北）、神石高原町（油木、神石）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会（編）1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

広島県東城町植物誌編纂委員会（編）2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

（松井健一・吉野由紀夫）

フクド 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Artemisia fukudo Makino

キク目 キク科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】満潮時、海水に浸かる河口付近の泥地に生育する多年草。</p> <p>【分布】本州（近畿地方以西）、四国、九州、朝鮮半島に分布する。護岸工事や埋立てにより、生育環境が減少している。</p> <p>【形態】高さ 30～90 cm の高さの茎を直立、分枝し、群生する。根生葉は質が厚く、初めはくものす状の毛が多い。花は 9～10 月頃、高さ 40 cm 前後に伸びた側枝につく。花頭は幅 4 mm。咲き終わると植物体は枯れる。</p> <p>【近似種との区別】カワラヨモギは頭花が幅 1.5～2 mm と小さいことから区別できる。</p>
生息・生育状況	満潮時に冠水する干潟や河川敷に生育する。太田川放水路の河川敷には非常災害時の道路が作られ、生育環境の一部が消失した。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（海浜開発、河川開発、土地造成など） 生育環境の変化（水質汚濁、自然遷移）
特記事項	自然海岸が比較的によく残っている宮島からは、なぜか報告がない。
産地情報	広島市（西区）、呉市（呉、安浦）、福山市、東広島市（安芸津）、廿日市市（大野）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

荒木 悟・國井英伸 2011. 太田川河口域における塩生植物群落の現状. ホシザキグリーン財団研究報告 14: 251-256.

(久藤広志・吉野由紀夫)

ヒツバヨモギ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Artemisia monophylla Kitam.

キク目 キク科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】中国山地の高所にまれに生育する多年草。</p> <p>【分布】本州（青森県から島根県の日本海側）に分布し、亜高山に多い。広島県はその南限である。日本の固有種。</p> <p>【形態】山地に生える多年草。地下茎は横にはい、茎は叢生し、高さ 70～100 cm。ふつう枝を出さない。葉は長楕円状披針形で、鋸歯はあるが分裂せず、裏面は白色。長さ 6.5～14 cm, 幅 2～4 cm, 短い柄がある。花期は 8～10 月、頭花は細長い円錐状花序につき、やや無柄で、鐘形、長さ 3～4 mm, 幅 2～3 mm, くも毛がある。</p> <p>【近似種との区別】ヨモギやヒロハヤマヨモギは葉が 1～2 回羽状に浅から全裂することから区分できる。</p>
生息・生育状況	県東部の中国山地の山頂部に生育する。道後山では海拔 1,100 m から山頂部(1,268 m)の風衝草原に生育している。個体数は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（草地開発、土地造成、道路工事） 生育地の環境変化（草地の利用放棄、自然遷移）
特記事項	—
産地情報	庄原市（西城、東城、比和）

広島県東城町植物誌編纂委員会(編) 2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

西岡秀樹・中村慎吾(編) 2018. 広島県庄原市比和町吾妻山植物誌. 156 pp. 庄原市立比和自然科学博物館, 広島県.

(吉野由紀夫)

ヒロハヤマヨモギ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Artemisia stolonifera (Maxim.) Kom.

キク目 キク科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】中国山地の山中の乾草原にまれに生育する大陸系の多年生草本。</p> <p>【分布】本州（中国地方）・九州・朝鮮半島・中国大陸（東北部）に分布する。県内では北東部の中国山地の風衝草原に生育する。</p> <p>【形態】地下茎は長くはい、茎は高さ 50～100 cm、茎の中部の葉は卵形または卵状長楕円形で、長さ 7～14 cm、幅 4.5～8 cm、羽状に浅～中裂する。裏面に綿毛があり黄色味がかっている。花期は 8～10 月、頭花は狭い円錐状花序に多数つき、幅 3～4 mm あって球形。</p> <p>【近似種との区別】ヨモギの若い個体に似ているが、葉の裏面の毛は黄色味がかっており、ヨモギは青味を帯びた白色なので区分できる。</p>
生息・生育状況	中国山地の高所にまれに分布し、山地草原に生育している。帝釈峡付近にも見られる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（草地開発、土地造成、道路工事） 生育地の環境変化（草地の利用放棄、自然遷移）
特記事項	北村(1981)は、「大陸系の植物で、寒冷期に朝鮮半島から九州北部・中国地方に入ったという点で興味深く、今は山中にまれにある」と述べている。
産地情報	庄原市（西城，東城，高野，比和）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編)2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(吉野由紀夫)

ウラギク 準絶滅危惧(NT) NT-b

Aster tripolium L.

キク目 キク科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】海岸や河口付近の満潮時には海水がはいる湿地に生育する越年草。</p> <p>【分布】北海道，本州，四国，九州，朝鮮半島，中国大陸，シベリア，ヨーロッパ等に分布する。海岸線の埋め立てにより全国的に減少している。</p> <p>【形態】茎は太く直立し、高さ 1 m 内外になる。花期は 8～11 月頃、茎の先端に多数が、やや集まって咲く。花は径 2～3 cm で、紫色を帯びる。</p> <p>【近似種との区別】河口付近の塩湿地に生育するもので、紫色のキクが咲いていれば確認できる。</p>
生息・生育状況	満潮時には塩水がはいる海岸付近の小さな河川に生育している。いずれの地点でも個体数は少ない。1987年に確認した広島市安芸区矢野の群落は県内ではもっとも大きな個体群と思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（海浜開発，河川開発，土地造成など） 生育環境の変化（水質汚濁，自然遷移） 福山湾，松永湾，海田湾，広島湾や島嶼部で埋立てが進んだため、多くの生育地が消滅したと考えられる。
特記事項	広島工業大学の岡研究室はウラギク自生地の生態学的な調査を行っている。
産地情報	広島市（南区，西区，安芸区），呉市（呉，倉橋，下蒲刈，安浦），竹原市，三原市，尾道市（尾道，因島，瀬戸田，向島），福山市（福山，沼隈），大竹市，東広島市，廿日市市（宮島）

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(久藤広志・吉野由紀夫)

モリアザミ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Cirsium dipsacolepis (Maxim.) Matsum. var. *dipsacolepis*

キク目 キク科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】山野の乾いた草原に生える多年草で、本州、四国、九州に分布する。</p> <p>【形態】茎は細毛が生え、高さ 50~100 cm。下部の葉は長い柄があり長さ 15~20 cm、長楕円形、洋紙質で往々羽状に切れ込む。茎葉は広線形で先は尖り、ほぼ全縁。花期に根生葉はない。頭花は 9~10 月頃、枝先に直立して生じ、総苞は幅 3~4 cm、片は広く開出して棘状、中部で幅 2~3 mm、硬くてすじが多く、往々ふちにくも毛がある。花冠は紅紫色で長さ 17~18 mm、種子は染め分けになっている。</p> <p>【近縁種との区別】アザミ属は分類が困難であるが、本種の頭花は直立し、刺状に開出する総苞外片が特徴的であることで、比較的識別しやすい。</p>
生息・生育状況	<p>西中国山地のススキなどの草原で生育が確認されている。ただし、個体数は少ない。この自生地は山焼きにより草原が維持されている。過去の記録がある生育地の多くは開発や遷移の進行により絶滅したと思われる。下記の産地のうち、戸河内町以外は過去の記録。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと個体数が少ない。自生地の山地草原が、開発や遷移の進行により、失われてきている。また、放牧地・採草地などの管理放棄を主要因とする二次草地の消失や縮小、生育環境の質的劣化が著しい。確認された生育地では現在までの管理が継続されることが望まれる。生育地の再発見に努めたい。</p>
特記事項	<p>土井(1983)と高木リストには多くの産地が記録されているが、現状不明、おそらくその多くは絶滅。ネットには芸北で撮影されたとする写真が公開されている。</p> <p>根が太く垂直に伸び、径 2 cm に達し、食用になる。</p>
産地情報	<p>広島市 (佐伯区)、呉市 (呉)、廿日市市 (佐伯、吉和)、安芸太田町 (戸河内)、神石高原町 (神石)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(松井健一)

テリハアザミ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Cirsium lucens Kitam.

キク目 キク科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】溪谷に生える大形の多年生草本。中国山地を代表するアザミである。</p> <p>【分布】本州 (中国地方)、四国、九州に分布する。日本の固有種。</p> <p>【形態】高さ 1~1.5 m になり、根出葉は多数で楕円形、長さ 55~60 cm、幅 20~30 cm、羽状に中裂し、裂片は 4~7 対、縁の刺は丈夫で 5~6 mm。葉は黄緑色で光沢があり、小刺針がある。花期は 9~11 月、頭花は枝の先に點頭し、幅 4~4.5 cm、総苞は扁球形で、幅 35 mm。総苞外片は線状披針形。</p> <p>【近似種との区別】サンベサワアザミは葉が粉白色を帯びた緑色で、小刺針がないことから区分できる。</p>
生息・生育状況	<p>中国山地の溪谷に分布し、湿潤な溪谷斜面に群生する。群生地では個体数も多いが、生育地が少ない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変 (森林伐採、河川開発、土地造成、道路工事)</p> <p>生育地の環境変化 (自然遷移)</p>
特記事項	<p>門田(2007)は、帝釈峡と周辺地域に生育する個体群を、タイシャクアザミ (仮称) としている。新種記載はまだ行われていない。帝釈峡の溪谷部にはとくに多くの個体が見られる。戸河内町や芸北町の記録については、タイシャクアザミとは異なる可能性が高く、分類学的な再検討が必要と考えられる。</p>
産地情報	<p>福山市、三次市 (君田)、庄原市 (東城、高野)、安芸太田町 (加計、戸河内)、北広島町 (芸北)、神石高原町 (神石)</p>

広島県東城町植物誌編纂委員会(編)2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

門田裕一 2007. 特集日本のアザミ. 国立科学博物館ニュース. (458):4-7. (タイシャクアザミ)

(吉野由紀夫)

フクオウソウ 準絶滅危惧(NT) NT-a

Nabalus acerifolius Maxim.

キク目 キク科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州，四国，九州に分布し，山地の林床に生える多年草。</p> <p>【形態】茎は直立して高さ 35～100 cm で，全体に開出する腺毛が多い。葉は茎の基部に集まって長柄があり，翼があることもある。葉身は円心形で掌状に 3～7 裂する。花期は 8～9 月，円錐花序で，径約 1.5 cm で紫白色の舌状花冠を持つ頭花を多数つける。</p> <p>【近似種との区別】近似種はない。</p>
生息・生育状況	戦前に高木哲雄がサイトウグサの名で比婆山(美古登連峰)の産地を挙げているが未確認であった。2016年に庄原市のブナ林で生育が確認されたが個体数は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	森林伐採や踏み付けなどによる環境悪化が脅威となる。
特記事項	—
産地情報	庄原市

高杉茂雄・山下 博 2016. 広島県に自生するフクオウソウについて. 比婆科学, 256 : 29-30.

門田裕一・瀬戸口浩彰・副島顕子・東馬哲雄・中田政司・森田竜義・米倉浩司 2017. キク科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 198-369.

(世羅徹哉)

アオヤギバナ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Solidago yokusaiana Makino

キク目 キク科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】川岸の岩上に生える多年草で，本州，四国，九州に分布する。</p> <p>【形態】茎は叢生し，直立または斜上して高さ 16～60 cm。根茎はやや太い。葉は線状披針形で鋭頭，長さ 4～7 cm，基部が細くなって柄状，全縁またはまばらに内曲する低鋸歯がある。茎上部の葉は小形で線形。根葉は花時には枯れている。花期は 9～10 月頃，枝の先に密集して穂状につき，頭花は径 15 mm，総苞は筒鐘形で長さ 5～6 mm。片は 3 列，外片は長楕円状披針形で 1 脈が目立つ。舌状花冠は長さ約 7 mm，濃黄色。瘦果は長さ 3.5 mm，密に毛があり，冠毛は長さ 4～5 mm。</p> <p>【近縁種との区別】アキノキリンソウは総苞片が 4 列である。</p>
生息・生育状況	渓流植物のひとつで，河川中流の増水すると植物体が冠水する環境に生育する。太田川と江の川の河岸には見られるが，他の水系では確認されていない。増水すると冠水するような河岸の岩上に生育しているが，生育地付近で護岸工事が行われているため，さらなる個体数の減少が懸念される。
存在を脅かす要因・保全の留意点	もともと個体数が少ない。生育地である河岸の岩場や河原の消失・縮小が著しい。河川改修などによる生育地の消失・縮小が懸念される。河川改修にあたっては，規模のいかんに関わらず必ず植物調査を行うことが必要であり，生育が確認された場合は，生育環境を保全すべきである。
特記事項	—
産地情報	広島市(安佐北区)，三次市，安芸太田町(加計)

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所(編) 2005. 太田川生物誌—目で見える生物誌—代表的な生物たち. 482 pp. 国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所, 広島市.

(松井健一)

ウスバヒョウタンボク 準絶滅危惧(NT) NT-b

Lonicera cerasina Maxim.

マツムシソウ目 スイカズラ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】本州（紀伊半島・山陽地方）、四国、九州に分布し、低地の樹林下にある岩場に生える落葉低木。</p> <p>【形態】高さ 0.5~1.5 m, 若枝は無毛で淡緑色。葉は対生し、長楕円状披針形、先端は鋭く尖り、全縁で、長さ 5~10 cm, 両面無毛または上面と縁に毛がある。花期は 4~5 月。枝の下部葉腋から長さ 10 mm ほどの花柄を出し、先端に 2 花をつける。苞は線形、小苞は合着してともに腺毛がある。花冠は 2 唇状、淡黄色、果実は液果で 2 個が合生し、赤熟する。</p> <p>【近似種との区別】オニヒョウタンボク、ダイセンヒョウタンボク、コウグイスカグラ（広義）などの葉は明らかに有毛。ヤマヒョウタンボクは花期が 5~6 月と遅い。</p>
生息・生育状況	<p>県内では東部と西部に分布し、樹林下の露岩地に生育している。油木町、新市町、東城町の現状は不明である。広島市では溪谷や河川に沿った礫の多い斜面に生育している。場所によっては個体数のかなり多いところもある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変や樹林の伐採が脅威となる。 栽培は可能。</p>
特記事項	—
産地情報	<p>広島市、呉市、福山市、庄原市、神石高原町</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

五百川 裕・奥山雄大 2017. スイカズラ科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 413-428. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉・吉野由紀夫)

キンキヒョウタンボク 準絶滅危惧(NT) NT-b

Lonicera ramosissima Franch. et Sav. ex Maxim. var. *kinkiensis* (Koidz.) Ohwi

マツムシソウ目 スイカズラ科

環境省: EN

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】本州（近畿）と四国の一部に分布し、山地の岩場などに生える落葉低木。本州と四国に広く分布し、種内変異に富むコウグイスカグラの変種とされる。</p> <p>【形態】茎は高さ 1~2 m でよく分枝し、中実。葉は卵状披針形から披針形で先は鋭く尖る。大きさは、長さ 6~60 mm, 幅 3~30 mm と変異が大きい。花期は 4~5 月、細い花柄が葉腋から出て先端に 2 花を下垂する。苞は長さ 2~6 mm の線形。果実は 6~7 月に赤熟する。</p> <p>【近似種との区別】母種のコウグイスカグラは、葉が卵形から長楕状卵形で先が尖らず、苞が幅広い披針形である。県内に分布する他のヒョウタンボク類とは、葉や苞、花などの形態で区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>県北西部のブナ帯域に、数か所の自生地があり、場所によってはかなりの個体数がある。自生地は、山頂付近の岩場や樹林内の明るい露岩地。樹林の伐採によって自生地が狭められている場所がある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>森林の伐採、土地の改変を伴うような開発が脅威となる。 栽培は可能と思われる。</p>
特記事項	<p>今回の調査で、ほぼ同様の形態を示す個体が別の山塊に多数生育することが確認されたため準絶滅危惧に変更した。</p> <p>図鑑によっては、キンキヒョウタンボクの分布域に広島県が入っていない。また、広島県内の個体は、葉や苞の形態が典型的なキンキヒョウタンボクとは異なるので分類学的取り扱いを検討すべきであることが指摘されている。</p>
産地情報	<p>廿日市市、北広島町</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

五百川 裕・奥山雄大 2017. スイカズラ科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 413-428. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉・吉野由紀夫)

イワツクバネウツギ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Zabelia integrifolia (Koidz.) Makino ex Ikuse et S.Kuros.

マツムシソウ目 スイカズラ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】本州（中西部）、四国、九州に隔離的に分布し、おもに石灰岩地、まれに蛇紋岩地に生える落葉低木。</p> <p>【形態】高さ2 mになる。枝は密に分枝し、若い枝は赤味を帯び、無毛または粗毛がある。葉は対生、倒卵形、卵形または披針状長楕円形、全縁または粗い鋸歯がある。葉柄は長さ4~7 mm、基部が膨らんで対する葉と合着する。花期は4~5月、淡紅色を帯びる白色花を若い枝の先端に2個つける。萼片は4個、花冠も4裂する。果実は長楕円形で扁平、黒く熟する。</p> <p>【近似種との区別】類似のツクバネウツギ類とは、茎の節部が膨らみ、対になる2葉の葉柄基部が合着し、花冠裂片が4個であるなどの点で区別できる。</p>
生息・生育状況	産地は国定公園、県立自然公園内にある。石灰岩地などの急な斜面や尾根筋の岩場に生える。帝釈峡内では多いが、他では個体数は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変を伴うような開発が脅威となる。栽培は可能と思われる。
特記事項	—
産地情報	呉市、福山市、庄原市、安芸高田市、神石高原町

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

五百川 裕・奥山雄大 2017. スイカズラ科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 413-428. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉・吉野由紀夫)

ハマウド 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Angelica japonica A.Gray var. *japonica*

キク目 セリ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】海岸に生育する大型の多年草。</p> <p>【分布】本州（関東および中部地方以西）、四国、九州、琉球列島、台湾、朝鮮半島（南部）に分布する。瀬戸内海沿岸ではきわめて少なく、広島県の生育地は貴重である。山口県では日本海側に、愛媛県では豊後水道側に分布している。</p> <p>【形態】大形の多年草本で、茎は高さ1~2 m、直径は5 cmにも達する。茎は中空で、中に黄白色の液体がある。葉は1回3出し、さらに羽状に分裂し、無毛。花は夏に開花し、大形の複散形花序で多数の白い花をつける。花弁は5個で短く、雄しべは5本。果実は軍配の形で、広い翼がある。</p> <p>【近似種との区別】アシタバ（伊豆半島、伊豆七島、紀伊半島に分布）にきわめて似ているが、ハマウドの茎には紫褐色の筋があり、葉に光沢がある。また、茎の中の液体の色が薄い。</p>
生息・生育状況	呉市（倉橋）では2か所の砂浜に生育しているが、いずれも個体数が少ない。このうち、1か所は広島県の自然海岸保全地域であるが、付近で造成工事が行われている。早急に対策が望まれる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（海浜開発、土地造成など） 生育環境の変化（自然遷移） 海水浴や海岸での工事の影響が憂慮される。大形の植物なので採取される危険性は少ないが、ひとたび環境が破壊されると生育が困難になる。
特記事項	広域合併前の呉市から報告されているが、近年確認されていない。
産地情報	呉市（呉、倉橋）、福山市（福山）、大竹市

呉市教育委員会(編) 1975. 倉橋島の植物, 植物研究の手引 8. 121 pp. 呉.

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(久藤広志・吉野由紀夫)

ヒュウガセンキュウ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Angelica minamitanii T.Yamaz.

セリ目 セリ科

環境省: CR

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州，四国，九州に分布し，低山のやや湿ったところに生える多年草。</p> <p>【形態】茎は直立して高さ2mになる。葉は2~3回3出羽状複葉で，葉軸が下方へ弓状に曲がり，葉全体が下向きに垂れる姿はオオバセンキュウに似る。小葉は卵形から菱状長卵形，鋸歯は大きく不ぞろいで時に大きく切れ込む。花期は7~9月，萼歯片は釣鐘型で目立たない。花序は大型で多数の白色花をつける。花弁や子房に毛がある。</p> <p>【近似種との区別】シラネセンキュウは，葉が下を向くことはなく，小葉が卵形で裏が帯白色。オオバセンキュウは小葉が広披針形で，鋸歯が細かく揃っている。</p>
生息・生育状況	<p>県中部と東部，北東部に分布し，林縁や草地，谷川沿いのやや湿った場所に生える。数十か所の自生地が報告されている。場所によっては減少している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>道路工事や除草作業，土地の改変などが大きな脅威となっている。</p>
特記事項	<p>前回オオバセンキュウとして選定した植物はヒュウガセンキュウと考えられることから，植物名を変更した。</p>
産地情報	<p>庄原市，東広島市，神石高原町</p>

窪田正彦・窪田美良子 2011. 広島県植物誌資料(12). 比婆科学, 239: 39-44.

鈴木浩司 2017. セリ科. 改訂新版 日本の野生植物 5(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 384-401.

(世羅徹哉)

セリモドキ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Dystaenia ibukiensis (Y.Yabe) Kitag.

セリ目 セリ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】山に生える多年草で，本州日本海側に分布する。</p> <p>【形態】茎は中空で分枝し，高さ30~90cm，節や花序には乳頭状の毛がある。葉は2~3回羽状に分かれ，終羽片は欠刻様の鋸歯があって先は鋭く尖り，縁にだけ短毛状小突起がある。花期は7~9月，茎頂に複散形花序をつけ，花序の径5~10cm，枝は10~20個あり，総苞片はないか数個，小総苞片は線形，小花柄とほぼ同長。花は白色。果実は長さ6~7mm，稜は鋭い翼となる。</p> <p>【近縁種との区別】ヤマゼリは葉が2~3回3出羽状複生で茎・葉とも無毛。ヒカゲミツバは葉が2回3出複生で小葉の両面にまばらに毛がある。</p>
生息・生育状況	<p>谷沿いの夏緑広葉樹の自然林，二次林，植林の湿った林縁や草地にまれに生育する。吉備高原面や西部の谷で確認されているが，個体数が少ない。下記の産地のうち，佐伯区(湯来町)と豊松は過去の記録である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと個体数が少ない。生育地のある林縁や草地の遷移進行による植生変化にともない，生育地の消失・縮小や生育環境の質的劣化が著しい。自生地を含む林縁や草地の開発にあたっては，生育環境を保全すべきである。</p>
特記事項	<p>過去に記録はあったが，最近自生が確認された。</p>
産地情報	<p>広島市(佐伯区)，三次市(三次)，廿日市市(吉和)，安芸太田町(戸河内)，神石高原町(豊松)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(松井健一)

トチカガミ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Hydrocharis dubia (Blume) Backer

オモダカ目 トチカガミ科

環境省: NT

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】溝や池の縁や湖沼等に生える多年草で、本州、九州から朝鮮半島、中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】茎は伸長し、節から根を出して群生する。節の托葉腋から浮葉と雌花芽、水中茎を出し、その葉腋から雄花芽を出す。葉は円形、心脚で、長さ3.5~7 cm、両面無毛、裏面に気胞がある。基部に膜質の包みのある葉柄をもつ。花期は8~10月、単性花で、雌花は苞鞘内の2つの花芽のうち1つが発達し、花柄がある。両花とも水面に出て開花する。雌雄花とも似ており、がく片、花弁とも3、白色果実は卵形または長楕円形。</p> <p>【近縁種との区別】ミズオオバコは葉が広披針形で両性花をつける。</p>
生息・生育状況	かつては、ため池など湖沼の縁に生育していたが、現状は不明である。廿日市と世羅台地では、すでに絶滅した。広島県植物誌では絶滅とされている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	もともと個体数が少ない。水路や湖沼の開発などによる生育地の消失・縮小や、生育環境の質的劣化が著しい。生育地の再発見に努める。
特記事項	土井(1983)によれば極楽寺山、可部における記録があるが、これらは絶滅したと思われる。
産地情報	広島市(安佐北区)、福山市(福山)、廿日市市(廿日市)、世羅町

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

世羅台地の自然編集委員会(編)2001. 世羅台地の自然—生物編・目録—. 144 pp. 世羅台地の自然発刊連絡会(甲山・世羅・世羅西町教育委員会), 世羅町.

(松井健一)

ハマオモト 情報不足(DD) DD-a, DD-b, DD-d

Crinum asiaticum L. var. *japonicum* Baker

キジカクシ目 ヒガンバナ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】海岸の砂地に生育する大型の多年草。ハマユウともいう。年平均気温15°Cの等温線が北限にあたり、植物地理学上ハマオモト線と言われる。</p> <p>【分布】本州(関東南部以南)・四国・九州・琉球・台湾・中国大陸(南部)・マレーシア・インドに分布する。</p> <p>【形態】常緑の多年草で、径3~7 cmになる円柱状で、高さ50 cmくらいになる白色の偽茎が立つ。葉は大形、線状の披針形で幅は4~9 cm、開出部は長さ30~60 cm。葉の腋から花茎が立ち70 cmくらいになる。花期は7~9月、先端に多数の花が散形花序を作る。白色の花冠は芳香があり、筒部は細くて長さ6 cmくらい、上部は6裂して長さ8 cmほどの細い裂片となる。</p> <p>【近似種との区別】広島県では海岸線に生育する種で類似する種はみられない。</p>
生息・生育状況	廿日市市(宮島)から報告されているが、近年確認されていない。絶滅した可能性がある。広島市安芸区矢野の海岸には、広島工業大学によって試験的な植栽が行われている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変(海岸開発, 土地造成, 道路工事)
特記事項	海浜の観葉植物として各地に植えられる。そのため県内の生育について、自生という確証が得られなかったため、選定基準を変更した。宮島ではシカによる食害の可能性がある。
産地情報	福山市(福山)、廿日市市(宮島)

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

オオミクリ 情報不足(DD) DD-a, DD-b
Sparganium erectum L. var. *macrocarpum* (Makino) H.Hara
 ガマ目 ガマ科

環境省: VU
 広島県 2011: なし
 広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】東北以南に多く分布するとされ、湖沼、河川、水路などに生える多年生の抽水植物。</p> <p>【形態】地下に木質の塊茎があり、全高は2 mに達する。茎の基部から袴状に線形の葉を数個付ける。葉の長さは50~150 cm、横断面は三角形。花期は6~9月、茎の上部に普通5以上の枝を出し、各枝の基部寄りに3~4個の雌性頭花を、先端寄りに7~15個の雄性頭花をつけるが、茎の上部の枝はすべて雄性頭花になる。果実は長さ5~9 mm、幅5~8 mmで紡錘形にならず、上部が低いドーム型である。</p> <p>【近似種との区別】ミクリとは、果実が大きく紡錘形にならないことと、地下部に塊茎があることで区別する。</p>
生息・生育状況	三次市では古いため池の土手部分に、大崎上島では浅い水たまりの中に生えている。大崎上島の自生地では周辺の植物に覆われて一時個体数が激減したが、環境整備することで回復している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	ため池の改修などの工事に伴う生育地の改変が脅威となる。
特記事項	最近の図鑑では独立した分類群として扱われないなど、分類学的に未解明な部分がある。県内の個体についても、果実は典型的な形だが、地下部に明瞭な塊茎が確認されないなど、疑問な点があることから情報不足としたが、他のミクリ属の種とは区別できる特徴を備えており、保全対象とすべきである。
産地情報	三次市、大崎上島町

小池周司 2012. 三次市内でオオミクリを観察. 比婆科学, 244 : 56.
 角野康郎 2014. 日本の水草. 325 pp. 文一総合出版, 東京.

(世羅徹哉)

サンインヒエスゲ 情報不足(DD) DD-a
Carex jubozanensis J.Oda et A.Tanaka
 イネ目 カヤツリグサ科

環境省: なし
 広島県 2011: AN
 広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州の福井県から鳥取県にかけての日本海側に分布するとされ、アカマツ林など乾燥した樹林内に生える多年草。</p> <p>【形態】長い匍匐茎があり、まばらに生える。花茎の高さは20~40 cm、葉は同長か短い。果胞は無毛、柱頭は3岐、花柱基部は著しく湾曲する。花期は5~6月。</p> <p>【近似種との区別】同じヒエスゲ節の種とは、果胞が無毛であることや長い匍匐枝をもつことなどで区別される。</p>
生息・生育状況	スギ人工林の林床に群生しているが個体数は少なく、今のところ県内で確認されている自生地は1か所である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変、森林の伐採が脅威となる。栽培は可能。
特記事項	既知の県内の自生地は1か所であるが、同様の生育環境は多く、これまで十分な調査が行われているとはいえない種群であるため情報不足としたが、県内の分布は貴重な存在であり、保全の対象とすべきである。
産地情報	北広島町

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

斉藤隆登 2009. 広島県新産サンインヒエスゲ *Carex jubozanensis* Oda et A.Tanaka 高原の自然史 14 : 69-71.

(世羅徹哉)

オオカワズスゲ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Carex stipata Muhl. ex Willd.

イネ目 カヤツリグサ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】山地の湿原に生える多年草。大きな株になる。中部地方以北によく見られる。</p> <p>【分布】北海道・本州（中部以北）の湿地に生育する多年草。鳥取，広島，宮崎の各県に隔離分布する。東ロシア・北アメリカに分布する。</p> <p>【形態】葉は鮮緑色で幅 3~8 mm，ざらつく。有花茎は高さ 30~60 cm，上部は著しくざらつき，鋭い 3 稜形，軟質。基部の鞘は淡黄褐色~濃栗色。花は 6~7 月。花序は長さ 2~5 cm，10~20 個の無柄小穂をつける。多数の雌花と頂部に少数の雄花をつける。雌鱗片は卵形で鋭頭または芒を持つ。果胞は卵形，長さ 5 mm，幅 1.5~1.7 mm。背面は平滑。柱頭は 2 岐。</p> <p>【近似種との区別】キビノミノボロスゲは日あたりのよい草地に生え，果胞は背面に数個の凸点があることで区別される。</p>
生息・生育状況	丘陵地の湿地に生育する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（湿地開発，土地造成，道路工事） 生育地の環境変化（農薬汚染，自然遷移）
特記事項	下田路子氏が 1984 年にこの地域を調査しているが，本種を確認していない。広島空港建設に関わる工事に伴って入ってきた可能性がある。
産地情報	三原市（本郷）

すげの会(著)・正木智美(編) 2018. 日本産スゲ属植物分布図集. 766 pp. すげの会, 岡山.

(吉野由紀夫)

クロタマガヤツリ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Fuirena ciliaris (L.) Roxb.

イネ目 カヤツリグサ科

環境省: なし

広島県 2011: EX

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】湿地に生える開出軟毛のある一年草。広島県では 1930 年代に 1 度だけ採集されている。</p> <p>【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球列島・朝鮮半島南部・中国大陸・インドネシアなどに分布する。</p> <p>【形態】根茎はなく，茎の高さ 10~40 cm，2~3 個の節がある。葉は扁平で，長さ 7~15 cm，幅 3~7 mm。鞘の長さは 1.5~3 cm ある。3~10 個の密についた小穂からなる。鱗片は黒味がかかった緑色。果実は倒卵形で 3 稜がある。</p> <p>【近似種との区別】ヒンジガヤツリとは花穂が黒いことによって区別される。</p>
生息・生育状況	湿地に生育する種である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（湖沼開発，河川開発，土地造成，道路工事） 生育地の環境変化（水質汚濁，富栄養化，農薬汚染，自然遷移）
特記事項	橋岡信一が 1931 年に福山市で採集した。その後採集された記録がない。 関 太郎博士が 2019 年 9 月に安芸高田市（高宮）で行われたヒコビア植物観察会の資料で本種を示された。自生している可能性があるので選定基準を変更した。
産地情報	福山市，安芸高田市（高宮）

橋岡信一 1931. 福山市近郷植物目録. 24 pp. (謄)

広島市植物公園(編) 2005. 高木リスト 広島県産高等植物目録. 広島市植物公園紀要, 22・23: 5-129.

(吉野由紀夫)

ハタベカンガレイ 情報不足(DD) DD-a, DD-b
Schoenoplectiella gemmifera (C.Sato, T.Maeda et Uchino) Hayas.
 イネ目 カヤツリグサ科

環境省: VU
 広島県 2011: AN
 広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】 山地や平地の水路の流水中に生える多年草。2004年に新種として記載された。</p> <p>【分布】 本州・九州・朝鮮半島南部に分布する。県内では八幡高原で初めて確認された。</p> <p>【形態】 叢生し、根茎はない。花のつく茎は高さ 50~120 cm, 横断面は鋭3稜形, 平滑, やや軟質である。葉身は有花茎に続き, 長さ 3~10 cm, 斜上する。花序は無柄の小穂が 5~20 個集まり頭状となる。小穂は卵形, 長さ約 1 cm, 刺針状花被片は 6 本で, 長さは瘦果よりやや長く, 下向きにざらつく。柱頭は 2 岐する。</p> <p>【近似種との区別】 サンクイヤシズイは分花序のいくつかに柄がある。カンガレイやヒメカンガレイには柄はないが, 柱頭が 3 岐することからハタベカンガレイと区別される。</p>
生息・生育状況	ゆるやかな流水中に生育する。その他はまだよく判っていない。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	生育地の改変 (湿地開発, 河川開発, 土地造成, 道路工事) 生育地の環境変化 (農薬汚染, 自然遷移)
特記事項	県内での分布はまだよく判っていないため, 「情報不足」とした。
産地情報	北広島町 (芸北, 千代田, 豊平)

佐藤千芳・前田哲弥・内野明德 2004. 日本産フトイ属(カヤツリグサ科)の1新種. 植物研究雑誌, 79: 23-28.

北広島町生物多様性専門委員会(編) 2014. 北広島町の自然—北広島町自然学術調査報告書—. 700 pp. 北広島町教育委員会, 北広島町.
 (吉野由紀夫)

ヒバキンポウゲ 情報不足(DD) DD-a, DD-b
Ranunculus hibamontanus Kadota
 キンポウゲ目 キンポウゲ科

環境省: なし
 広島県 2011: なし
 広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】 広島県北東部の山地草原に生育する多年草。2012年に新種記載が行われた。</p> <p>【分布】 広島県北東部のブナ帯の草原に生育する。日本の固有種</p> <p>【形態】 茎は高さ 4~25 cm, 上部に伏毛があり, 下部に開出毛がある。葉は長さ 0.8~2.5 cm, 3 浅裂し, 基部は浅い心形。花期は 5~6 月, 花は 2~6 個が集散花序につく。花色は黄色。径 1.4~1.6 cm。瘦果は倒卵状。</p> <p>【近似種との区別】 ウマノアシガタに似るが, 全体が小型で, 果托に長毛があり, 花弁がより小型で, 花弁の附属体が小型で倒台形であり, 瘦果が倒卵形で竜骨が明瞭で幅広く, 根生葉の葉身が中裂することで区別される。</p>
生息・生育状況	塩基性岩地の山地草原に生育する。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	生育地の改変 (草地開発, 土地造成, 道路工事) 生育地の環境変化 (草地の管理放棄, 自然遷移) 園芸採取
特記事項	2011年に新種として記載された種。長年放牧地として利用されてきた立地に未記載の新種が生育するとは考えにくい。分類学的な検討が必要と考えられる。 生育地と類似した草原は中国山地の他の地域にも見られるので, ほかでも発見される可能性がある。
産地情報	県北東部

Kadota, Y. 2012. Two new species of *Ranunculus* (Ranunculaceae) from Japan. J. Jpn. Bot. 87:375-384. /ヒバキンポウゲ(新種)

大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司(編) 2016. 改訂新版 日本の野生植物 2. 381 pp. 平凡社, 東京.

(吉野由紀夫)

モメンヅル 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Astragalus reflexistipulus Miq.

マメ目 マメ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: DD

概要	<p>【摘要】山麓の草地に生える多年草。広島県は本種の分布の南西限と考えられるが、近年確認されていない。</p> <p>【分布】北海道と本州に分布する。日本の固有種。</p> <p>【形態】高さ30~80 cmになり、茎はやや伸びてはい、上部は斜上する。小葉は13~19枚、長卵形から長楕円形で長さ2~5 cm、幅1~2.5 cm、裏面に白色の短伏毛がある。托葉は披針形。花期は6~8月。花序は長さ2~3 cmで、8~15花をつけ、花柄は長さ3~10 cm。花は黄色で、長さ12~13 mm。</p> <p>【近似種との区別】近縁のムラサキモメンヅルの花は紅紫色、ナルトオウギの小葉は23~31枚ある。</p>
生息・生育状況	高木哲雄(1932)が「帝釈峡の植物について」で本種を記録している。また、1982年に三上幸三によって再確認され、井波一雄(1985)が図説に示している。1996年以降の調査では確認されていない。ダム湖の水位変動によって絶滅した可能性がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変(石灰採掘、草地開発、ダム建設、土地造成、道路工事) 生育地の環境変化(自然遷移)
特記事項	—
産地情報	福山市(福山, 新市), 庄原市(東城), 神石高原町(神石)

高木哲雄 1932. 帝釈峡の植物について. 中国新聞, 昭和7年10月8日付. (比婆科学, 128: 16-18. (1984)に再録)

井波一雄 1985. 広島県植物図選Ⅲ. 100 pls.+12 pp. 博新館, 広島.

(吉野由紀夫)

コキンバイ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Geum ternatum (Stephan) Smedmark

バラ目 バラ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】山野に生える多年草。従来は兵庫県の氷ノ山が分布の南西限であった。広島県の生育地は著しく離れている。</p> <p>【分布】北海道・本州(氷ノ山以北)・朝鮮半島・サハリン・中国大陸(東北部)・ウスリー・アムール・シベリア東部に分布する。</p> <p>【形態】葉は根生し、3小葉からなる。葉柄は長さ5~10 cm、浅く3裂する。花茎は高さ10~20 cm、1~3花をつける。花は5~6月に咲く。花弁は黄色で、径2 cm、萼裂片は披針形。そう果は長さ3~4 mm、白い毛が多い。</p> <p>【近似種との区別】ミツモトソウは花茎が高くなる。オヘイイチゴは5小葉からなることから区分される。</p>
生息・生育状況	落葉樹林下に群生する。地表部には転石が多く見られる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変(森林伐採、土地造成、道路工事) 生育地の環境変化(自然遷移) 園芸採取
特記事項	田辺(1936)は庄原市口和町竹地谷でコキンバイを記録しているが、標本などは残っていない。誤認の可能性もある。 最近、県内で生育が確認された。付近に人為的な構造物があるため、自生かどうかはつきりしない。また、過去の県内の情報も再検討の必要があるため、「情報不足」とした。
産地情報	県北部

関 太郎 1993. 田辺義忠「竹地谷植物目録」(1936)へのコメント. 比婆科学, 158: 5-51.

(吉野由紀夫)

キンキマメザクラ 情報不足(DD) DD-a

Prunus incisa Thunb. var. *kinkiensis* (Koidz.) Ohwi

バラ目 バラ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州（東海，北陸以西）に分布する落葉小高木。山地の明るい樹林内に生える。</p> <p>【形態】幹は直径 20 cm，高さ 3～8 m になり，樹皮は紫褐色，若枝は無毛。葉柄には斜上する毛があり，葉身は倒卵形または広倒卵形，基部は広い楔形，1 対の腺がある。両面ともまばらに伏毛があり，2 重鋸歯縁。開花期は早春。花は白色で大きさ約 2 cm，の白色花を 1～3 個下向きに咲かせる。花床筒は長い鐘形で萼片とともにまばらに毛がある。</p> <p>【近似種との区別】チョウジザクラは，葉柄や花床筒に開出毛がある。マメザクラは西日本には分布しないが，本種に比べて小花梗が長く，圧毛を密生する。</p>
生息・生育状況	東城町の石灰岩地に自生するとされるが，近年の調査では確認されておらず，広島県内における本種の生育状況は不明である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地の改変や森林伐採が脅威となる。
特記事項	—
産地情報	庄原市

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

池田 博・池谷祐幸・勝木俊雄 2016. バラ科. 改訂新版 日本の野生植物 3(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 23-88. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ミヤマニガイチゴ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Rubus subcrataegifolius (H.Lév. et Vaniot) H.Lév.

バラ目 バラ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州の山地に生える落葉性の灌木である。</p> <p>【形態】枝は帯紫褐色でほとんど無毛，多少粉白を帯び，まばらに細かい刺がある。花枝はやや伸長して長さ 7～15 cm に達し，葉は 3～4 枚，長卵形で長さ 4～8 cm，無毛，鋭尖頭で 3 裂して鋸歯がある。花期は 5～6 月，小花柄は細く 1～4 cm，花は 1～4 個が上部葉腋に単生し，枝先にはゆるい花序をなす。萼は無毛で萼裂片は有尾の鋭尖頭。</p> <p>【近縁種との区別】ニガイチゴは花枝が短縮し，葉は長さ 2～5 cm と小さい。花は 1～2 個。ナガバモミジチゴは，葉の下面が淡緑色で花枝は短く葉は 1 枚，花は下向きで 1 個，小花柄は長さ 0.5～1 cm。</p>
生息・生育状況	ブナ帯の夏緑樹林二次林の林縁や路傍の草地に，まれに生育する。県北東部の狭い範囲でのみ，記録されている。生育範囲は限られるが，国定公園内の生育地は保全されており，現在のところ，生育環境は安定している。下記の産地のうち，新市は過去の記録である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	もともと個体数が少ない。孤立した個体群や，分布限界など，消滅しやすい分布特性をもつ。生育地の林縁や路傍の草地が，開発や管理放棄による被陰などにより，消失する危険がある。おもな生育地は国定公園内であり，生育地の環境は保たれているが，遊歩道やキャンプ場の管理にあたっては生育地の環境を保全するよう，留意する必要がある。適度の草刈りで遷移の進行を抑える必要があるかもしれない。
特記事項	1974 年に藤尾からの記録があるが標本がなかった。最近西城町で確認された。
産地情報	福山市（新市），庄原市（西城）

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫 日本の野生植物 木本 I. 321pp. 平凡社, 東京.

(松井健一)

タイシャククロウメモドキ 情報不足(DD) DD-b

Rhamnus chugokuensis Hatus.

バラ目 クロウメモドキ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】広島県東部と岡山県西部の石灰岩地帯にのみ生育する落葉低木で、「阿哲要素」の植物である。</p> <p>【形態】落葉低木で、小枝は円く、分枝は直角に開く。短枝の発達が著しい。長枝の葉は対生またはやや対生し、楕円～長楕円形、基部は鋭形で長さ約5 cm、幅2～2.7 cm。短枝の葉は数個叢生し、倒披針形から長楕円状倒披針形。葉の縁には不明瞭な鋸歯があり、表面に伏毛が多く、下面は脈上に毛がある。乾くと黒っぽい色になる。花期は4～5月、果実は枝の基部に腋生し、果柄は4.5～6 mm。</p> <p>【近似種との区別】キビノクロウメモドキは果柄が長さ1～2 cmとなり、葉縁の鋸歯が著しく、葉の下面の毛は少なくとも脈上以外にもある。</p>
生息・生育状況	<p>広島県あるいは近県にのみ分布する。渓谷の岩峰の日あたりのよい乾燥した立地の夏緑樹林内に生育する。個体数は少ない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと個体群がきわめて小さい。遷移の進行や植生変化などにより、生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。開発行為や森林伐採、斜面崩壊などによる生育地の消失・縮小も懸念される。生育地の岩峰での整備事業の事前チェック、整備事業や立ち入りの規制により、岩峰の植生を保全する必要がある。</p>
特記事項	<p>「阿哲要素」の植物として、植物地理学上から貴重な種である。ただし、キビノクロウメモドキと同種あるいはその変種とする見解もある。</p>
産地情報	<p>庄原市（東城）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編)2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(松井健一・吉野由紀夫)

チョクザキミズ 情報不足(DD) DD-b

Lecanthus peduncularis (Royle) Wedd.

バラ目 イラクサ科

環境省: EN

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州西部（山口県）と九州中部に分布し、溪流沿いの湿った岩場に生育するまれな多年草。今回新たに広島県内で自生を確認した。</p> <p>【形態】茎は高さ30～50 cmになり、全草が多汁質で柔らかい。葉は対生し、表面には葉脈が凹入して目立ち、縁には粗い鋸歯がある。花期は9～10月で、雄花序、雌花序ともに頭状で長い柄があり、盤状の総苞に包まれる。</p> <p>【近似種との区別】アオミズに似るが、雌雄ともに長い柄のある頭状花序になることで明瞭に区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>山間の溪流沿いで、常に水が滴っている岩場に生える。現在、20～30 mの範囲に約20株が確認されている。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>限られた環境に生育する。常に清水が供給される環境を維持する必要があるため、水源を破壊するような行為は禁止する。移植や栽培保存の可否については不明。</p>
特記事項	<p>2020年に初めて県内の自生が確認された。県内の生育状況が不明なため情報不足としたが、全国的にも希少で環境省は絶滅危惧 I B類に選定している。生育環境がきわめて脆弱なため、現状を広範囲に保全する必要がある。</p>
産地情報	<p>安芸太田町</p>

米倉浩司 2016. イラクサ科. 改訂新版 日本の野生植物 2(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 328-331. 平凡社, 東京.

高杉茂雄 2020. 広島県内でチョクザキミズを確認. 比婆科学, 270 : 23.

(世羅徹哉)

イチイガシ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Quercus gilva Blume

ブナ目 ブナ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】暖地に生育する常緑高木。広島県ではおもに沿岸部の社叢に生育する。</p> <p>【分布】本州（関東地方南部以西の太平洋側）・四国・九州・朝鮮半島（済州島）・台湾・中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】高さ 30 m に達する常緑高木で、樹皮は剥げ落ち、波状の紋様ができる。葉は互生し、長さ 6~14 cm, 上半分に鋭い鋸歯がある。葉の裏面は黄褐色の星状毛を密生する。花期は 4~5 月。ドングリは卵円形で径 1~1.3 cm あり、年内に熟す。</p> <p>【近似種との区別】葉の裏面に密毛があり、黄褐色となることから、他の常緑性のカシ類と区別される。</p>
生息・生育状況	<p>確認されている生育地はすべて社叢であり、植栽された可能性がある。自生とされる呉市天応の個体は確認できなかった。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、河川開発、土地造成、道路工事）</p>
特記事項	<p>呉市安浦町亀山八幡神社（広島県緑地環境保全地域）。本種は神社に植栽されることが多い。県内の産地はほとんどが社叢であることから、自生かどうか判断ができない。</p> <p>安佐南区の新宮神社のイチイガシ（広島市天然記念物）は枯死したので、伐採された。</p>
産地情報	<p>広島市（東区、安佐南区、安芸区、佐伯区）、呉市（呉、安浦）、東広島市</p>

広島市教育委員会（編） 1978. 広島市の文化財第 12 集 広島市の文化財調査報告. 51 pp. 広島市教育委員会, 広島市.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

ノヤナギ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Salix subopposita Miq.

キントラノオ目 ヤナギ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: DD

概要	<p>【摘要】中国山地の草地にきわめてまれに生育する小形のヤナギ。大陸系要素の植物。</p> <p>【分布】本州（中国地方西部）・四国（北西部）・九州（北部）・朝鮮半島（済州島）に分布する。</p> <p>【形態】小形の落葉低木で高さは 50 cm 程度。枝は濃褐色で、若時には密に灰色の短軟毛がある。葉は広披針形で全縁。長さ 2.5~4 cm. 花期は 4 月頃、雄花穂は長さ 2.7 cm, 密に花をつける。オシベは 2 本。雌花序は短い柄があり、短円柱形。果に密に毛がある。</p> <p>【近似種との区別】広島県に自生する他のヤナギ類は葉の長さが 4 cm 以上あり、鋸歯があることから区分できる。</p>
生息・生育状況	<p>中国山地の草地にきわめてまれに分布する。最近確認されていない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、草地開発、土地造成、道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（踏みつけ、草地の利用放棄、自然遷移）</p>
特記事項	<p>記録によると県内に 2 点の標本（渡辺泰邦、細田善次氏らが採集）があるはずである。</p>
産地情報	<p>庄原市（西城）</p>

宝理信也 1978. 細田善次氏の植物標本から. 会誌 18:53-75. 広島県高等学校理科教育研究会, 広島県.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

ヒメフウロ 情報不足(DD) DD-a, DD-b, DD-c

Geranium robertianum L.

フウロソウ目 フウロソウ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】石灰岩地に生える一年草または多年草で、北半球の温帯に分布し、国内での分布は愛知・三重・滋賀・岐阜各県と四国（剣山）とされている。</p> <p>【形態】全体に開出する毛と腺毛があり、粘る。塩を焼いたような異臭がある。茎は細く、よく分枝して高さ 20～50 cm。葉は対生して薄く、3～5 全裂して五角形、小葉はさらに深く裂ける。雌雄同株で花は 5～8 月、淡紅色で径 8～12 mm、花片は倒卵形で 5 枚あり、隙間がある。がくや花梗にも開出腺毛がある。</p> <p>【近縁種との区別】フウロソウ属で葉が全裂するのは本種のみであるが、外来種のヤサカフウロが類似し、本種より小さく、葉に光沢がある。</p>
生息・生育状況	<p>林縁の草地に生育する。庄原市の石灰岩地で発見されたが、道路脇であり、付近にカエデ類の植栽が見られるため、自生かどうかは不明である。もし自生だとすれば、隔離分布である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>個体群がきわめて小さい。生育地が孤立しており、消滅しやすい分布特性をもつ。石灰岩地に生育する。草地の開発などによる生育地の消失・縮小が懸念される。花が美しいことや希少価値から、個体の盗掘も懸念される。生育地の環境変化を伴う工事を規制することが必要である。</p>
特記事項	<p>土井（1983）に東城町との記録があるが標本はなかった。2007 年に庄原市東城町の道路脇で確認された。また、ヨーロッパ産のものが栽培されており、住宅地ではその逸出が見られるが、同一種とされる。広島市や廿日市市で逸出が確認されている。栽培品は小葉の裂片がより細かく幅が狭く、植物体が大きい。</p>
産地情報	<p>庄原市（東城）</p>

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

浜田展也・武内一恵・小池周司 2011. 広島の山野草 夏編. 379pp. 南々社, 広島.

(松井健一)

ヒメビシ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Trapa incisa Siebold et Zucc.

フトモモ目 ミソハギ科

環境省: VU

広島県 2011: AN

広島県 2003: DD

概要	<p>【摘要】ため池、水路などに群生する一年生の浮葉植物。</p> <p>【分布】北海道・本州・四国・九州・朝鮮半島・台湾・中国大陸（東北部）・ウスリーに分布する。</p> <p>【形態】池に生える一年草で、浮水葉は広卵状菱形、径 1～2 cm と小さい。上部の縁はあらい鋸歯となり、表面に光沢があり、裏面脈上にまばらに毛がある。花期は 7～10 月、花は白色、ときに紅色を帯び、径 6～8 mm、萼には毛がない。</p> <p>【近似種との区別】同属のヒシやメビシは全体に大きく、浮水葉は径 3～6 cm、裏面の脈上に密毛がある。</p>
生息・生育状況	<p>東広島市や県東部からいくつかの記録があるが、標本がほとんどなく、近年確認された報告がない。岡山県には確実な産地があるので、県内での再発見が望まれる。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（湖沼開発、土地造成、道路工事） 生育地の環境変化（農薬汚染、富栄養化、水質汚濁、自然遷移）</p>
特記事項	<p>—</p>
産地情報	<p>福山市, 東広島市, 神石高原町（油木, 豊松）</p>

実光紀之(編著) 1977. 世羅台地の自然. 250 pp. 世羅町立大田中学校, 世羅町.

河毛周夫 1974. 南備後植物誌. 107+40 pp. 内外印刷, 府中.

(吉野由紀夫)

トダイアカバナ 情報不足(DD) DD-b

Epilobium platystigmatosum C.B.Rob.

フトモモ目 アカバナ科

環境省: VU

広島県 2011: AN

広島県 2003: DD

概要	<p>【摘要】 深山に生えるヒメアカバナに似た小さな多年草。</p> <p>【分布】 本州（長野県以西）・四国・台湾に分布する。</p> <p>【形態】 茎は高さ 7~35 cm になり、稜線はなく、曲がった毛がある。葉は線形から披針形、先は鋭形、長さ 1~4 cm、幅 1.5~5 mm、縁に細鋸歯がある。花期は 7~9 月、花は淡紅色か白色、長さ 3.5~5 mm、萼は長さ 3~4 mm。果柄は長さ 5~12 mm、種子は長楕円形。</p> <p>【近似種との区別】 ヒメアカバナは高さ 3~20 cm、葉に 1~4 対の鋸歯があり、果柄は長さ 1~3.5 cm ある。</p>
生息・生育状況	原 寛(1942)が安芸三段峡から初めて報告した。また土井美夫(1983)は可部の鈴張から報告しているが、その後確認されていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事） 生育地の環境変化（自然遷移）
特記事項	—
産地情報	広島市（安佐北区）、安芸太田町（戸河内）

原 寛 1942. 邦産あかばな属ノ分類(其一). 植物研究雑誌, 18(4):173-186.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

ミツバコンロンソウ 情報不足(DD) DD-a, DD-b, DD-c

Cardamine anemonoides O.E.Schulz

アブラナ目 アブラナ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】 本州（関東以西）、四国、九州に分布し、山地の林床や林縁に生える多年草。</p> <p>【形態】 短く横に這う根茎があって茎は単一で直立し、高さ 5~25 cm。下部の葉は小さく退化して、上部の葉は普通 3 出羽状複葉で小葉は披針形だが、単葉の場合もある。花期は 4~5 月、短い総状花序に 1~7 個の白色花をつける。花卉の長さは 6~10 mm。</p> <p>【近似種との区別】 同様の環境に生えるマルバコンロンソウは全体に白毛があり、葉の小葉が鈍鋸歯のある円形なので区別できる。</p>
生息・生育状況	2015 年に初めて県内で自生を確認した。ブナ帯下部のスギ林内の狭い範囲に数十株が生育している。その後も安定して生育している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	森林の伐採、人の立ち入りなどが脅威となる。 栽培や移植の可否は不明。
特記事項	中部、近畿、四国、九州では絶滅危惧種に選定している県が多い。中国地方では山口県で最近発見され、絶滅危惧 I 類に選定されている。植物体が小さく、見落とされがちなため、県内でも新たな自生地が見つかる可能性がある。現状では広島県内の生育状況が不明なことから情報不足としたが、保全対象とすべきである。
産地情報	広島市

世羅徹哉 2019. 広島県フロラ覚書(9)ウドカズラおよびミツバコンロンソウ. 広島市植物公園紀要, 34: 37-39.

門田裕一・米倉浩司 2017. アブラナ科. 改訂新版 日本の野生植物 4(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 45-71. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ハナハタザオ 情報不足(DD) DD-a, DD-b, DD-c

Dontostemon dentatus (Bunge) Ledeb. var. *dentatus*

アブラナ目 アブラナ科

環境省: CR

広島県 2011: AN

広島県 2003: DD

概要	<p>【摘要】大陸系のまれな越年草で、山野に生える。</p> <p>【分布】本州・九州・朝鮮半島・中国大陸東北部・シベリア東部・アムール・ウスリーに分布する。</p> <p>【形態】茎は高さ 30~50 cm, ちぢれた毛があり分枝する。葉は線状披針形, 長さ 3~6 cm, 鋭鋸歯縁で両面に毛がある。花期は 6~8 月, 花卉は紅紫色, 果実は長さ 4 cm。</p> <p>【近似種との区別】ハナナズナの葉は倒卵形で、先は円形となるので区分される。</p>
生息・生育状況	和田千恵香により広島県では 1978 年に豊平町（現北広島町）で初めて採取された。その後確認されていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（森林伐採, 草地開発, 土地造成, 道路工事） 生育地の環境変化（自然遷移）
特記事項	生育環境がよく判らない。今回の調査でも確認されなかった。
産地情報	北広島町（豊平）

北村四郎・村田 源・堀 勝 1957. (改訂版)原色日本植物図鑑 草本編 I. 297 pp. 保育社, 大阪.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

コイヌガラシ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Rorippa cantoniensis (Lour.) Ohwi

アブラナ目 アブラナ科

環境省: NT

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】水湿地に生育する一年草か越年草。近年確認されていない。</p> <p>【分布】本州（関東以西）・四国・九州・朝鮮半島・中国大陸・アムール・ウスリーに分布する。</p> <p>【形態】茎は直立し、下部から枝を分け、高さ 10~40 cm になる。茎葉は長楕円形, 長さ 2~4 cm, 羽状に深裂し、基部は小さい耳状に茎を抱く。花期は 4~5 月, 花は腋生し, 黄色で短い柄がある。花卉は狭倒卵形, 長さ 2.5 mm, 黄色。長角果はすべて腋生で、直立し、円柱形, 長さ 6~10 mm, 幅 1.5~3 mm。種子は小さい。</p> <p>【近似種との区別】イヌガラシやスカシタゴボウの花は有柄で、総状花序につくことから区分される。</p>
生息・生育状況	水田や湿った路傍に生育する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（湿地開発, 草地開発, 土地造成, 道路工事） 生育地の環境変化（自然遷移）
特記事項	近年、確認されていない。減少しているのか、もともと少なかったのかは不明。
産地情報	広島市, 福山市, 庄原市（比和）

江塚昭典・松本和夫 1985. 福山市周辺の植物相. 中国農事試験場報告 E, 23: 1-107.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

ヒメタデ 情報不足(DD) DD-a, DD-b
Persicaria erectominor (Makino) Nakai var. *erectominor*
 ナデシコ目 タデ科

環境省: VU
 広島県 2011: AN
 広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】湿地に生える一年草で、北海道、本州、四国、九州に分布する。</p> <p>【形態】茎は這って節から根を出し、上部は立ち上がって高さ 20~40 cm、無毛。葉鞘の縁毛は短い。葉は線形で先は鋭尖し鈍端、基部は丸く、長さ 3~7.5 cm、両面の縁と中肋にまばらに毛があり、質やや薄く、葉柄はきわめて短い。花期は 5~10 月、花は 1.5~2 cm の密な花穂につく。花被は紅紫色、長さ 2 mm。果実は 3 稜形で長さ 2 mm、黒色で光沢がある。</p> <p>【近縁種との区別】ホソバイヌタデは水辺に生え、葉基部は広い楔形、両面に毛があり、乾くと赤褐色、花穂の花はまばらである。イヌタデは葉が広披針形で、葉鞘の縁毛は葉鞘と等長。</p>
生息・生育状況	<p>下記の産地は、すべて過去の記録である。記録のあった場所は、その後の開発などによりいずれも生育地が消失したと思われる。現在、確実な産地の報告はないため、現状は不明である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>もともと個体数が少ない。生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。湿地周辺の開発や管理放棄など土地利用の変化にともない、生育環境が著しく劣化したと思われる。生育地の再発見に努める。</p>
特記事項	<p>過去の記録は、土井(1983)の宮島、大野、ほかは高木リストによる。いずれも現在では絶滅と思われる。</p>
産地情報	<p>広島市(東区)、竹原市、福山市(神辺)、廿日市市(廿日市、大野、宮島)</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.
 土井美夫 1983. 広島県植物目録. 148pp. 博新館, 広島.

(松井健一)

ムジナモ 情報不足(DD) DD-b, DD-c
Aldrovanda vesiculosa L.
 ナデシコ目 モウセンゴケ科

環境省: CR
 広島県 2011: なし
 広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州では関東、中部、近畿に自生地が知られているがごくまれである。国外では朝鮮半島、中国、インド、ヨーロッパ、オーストラリアに分布する。ため池や大河川の滞水域で水中に浮遊している多年草。</p> <p>【形態】長さ 6~25 cm の多少分岐する茎に、6~8 個の葉が輪生する。葉柄は平たいくさび形、葉身は長さ 4~5 mm で二枚貝のように開閉する。花は 7~8 月、淡緑白色で大きさ約 1 cm、水面に出て開花するが 1 日でしぼむ。開花後は花柄が曲がって水中でさく果が熟する。冬には葉をつけた茎頂が球状にかたまって離れ、冬芽となって水底に沈んで越冬する。</p> <p>【近似種との区別】タヌキモ類とは葉の形状で区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>1 か所の灌漑用ため池で、2016 年に生育を確認した。その後の生育数に大きな変化はない。また、周辺のため池には生育していない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>ため池の改修や周辺樹林の改変など、水域の環境変化を伴うような工事や乱獲が脅威となる。</p>
特記事項	<p>本生育地のムジナモについて、広島大学と広島商船高等専門学校の共同研究で DNA 解析を行ったが、他の産地のものと区別できなかった。また、本生育池は人工的に作られた比較的新しいものであると推定できることから本来の自生かどうか判断できないため、情報不足としたが、野生状態で生育しており、保全対象とすべきである。</p>
産地情報	<p>非公開</p>

大沼みお・藤富信之・坪田博美 2019. 広島県で生育が確認されたムジナモ(モウセンゴケ科). 日本植物分類学会第 18 回大会ポスター発表.

高橋英樹 2017. モウセンゴケ科. 改訂新版 日本の野生植物 4 (大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 105-107. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

ヤナギイノコヅチ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Achyranthes longifolia (Makino) Makino

ナデシコ目 ヒユ科

環境省: なし

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州（関東以西）、四国、九州、台湾、中国に分布し、山地の木陰に生える多年草。</p> <p>【形態】地下に肥厚した根があり、茎は高さ 1.2m に達し、全体無毛または少し毛があつてまばらに分岐する。葉は質薄く、披針形または広披針形。花は 8~9 月、小苞は針形で基部の附属体は薄膜質の卵状三角形。</p> <p>【近似種との区別】ヒカゲイノコヅチやヒナタイノコヅチに比べ葉が披針形で細長い。</p>
生息・生育状況	<p>県西部の沿岸部から内陸部にかけて断続的に自生記録がある。多くは開発により消滅したと思われる。現在確認されているのは広島市の 2 か所と安芸高田市の 1 か所で、いずれも開発されやすい場所である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地の改変を伴うような開発が脅威となる。</p> <p>栽培は可能。</p>
特記事項	<p>既知の自生地では、現状不明や株数減少が見られるが、種の特性上見過ごされている可能性が高い。現状では生育状況の把握が不十分と考えられるため情報不足とした。</p>
産地情報	<p>広島市、呉市、安芸高田市、府中町</p>

レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(編) 2012. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第 3 版)ーレッドデータブックひろしま 2011ー. 633 pp. 広島県, 広島.

米倉浩司 2017. ヒユ科. 改訂新版 日本の野生植物 4(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 128-142. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

シチメンソウ 情報不足(DD) DD-c

Suaeda japonica Makino

ナデシコ目 ヒユ科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】河口付近や海岸の泥土に生育する一年草の塩生植物。</p> <p>【分布】九州北部の福岡県や佐賀県の海岸や河川の感潮域に分布する。</p> <p>【形態】茎は直立し、高さ 15~40 cm。葉は先が丸くこん棒状で無柄、幅 2~4 mm、長さ 1~4 cm。秋に小さな花を葉の付け根付近に 2~7 個つける。開花とともに全体が緑から赤に変色する。</p> <p>【近似種との区別】ハマナツナは砂礫土壌に生育する。葉は幅 1~2 mm で、先端は鋭くとがり、披針形になる。</p>
生息・生育状況	<p>不明</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（護岸工事、海岸地の埋め立て）</p>
特記事項	<p>岡ほか（2016）が報告し、中西（2017）が図鑑に書かれたが、現地では確認できなかったため「情報不足」とした。</p>
産地情報	<p>呉市（倉橋）</p>

岡 浩平・重松翔太・戎谷 遵 2016. 瀬戸内海の倉橋島における塩生植物シチメンソウの生育環境特性. 自然環境復元研究, 8(1): 33-41.

中西弘樹 2017. 日本の海岸植物図鑑. 271 pp. トンボ出版, 大阪.

(久藤広志)

ツクシウツギ 情報不足(DD) DD-a, DD-b, DD-c

Deutzia scabra Thunb. var. *sieboldiana* (Maxim.) H.Hara

ミズキ目 アジサイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】九州に分布し、山野の日あたりのよい斜面や河岸などに生えるとされる落葉低木。マルバウツギの変種。</p> <p>【形態】葉は長楕円形または卵状楕円形で先がとがり、花序の下につく葉には柄がなく茎を抱き、花序のない徒長枝の葉には柄がある。花期は5月、今年枝の先端に生じる集散状花序につく。花は白色、径0.9~1.1 cm。花序軸とがく筒には1枝だけ長くなる星状毛を密生する。</p> <p>【近似種との区別】ウツギとは、無柄で茎を抱く葉が生じることと開花期が早いことで区別できる。マルバウツギとは、葉が細長く先がとがり、開花期が遅いことで区別できる。</p>
生息・生育状況	本種が県内に生育することは未報告である。既知の自生地は広島市北西部の県道沿いの1か所で、林縁部の明るい場所に数株が生育している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	県道の拡幅工事などで改変されると絶滅する恐れがある。 栽培・増殖は可能。
特記事項	これまで県内の自生記録はなく、正式な報告はなされていない。県内の生育状況には未解明の部分が大きいので情報不足としたが、広島県内の分布は学術的にも貴重であり、保全対象とすべきである。
産地情報	広島市

大場秀章 2017. アジサイ科. 改訂新版 日本の野生植物 4(大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司, 編), p. 157-172. 平凡社, 東京.

(世羅徹哉)

サワトラノオ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Lysimachia leucantha Miq.

ツツジ目 サクラソウ科

環境省: EN

広島県 2011: AN

広島県 2003: DD

概要	<p>【摘要】低湿地にまれに生える多年生草本。</p> <p>【分布】本州・九州・朝鮮半島に分布する。</p> <p>【形態】低湿地に生える軟弱な多年草。地下茎が横に這い、地上茎は高さ40~80 cmになる。茎は円柱状で稜がある。葉は互生し、倒披針状線形で長さ2~4.5 cm、幅3~5 mm、柄はほとんどない。花期は4~5月、枝先に総状花序を伸ばし、多数の花をつける。花柄は6~10 mmで、果期には1.5~2 cmとなる。花冠は白色で5裂し、裂片は倒卵状で先は丸い。</p> <p>【近似種との区別】オカトラノオは丘陵または草原に生える。ヌマトラノオは湿地に生育するが、茎が円柱状で稜がないので区分できる。</p>
生息・生育状況	近年、生育が確認されていない。県内での生育状況は不明である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（湖沼開発、湿地開発、土地造成、道路工事） 生育地の環境変化（自然遷移）
特記事項	—
産地情報	広島市（安佐北区）、三原市（久井）、福山市

土井美夫 1983. 広島県植物目録. 148 pp. 博新館, 広島.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

ビンゴムグラ 情報不足(DD) DD-a, DD-b
Galium pseudoasprellum Makino var. *bingoense* Murata et Ezuka
 リンドウ目 アカネ科

環境省: なし
 広島県 2011: AN
 広島県 2003: DD

概要	<p>【摘要】山地に生える多年草。福山市服部本郷で採取された標本に基づいて、1992年にオオバノヤエムグラの変種として記載された。</p> <p>【分布】北海道、本州、朝鮮半島に分布する。</p> <p>【形態】茎は他物によりかかって長く伸び、長さ90~120 cmになる。葉は茎の基部から4枚輪生し、倒卵状楕円形から長楕円形、長さ9~22 mm、幅5~10 mm、先が円頭になる傾向がある。花は7~8月、枝先や葉腋から細長い花序を伸ばす。</p> <p>【近似種との区別】オオバノヤエムグラに似るが、それに比べてやや繊細、葉は4枚輪生し、オオバノヤエムグラは多くが5枚輪生する。</p>
生息・生育状況	福山市駅家町服部本郷のスキが植林されている北面の山林斜面路傍で採取されている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事） 生育地の環境変化（自然遷移）
特記事項	江塚昭典が1982年9月に福山市駅家町服部本郷の山林斜面で採取した標本に基づいて、村田が1992年に新変種として記載した。分布等は十分解明されていない。
産地情報	福山市（福山）、庄原市（東城）

村田 源 1992. 植物分類雑記 21. 植物分類, 地理, 43: 147-153.

世羅徹哉・坪田博美・松井健一・浜田展也・吉野由紀夫 2010. 広島県植物誌補遺. 広島市植物公園紀要, 28: 1-74.

(日朝直樹・吉野由紀夫)

キバナノカワラマツバ 情報不足(DD) DD-a, DD-b
Galium verum L. subsp. *asiaticum* (Nakai) T.Yamaz.
 リンドウ目 アカネ科

環境省: なし
 広島県 2011: なし
 広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】日あたりのよい草地に生える多年草。広島県では北東部の高所の草地に生える。草原が減少しており、生育地や個体数が減少している。</p> <p>【分布】北海道・本州・四国・九州・朝鮮半島に分布する。</p> <p>【形態】茎は直立して高さ30~80 cmになり、葉は8~10枚輪生する。葉は長さ2~3 cm、幅1.5~3 mm。花期は7~8月、茎の先や上部の葉腋から花柄を伸ばして円錐状の花序を作り、密に多数の小さな淡黄色の花をつける。</p> <p>【近似種との区別】他のヤエムグラ属は葉が4~5枚からなる。ヤエムグラは葉が6~8枚で、茎はつる状に伸びることから区分できる。</p>
生息・生育状況	県北東部の高所の草原に生育する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事） 生育地の環境変化（自然遷移）
特記事項	山下（1977）は「高所のシバ草原や矮性低木林中などに普通」としている。
産地情報	庄原市（西城、東城、比和）

山下 輝 1977. 広島県比和町の種子植物. 比和の自然(比和町立科学博物館, 編), p. 397-473. 比和町郷土史研究会, 比和町.

広島県東城町植物誌編纂委員会(編) 2004. 広島県東城町植物誌. 558 pp. 比婆科学教育振興会, 庄原.

(吉野由紀夫)

カワヂシャ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Veronica undulata Wall.

シソ目 オオバコ科

環境省: NT

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】本州中部以西，四国，九州，琉球，中国大陸から東南アジア，アフガニスタンにかけて分布する一年草または越年草。</p> <p>【形態】茎は円柱形で柔らかく，無毛，高さ 30～60 cm。葉は披針形または長楕円状披針形で長さ 2.5～8 cm，細鋸歯縁で先はやや尖り，鋭頭，基部は円形で柄がなく，茎をやや包む。花期は 5～6 月で葉腋に長さ 5～15 cm の細長い総状花序をつける。花は径 3～4 mm，淡紅紫色の条がある白色で，花冠は皿状に広く開き，深く 4 裂する。蒴果は球形で先に 1～1.5 mm の花柱がある。</p> <p>【近縁種との区別】外来種のおオカワヂシャは葉に鋸歯が少なく全縁に見え，蒴果の花柱は長さ 1.5～3 mm。</p>
生息・生育状況	<p>河川の中・下流域，小川や用水路の縁などの，水辺や水田のあぜなどに見られるが，報告例が少なく，現状は不明である。河川改修や湿田の改修，開発によって個体数が大きく減少したと思われる。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>河川や水路の改修や農地の開発行為などにより生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。外来種のおオカワヂシャが分布を広げており，それによる圧迫や，本種がおオカワヂシャと交雑し，自然雑種のホナガカワヂシャが生じることが考えられる。河川や用水路などの改修にあたっては植物調査を行い，生育が確認された場合は，生育環境を保全すべきである。もしくは安全な環境に移植する。</p>
特記事項	<p>ホナガカワヂシャは 1994 年に兵庫県小野市で発見された。両者の中間的形質で，花穂が長く，種子はできず栄養繁殖する。</p>
産地情報	<p>広島市（西区），呉市（呉），三原市（三原），三次市（三良坂），府中町，安芸太田町（加計），世羅町（甲山）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

浜田展也・武内一恵・小池周司 2011. 広島の山野草 春編. 367pp. 南々社, 広島.

(松井健一)

ホソバヤマジソ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Mosla chinensis Maxim.

シソ目 シソ科

環境省: VU

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】日あたりのよい丘陵や裸地，岩隙などに生える一年草。県内での生育地はきわめて少ない。</p> <p>【分布】本州（中国地方）・九州・朝鮮半島・中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】一年草で，高さ 10～30 cm。茎は紫色を帯び，下向きの毛がある。葉は披針形から広線状で鋭頭，少数の低い鋸歯があり，長さ 1.5～3 cm，幅 2～6 mm，両面に微毛がある。花期は 9～10 月。苞は大きく卵形から広卵形。がくは果時に長さ 7～8 mm になる。</p> <p>【近似種との区別】同じ属のヒメジソやイヌコウジュは苞が小さく線状披針で，小花柄より短い。ヤマジソは葉が卵形～狭卵形で，3～10 mm の柄がある。</p>
生息・生育状況	<p>草原</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採，土地造成，道路工事） 生育地の環境変化（草地の利用放棄，自然遷移）</p>
特記事項	<p>高木哲雄が戦前に賀茂郡西条町から記録しているが，標本が残っていない。江塚・松本(1985)が県内で採集した確実が確認されたので，リストアップした。現状は不明である。</p>
産地情報	<p>福山市（福山，神辺）</p>

広島市植物公園(編)2005. 高木リスト 広島県産高等植物目録. 広島市植物公園紀要, 22-23: 5-129.

江塚昭典・松本和夫 1985. 福山市周辺の植物相. 中国農事試験場報告 E, 23:1-107.

(吉野由紀夫)

シオン 情報不足(DD) DD-a, DD-b, DD-c

Aster tataricus L.f.

キク目 キク科

環境省: VU

広島県 2011: AN

広島県 2003: DD

概要	<p>【摘要】山間の草原に生え、夏～秋に淡青紫色の花をつける大型の草本。人家の庭によく植えられている。現在県内での確実な自生は不明である。</p> <p>【分布】大陸系要素の一つで、本州（中国地方）・九州の高原の湿草原に希産し、朝鮮半島・中国大陸（北部・東北部）・モンゴル・シベリアに分布する。</p> <p>【形態】大形の多年草。茎は直立して1～2mの高さになる。葉は長楕円形～披針形で、上へ行くほど小さく、細くなる。8～10月頃、茎の上部で枝を分けて、径3cm内外の頭花を多数つける。舌状花は淡青紫色。</p> <p>【近似種との区別】ハマシオンはやや似ているが、海岸や河口の塩湿地に生え、茎は低く（30～60cm）葉は無柄、頭花は小さい（径2cm内外）。</p>
生息・生育状況	<p>北部の草原や路傍にまれに生育しているが、本来の自生か、栽培していたものの逸出か分からないことが多い。県南部の産地はほとんどが栽培起源のものと思われる。日当りのよい山間の草原で、やや湿った所に生える。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（草地開発、土地造成、道路工事） 生育地の環境変化（草地の利用放棄、自然遷移） 園芸採取</p>
特記事項	<p>高木(1933)は、本種を満鮮要素とし、産地として山県郡八幡村（北広島町）、仙養ヶ原（神石高原町油木）を上げている。北村（1981）は「平安時代から観賞用に栽培された。もとは根を煎じて鎮咳剤、去痰薬とするため、朝鮮か中国からもちこまれたものであろう」としている。</p>
産地情報	<p>福山市、三次市（君田）、庄原市（西城、東城）、東広島市、海田町、熊野町、安芸太田町（加計、戸河内）、北広島町（芸北）、世羅町（甲山）、神石高原町（油木）</p>

高木哲雄 1933. 広島県に於ける高等植物の分布に就て(予報). 崇徳, 10: 1-11.

北村四郎 1981. キク科. 日本の野生植物Ⅲ, p.156-235. 平凡社, 東京.

(吉野由紀夫)

イズハハコ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Eschenbachia japonica (Thunb.) Koster

キク目 キク科

環境省: VU

広島県 2011: AN

広島県 2003: DD

概要	<p>【摘要】日あたりのよい崖地に生育する1～越年草。</p> <p>【分布】本州（関東地方以西）の海岸から四国・九州・琉球・中国大陸・マレーシア・インド・アフガニスタンに分布する。</p> <p>【形態】全体に灰白色の軟毛が多く、茎は高さ25～55cm、葉は下部にややロゼット上に集まり、長楕円形で円頭。基部は有翼の葉柄となる。長さ5～13cm、幅1.2～4cm、両面に軟毛がある。中部の葉は倒披針上長楕円形になる。花期は4～6月。頭花は茎の先に集まり、総苞は長さ約5.5mm、花冠は細い。冠毛は長さ4.5mm、汚白色または赤褐色を帯び、密にあって綿のようである。</p> <p>【近似種との区別】同じ属のオオアレチノギクやアレチノギクは花時に茎の下部の葉は枯れているので区分できる。</p>
生息・生育状況	<p>崖地に生育するようであるが、県内での現状はよく判らない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（森林伐採、土地造成、道路工事） 生育地の環境変化（自然遷移）</p>
特記事項	<p>呉市白岳山からは標本をともなって報告されているが、その他の地点については情報がなく、現状が不明である。過去に記録されている産地について調査が必要である。</p>
産地情報	<p>広島市（西区、安佐北区）、呉市、大竹市、廿日市市</p>

呉市教育委員会(編) 1971. 灰ヶ峯の植物, 植物研究の手引 5. 71 pp. 呉.

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

(吉野由紀夫)

オナモミ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Xanthium strumarium L. subsp. *sibiricum* (Patrin ex Widder) Greuter

キク目 キク科

環境省: VU

広島県 2011: AN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】荒地や低地の道端に生育する一年草で、日本全土、アジア、ヨーロッパ、北アメリカに広く分布する。</p> <p>【形態】茎は短毛をかぶり、高さ 20~100 cm。葉は互生で長い柄があり、卵状三角形または広楔形で 3-5 浅裂し、下部の 3 脈が著しく、長さ 6~15 cm、先は鋭く基部は心形、両面短剛毛があつてざらつき、縁には不整形の粗い鋸歯がある。花期は 8~10 月頃で、雄花は枝の先に円錐花序を作り、球形で多数の黄緑色の小花がある。雌花は葉腋につき、花冠はなく、筒状花で白色。果実はつぼ状の総苞に包まれ、約 2 mm のかぎ状のとげがある。</p> <p>【近縁種との区別】オオオナモミは総苞が大きく、とげの長さは約 3 mm。</p>
生息・生育状況	<p>道端の草地や裸地に生育するが、現状不明である。過去の記録は多いが、多くの自生地は消滅した可能性がある。また、下記の産地以外にも過去の記録は多いが、それらはオオオナモミと区別されていない可能性がある。下記の産地のうち、世羅、三次、豊栄以外は過去の記録である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>草地の開発などによる生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。管理放棄を主要因とする二次草地の遷移の進行により、生育環境が悪化している。また、外来種のオオオナモミが分布を広げるとともに本種が減少した。草地の開発にあたっては、本種の生育状況を確認して、生育環境を保全すべきである。</p>
特記事項	—
産地情報	<p>呉市（下蒲刈）、三原市（三原、本郷、久井）、尾道市（向島）、三次市（三次）、東広島市（西条、八本松、豊栄）、安芸高田市（吉田）、府中町、安芸太田町（加計）、世羅町（世羅、甲山）</p>

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編)1997. 広島県植物誌. 832 pp. 中国新聞社, 広島.

土井美夫 1983. 広島県植物目録. 148 pp. 博新館, 広島.

(松井健一)